

K O M A Z A W A

2000 (平成12) 年度

講義内容

法 学 部

 駒澤大學

講 義 内 容

目 次

法律学科フレックス A・第1部法律学科・政治学科

| | | |
|-------------------------|--|-----|
| 1. 専 門 教 育 科 目 | | |
| (1) 法 律 学 科 | | 9 |
| (2) 政 治 学 科 | | 81 |
| 2. 他 学 部 履 修 科 目 | | 139 |
| 3. 随 意 科 目 | | 223 |
| 4. 「日本語」・「日本事情」科目 | | 229 |
| 5. 教職課程・資格講座科目 | | 251 |

法律学科フレックス B・第2部法律学科

| | | |
|------------------------|--|-----|
| 1. 専 門 教 育 科 目 | | 393 |
| 2. 他 学 部 履 修 科 目 | | 447 |
| 3. 教職課程・資格講座科目 | | 477 |

| | | |
|-------------------------|-----------------------|------|
| 専門教育科目 | 法律学科 フレックスA 第1部 | 政治学科 |
| | 他学部履修科目 随 意 科 目 | |
| 法律学科フレックスA・第1部法律学科・政治学科 | 日 本 語 日 本 事 情 科 目 | |
| | 教職・資格講座 | |
| 法律学科フレックスB・第2部法律学科 | 専 門 教 育 科 目 | |
| | 他学部履修科目 教職・資格講座 | |

法律学科フレックスA

**第 1 部 法 律 学 科
政 治 学 科**

1. 専門教育科目

(1) 法律学科フレックスA・第1部法律学科

授業時間表の区分「B」の科目を履修する場合は、
フレックスBの頁を参照してください。(→P.393)

1. 専門教育科目

(1) 法律学科

| | | | | | |
|---|---|---|---|----------------------|--------|
| 法 | 学 | 概 | 論 | 〈北野かほる〉 | 9 |
| 法 | 学 | 概 | 論 | 〈高橋洋城〉 | 10 |
| 憲 | | | 法 | 〈斉藤寿〉 | 11 |
| 憲 | | | 法 | 〈西修〉 | 12 |
| 民 | 法 | 総 | 則 | 〈河野弘矩〉 | 13 |
| 刑 | 法 | 総 | 論 | 〈山口邦夫〉 | 14 |
| 刑 | 法 | 総 | 論 | 〈松村格〉 | 15 |
| 会 | | 社 | 法 | 〈山田泰彦〉 | 16 |
| 会 | | 社 | 法 | 〈荒木正孝〉 | 17 |
| 物 | 権 | | 法 | 〈鶴井俊吉〉 | 18 |
| 債 | 権 | 総 | 論 | 〈青野博之〉 | 19 |
| 有 | 価 | 証 | 法 | 〈島原宏明〉 | 20 |
| 刑 | 法 | 各 | 論 | 〈松村格〉 | 21 |
| 行 | 政 | 法 | 論 | 〈斉藤寿〉 | 22 |
| 国 | 際 | | 法 | 〈王志安〉 | 23 |
| 裁 | 判 | | 法 | 〈杉浦智紹〉 | 24 |
| 担 | 保 | 物 | 法 | 〈鶴井俊吉〉 | 25 |
| 相 | 続 | | 法 | 〈竹中智香〉 | 26 |
| 商 | 法 | 総 | 法 | 〈関口雅夫〉 | 26 |
| 保 | 險 | ・ | 法 | 〈山田泰彦〉 | 27 |
| 民 | 事 | 訴 | 法 | 〈杉浦智紹〉 | 28 |
| 労 | | 働 | 法 | 〈藤本茂〉 | 30 |
| 国 | 際 | 私 | 法 | 〈笠原俊宏〉 | 31 |
| 行 | 政 | 法 | 論 | 〈斉藤寿〉 | 32 |
| 国 | 際 | 紛 | 法 | 〈王志安〉 | 33 |
| 社 | 会 | 保 | 法 | 〈休講〉 | |
| 刑 | 事 | 訴 | 法 | 〈橋本裕藏〉 | 34 |
| 比 | 較 | 憲 | 法 | 〈斉藤寿〉 | 35 |
| 親 | 族 | | 法 | 〈竹中智香〉 | 36 |
| 法 | 社 | 会 | 学 | 〈岡寄修〉 | 37 |
| 日 | 本 | 法 | 史 | 〈茂野隆晴〉 | 38 |
| 西 | 洋 | 法 | 史 | 〈北野かほる〉 | 39 |
| 刑 | 事 | 政 | 策 | 〈斎藤静敬〉 | 40 |
| 法 | 思 | 想 | 史 | 〈高橋洋城〉 | 41 |
| 政 | 治 | 学 | 論 | 〈大塚桂〉 | 42 |
| マ | ス | ・ | 論 | 〈相田敏彦〉 | 43 |
| 政 | 治 | | 史 | 〈楠精一郎〉 | 44 |
| 経 | 済 | 原 | 論 | 〈浅野克巳〉 | 45 |
| 行 | 政 | 学 | | 〈岡田彰〉 | 46 |
| 法 | 律 | 時 | 語 | 〈牧野和夫〉 | 46 |
| 現 | 代 | 法 | の | ト | |
| | | | | レ | |
| | | | | ン | |
| | | | | ド | |
| | | | | 〈高橋洋城・岡田外司博・山田泰彦・林幸司 | |
| | | | | 竹中智香・青野博之・藤本茂〉 | 47 |
| 基 | 礎 | 憲 | 法 | 演 | |
| 基 | 礎 | 民 | 法 | 演 | |
| | | | | 習 | 〈中野辰久〉 |
| | | | | 習 | 〈早坂亨〉 |
| | | | | | 49 |
| | | | | | 50 |

| | | |
|-------------|-----------|----|
| 基礎刑法演習 | 〈木村美隆〉 | 51 |
| 債權各論 | 〈林幸司〉 | 52 |
| 英米法 | 〈北野かほる〉 | 53 |
| 仏法 | 〈上井長久〉 | 54 |
| 独法 | 〈山口邦夫〉 | 55 |
| 登記法 | 〈田沼浩〉 | 55 |
| 税法 | 〈岸田貞夫〉 | 56 |
| 地方自治法 | 〈富井幸雄〉 | 57 |
| 環境法 | 〈松村弓彦〉 | 58 |
| 法哲学 | 〈高橋洋城〉 | 59 |
| 经济法 | 〈岡田外司博〉 | 60 |
| 航空・宇宙法 | 〈関口雅夫〉 | 61 |
| 消費者法 | 〈青野博之〉 | 62 |
| 証券取引法 | 〈春田博〉 | 63 |
| 金融法 | 〈川田悦男〉 | 64 |
| 民事執行・保全法 | 〈梅善夫〉 | 65 |
| 倒産処理法 | 〈馬越道夫〉 | 66 |
| 知的財産権法 | 〈盛岡一夫〉 | 66 |
| 国際取引法 | 〈横山真規雄〉 | 67 |
| 財政学 | 〈里中恆志〉 | 68 |
| 経済政策 | 〈森岡仁〉 | 69 |
| 社会政策 | 〈浜村彰〉 | 69 |
| 国際関係論 | 〈前期：南山淳〉 | 70 |
| | 〈後期：首藤素子〉 | |
| 外交史 | 〈前期：石井修〉 | 71 |
| | 〈後期：首藤素子〉 | |
| 政治思想史 | 〈小林正敏〉 | 71 |
| 外書講読（英書） | 〈青野博之〉 | 72 |
| 外書講読（英書） | 〈金子昇平〉 | 72 |
| 外書講読（独書） | 〈松村格〉 | 73 |
| 外書講読（仏書） | 〈中野裕二〉 | 73 |
| 外書講読（中国書） | 〈江林英基〉 | 74 |
| 外書講読（スペイン書） | 〈佐藤玖美子〉 | 74 |
| 応用憲法演習 | 〈休講〉 | |
| 応用民法演習 | 〈休講〉 | |
| 応用刑法演習 | 〈休講〉 | |
| 演習 I・II | 〈塩入みほも〉 | 75 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------|---------|-----|
| 法 学 概 論 | きたの 北野 かほる | 法 A 1 必 | 4 |

講義のねらい

これから法学を学んで行くための基本的観点と感覚を養うため、「法」と社会と人間との関わりについての一般的考察、「法」の社会的機能の要点、を概観し、「法学」の全般的機能を考察した上で、「法学」を学ぶことの意味を改めて考える。また、今後の学習の指針として、現代日本の法学の諸分野とその大まかな特徴を解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 社会と法
 - 第1章 一般的考察
 - 第1節 人間と法
 - 第2節 規範と権力
 - 第3節 正義
 - 第2章 集団生活と規範
 - 第1節 社会集団
 - 第2節 規範
 - 第3節 法的思考
- 第2部 近代日本の法
 - 第1章 近代日本の系譜
 - 第1節 日本の法的近代化
 - 第2章 近代日本の法
 - 第1節 近代日本法の特徴
 - 第2節 日本近代法の分類
 - 第3節 現代日本法の動向

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく制限する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|-----------------------------|---------|----|
| 法学概論 | たか 高 はし 橋 ひろ 洋 き 城 | 法 A 1 必 | 4 |

講義のねらい

- 本講義は、法学部の専門科目を学ぶための準備段階として、
- ・高校まで諸君がやってきた各科目の学習法とは違う、法学の学び方にふれてもらう。
 - ・法学や、法に関する思考の基本的な特質を理解してもらう。
 - ・そのために必要な最低限の基礎知識、基本概念を身につけてもらう。
 - ・主要法領域それぞれの役割、特質を概観し、自分自身の今後の学問的関心を形成してもらう。
 - ・我々と法の関わり方を問う、様々な現代的問題についての認識、関心を形成してもらう。
- といったところを講義の目的として考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

高度に専門的な議論、各法領域に特有の細かな問題については、それぞれの専門科目に委ねなくてはならないが、できるだけ具体的な問題・事例にもふれながら、これから法を学びはじめる諸君の水先案内をつとめたいと思う。

- 講義スケジュールについては、さしあたり次のようなものを予定している（順不同）。
- ・法と法律・権利に対する基本的視座：法的思考を形成する基本的な諸概念の考察
 - ・現代日本法にまでいたる法発展史（西欧近代法の形成をふくむ）の概観
 - ・近現代法の基礎的原理の概観。とりわけ現行憲法の諸原理と諸規定の概括的把握
 - ・公法と私法、民事法と刑事法、実体法と手続法等々、各法分野の特質と差異の概観
 - ・現代社会固有の問題に対する法的視角からの検討 etc.

ただしこれはあくまで現時点での予定であり、詳細は講義開始時にあらためて伝えることとするが、さらに聴講者の反応に応じて、臨機応変に変更していくことも想定されるのであらかじめ了承されたい。また講義時間内に小レポート等を課することがあるかもしれない。

成績評価の方法

成績評価は記述式試験によって行なう（前後期2回実施予定）。上記の小レポート等を実施した場合には当然これも評価対象とする。

教科書

西村健一郎他『判例法学』（有斐閣）。教科書の内容を順次説明するという形式をとるわけではない。ただし、講義で言及できない部分を教科書の記述に委ねることがあり、そうした場合は口頭、板書で触れなかったことがらでも試験の範囲となりうると考えて欲しい。

参考書等

『法学入門2000』別冊法学セミナー（日本評論社）
その他の参考文献、資料は講義の中でそのつど指示する。

その他

毎回使用するわけではないが、六法を持参のこと。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-------------------|---------|-----|
| 憲 法 | さいとう ひさし 齊 藤 寿 | 法 A 1 必 | 4 |

講義のねらい

「憲法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、憲法原理の究明を、興味深く行います。特にこの講義は、理論とともに生きた事例と判例を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 憲法概念-権力と国家と憲法-について
- 第2回 近代憲法と現代憲法の基本原理について
- 第3回 明治憲法の成立と特質について
- 第4回 日本国憲法の成立と制定法理について
- 第5回 日本国憲法の動向について
- 第6回 日本国憲法の体系と基本原理について
- 第7回 天皇の地位と権能について
- 第8回 国民の基本的人権について
- 第9回 平等権規定の態様と原理について
- 第10回 精神的自由権規定の態様と原理について
- 第11回 経済的自由権規定の態様と原理について
- 第12回 人身的自由権規定の態様と原理について
- 第13回 人身保護権規定の態様と原理について
- 第14回 救済権規定の態様と原理について
- 第15回 参政権規定の態様と原理について
- 第16回 社会権規定の態様と原理について
- 第17回 新しい人権について
- 第18回 国民の義務について
- 第19回 平和主義と日本国憲法について
- 第20回 統治機構と権力分立制について
- 第21回 国会の地位と構成と権能について
- 第22回 内閣の組織と権能と責任について
- 第23回 裁判所の地位と構成と権能について
- 第24回 憲法訴訟原理と違憲審査制について
- 第25回 財政の原則と予算と決算について
- 第26回 住民自治と団体自治の原理について
- 第27回 憲法保障の意義と方法について
- 第28回 国法の諸形式について
- 第29回 試験

履修上の留意点

※履修への対応 (Attitude of Your Lessons)

- ① Preparation (予習)
 - ② Marginal Note (余白ノート) の作成
 - ③ Review (復習)
- については、毎回指導します。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合せて、学年の成績とします。

教科書

拙著の中から講義の際、選択・指示します。

参考書等

シラバス参照。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----|-------------------|---------|-----|
| 憲 法 | にし 西 おおむね 修 | 法 A 1 必 | 4 |

講義のねらい

何年か前に発表された日米教育比較に関する米側専門家の報告書によると、日本の大学教育は完全に失敗していると診断しています。「授業は貧弱で、大学生はいたって不勉強」というのがその結論です。日本の大学改革が叫ばれているいま、このような診断が誤りであることを証明する必要があります。

私は、次のような授業方針でのごみしますので、了解されたい。

- ① 私の教師になってからのモットーは、「授業は休まず、遅く始めず、早く終わらず」というものです。したがって、受講生諸君は講義には必ず出席し、かつ授業時間に遅れないように。
- ② あらかじめ講義計画（シラバス）を立て、その計画にそって授業を進めます。この講義計画は別に配布しますが、キーポイントと参考文献が示してあるので、理想的には予習・復習するのが望ましい。
- ③ 授業中の私語・遅刻は、他人の迷惑になるので、絶対に慎んでほしい。
- ④ 成績は平常点を重視。出席は毎時間とり、私が独自に作成した出席カード（質問欄あり）を利用し、双方向性を大切に授業内容にします。
- ⑤ 授業内容は、コピーの配布、ビデオ、スライド、OHPなどの活用をはかり、できるかぎり理解を容易にするよう工夫をこらします。
- ⑥ 成績評価の日安は、おおむね以下のとおり。
前期試験30%、後期試験40%、出席・レポート30%
要するに、講義内容を生き活きたものにし、受講者から知的関心を引き出し、知的満足感をもって終了するというのが、最大のねらいです。

講義の内容・
授業スケジュール

取り扱う主な項目は、以下のとおり。

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 日本国憲法の制定過程 | ⑨ 憲法の改正と限界 |
| ② 国民主権と象徴天皇制 | ⑩ 基本的人権の歴史と意義 |
| ③ 日本国憲法と平和主義 | ⑪ 法の下での平等 |
| ④ 政治改革と憲法問題 | ⑫ 精神的自由権 |
| ⑤ 国会の組織と機能 | ⑬ 経済的自由権 |
| ⑥ 内閣の機能、議院内閣制 | ⑭ 社会権 |
| ⑦ 司法の構造と権限 | ⑮ 身体的自由 |
| ⑧ 憲法の保障 | ⑯ 財政・地方自治 |

教 科 書

- (1) 西 修編著『日本憲法25講』（八千代出版）1994年版 2,700円
- (2) 西 修著『日本国憲法を考える』（文春新書）1999年 690円

参 考 書 等

シラバス参照。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------|---------|----|
| 民法総則 | 河野弘矩 | 法 A 1 必 | 4 |

講義のねらい

民法とは、実質的意義においては、私法関係を規律する原則的・一般的な法を指し、形式的意義においては民法典を指している。民法典は、財産法領域を物権と債権に分け、それに家族法領域の親族と相続に関する規定を加え、それらの通則として最初に「総則」規定を置くといった五編から構成されている（「総則」規定は、財産法領域の総則であり、家族法領域にはそのまま適用されない）。民法典の編纂にあたり最初に抽象的命題を置き、次に具体的な法命題へと下降するといった手法を採用したため、最初の編である民法総則は、抽象的で、理解しにくい規定が多く、民法典の中では比較的難解な編であると言われている。本講義では、可能な限り具体的事例を通して、抽象的理論の理解をより容易にし、受講者の知的好奇心・学問的興味を深めていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

民法総則は、その全体が「権利」を中心に、先ず「権利の主体」、「権利の客体」、続いて「権利の変動」といった順序による体系的な構成を採用している。本講義もその体系にしたがい進行する。一年間の前半で「権利の客体」までを終了し、「権利の変動」については夏休み以降に行う予定である。講義の中で、民法の条文は当然のこと、それ以外の特別法の条文をも参照する機会が多いため、必ず六法を持参して受講されたい。

講義は、民法総則の体系に従い次の順序で行う。

- 一 序論（民法の意義、基本原則、信義則と権利濫用）
- 二 権利の主体
 - (1) 自然人（権利能力、意思能力、行為能力、無能力者の相手方の保護、住所、不在者）
 - (2) 法人（公益法人の設立、能力、機関、権利能力のない社団）
- 三 権利の客体（物の概念、不動産と動産、主物と従物、元物と果実）
- 四 民法総則前半についての質疑応答
- 五 権利の変動
 - 1 法律行為（法律行為の意義、種類、法律行為の解釈）
 - 2 意思表示
 - (1) 意思と表示の不一致（心裡留保、虚偽表示、錯誤）
 - (2) 瑕疵ある意思表示（詐欺、強迫）
 - (3) 意思表示の効力発生時期
 - 3 法律行為の代理（代理の概念、代理権、代理行為、復代理、無権代理）
 - 4 法律行為の効力（無効、取消）
 - 5 法律行為の効力の制限（条件、期限）
- 六 時効（序論、取得時効、消滅時効）
- 七 民法総則全体についての質疑応答

毎回の講義終了後の教場か研究室（第二研2838）においても質問を受ける。

履修上の留意点

毎週、必ず出席をすること。継続しての受講が理解の早道です。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。評価に出席状況を加味するか否かは未定。

教科書

河野弘矩『民法総則講義』（八千代出版）3,200円

参考書等

基本コンメンタール『民法総則』（日本評論社）
六法全書は、ポケットサイズの六法全書でも良いです。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|--------------------|------|----|
| 刑法総論 | やまぐちくに お 夫 山口邦夫 | 法A1必 | 4 |

講義のねらい

一年次の専門科目として、高校時代の学習あるいは予備校時代の勉強方法から、一日も早くぬけ出し、大学における真の学問を学ぶ姿勢になってもらうことを主眼に講義をする。大学生の自覚をもって、講義や読書を通じて、みづから積極的に研究する態度を身につけるように諸君も努力してほしい。

講義の内容・授業スケジュール

一年間を次の4期に分けて講義をする。Ⅰ期(4・5月)、Ⅱ期(6・7月)、Ⅲ期(9・10月)、Ⅳ期(11・12月)、1月の1回は、質問日とする。

Ⅰ期。学問とは何か。特に学問の限界について考える。それから、法律学とは何か。法律学の体系における刑法学の位置づけへと進む。

Ⅱ期。刑法における刑罰と犯罪概念を中心に、法治国家の原則として罪刑を法定しておくことの意味を検討する。

Ⅲ期。ドイツの構成要件論を手がかりに、犯罪論の構築の仕方について、数種のパターンを考えて講義をする。その際、違法と責任との区別を峻別する立場から解説をする。

Ⅳ期。犯罪の既遂・未遂について、昔の学派の対立を考慮しながら、未遂処罰の根拠、さらに過失犯に実行行為があるか否かを考えながら、故意犯と過失犯との区別について検討する。最後に二人以上の犯罪者が加わる共犯の問題について論究し、刑法学の概説を終る。

履修上の留意点

年間を通じて、原則として出席をとらない。ただし、上記の各期ごとのまとめとして、小テストを時間内に行う予定である。

質問時間は、研究室2719号に掲示してある。毎週2～3時間は、毎年確保しているので、この時間内は、自由に質問が可能である。

成績評価の方法

上記の小テストが実行できれば、その結果を、年一回の期末試験の成績と一緒に評価し、単位を認定する。

教科書

教科書は、原則として使用せずに講義をすすめ、参考書はその度に紹介するので、積極的に読書してほしい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------|---------|-----|
| 刑 法 総 論 | まつ 村 格 むら いたる | 法 A 1 必 | 4 |

講義のねらい

刑法（刑罰法規）は、歴史的には支配者が市民を抑圧する最強の手段として長い間悪用されてきたし、近年に入ってからでもファシストたちから悪用された。今日、刑法は、市民の自由と権利を保障する機能をもつものとして把握されなければならない。そのためにも、刑罰権の発動と処罰の範囲をできる限り制限する理論操作が必要である。法益保護と人権保障の両方を考えながら刑法理論を構築しなければならない。授業では、刑法総論を中心に講義していくが、もちろん、刑法各論とのかかわりを無視することなく具体的な事例を参考にしながら刑法総論を学ぶことによって、刑法学の全体像を理解できるようにしていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期

- 第1回（刑法システムとその余のシステムとの関係および刑法システムと隣接領域システムとの関係）
- 第2回（刑法および刑法学システムとその部分システムとの関係ならびに刑法総論とその部分システム）
- 第3回（刑法の意義と機能および犯罪の意義）
- 第4回（刑罰論と罪数論＝刑罰の本質と機能および目的／罪数論の意義）
- 第5回～6回（刑法の原理・原則論＝罪刑法定主義／責任主義／謙抑主義）
- 第7回～9回（行為と構成要件の理論＝行為論／犯罪の主体と客体／故意と錯誤の理論／不作為犯論／因果関係論）
- 第10回以降（違法性の理論＝違法性の本質と実質／正当防衛と緊急避難／自救行為／正当業務行為とくに治療行為／臓器移植／安楽死・尊厳死）

後 期

- 第1回～3回（責任論＝責任の本質／責任能力／故意と違法性の意識／期待可能性）
- 第4回～5回（未遂論＝未遂の意義と処罰根拠／実行の着手／中止未遂／不能未遂）
- 第6回～9回（共犯論＝共犯の意義と形態／処罰根拠／正犯と共犯の区別と関係／共同正犯／共犯と身分／共犯の諸問題）
- 第10回～最終回（補足）

履修上の留意点

刑法学は、きわめて体系的な学問なので、継続的に出席して講義を受けないと理解できなくなる。できる限り具体的な事例を利用して説明するが、それでも観念的思考が入りこむので、考える力を必要とする。教科書以外のことをたくさん話すので、講義をよく聴き、必ずノートをとることが大切である。ただし、黒板に書くことは最小限度必要な事項だけであるから、それを筆記するだけでは意味がない。六法全書・教科書・ノートを毎回持参することが必要条件である。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の定期試験とその他の小テストの成績を総合して判断する。

教 科 書

松村格『刑法学への誘い』（八千代出版）
松村・神田・都築・野崎『刑法総論』（ミネルヴァ書房）

参 考 書 等

立石二六『刑法総論』（成文堂）
別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅰ総論（第4版）』（有斐閣）
斉藤誠二編『演習ノート刑法総論』（法学書院）
『刑法基本講座（全6巻）』のうち1～4巻（法学書院）

そ の 他

授業の方法は、すべて講義方式で行なう。必要に応じてプリントを配布することがある。その場合には、そのプリントに沿って講義をする。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|-----------------------|---------|----|
| 会社法 | やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦 | 法 A 2 必 | 4 |

講義のねらい

会社——特に、株式会社は、現在の経済活動にとって不可欠の組織である。この講義では、株式会社の組織・運営に関する法規制、株式会社法を中心にその制度の体系および構造を概観する。会社法といっても、学生諸君にすれば、会社という場に身を置いていないこともあって、それは別世界のことであり、あまり身近に感じられない遠い世界でもあるかのようなものである。しかし、私たちの生活は、高度な経済社会の営みの上に展開しているのであり、それは、企業活動の単位としての株式会社によって支えられているといっても過言ではない。私たちは、会社に就職することで直接的な関係を持つ場合のみならず、この社会で生活していること自体、すでに会社と間接的に結ばれているといえよう。このような会社という存在に、法の側面から、この講義では接近する。

さて、株式会社とは、出資単位を均一の細分化した株式にして、社会に潜在している資本を効率よく集めるために、考案されたものである。したがって、立法制定者は、相当大きな資本を擁する複雑な構造をもった組織として、典型的な株式会社の姿を法典の上に描いて見せたが、現実には、個人企業や組合に等しいような株式会社が多い。このような株式会社にとって株式会社法は、身の丈に合わないだぶついた服となっており、法と現実との遊離といった問題が生じている(そもそも、こうした小さな企業がなぜ株式会社という法形態選択をするのだろうか。講義ではこの点にも触れる)。他方、株式を証券市場に上場しているような会社は、その資本金も株主の数も多く、中にはそれ自体が一個の社会的権力にも比肩できるような巨大会社もめずらしくないが、これら会社にとって株式会社法は、むしろスモール・サイズの服となっている。株式会社法は、この両極において、困難な問題に直面しているといえよう。講義では、株式会社法の基本的な制度内容に十分配慮しながら、株式会社法制度の根幹にかかわる困難な問題が、株式会社法の個々の制度・規制について、どのように問題となっているかについても触れてみたい。同時に、現実の紛争において問題になってくる株式会社法の具体的な制度をめぐる判例および学説の錯綜する解釈上の論点についても、ポイントを押さえて、講義する。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は、会社法の中でも、最も重要な株式会社法を中心とする。そこでまず、①会社法総論として、会社の経済的機能、法的意義、法的特色を押さえた後、株式会社の特徴を位置付ける。次いで、②株式制度として、株式の意義、種類、株主平等の原則、株式譲渡自由の原則とその例外、株券、株主名簿、名義書換、株式金融、単位株制度・端株を順次、取り上げる。③会社の運営を観る。具体的には、機関総論、株主総会、取締役・取締役会、監査役を講義する。このようにして、株式会社の基本的内容を観た後、④株式会社の設立に入る。設立手続の内容、定款の作成、変態設立事項、出資の履行、設立登記とその効果とその具体的内容となる。余裕があれば、⑤資金調達にも入りたい。⑥株式制度の途中で、夏季休暇に入るものと予定している。

履修上の留意点

講義での私語は厳禁する。六法全書は、必ず持参すること。講義では、必ず条文を参照する必要がある。六法がないと、そこで理解がスムーズに行かなくなる。なお、平成9年に改正があったので、平成10年度以降の六法を持参して下さい。

成績評価の方法

成績評価は、期末試験での評価による。出席は、取らない。これまでの私の経験から言えば、不可を取る学生数は、およそ、出席していない学生の数にほぼ相当すると感じている。大体、履修登録者数の半分前後が、出席しているが、この位の数が、単位を取得しているからである。

教科書

荒木正孝『現代企業法第2版』(成文堂)

参考書等

長浜洋一『株式会社法』(有斐閣) 3,914円、『会社法判例百選』(第6版)(有斐閣) 1,900円

その他

株式会社法を勉強するにあたっては、各種制度の目的を十分に理解することが大事である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----|-----------------------|---------|-----|
| 会社法 | あら き まさ たか 荒 木 正 孝 | 法 A 2 必 | 4 |

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・
授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、多くの人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を採り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原理を理解してもらうつもりである。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。商法は、民法を一般法とする特別法であるから、会社法に限らず、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層理解しやすい。ただ、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履修していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末に行なわれるペーパーテストの点数で評価します。

教 科 書

荒木正孝著『現代企業法（第3版）』（成文堂）

参 考 書 等

鴻・落合・岩原・江頭編『会社判例百選』（第6版）（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第2版』（成文堂）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------------------|-----------|-----|
| 物 権 法 | つる 鶴 い しゅん きら 井 俊 吉 | 法 A 2 選 必 | 4 |

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうち総則、占有権、所有権、地上権、永小作権、地役権を対象とする。所有権を中核とする物権法は、今日の社会構造の法的土台をなしており、憲法上の私有財産制度の骨組を定めたものである。その意味で、物権法は民法の中で最も基礎的な重要な部分であるといえる。

講義の内容・授業スケジュール

講義の主な内容は、不動産売買をめぐるトラブルがどのように解決されているのかなど、物権変動を中心に、不動産利用権、物権的支配の秩序維持についての制度を解説する。
講義では、物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例を入れ、図解してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

物権法は、解釈学上においても体系的理解が困難な分野であるといわれている。それは立法の沿革に基づいている。現行民法がドイツ民法を継受してできあがっているにもかかわらず、物権法の主要な部分については、フランス民法の影響を強く受けているからである。それゆえに講義に出席しないとなかなか興味が持てないし、理解しづらい分野であるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

教科書

遠藤・川井他編『民法(2)物権』(有斐閣双書)を予定している。

参考書等

講義の最初に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------|-----------|-----|
| 債 権 総 論 | あおのひろゆきの 青野博之 | 法 A 2 選 必 | 4 |

講義のねらい

債権総論とは、民法典のうち第3編「債権」の第1章「総則」をいう。
 売買契約によって売主は買主に代金を支払えという債権を取得し、賃貸借契約によって賃貸人は賃借人に賃料を支払えという債権を取得するが、両方とも金銭債権であるということでは共通する。売主が買主に代金を支払えというの、賃貸人が賃借人に賃料を支払えというのも金銭を支払えということでは同じである。また、買主が売主に品物を引き渡せという債権も、債権という点では、金銭債権と共通する。つまり、債権者が債務者に何かをせよと（またはしてはいけないと）請求するという点では共通する。
 このように、債権の共通点を中心にして、債権の性質、その効力などを考察するのが、債権総論である。

講義の内容・
 授業スケジュール

序 論
 債権の目的（債権の内容）
 特定物債権・種類債権
 金銭債権
 債権の効力
 債権不履行（契約責任の要件）
 損害賠償（契約責任の効果）
 責任財産の保全
 債権者代位権
 債権者取消権
 多数当事者の債権関係
 連帯債務
 保証債務
 債権譲渡
 債権の消滅
 弁 済
 相 殺

履修上の留意点

質問は大歓迎である。出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただくことになると思われる。

成績評価の方法

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。
 なお、受講生がそれほど多くなければ、質問および応答の平常点だけで成績を評価する。しかし、平常点で成績を評価することができないほど受講生が多ければ、年度末の試験を行う。なお、試験を行う場合には、いっさいの持ち込みを不可とする。

教 科 書

宇佐見大司ほか著『プリメール民法3・債権総論』（法律文化社、2000年4月発売予定）2,800円の予定。
 教科書は上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------------------|-------|----|
| 有価証券法 | しま 島 はら 原 ひろ 宏 あき 明 | 法A2選必 | 4 |

講義のねらい

現代の経済社会における企業間の取引では、手形や小切手等の有価証券が数多く使用されている。中でも手形と小切手は典型的な有価証券であって、その流通に関する法規制の多くは商法上の他の有価証券にも及んでいる。したがってその体系の理解は有価証券全般を理解する上で不可欠なものである。また、手形や小切手は金銭債権と結びついた証券であるため、これに関する法体系は債権法の一部として把握され、民法の債権総論と密接な関係にある。

講義の内容・
授業スケジュール

手形法は第一編が替手形と第二編が約束手形の二編から成り立っており、為替手形についての規定の多くを約束手形に準用するという構成になっている。ただし、わが国においては為替手形がほとんど用いられていないという現実があり、また為替手形に比べて約束手形の方が仕組みが単純であるため、条文の順序とは一致しないが講義では約束手形を中心にして説明を行い、適宜が為替手形、および為替手形と基本的な仕組みを同じくする小切手についての説明を付け加えていくという形をとる。

なお、企業活動に関わったことのない学生諸君には手形や小切手の世界は現実感が乏しく興味が起こりにくいいため、なるべく具体的な判例を示して解説をしていくつもりである。

成績評価の方法

成績評価は期末試験による。

教科書

宮島 司『やさしい手形法・小切手法』（法学書院）2,000円

参考書等

開講時に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------|-----------|-----|
| 刑 法 各 論 | まつ 松 村 格 | 法 A 2 選 必 | 4 |

講義のねらい

刑法各論は、刑法各則規定の解釈が中心になるが、すべての条文の解釈を検討することは時間的に不可能であるので、特定の条文にしぼって講義していくことにする。そこで、現代型犯罪と称される犯罪規定の解釈とか、時代の変遷に伴って条文の解釈の再検討を余儀なくされているような問題にしぼって講義していきたいと思う。学生諸君は、それらの犯罪がなぜ問題になっているかということをよく考えてもらいたいと同時に、その際に、刑法総論で学習した「人権保障」と「法益保護」という刑法の使命を常に念頭におきながら解釈をしてもらいたい。行為無価値論か結果無価値論かという違法性の実質の問題も常に係わってくるので、自分の立場をしっかりと築いてもらいたい。

 講義の内容・
 授業スケジュール

1. 刑法における生命の保護
動物の生命／人の受精卵（初期胚）・胚子の生命／胎児の生命／人の生命
人の生命の始期と終期／安楽死と尊厳死／自殺関与罪の問題点
2. 暴行罪と傷害罪
暴行と傷害の概念／暴行と傷害の意義／同時傷害の特例／胎児性傷害の問題点
ひき逃げと傷害致死罪・遺棄致死罪・殺人罪
3. 住居侵入罪と放火罪
住居侵入罪の保護法益／住居侵入罪の問題点
放火罪の既遂時期／建造物一体性の問題
4. 名誉・信用を侵す罪
信用毀損罪／信書開封罪／名誉毀損罪と侮辱罪／名誉毀損罪と事実の証明
5. 性と犯罪
わいせつ性の概念／強制わいせつ罪／わいせつ物頒布罪
夫婦間レイプ／女子による強姦罪／強盗強姦罪
6. 財産罪の諸問題〈1〉
財産罪の態様／財産罪の保護法益／財物の概念
無銭飲食・宿泊／キセル乗車／クレジットカード詐欺
不法原因給付と詐欺罪／権利行使と詐欺罪
7. 財産罪の諸問題〈2〉
強盗罪の諸問題／横領罪と背任罪
コンピュータ犯罪と財産罪
8. 各種偽造の罪
通貨偽造罪／文書偽造罪／有価証券偽造罪
9. 電子コピーの文書性・電磁的記録の文書性
文書偽造罪と電磁的記録不正作出罪／テレホンカードの度数不正変更
10. 公務員関連犯罪
賄賂罪の問題点／職権濫用罪／公務執行妨害罪と業務妨害罪
11. 刑事裁判に支障を来す罪
犯人蔵匿罪／証拠湮滅の罪／偽証罪
12. その他

履修上の留意点

刑法各論に関心のある学生諸君だけの参加を希望するが、教科書以外のことや特別資料に基づいて講義するので、毎回出席してノートをとることが必要である。

成績評価の方法

定期試験のほか逐次小テストをするので、それらと出席状況を総合的に評価して決める。

教 科 書

松村格『刑法学への誘い』（八千代出版）
 松村格『日本刑法各論教科書』（八千代出版）

参 考 書 等

別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅱ各論（第4版）』（有斐閣）
 『刑法基本講座（全6巻）』のうち5巻6巻（法学書院）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------|-------|----|
| 行政法総論 | さいとう ひさし 齊藤 寿 | 法A2選必 | 4 |

講義のねらい

「現代行政法の解明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、現代行政法の法理解明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回 行政とは何か。
- 第2回 行政法とは何か。
- 第3回 行政法の特徴は何か。
- 第4回 世界の行政法の類型と、行政法学について。
- 第5回 行政法の基本原理は何か。特に「法律による行政の原理」を中心として。
- 第6回 行政法の法源と効力について。
- 第7回 行政上の法律関係について。
- 第8回 特別権力関係と行政法関係の変動について。
- 第9回 行政作用法と行政立法について。
- 第10回 行政行為とその内容について。
- 第11回 行政行為の附款と成立について。
- 第12回 行政行為の効力について。
- 第13回 羈束行為と裁量行為について。
- 第14回 行政行為の瑕疵の取消と撤回について。
- 第15回 行政契約について。
- 第16回 行政計画について。
- 第17回 行政指導について。
- 第18回 これまでの講義の review と、これからの講義の outline について。
- 第19回 行政強制について。
- 第20回 行政罰について。
- 第21回 行政手続について。
- 第22回 行政救済について。
- 第23回 行政上の損害賠償について。
- 第24回 行政上の損失補償について。
- 第25回 行政争訟制度について。
- 第26回 行政不服審査について。
- 第27回 行政事件訴訟制度の沿革と類型について。
- 第28回 行政事件訴訟手続について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法総論」を楽しく研究してみませんか。— 私がみなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。

目には火を、顔には光をい দিয়ে、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合せて、学年の成績とします。

教科書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----|----------------|-----------|-----|
| 国際法 | おうしあん 王 志 安 | 法 A 2 選 必 | 4 |

講義のねらい

国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家及び国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。

後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論及び外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論及び実行、国際地域、国際海域及び宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式及び効力に関する法規則、外交関係及び領事関係における特権及び免除などを取り上げる。

履修上の留意点

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意識をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法

成績は年末の定期試験で決定する。ただし、講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。

教科書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）1997年 2,700円

参考書等

市販されている国際条約集

その他

授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、板書する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|------------------|-------|----|
| 裁判法 | すぎ 杉 浦 とも 智 つく 紹 | 法A2選必 | 4 |

講義のねらい

現代社会では、人は裁判とかかわりなしに生きることが、むしろ難しくなっている。従って、国民1人1人が自分の権利を守っていく為にも、裁判に関心を持つことが必要である。そこで、この講義では、法が裁判によって自己実現をとげていく仕組みについて、裁判の担い手である人の側面、また国家制度としての側面、手続過程としての側面から、日本の裁判の特色を浮きぼりにしつつその解明を試み、また民事訴訟法や刑事訴訟法について三年次以後に具体的に勉強されるであろう学生諸君に、手続法の学習の基礎が形成できるように、現代の裁判の抱えている問題の一つ一つ探り上げながら、出来るだけ分かり易くしかも的確に理解してもらえよう講義を進めていきたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 総論的に、
 ①現代社会における裁判とのかかわりあい、裁判の役割と限界 ②現代裁判制度の沿革と特色
 ③裁判所の機構論及び裁判官論 ④検察庁の組織及び検察官論 ⑤弁護士制度論
 ⑥公証人制度 ⑦裁判過程論 ⑧法律扶助と国選弁護 ⑨法曹教育問題 — 比較法的見地に立脚して—
- II. 各論的に
 ⑩民事裁判の手続論 ⑪刑事裁判の手続論 ⑫国民の司法参加の課題 ⑬違憲審査制度論 ⑭捜査の必要性、捜査機関、捜査の適正化に必要な方法論 ⑮裁判における証拠の重要性と証拠裁判主義並びに事実認定における証拠の扱い方 ⑯裁判の遅延と促進をめぐる問題 ⑰誤判とその救済制度論 ⑱日本人の裁判に対する特異性 ⑲裁判の目的と実現の方法論 ⑳裁判における判例の役割と機能 ㉑行政訴訟、人事訴訟、家事審判制度、等を中心に、実務的体験をもとに、基本的課題は勿論のこと、各種手続法の up-to-date な問題点についても出来るだけ個別に採り上げて、手続法の基礎が形成できるように努力を傾ける。

履修上の留意点

活きた法律を学ぶには、裁判の傍聴は極めて有効な手段と思われるので、この講義を受講する学生諸君は、夏期休暇中に裁判の傍聴が義務づけられ、夏休み明けに、傍聴所見をレポートとして提出することが必要である。法学部の学生として、一回は現実の裁判を傍聴することは不可欠であろう。裁判を傍聴した学生は異口同音に、裁判を身近なものと感じ後期から法律の勉強に意欲的に取り組む姿勢が感じられるので頑張ってください。

成績評価の方法

出席、レポート及び定期試験を総合的に判断し評価する。

教科書

杉浦智紹・梅善夫編著『裁判と法』（八千代出版）2000

参考書等

兼子一・竹下守夫著『裁判法（第四版）』（有斐閣）
 小島武司編『現代裁判法』（三嶺書房）
 渡部保夫保他『現代司法』（日本評論社）

その他

その他、講義項目に関連する詳細な文献については、講義の進行にあわせて、その都度紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-------------------------------------|---------|-----|
| 担保物権法 | つる 鶴 井 俊 吉 <small>しゅん きち</small> | 法A3・4選必 | 4 |

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうちで、留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等が対象となる。担保物権制度は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性がますます増大している。今日、財産法領域で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、著しく変動している。

講義の内容・
 授業スケジュール

私たちが土地を買い、建物を建てる、あるいは自動車を買うという場合に、多くは金融機関から融資を受けることになるが、金融機関では何らかの担保を要求してくる。この場合に、抵当権や質権といった担保物権を金融機関に設定する。このように小は個人の資金調達のため、あるいは大は、企業の活動資金獲得のために担保は重要な役割を担っている。担保物権法のもつ経済的意義は極めて重要である。

しかし、学生にとって担保物権法は、民法の中で最も難解なところと感じられ、また比較的なじまない領域だと思われる。それは、多数の関係当事者が複雑に絡み合い、また解釈上でも技術的性格が強いことに原因がある。

そこで講義では、担保物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例をとりあげ、図解してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

学期の初めには、担保物権法の主要な部分についての概略の説明を予定している。それによって担保制度の全体像がおおよそ把握できるであろう。それゆえ、最初から講義に出席しないと理解できなく、なかなか興味が持てなくなるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

教 科 書

遠藤・川井他編『民法(3)担保物権』(有斐閣双書)を予定している。

参 考 書 等

講義の最初に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|----------|-----|
| 相 続 法 | たけ なか ち か 竹 中 智 香 | 法 A3・4選必 | 4 |

| | |
|----------------|--|
| 講義のねらい | <p>民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。</p> |
| 講義の内容・授業スケジュール | <p>わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。</p> |
| 履修上の留意点 | <p>教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。</p> |
| 成績評価の方法 | <p>おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。</p> |
| 教科書 | <p>遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』（有斐閣双書）1,648円</p> |
| 参考書等 | <p>久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円 六法</p> |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|----------|-----|
| 商法総則・商行為法 | かみ ぐち まさお 関 口 雅 夫 | 法 A3・4選必 | 4 |

| | |
|----------------|--|
| 講義のねらい | <p>専門科目としての商法学は、商法全体についての概観的な知識、商法に対する基本的な考え方、および個々の法律問題への取りくみ方など、商法についての最も基礎的であると考えられる問題の理論的そして体系的な解明を目的とする学問である。この講義は、商法学の内、商法総論、商法総則および商行為法を中心に行う。</p> |
| 講義の内容・授業スケジュール | <p>商法総論においては、商法の意義、商法の特徴、商法の体系、商法の適用の四つのテーマを論考する。次に、商法総論においては、営業の主体、営業行為、営業の人的組織、営業の物的組織、営業の譲渡、商業登記の六つのテーマを論ずる。そして商行為法においては、商行為の概念、商行為法の総則、商事売買、交互計算、匿名組合、仲立営業、運送取扱営業、運送営業、寄託の十の主要な問題を考察する。一年間で25回の講義を予定する。</p> |
| 履修上の留意点 | <p>ここに選ばれた20のテーマは、商法の特定分野に関するものではあるけれども、これから商法を体系的に学んで行こうとする諸君にとって、欠かすことの出来ないと思われる問題を取りあつかっている。もっとも、この講義は、全ての学生のニーズを満すものではない。この講義が特に必要であると考えられる学生は、将来自営業を志したいと考えている学生、会社員になりたいと考えている学生、および司法試験を受験したいと考えている学生である。この意味で、学生諸君は、自分で自分の将来計画を明確にし、受講すべきか否かを決定することが肝要である。</p> |
| 成績評価の方法 | <p>平常点と期末試験を重視する。</p> |
| 教科書 | <p>関口雅夫編著『現代商法 I〔総則・商行為〕』（八千代出版）2,800円を使用する。六法全書は、毎回持参すること。</p> |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-----------------------|---------|----|
| 保険・海商法 | やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦 | 法A3・4選必 | 4 |

講義のねらい

私たちの生活は、いろいろな危険に満ちている。私たちは、それにあまり気が付かず生活していたりするが、時には、不幸な事故に巻き込まれたり、あるいは逆に事故を引き起こしたりもする。こうした不幸への危険性は、この社会に生き、活動しているすべての人々（すなわち法主体、当然、会社も人である）に程度の差こそあれ、無縁ではない。危険が現実のものとなったとき、そこに通常、損害が発生する。この損害は、どのように処理すれば良いのだろうか。事故を引き起こした者がいるのであれば、この者が損害を負担すべきである。しかし、この者に資力がなかったならば、被害者の受けた損害は回復されずに酷いことになる。さらに、加害者も存在していないような場合には、どうすれば良いのだろうか。こうしたことへの不安は、人が生き活動して行く上での不安であり、今に始まったことではない。人類は、古くから、このための種々の方策を考えてきたが、複雑・高度化した現代社会は、かつてないほどの、不安と危険のジャングルとなっているのである。保険は、そのための方策の中で、最も高度に洗練された仕組みである。私の講義では、保険という仕組みが法的にどのように制度化されているかを見る。

ところで、保険は、他面において賭博に似ている（どちらも偶然の出来事により、多額の金銭を取得できるではないか）。そして、海の危険に満ち満ちた海上企業活動は、かつては、冒険企業の典型であった。保険が考案され発展したのは、中世地中海世界が育んだ海上企業活動においてであったということは、保険と海商との賭博的な共通の色彩の賜といえるのかもしれない（やがて保険制度は、海から陸にも上がり、今日見られるような隆盛を迎える）。当時の海上企業は、現在の海上企業とはかなり異なっていたし、(法的制度としての株式会社に先駆していたのであるが、株式会社の登場は後年のことである)、その企業活動も海賊が立派な企業活動として認知されていたことから明らかなように、現在と大部隔っている面があった。しかし、近代的国家が形成される前から活発に行なわれていたイタリアの海港都市等に端を発する海事慣習は、その後一定の地域的広がりを得ながら、ヨーロッパのその他の港にもそれぞれの海事慣習の形成を促がし、それらがようやく確立する国家の法典に、取捨選択されつつ、結実し、その過程において、民商事法の源流の一つを形成したのである。

さて、そこで海商法である。海商法は、船舶を手段とする海上企業活動に関する法である。当然のことながら、船舶の活動する舞台ともいべき海は、世界へとつながっている。経済活動が、狭い一国の地域的空間にのみ終止するのであれば格別、現在のように、世界的基盤での市場が形成され、経済活動も世界的広がりを持つにいたると、原料やその加工品である商品の流通は、血管を流れる血液のように確保されなければならない。船舶による海上運送は、いわば、血液の中の血晶板のようなもの――または、血液そのものである。船舶を利用して遂行される海上運送は、その国々の経済体制を支えるものであり、世界経済に重要な貢献を果すものである。私の講義では、この海上企業活動を、商法の視点から捉え、そこに働らく基本的な法原則を見ることにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、保険法を中心にする。①保険制度と保険法、②保険契約の当事者・関係者、③保険契約の成立と終了、④保険契約の内容と効果、⑤損害保険契約の意義・内容、⑥損害保険に特有の効果、⑦保険担保、⑧火災保険と地震保険、⑨責任保険と自動車保険、を中心項目とする。

後期は、海商法を取り上げる。①海商法の意義と発展、②海上企業の物的組織、③海上企業の主体、④海上企業の責任と制限、⑤海上物品運送契約の意義と種類、⑥海上物品運送契約の履行(海上物品運送人の義務と権利)、⑦海上物品運送人の責任、⑧船荷証券の意義および種類と発行、⑨船荷証券の効力、⑩海上売買、を中心とする。

保険法および海商法も1項目につき1時間ないし2時間を予定する。

履修上の留意点

講義には、六法を持参して下さい。

成績評価の方法

出席は、毎時限、取ります。これは、期末試験での成績評価の際に考慮します。

教科書

山野嘉郎・山田泰彦編著『現代保険・海商法30講』（中央経済社）3,800円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------------|-------------|-----|
| 民 事 訴 訟 法 | すぎ とうら ととも つぐ 杉 浦 智 紹 | 法 A 3・4 選 必 | 4 |

講義のねらい

民事訴訟は、その対象が日常生活をめぐる法的紛争（民事紛争）であることから、その法的紛争を解決する方法としての民事訴訟法学の理論的考察には、取り分け実体法との関連性を重要視し、訴訟法理に実体法理を包攝するとの基本的構想を採る必要があると考えている。また、講義では判決手続を中心に、憲法との関連性をも重視しつつ、適正且つ迅速な裁判をするには、裁判所と当事者との協働作業が不可欠であることを充分認識した上で、民事訴訟法の基礎理論からはじめて、訴訟構造論、訴訟主体論・訴訟客体論、訴訟過程論、裁判論、等について論及する。具体的には、訴提起の段階、口頭弁論・証拠調べの段階、訴訟終了の段階に対応した、民事訴訟法上の主要な論点について、「問題の所在」を示し、学説・判例の動向を整理・紹介し、どういう角度から問題にアプローチし、また結論を導くべきかに重点をおいて、考察・検討するという方法をとる。特に訴訟過程において、訴訟主体が主体的役割を果たしたか、また果せたかが、裁判の効力に影響することを、大きな課題として、講義を進める予定である。

講義の内容・授業スケジュール

I 民事訴訟の基礎理論

- ① 民事訴訟と民事紛争 — (1)民事訴訟の意義と目的 (2)民事訴訟と他の法律上の手続の違い (3)判決手続の流れ (4)民事訴訟法
- ② 民事訴訟の基本原則 — (1)処分権主義 (2)弁論主義 (3)必要的口頭弁論の原則 (4)民事訴訟の憲法的保障
- ③ 訴訟の構造理論
- ④ 現代型訴訟と問題の所在

II 民事訴訟の主体論

- ① 裁判所 (1)構成と管轄 (2)裁判所の除斥・忌避・回避
- ② 当事者 (1)当事者概念 (2)当事者をめぐる諸問題 (3)当事者能力 (4)訴訟能力 (5)当事者の確定 (6)当事者適格 (7)訴訟における代理・代表

III 訴訟客体論

- ① 訴と請求 (1)訴の概念と種類 (2)訴訟要件 (3)許の利益
- ② 訴訟における審判対象 (1)審判対象の特定 (2)訴訟要件の調査と審理順序 (3)訴訟物の構成 (4)訴訟物論争問題 (5)訴提起の効果

IV 訴訟過程論

- ① 訴訟の審理 (1)審理手続の進行と裁判所の訴訟指揮 (2)期日・期間・送達 (3)当事者の欠席 (4)訴訟手続の停止
- ② 口頭弁論及びその準備 (1)審理方式に関する原則 (2)口頭弁論の必要性 (3)口頭弁論の準備と争点整理 (4)口頭弁論の概念 (5)口頭弁論調書
- ③ 事案の解明 (1)弁論主義 (2)釈明権
- ④ 当事者の訴訟行為 a) 意義と種類 b) 訴訟契約＝訴訟上の合意 c) 訴訟行為と私法規定 d) 訴訟行為の瑕疵と治癒 e) 形成権の訴訟上の行使
- ⑤ 証 拠
(1) 事実認定と証拠 a) 証拠の必要性 b) 要証事実・不要証事実 c) 証拠の意義
(2) 証拠調べの実施 a) 証拠調べ通則 b) 各種の証拠調べ c) 自由心証主義
- ⑥ 訴訟における主張と証明
(1)主張責任と証明責任 (2)弁論主義による証明責任の機能の拡大 (3)証明責任の分配基準
(4)証明困難軽減の諸方法 (5)証明責任における当事者対等性の原則

V 訴訟の終了

- ① 訴の取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解
- ② 判決 (1)裁判の種類及び判決の種類 a) 中間判決 b) 終局判決 c) 訴訟判決と本案判決 d) 判決の成立 e) 判決の瑕疵
- ③ 判決の効力
- ④ 既判力 (1)意義 (2)既判力理論 (3)既判力を有する裁判 (4)既判力の作用 (5)既判力の範囲
a) 時的範囲 b) 客観的範囲 c) 主観的範囲 d) 争点効および反射効
- ⑤ 執行力・形成力・附随的效果

VI 訴訟における訴訟参加

- ①補助参加 ②独立当事者参加 ③共同訴訟参加・共同訴訟的補助参加

VII 訴訟における複数請求審理

- ① 複数請求訴訟 (1)訴の客観的併合 (2)訴の変更 (3)中間確認の訴 (4)反訴
- ② 訴の主観的併合＝共同訴訟 (1)通常共同訴訟

(2) 必要的共同訴訟 a) 固有必要的共同訴訟 b) 類似必要的共同訴訟

(3) 共同所有関係と必要的共同訴訟

VII 訴訟における不服申立て制度

① 裁判と不服申立て ② 控訴 ③ 上告 ④ 抗告 ⑤ 再審

IX 略式訴訟手続 ① 手形・小切手訴訟 ② 少額訴訟手続 ③ 督促手続

履修上の留意点

手続法は実体法の理解とは異り、体系的に連続しているため、講義には必ず出席し、また講義が楽しくなるかは、予め問題意識をもっているか、または関心があるかにかかっているため、講義対象は前週に指示しておくので、参考書等に目を通して受講されることが望ましい。また法律の勉強は理解することにあるので、それには先づ以って条文を読むことが大切である。従って、六法全書に親しむ習慣を是非つけてほしい。

成績評価の方法

民事訴訟法の試験は、(1) 期末の定期試験でペーパーテストを行い、これを成績評価の重点項目とするが、(2) 前期段階で小テストを行う。どの程度の理解が出来ているかを確認するため、講義をした主要な事項について、設問形式で結論と理由づけを三行以内で書かせる方式を採用し、テスト終了後、設問に対する解答及び理由づけを開示する。(3) 学生との信頼関係の下、年間使用できる受講カードを配付し、毎時間の授業項目を記載させ、単位を必要とする者には、これを自己管理させ、期末に提出させる。以上の三点を総合判断して成績の評価を行う。

教科書

特に指定はしない。

参考書等

1. 伊東眞著『民事訴訟法』(有斐閣)
 2. 松本博之・上野泰男『民事訴訟法』(弘文堂)
 3. 中野／松浦／鈴木編『新民事訴訟法講義』(有斐閣)
 4. 新堂幸司著『新民事訴訟法』(弘文堂)
 5. 三ヶ月章著『民事訴訟法』(弘文堂)
 6. 上田徹一郎著『民事訴訟法』(法学書院)
 7. 『民事訴訟法の争点(新版)』ジュリスト(有斐閣)
 8. 『民事訴訟法判例百選Ⅰ、Ⅱ』ジュリスト(有斐閣)
- その他、講義の進行に応じて適宜、詳しい文献の紹介は行う。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-------------------|----------|-----|
| 労 働 法 | ふじもと しげる 藤 本 茂 | 法 A3・4選必 | 4 |

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌しています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働条件決定に組合の及ぼす影響をみておく必要があります。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正（裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、労働条件の明示義務などなど）がありました。また男女雇用機会均等法、労働者派遣法、職業安定法などの改正も、なされました。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中にあっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

労働法は、皆さんが、将来どのようなところに職を得ようとも、もっとも身近な法であります。会社もまた、労働法に関する十分な知識なしには円滑な人事管理が行い得ないことは、常識です。労働法は、皆さんが労働生活の節目節目で選択を迫られるとき、自ら考え自らを処していく上で、知っておくべき必要な知識であり、知っているかいないかは、よりよい選択をする上で、とても重要であると思います。

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。

ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件の決定－労働契約、就業規則、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、出席等を加味することはありませんが、学年末試験がメインです。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|-------------------------|---------|----|
| 国際私法 | かさ 原 とし 俊 宏 かさはらとしひろ | 法A3・4選必 | 4 |

講義のねらい

渉外的要素を有する私法問題の解決を目的とするのが国際私法である。それは、狭義において、準拠法の選定を主たる役割とする。その意味において、国際私法は、民法や商法のように私法問題の判断基準となる法律とは、規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範などと呼ばれることがある。講義においては、国際私法のこのような特質を明らかにしつつ、実質法における理念の変化が国際私法にとっても無縁でないことを実証的に論じたいと考えている。時として難解な科目であるといわれることがあるが、最近の身近な問題を具体例として取り上げるなどして、できる限りわかりやすいものとなるよう工夫したい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容およびスケジュールについては、ほぼ次のように予定している。

1. 国際私法総論（4月、5月）
2. 国際家族法（6月、7月、9月、10月）
3. 国際財産法（11月、12月）
4. 国際民事訴訟法（1月）

履修上の留意点

基礎となる他の科目、就中、家族法について、基礎知識を有することが好ましく、民法についても併せて学習することを期待する。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の筆記試験によって行なう予定である。

教科書

笠原俊宏著『国際家族法（増補版）』（高文堂出版社）を使用する。

参考書等

いずれかの六法を常に携帯することを望む。

その他

授業は普段講義によって進行するが、時折、事例を設定して、皆で一緒に考えることも予定している。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|-------------|-----|
| 行 政 法 各 論 | さい とう ひよし 斉 藤 寿 | 法 A 3・4 選 必 | 4 |

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」

1 年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用収用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。

— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|---------------------|------------|----|
| 国際紛争解決法 | おう 王 し 志 あん 安 | 法 A 3・4 選必 | 4 |

講義のねらい

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界及び適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能及び事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決及び世界貿易機構（WTO）の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査及び調停といった制度の展開及び適用、国連における紛争処理の制度的展開及び現状、そして WTO の紛争処理制度の発展、手続き及び制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判及び国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立及びその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。要点を板書にするので、聴講ノートをしっかりを取ってもらいたい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験によって評価する。

教科書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）1997年 2,700円

参考書等

市販されている国際条約集及び国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

その他

授業は主として講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることがある。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------------------------|---------|----|
| 刑事訴訟法 | はし橋 もと ゆう ぞう 橋 本 裕 藏 | 法A3・4選必 | 4 |

講義のねらい

刑事手続の基本について理解することが目的である。
犯罪の予防、摘発と、国家機関の権限の適正な行使によって個人の自由や市民社会の安全は維持されている。外国法にも目を向けながら、前期は捜査について、個人の自由を保障しつつに効果的な法執行を実現するかを考え、後期は公判の諸原則を学びながら、最も厳しい制裁である刑罰を科すための手続的な公正さ・手続的正義について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 任意捜査と強制捜査
2. 逮捕
3. 捜索・押収
4. 検証・鑑定
5. 明文の定めのない捜査方法とその規律
6. 身柄拘束下の取調べ
7. 被疑者の弁護権
8. 職務質問、所持品検査
9. 訴追裁量
10. 公判構造
11. 起訴の方式と訴因
12. 証拠開示
13. 排除法則
14. 自白調書の証拠能力
15. 伝聞法則
16. 無罪推定
17. 裁判とその効果
18. 上訴

履修上の留意点

社会に生起する事件や法律問題に常に関心をもってほしい。六法は必携である。(但し、判例付きのものは不可。)

成績評価の方法

出席率(毎時限出席確認をする)、及び毎時限の授業報告レポート(ノートの要約)の提出率並びに年度末の筆記試験の結果を総合評価する。

教科書

渥美東洋著『刑事訴訟法』(新版)(有斐閣)

参考書等

渥美東洋著『刑事訴訟法基本判例解説』第3版(三嶺書房)
 渥美東洋著『レッスン刑事訴訟法』上・中・下(中央大学出版部)
 渥美東洋著『複雑社会で法をどう活かすか』(立花書房)
 渥美東洋著『罪と罰を考える』(有斐閣)
 渥美東洋著『刑事訴訟法における自由と正義』(有斐閣)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------------|---------|----|
| 比較憲法 | さいとう ひさし 斉藤 寿 | 法A 1・2選 | 4 |
| | | 法B 1・2選 | |

講義のねらい

人権保障制度、国会制度、内閣制度、司法制度、自治制度、財政制度など、各国の憲法制度について興味深い講義を続けながら、楽しく研究します。また、西欧主要諸国の憲法にとどまらず、アジア・アフリカ諸国や中南米諸国の憲法にもふれ、その特色を楽しく研究します。これらの講義は、1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 イギリス憲法は、どのように歩んできたか。
- 第2回 アメリカ憲法は、どのように歩んできたか。
- 第3回 フランス憲法は、どのように歩んできたか。
- 第4回 ドイツ憲法は、どのように歩んできたか。
- 第5回 東ヨーロッパ憲法は、どのように歩んできたか。
- 第6回 中国憲法は、どのように歩んできたか。
- 第7回 発展途上国憲法（アジア・アフリカ・中南米諸国憲法）はどのように歩んできたか。
- 第8回 世界各国の憲法は、どのような類型化が可能か。また、その特質は何か。
- 第9回 君主国憲法（イギリス・ベルギー・デンマーク憲法）の憲法上の特質は何か。
- 第10回 共和国憲法（アメリカ・フランス・ドイツ・イタリア・スイス憲法）の憲法上の特質は何か。
- 第11回 ロシア・中国憲法の憲法上の特質は何か。
- 第12回 発展途上国憲法の憲法上の特質は何か。
- 第13回 これまで（第1回～第12回）の review。
- 第14回 世界各国憲法の人権保障制度は、どのようになっているか。また、その科学的な比較研究の方法について。
- 第15回 世界各国憲法の平等権保障について。
- 第16回 世界各国憲法の自由権保障について。
- 第17回 世界各国憲法の人身保護権保障について。
- 第18回 世界各国憲法の救済権保障について。
- 第19回 世界各国憲法の参政権保障について。
- 第20回 世界各国憲法の社会権保障について。
- 第21回 世界各国憲法の統治制度は、どのようになっているか。また、その科学的な比較研究の方法について。
- 第22回 世界各国憲法の国会制度について。
- 第23回 世界各国憲法の議院内閣制度について。
- 第24回 世界各国憲法の大統領制度について。
- 第25回 世界各国憲法の司法制度について。
- 第26回 世界各国憲法の自治制度について。
- 第27回 現代世界諸国の憲法上、人権保障制度と統治制度は、どのように運用されているか。また、今後は、どのように運用されるべきか。
- 第28回 これまで（第14回～第27回）の review。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望
この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「比較憲法」を楽しく研究してみませんか。— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。
目には火を、顔には光をいできて、ついてきて下さい。
Rouse up, O, Young Men of the New Age!（目覚めよ、新時代の若者たちよ!）— との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送しましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合せて、学年の成績とします。

教科書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|--------------------|--------------------------|----|
| 親族法 | たけなか 竹中 ちか 香 | 法A1・2選 12以降入学生/法B1・2選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | <p>民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。</p> |
| 講義の内容・授業スケジュール | <p>親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。</p> |
| 履修上の留意点 | <p>教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。</p> |
| 成績評価の方法 | <p>おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。</p> |
| 教科書 | <p>遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』(有斐閣双書) 1,648円</p> |
| 参考書等 | <p>久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円 六法</p> |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|-------------|--------|----|
| 法社会学 | おか 岡 崎 修 | 法A1・2選 | 4 |
| | | 法B1・2選 | |

講義のねらい

憲法、民法、刑法などいわゆる基本六法においては、法の文言がどのような意味を有するかを見極める作業を通じ、法がいかなるものか、それをどのように適用すべきかを探究することが研究の中心となる。それに対し、基礎法学の一分野をなす法社会学は、解釈法学とは別に、経験科学としての法律学をめざし、近代科学の興隆を背景に誕生した経緯もあり、法はさまざまな社会の中でどのような機能を果たすのか、また法の解釈という作業そのものがどのような営みであるのかといった問題を含め、研究領域は多方面に及んでいる。本講義では、こうした法社会学がどのような経緯で誕生するに到ったのか、そして、法解釈という作業がどのような性格の営みであるのか、さらに、日本とアメリカとでは法律をめぐる諸問題についてどのような意識の違いが見られるか、という点に焦点を当てて講義する予定である。

 講義の内容・
 授業スケジュール

- I. 経験科学としての法社会学
 ヨーロッパ啓蒙主義思想と経験科学の成長
 19世紀における法典化の動きと法律学
 法解釈学と法社会学
 メイン、エールリッヒ：法社会学の誕生
- II. 日本とアメリカとの比較社会論
 労働観の日米比較
 パターナリズムと個人主義
 契約と責任
 自由競争と秩序
- III. 法解釈のプロセス：司法過程論
 ジョン・デューイ『法学の方法』
 オリバー・ウェンデル・ホームズ『コモン・ロー』
 ジェローム・フランクの司法過程論

履修上の留意点

履修者は、実定法解釈について若干知識のある方がよい。

成績評価の方法

評価は学年末の論述試験による予定。

教科書

六本佳平『法社会学入門』チュートリアル18講（有斐閣）1991

参考書等

講義の中で随時紹介する。

その他

必要に応じて補助プリント配布。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------|--------------------------|----|
| 日本法制史 | しげのたかはる 茂野隆晴 | 法A1・2選 12以降入学生/法B1・2選 | 4 |

講義のねらい

どんな学問にも史学がある。法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史である。日本法制史は、「日本国民の法律生活の歴史的考察」である。それ故、法制史は過去の制定法規を羅列し、その解釈にのみ留まるものではなく、その法の発生した社会的背景をさぐらなくてはならないのである。

講義では、そうした観点に立ち、国初から近代までの5期に分ち、主な法制を中心に取り上げ、各期の法の特性をできるだけ平易に講述していきたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 日本法制史とその時代区分
- 2 国生みの神話ほか
- 3 『魏志』倭人伝ほか
- 4 冠位十二階と憲法十七条
- 5 律令の刑罰体系と司法制度
- 6 律令の「戸令」
- 7 三世一身法と墾田永年私財法
- 8 御成敗式目
- 9 甲州法度之次第（信玄家法）
- 10 武家諸法度
- 11 五人組帳
- 12 公事方御定書
- 13 田畑永代売買禁止令と分地制限令
- 14 慶安の御触書
- 15 奉公年季の規制
- 16 商家の財産相続
- 17 荻生徂徠の『政談』
- 18 大名貸と御用金
- 19 相对済し令・本公事と金公事・棄捐令
- 20 出奔・欠落・勘当・旧離のことなど
- 21 去状（三下り半）
- 22 大津事件
- 23 登極令ほか
- 24 明治民法総則・親族・相続

履修上の留意点

めいめいには少しだけの私語かも知れないが大きな教室では騒音と化す。そうしたなかでは細やかな授業は不可能です。特に留意してもらいたい点である。

成績評価の方法

学年末の試験に平常点として出席点を加味して行なう。

教科書

大久保治男・茂野隆晴〔編著〕『日本法制史史料60選』（声書房）本体2,300円

参考書等

大久保治男・茂野隆晴〔共著〕『日本法制史』（高文堂出版社）2,980円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------|--------------------------|-----|
| 西洋法制史 | きたの 北野かほる | 法A1・2選 12以降入学生/法B1・2選 | 4 |

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。イギリスの法制度の歴史を、特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)

教科書

特に指定しない。

参考書等

年度当初に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|------------------------|----------------|-----|
| 刑事政策 | さい とう よし ゆき 斎 藤 静 敬 | 法A1・2選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B1・2選 | |

講義のねらい

人間は、なぜ罪を犯すのであろうか。どうすれば、この世の中から犯罪を防止することができるのであろうか？ たしかに、犯罪のない社会を実現させることは非常に困難なことである。しかしながら、実現不可能であるとして、何の努力もせずには、何の解決策にもならない。少しでもよいから犯罪のない社会の実現にむけて、われわれは努力すべきである。刑事政策を学ぶということは、まさにこの犯罪のない社会の実現にむけて貢献することにある。

講義の内容・授業スケジュール

刑事政策は犯罪を防遏するための合理的、合目的な手段、方法を探究するものである。そこで、

- 1 犯罪現象の類型的考察（例えば、少年犯罪、女性犯罪、性犯罪、暴力団犯罪、公務員犯罪、公害犯罪、精神障害者の犯罪、薬物乱用犯罪、交通犯罪、外国人犯罪）。
- 2 犯罪者の処遇（例えば、受刑者の法的地位、刑務作業、拘禁の形態、仮釈放）。
- 3 犯罪者に対する制裁（例えば、死刑、自由刑、財産刑、保安処分）。
- 4 犯罪の司法的処理（例えば、起訴猶予、執行猶予）……などについて概説する。

履修上の留意点

1. 講義には、毎回かかさず出席して欲しい。
2. 毎日、新聞の犯罪記事に目を通しておく。

成績評価の方法

筆記試験

教科書

斎藤静敬『刑事政策の諸問題』（創成社）2,800円＋税

その他

講義方式

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------|--------------------------|-----|
| 法 思 想 史 | たか 高 橋 洋 城 | 法A1・2選 12以降入学生/法B1・2選 | 4 |

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは大まかなアウトラインしか述べることはできないが、重点をおくトピックおよび思想家として、以下を予定している。

- (前期) ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想（プラトン、アリストテレス）、キリスト教思想（アウグスティヌス）、中世自然法論（トマス・アクィナス）
(後期) 前近代から近代への世界像の転換、近代法の基礎理論とも言える自然権論や社会契約思想（ホッブズ、ロック、ルソー）、これを批判的に受け継ぐ啓蒙期の法思想（カント）、ドイツ観念論の法思想（ヘーゲル）

履修上の留意点

基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、断片的な紹介ではなく、影響関係や重要な概念枠組の変遷などを重視し、明らかにできればと思う。また狭い意味での法学理論史の枠にとらわれず、各々の法思想を、その時代の間観やコスモロジーの中に位置づけて検討し、そうした作業を通じて最終的には、近代という時代が獲得したものと忘却してしまったものについて考えてみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19～20世紀以降の法思想ないし法学理論の諸潮流については、法哲学講義の一環として取り扱うつもりである。

成績評価の方法

定期的記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とする。その他に任意提出課題として、講義で紹介する思想家の著作を読んでレポートを提出してもらえば、一定範囲内で評価に加える。

教科書

ここでは、三島淑臣『法思想史』[新版]（青林書院）4,854円を挙げておくが、講義の補完、通常の学習には自分にあった概説書を選んでもらってもかまわない。詳細については講義のはじめに紹介する。

その他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|----------------|-----|
| 政 治 学 原 論 | おお つか かつら 大 塚 桂 | 法A1・2選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B1・2選 | |

講義のねらい

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならずひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容・
授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、ならびに方法

B 政治の原理的究明

① 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

② 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

③ イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（シティズンシップ）

C 政治の実体論的究明

① 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

② 機能論的究明

～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化

成績評価の方法

V 成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は

中間試験：50%

学年末試験：50%

以上の割合によるものとします。

なお、追・再試験も実施します。

教 科 書

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参 考 書 等

上記教科書の巻末にある参考文献を参照のこと。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|------|--------|----|
| マス・コミュニケーション論 | 相田敏彦 | 法A1・2選 | 4 |
| | | 法B1・2選 | |

講義のねらい

マス・コミュニケーションの機能、影響について、広い視野から検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 報道と真実
この問題はいろいろな次元で考えられるが、ここでは記号論を援用して、原理的に掘り下げて検討する。
 - A. イコン記号について、
文字の意味とちがいで、写真の意味（何を表しているか）は習わずしてわかると大抵の人は思うが、果してそうか。映像（テレビなど）についても同じような問題がある。
 - B. 写真による世論誘導——ケース・スタディ
新聞の写真によって、読者は気づかぬうちに、真実ならざる「真実」を植えつけられ得ることを具体例によって確認する。
 - C. 表象理論とミメシス理論
写真や映像はそれを見る人にどのような「真実」を伝えるかの理論をまとめとして学ぶ。
2. 意識培養分析
〈客観的現実〉は〈シンボルの現実〉を媒介として、どのような〈主観的現実〉として人びとの心に植えつけられるか。
3. 意味構築の理論
メディアによる、また、視聴者・読者による意味付与、意味解釈とは何か。
4. ヤコブソンのコミュニケーション・モデル
コミュニケーションとは単純に記号による一つの意味の受け渡しだろうか。通常、あまり意識されずに、いくつかの次元で意味の読みとりがなされている。ヤコブソンのモデルは、この問題を系統だてて考えるのに役立つ。

履修上の留意点

マスコミについて授業をききながら、自ら積極的に考える姿勢を強く望みたい。そのため、授業中にこちらから質問を発し、挙手または指名によって回答を求めることがある。

成績評価の方法

前期：レポート
後期：試験

参考書等

リップマン『世論』主として上巻（岩波書店）
田崎馬郎・児島和人（編著）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版）
カラン・グレイヴィッチ（編著）『マスメディアと社会』（勁草書房）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|--|---------|----|
| 政治史 | 楠 <small>くすのき</small> 精一郎 <small>せい いちろう</small> | 法A 1・2選 | 4 |
| | | 法B 1・2選 | |

講義のねらい

近代日本の政治権力に関する歴史的分析。幕末から昭和戦前期まで、人物を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 幕藩体制の動揺と崩壊
2. 明治国家の形成
3. 政府批判と宥和策
4. 明治憲法と初期議会
5. 日清戦争と日露戦争
6. 政党政治の発展
7. 対華21カ条とシベリア出兵
8. ワシントン体制の成立と崩壊
9. 軍部の台頭
10. 満州事変と連盟脱退
11. 日中戦争と総動員
12. 日米戦争と戦時議会

履修上の留意点

履修にあたっては、とくに日本史の知識を必要としないが、歴史に関心を持つ学生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績は筆記試験によって行なう。

教科書

富田信男・楠精一郎他『日本政治の変遷』（北樹出版）2,600円

参考書等

猪木正道『軍国日本の興亡』（中公新書）760円。その他随時授業のなかで指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|---------------|--------------------------|-----|
| 経済原論 | あさの 浅野 かつみ 克巳 | 法A1・2選 12以降入学生/法B1・2選 | 4 |

講義のねらい

現実の経済の動きを念頭におきながら、現代経済学の基礎理論を解説する。なお、公務員試験(その他の国家試験)の受験対策としても役立つよう必要に応じ問題練習も行うので、下記の問題集も用意されたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- | | |
|---|--|
| <p>I マクロ経済学の理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済循環と国民所得の概念 2. 国民所得の決定 3. 経済の変動と成長 4. 賃金・物価・インフレーション <p>III 公共政策 (授業を受けるために必要な勉強)</p> | <p>II ミクロ経済学の理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消費者行動の理論 2. 企業行動の理論 3. 市場と価格決定 4. 市場・企業・産業 <p>IV 国際経済学</p> |
|---|--|

現代経済学の勉強で不可欠なことは、現実の経済問題に関心をもつことである。とくに『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおり、必要な記事はスクラップに整理しておくこと、授業だけでなく将来の就職試験などにも大いに役立つであろう。

成績評価の方法

成績は筆記試験とレポートによって行う。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』(成蹊堂)1995年

参考書等

上記テキストの巻末には、各章ごとに必要な参考書が一括して掲げられているので参照されるとよい。

その他

〔問題集〕青山『経済原論の頻出問題』(実務教育出版)1996年

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|---------|----------------|----|
| 行政学 | おかの だ 彰 | 法A1・2選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B1・2選 | |

講義のねらい

行政学は政治学の中でも新しい分野である。わが国では明治時代にドイツの官房学の紹介として始まった。そして戦後はさらにアメリカ行政学の影響も受けることになる。

行政学と関連する学問は①行政法学（公法）②経営学（組織論）③財政学④政治学が主なものであるが、国によって関連領域への関心も異なる。日本では行政法学の影響が強いが、アメリカではむしろ経営学との関連などに関心が置かれており、それぞれの歴史を反映したものとなっている。行政学は地味なもので、それだけ学生諸君には取りつきにくいように思われるかもしれないが、いずれ社会で活躍すれば、必ず出会う問題でもある。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 行政学の対象と方法
- 2 行政学説史
- 3 アメリカ行政学
- 4 官僚制
- 5 官僚制の生理と病理
- 6 行政統制と行政責任
- 7 内閣制度
- 8 公務員制度

履修上の留意点

遅刻や私語は遠慮して下さい。

教科書

森田朗『現代の行政』（放送大学）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-----------|--------|----|
| 法律時事英語 | まきの かつお 夫 | 法A1・2選 | 4 |
| | | 法B1・2選 | |

講義のねらい

国際取引やビジネスの場で実際に使用されている法律英語のキーワードを分かり易く解説することにより「法律英語」の実際を学習することをねらいとしています。社会に出てからも直ちに役立つように、実戦的、実務的な内容で、具体例を挙げつつ講義を進めます。

講義の内容・授業スケジュール

- 下記の順序を進める予定です。
- ① 英米法の考え方
 - ② 英文契約の基礎
 - ③ 国際ビジネスにおける法律英語キーワード
 - ④ インターネット上の取引におけるキーワード

履修上の留意点

講義を中心に進めますので、出来る限り講義へ出席することを要望します。

成績評価の方法

学年末筆記試験1回（論文式。但し、教科書など何でも持込み可とする）

教科書

牧野和夫著『法律英語ハンドブック（上）及び（下）』（プロスパー企画）各1,800円、1,500円（税別）

参考書等

河村實治他著『国際法務グローバル・スタンダード17ヶ条』（プロスパー企画）4,300円（税別）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|--|---------|----|
| 現代法のトレンド | 高橋 洋城・岡田外司博 山田 泰彦・林 幸司 竹中 智香・青野 博之 藤本 茂 | 法A 1・2選 | 4 |
| | | 法B 1・2選 | |

講義のねらい

現代社会は大きな変貌を遂げつつあると言われますが、法の領域においてもそれは例外ではありません。本講義では、専門科目の講義では十分に触れることのできない現代的問題について、担当者がそれぞれの専門領域から取り上げ、様々な角度から検討していこうとするものです。なお本年度は、主として私法領域における問題を扱います。

通常形態の講義と異なる点も多々あると思われるので、第1回目の講義で履修上の一般的な注意事項の説明と、各講義担当者による講義内容の概要説明を行ないますので、必ず出席し、聞きのがさないようにしてください。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の順序に従って講義を進めます。各講義は、それぞれ3～4回を予定しています。

1 現代法の展望 高橋洋城

現代法というとき、そこには近代市民法の原理との対比が含まれているが、本講義でもまず近代法原理について概観した上で、現代的法領域に現われている新しい原理や従来の原理の修正などについて俯瞰的に、また歴史的に位置づけ、以降の講義への導入の役割を努めたい。特に近代法がイメージしている人間像への批判、問いなおしについて焦点をあててみたい。

2 日本の産業社会と独禁法 岡田外司博

独禁法の最近の改正動向について、以下の三点を中心に、解説を行なう。

- (1)日米構造協議を契機とする平成3年～4年の課徴金、刑事罰の改正。
- (2)平成9～10年の持株会社禁止の緩和等の企業結合規定の改正。
- (3)現在検討中の民事的救済制度の改善にかかる改正案の背景、内容、評価。

3 日本の会社と会社法 山田泰彦

会社は、経済活動の元手となる資本を結集し、さらには人的力をも結集させる経済活動の主要な組織である。この講義では、会社をめぐる最近のトピックスの中から、会社法に関連する問題を取り上げ、会社法上の重要問題の糸口を提示したい。蛇の目ミシン工業代表訴訟事件、ソニーの導入した執行役員制度と取締役会改革、第一勧銀等株主総会における総会屋への利益供与事件など、最近の新聞報道でも大きく扱われた事件を通して、現代会社法の問題を明らかにしたい。

4 現代社会と契約法 林 幸司

「個人は契約を締結するかしないかの自由を有し、締結する際にはその契約内容を自由に形成することができる」というのが、「契約自由の原則」の中身であり、これが民法の基本原則と一般に理解されている。しかし本当にそうであろうか。日常生活において、我々は、実質上否応なく契約を締結せざるをえない場面、相手方の提示した契約内容をそのまま受け入れざるをえない場面に出くわすことがあまりに多い。さらに、知らない間に契約を締結してしまっているということもすらすらある。本講では現代社会において「契約の自由」が実質上機能しなくなってきたことによって生じるトラブルが、どのように処理されており、今後どう解決していくべきか、という問題を扱う。

5 現代社会と家族法 竹中智香

現代の家族や婚姻などをめぐる問題の中から、法律学の初心者でも興味を持つような今日的话题を取り上げて解説・検討しようと考えている。具体的な内容としては、以下を予定している。

- (1)有責配偶者の離婚請求について。
- (2)不貞行為の相手方への慰謝料請求について。
- (3)青年後見について。

6 現代社会と消費者法 青野博之

消費者法のトレンドについて講義を行なう。具体的なテーマとしては、英会話教室などのトラブルに対応して1999年に改正された訪問販売法、欠陥住宅のトラブルに対応して1999年に成立した住宅品質確保促進法、1999年になって初めてその法律に基づき責任を肯定した判決が登場した製造物責任法を予定している。

7 日本の産業社会と労働法 藤本 茂

労働関係をめぐる分野は今、大きな変貌を遂げようとしている。たとえば、「日本型雇用慣行」といわれる長期安定雇用、年功制賃金体系は、派遣労働、高度専門職の短期契約者や成果主義賃金（年俸制）の導入によって変容しつつある。わが国産業社会は、さまざまな労働形態の労働者や新たな雇用制度を抱え込みながら新たな方向を模索しているところである。こうしたトレンドに対応する労働法制の改正に焦点をあてて講義を行なう。具体的な内容は以下のとおり。

- (1) 労基法改正。ここでは短期労働契約に関する法規制の過去と現在について。
- (2) 労働者派遣法改正。労働力市場に流動性を持たせる労働形態に関して。
- (3) 男女雇用平等法改正。職場における男女平等の問題を考える。

成績評価の方法

各担当教員（7名）が、それぞれの講義時間の中で、小テストやレポートなどによって評価を行ない、それらの総合点で全体的な評価・単位認定を行ないます。詳細については、担当者ごとに異なりますので注意してください。

教科書・参考書等

講義全体を通じた教科書は特に指定しませんが、参考図書等については、各回の担当者の指示に従ってください。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-----------------|---------|-----|
| 基礎憲法演習 | なかのたつひさ 中野辰久 | 法A 1・2選 | 4 |
| | | 法B 1・2選 | |

講義のねらい

本演習の特徴は、弁護士が担当する点にあります。その特徴を踏まえ、本演習は以下の諸点を目的に行いたいと思います。

- ① 受講生に身近と思われる具体的事例を素材として取り上げ、憲法等の法律が実社会でどのような役割を担っているかを明らかにするとともに、憲法の基本原理を重点的に検討する。
- ② ①を通して、司法試験等の国家試験に必要と考えられる憲法の基本原理・基礎的知識の修得を目指し、リーガルマインドの養成をはかる。

講義の内容・
授業スケジュール

主に基本的人権に関する事例を取り上げ、それに関連する形で統治機構講義・憲法訴訟論を加味していく予定です。検討テーマの一例をあげると下記のとおりです。

- ① 死刑の合憲性
- ② 氏名権
- ③ 外国人の人権－選挙権、指紋押捺の問題
- ④ 平和主義・戦争の放棄－自衛隊の合憲性
- ⑤ プライバシー権－タレントの権利
- ⑥ 法の下での平等－尊属殺重罰規定違憲判決、議員定数不均衡問題
- ⑦ 表現の自由－報道の自由
- ⑧ 職業選択の自由－プロ野球のドラフト制度
- ⑨ 生存権
- ⑩ 教育を受ける権利－校則の問題
- ⑪ 信仰の自由・政教分離－靖国神社の問題等

履修上の留意点

演習（ゼミ）形式ですから、できるかぎり出席することが望ましいと考えます。また、司法試験等の国家試験を念頭に置くと、復習は必ずしてほしいと思います。

成績評価の方法

演習（ゼミ）形式ですから、出席とレポートで評価する予定です。

教科書

芦部信喜著『憲法新版補正版』（岩波書店）
芦部信喜・高橋和之編『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第三版〕』（有斐閣）

参考書等

演習の都度、レジュメを配付する予定です。

その他

司法試験等の国家試験への対処、弁護士の仕事等についても適宜お話ししていきたいと思います。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|--------------|---------|----|
| 基礎民法演習 | はやさか 早坂 亨 | 法A 1・2選 | 4 |
| | | 法B 1・2選 | |

講義のねらい

本講義は、受講生が初学者であることを前提に、事例をもとに、実務的観点から民法の基礎、考え方を学ぶ。また、実務法曹になる前提として司法試験等を意識し、これらが何を要求しているかについて考える。

講義の内容・授業スケジュール

民法では、現実には起こりうる私人間の紛争を規律するという側面を有するため、法的安定性ととも、具体的事案について結論の具体的妥当性が要求される。従って、事例は、実際の判例を取り上げるが、その他、実務法曹になる前提としての司法試験の問題等も取り上げ、実務法曹としてどのような基本的知識が必要とされるかについても講義、検討する。

履修上の留意点

本講義では、判例、司法試験の過去の問題を素材とするが、本科目の受講生は、民法の初学者を前提としていることから、これらの検討にあたっては、その点を充分配慮し、基本的事項から検討するので、予習よりも復習に重点をおいて受講して欲しい。
また、講義にあたっては、積極的に発言して欲しい。

成績評価の方法

知識の習得度には重点を置かない。むしろ民法の考え方をどれだけ理解しているかという点から評価する。

教科書

特段指定はしない。

参考書等

講義において適宜指示する。

その他

本講義はゼミ形式とする。
実務法曹として必要な知識の取得を目的とすることから、司法試験についても当然念頭においた講義となる。司法試験合格の為には、相当程度の勉強が必要だが、ただがむしゃらに勉強すれば良いというものではない。司法試験はあくまで法律実務家になる為の試験であるから、実務法曹として何が望まれているのかを理解し、その方向性に向かって勉強することが必要とされる。従って、判例、司法試験の問題の検討を通じて、実務法曹として、どのような能力が求められているのか、また司法試験では何が要求されているのか、そのためにはどのような勉強をしていけば良いのか、論文の考え方、特に勉強の方向性についての講義・討論を行う。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|---------------------------------|---------|-----|
| 基礎刑法演習 | 木村美隆 <small>きむらよし たか</small> | 法A 1・2選 | 4 |
| | | 法B 1・2選 | |

講義のねらい

刑法の基礎知識、思考方法の修得を目的とすることは当然であるが、司法試験をはじめとする各種国家試験の合格を旨とする学生諸君の存在を意識して、その対策への導入路となることをも心がけたい。

講義の内容・授業スケジュール

刑法は、犯罪の一般的成立要件を中心に分析、検討する刑法総論と、殺人罪、窃盗罪など個別の犯罪の成立要件を分析、検討する刑法各論に分けて講ぜられるのが一般である。この演習では、前記から後期中までをかけ、刑法総論のテーマを取り上げ、その余の時間で刑法各論の重要論点にふれる予定としている。

刑法は、古くから学説上の争いが顕著で、ときに学界を二分するような議論もなされてきたが、この演習では特定の学説上の立場に把われることなく、常に多様な考え方、視点のあることにふれていきたい。

また、司法試験等各種国家試験の対策も念頭に置き、そのために必要な学修方法にも言及する予定である。

さらに、弁護士としての実務経験も適宜織り込み、法律が現実に応用される世界への興味を引き出せたら幸いと考えている。

履修上の留意点

テレビ・新聞等で多くの犯罪が取り上げられることもあって、刑法は親しみやすい科目であるかもしれない。しかし、ひとたび教科書を開いてみれば、極めて論理性の高い体系のあることに気づかされ、学修の容易でないことを知るはずである。中途半端な学修態度で臨んでもらいたくない。

成績評価の方法

出席と、試験の結果により評価する。

教科書・参考書等

特定の教科書は使用しないが、学修上何らかの体系書に拠ることが望ましい。参考となる文献は開講時に指示する。

その他

講義形式が中心となるが、学生の発表能力を養うため、試験とは別に答案を書き添削を加える、いわゆる答案練習の機会を持ってみたいと考えている。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------------------------|-------------------------|-----|
| 債 権 各 論 | はやし 林 こう 幸 じ 司 | 法 A 2 選 12以降入学生/法B2選 | 4 |

講義のねらい

- 1：民法、特に債権各論について、受講生に「基礎的な理解」が身につくよう目指すこと
- 2：この分野の諸テーマにつき、「具体的な事例問題を通して理解を深める方法」を修得してもらい、それによって受講生の「民法に対する興味」を触発すること

講義の内容・
授業スケジュール

債権各論は、債権の「発生原因」を扱う分野であり、①契約、②事務管理、③不当利得、④不法行為がその主要な原因である。これらは全て、諸君が日常生活で無意識のうちに触れているものばかりであり、具体的な問題がほとんどである。これらについて研究し理解を深めることは、民法の「具体的なイメージを把握するための突破口」となるはずである。

履修上の留意点

受講生に望むこと（受講に際しての注意）

- 1：私語の厳禁 あまりにも当然過ぎて、ここで触れることすら情けないのだが、大学生にもなって、講義中の私語が許されると思っている者がいるようである。強く注意して、やっとな静かになるというのが現状であるが、不思議にも、本人に全く反省の色がなかったり、何か悪いことをしたのか（又は「なぜ俺だけが!」と言わんばかりに睨み返してくるということもある。このテの者にはその場で『登録抹消』を通告するという強い態度で臨むので覚悟してもらいたい。
- 2：他の履修科目について できれば債権総論も受講してほしい。この分野は、各原因によって発生した様々な債権に「共通する事項や性質」などを扱う領域で、債権各論を理解する上でも重要な分野だからである。もちろん、発生原因を扱う債権各論から先に手をつけようという人がいても一向に構わないし、理論上何の問題もないが、いずれは債権総論も修得してほしいものである。

成績評価の方法

後期試験による評価が中心となるが、講義後に回収する質問や意見などにも受講生の理解度や積極的な姿勢が現れていることが多い。これらに対しても若干のプラス評価を行うつもりである。

教 科 書

内田貴著『民法Ⅱ 債権各論』（東京大学出版会）3,600円

そ の 他

講義の方法

- 1：板書中心の講義であること 私独自の観点からポイントを整理するため板書中心の講義を行い、途中で適宜、教科書・参考書の該当箇所を指示・解説するという方法を採用。その際、かなり多くの図や表を必要とするが、それも主に板書によってカバーする。
- 2：意義・要件・効果の整理に重点をおくこと 私も学生の頃は、ただ闇雲に教科書や判例解説集に書いてあることをダラダラと覚えようとしたものである。しかし、それは、山の中で、地図も磁石盤もなく、ただ地面を見て石ころを数えている姿に似ていると感じ、むなしい気持ちに苛まれる結果となった。本講義で整理の中心に位置付ける「意義・要件・効果」は、講義中、諸君が立っている位置を知るための『座標軸』だと思ってほしい。そのことの意味はとてもここでは書き切れない。詳しくは、講義で聴いていただきたい。
- 3：具体的な「事例問題」または「判例」を素材とすること 事例問題集をプリントして配布し、あるいは、指定した参考書の中から判例を示し、意義・要件・効果と結び付けて解説する。具体的な事例を想定しての理解以外に、真に納得のいく理解はないと信ずるからである。
- 4：受講生からの質問を講義に反映するよう努力すること 毎回講義前に用紙を全員に配布し、質問・意見・感想・要望などを書いてもらい、その中で、「これは!」と思うものを次回の講義に反映することを心掛けるつもりである（質問への解答が中心となる）。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------|---------|-----|
| 英 米 法 | きたの 北 野 かほる | 法 A 2 選 | 4 |
| | | 法 B 2 選 | |

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を外観し、その主要な理由をなすと考えられる、法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
 その他の参考書：年度当初に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|--------------|-----|
| 仏 法 | うえ い たけ ひさ 上 井 長 久 | 法 A 2 選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B2選 | |

講義のねらい

本講義は、フランス法のうち、とくにフランス私法の根幹をなす諸問題を対象として、フランス私法の基底を理解することを目的とする。近現代の私法の基本的問題ばかりでなく、古代フランク時代と封建制度下の中世の法とにわけられる古法の時代、および自由と平等を旗印とした大革命に始まる革命期の法すなわち中間法の時代の私法をも本講義の課題としているのはそのためである。フランスの近現代法は、19世紀初頭に統一的な成文法により樹立され発展したが、それまでの法を基礎として統一・整備されたものである。フランスの近現代の私法を深く理解するためには、古法、中間法をも学ぶ必要がある。本講義は、そのようなフランスでいわゆるフランス私法の序論と歴史と称する領域を原典資料（法文、判例、学説、一般論述等）により理解しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は、まず、近現代のフランス公・私法の基礎であるフランス人権宣言と19世紀におけるその開化を学び、次いでフランスの革命期および近現代の私法の基本的問題を検討し、後に、その基本的問題さらには近現代の私法の個別的問題と出来るだけ関係づけながら古法における私法の歴史を考察する。講義の内容は、具体的には以下の通りであるが、その各項目について原典資料を解説しながら講義を進める。なお、フランスの革命期から今日までの政治、行政、裁判制度についても、適宜折り込み説明する。

I 革命期および近現代の私法の基本的問題……（前期）

1. 人権宣言と自由の確立

①人権宣言の着想の背景・精神・性質・効力・趨勢 ②人権宣言の内容——基本的人権、各種自由権、法の下での平等、法律の支配、政治組織の原理（国民主権、権力分立）③公的自
由と私的自由

2. 法典編纂とその後の私法の変遷

①法典化の意義・目的 ②ナポレオンの5法典と王令・中間法 ③法典編纂の経緯と問題点
④近現代における私法の変遷

3. 判例の効力

①判決の構造と判例 ②判例観の変遷（古法、中間法）③判決の既判力、判例の拘束力と
創造力 ④法律の解釈と法学の法律学化（注釈学派、科学学派）

II. 私法の歴史……（後期）

1. フランク王国の法

①法源（法の属人性）②社会経済制度——人の身分、土地（個人、共同）所有形態、形式
主義的契約、教会と家族財産（相続、贈与、遺贈）、フランクの家族共同体とローマの個人
的家族制度 ③訴訟制度

2. 高期中世（制限王政期）の法

①法源（法の属地性、ローマ法の再生、教会法の編纂、慣習法）②社会経済制度——階級
制、封建的土地所有（分割所有権）と自由地、形式主義的契約と合意主義的契約、家族制度
（教会婚、自由処分分と家族遺留分、夫婦財産共有制）③都市の社会経済制度——ブルジュ
ア身分大市・市の組織と取引、同業組合の組織と規約

3. 絶対君主制（旧体制）の法

①法源（慣習法の編纂、ローマ法の第二の再生、王令）②社会経済制度——階級制の変遷、
封建的土地所有制度の変遷

履修上の留意点

フランス法とフランス語に興味があれば、楽しく受講してもらえると幸いです。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の定期試験で行う。

教 科 書

拙著プリント版 *Introduction au droit privé* 及び *Histoire du droit privé*（最初の講義の時に配
付する予定）

参 考 書 等

ジャン・アンベール著三井哲夫=菅野一彦訳『フランス法制史』（白水社文庫クセジュ）
山口俊夫『概説フランス法 上』（東大出版会）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|-----------------------|-------------------------|----|
| 独 法 | やまぐちくに お 夫 山 口 邦 夫 | 法 A 2 選 12以降入学生/法B2選 | 4 |

講義のねらい

外国法の一種類としてのドイツ法全般について一年間で講義をすることは不可能なので、日本が明治以降、政治上の理由から、先進国の外国法を多数継受してきたなかで、ドイツ法のはたした役割を中心に講義をする。したがって、ドイツ法の歴史も近世以降に限定し、特に19世紀以降の立法と日本が継受する際に最も強く影響を受けた点を中心としたい。明治期の仏法・英法の影響については、各自学習することが望ましい。

講義の内容・授業スケジュール

- 一年を次の4期に分けて講義をする。
 I期 4/5月、II期 6/7月、III期 9/10月、IV期 11/12月。
 I期 プロイセン憲法と明治憲法との関連、特に Kaiser と天皇との比較。次にドイツ民法第一草案と日本民法との関連。パンデクテンシステムの導入。行政法の分野について。
 II期 一般ドイツ商法典と日本の商法との関連。民商統一論。社会法、経済法など。
 III期 刑法及び手続法（特に民事訴訟法と刑事訴訟法）の分野において、ドイツ法が日本法に与えた影響について。
 IV期 ドイツの法思想家のうち、I期からIII期において対象とした分野で影響を与えた法学者の思想をドイツの原書を参考に解説する。

履修上の留意点

当然ドイツ語を履修した2年生以上の学生を念頭において講義をする。授業中にドイツ語の条文などが登場するので、他の外国語の履修者には不相当と考えるが、単位取得を目的としなければ聴講可能である。

成績評価の方法

毎年10人前後の小クラスなので、毎回出席をとり、平常点に、年2回のレポート提出によって単位の認定を行う。いわゆる学年末試験は行わない。

参考書等

Gerd Kleinheyer / Jan Schröder, Deutsche Juristen aus fünf Jahrhunderten. 2. Aufl. 1983. (初版の和訳あり) (IV期用参考書)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------|--------------------|----|
| 登 記 法 | たぬま ひろし 田 沼 浩 | 法 A 2 選 法 B 2 選 | 4 |

講義のねらい

「不動産登記法」及び「商業登記法」の講義を行う。初めて不動産登記法・商業登記法を学ぶ者にも、以前勉強したことのある者にも、民法・商法の手続法としての不動産登記法・商業登記法が現在の取引社会においてどのような役割を担っているのか、不動産登記・商業登記制度の意義を通じて、両法より深い理解を図ることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

不動産登記においては、不動産に関する取引全体の流れにおける不動産登記の役割を理解することを目指す。商業登記法においては、社会法と関連させることによって会社の起業に役立つ程度の知識を最低限修得できるように努めたい。

履修上の留意点

民法典第二編物権（物権法）、商法典第二編会社（会社法）の受講者が履修することが望ましい。この講義を受講することが望ましい者は、将来、不動産・金融関係の会社に就職を希望する者、起業して自営業を目指す者、そして司法書士試験を受験したいと考えている者である。そこを留意して受講していただきたい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

遠藤浩・青山正明編『別冊法学セミナー 基本法コンメンタール [第四版補訂版] 不動産登記法』（日本評論社）3,500円（初学者は直ちに購入しなくても良い）
 法務省民事局第四課編『商業登記法入門』（きんざい）3,619円
 六法全書は、毎回持参すること。

参考書等

岩澤勇ほか編『不動産登記の基礎知識 改訂新版』（自由国民社）2,000円（初学者向け）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|--------------------------------------|----------------|----|
| 税 法 | 岸 田 貞 夫 <small>きし だ さいだ お</small> | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

税法の体系を法律的な見地から検討し、所得税法等の規定の解釈を中心として、税法の意義、役割、問題点等を研究する。

講義の内容・
授業スケジュール

税法の意義、機能、体系、租税法関係の特色、租税の確定手続き、所得税法における納税義務者、課税所得の意義、所得の種類、収入及び必要経費の範囲等について順次、講義する。

履修上の留意点

予習の上、問題意識をもって授業に参加されたい。

成績評価の方法

前期及び後期の試験の結果により評価する。

教科書

岸田貞夫著『所得課税法の基礎知識』（税務経理協会）2,800円

参考書等

金子宏著『租税法』（弘文堂）

その他

授業は講義方式で行う。なお、レジュメを配布する予定である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------------|----------------|-----|
| 地方自治法 | とみ 富 井 幸 雄 | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをきみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎回レジメを配布し、それに沿って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験（40％）と学年末試験（60％）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教科書

南博方他『行政法(3) (第3版)』(有斐閣双書) 1,800円

参考書等

原田高彦『地方自治の法としくみ』(学陽書房)、『地方自治判例百選 (第2版)』(別冊ジュリスト)。なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』(良書普及会)は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方分権』(岩波書店)、同他『概説日本の地方自治』(東京大学出版会)は必読。

その他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので六法(『地方自治小六法』(学陽書房)があるがポケット六法でよい。)は必携。その都度チェックすること。平成12年度には地方自治法の大幅な改正があるので、必ず平成12年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------------|-------------------------------|-----|
| 環 境 法 | まつ 松 村 ゆみ ひこ 松 村 弓 彦 | 法 A 3・4 選 12以降入学生/法 B3・4 選 | 4 |

講義のねらい

環境問題を事実と法律論の両面から理解する。私法からのアプローチを中心とするが、現在我が国が当面している環境法上の重要課題については、公法・国際法の分野の問題を含めて勉強する。

講義の内容・
授業スケジュール

教科書と判例（必要に応じて配布する）を中心とし、概ね以下の項目にわたる。

- (1) 環境法の背景・歴史・理念等
- (2) 環境保全法制
- (3) 環境責任
- (4) 費用負担
- (5) 特殊問題 — 我が国が当面する諸問題

履修上の留意点

事実を踏まえた法理論の理解を深めること。

成績評価の方法

論文式試験（年1回）および授業中の報告の評価による。

教 科 書

拙著『環境法』（成文堂）

参 考 書 等

森島昭夫ほか編『公害・環境判例百選（別冊ジュリスト126号）』（有斐閣）2,300円

そ の 他

授業の方法：テーマに応じて講義形式とゼミ形式を併用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------------------|---------|----|
| 法 哲 学 | たか 高 はし 橋 ひろ 洋 き 城 | 法A 3・4選 | 4 |
| | | 法B 3・4選 | |

講義のねらい

- ・法哲学は、「法学」の基礎的一分野であると同時に、「哲学」でもある。法制度や法的思考をめぐる基礎理論や根本的諸問題を考察しながら、法と関わりつつ生きる人間という存在者をどのように把握していけばよいのかという視点を常に持って、一緒に考えてゆきたい。
- ・出来上がった知識の体系を伝えることが講義の目標ではない。極論すれば「わかっているつもりのこと」をわからなくする、一度根底から疑ってみる、ということが講義のねらいといってもよい。とはいえ、一人で内省しているだけでは自ずからその思考の広がりにも限界がある。法と人間・社会の関わりにおいて、どのような問題があり、どのような考え方が提起されているのか、さまざまな議論に触れることで、各自の思考の自由度を広げてもらい、参加者各人自分自身で考える。その手がかりを本講義でつかんでもらえるならば講義としては成功である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は、法と現代思想の動向とのかかわりを大きなテーマとして設定する予定である。これまでの自明の前提とされてきた人間像、社会像は今日大きな懐疑・批判にさらされており、法や法律学と言えども、それと無縁ではない。また逆に法律学的な問題とされてきた諸事象が、実は人間観、世界観の問題と密接に絡み合っているということもある。人文諸科学や社会科学のなかで展開されてきた様々な考え方が示唆するものに対して、法を学ぶものとしても、その問題提起を真剣に受け止めなければならない状況に至っている。こうした基本的関心から、法をめぐる議論を哲学・思想一般の領域での議論、論争史の文脈に位置づけながら考察していきたい。したがって、講義の中では、実定法の議論の参照はもちろんだが、他の人文・社会科学、とりわけ哲学、倫理学、社会学などの知見にしばしば言及することになる。狭い意味での法律学を超えた問題関心が求められる。

個別の項目としては、たとえば以下のようなものを考えているが、現段階ではあくまで予定であり、詳細は講義開講時に伝える。

- ・近代法原理への懐疑、批判と擁護
- ・リベラリズム正義論とそれに対する批判
- ・解釈的存在としての人間と法的判断の問題
- ・法実証主義と自然法論
- ・生命倫理・環境倫理の問題状況からのインパクト

講義の進め方としては、できるだけ具体的な諸問題の紹介・検討から入り、その根底にある根源的な思考や原理を洗い出していく、という方式をとりたいと考えているが、ある程度は抽象度の高い議論にもチャレンジし、自分自身でそれを具体的・日常的問題と関連づけていく、という姿勢も参加者に求めることになるだろう。

成績評価の方法

前期終了後のレポート、後期終了後の定期試験、この二つを主たる評価対象とする。

教科書

田中成明『法理学講義』（有斐閣）2,900円を挙げておく。ただし、講義はこのテキストの叙述にとらわれず進めていくので、あくまで講義を補完する意味で推薦するものと考えてもらいたい。また法思想史の背景的知識を前提に話さなければならないことも多いので、できれば法思想史関係の概説書も手許に置き自学自習に役立ててほしい。

参考書等

その他の参考文献については、講義の進行過程でテーマに応じてそのつど紹介する。

その他

上で述べたとおり、法哲学という学においては知識の獲得・整理が目標ではないのだから、講義ならびに概説書だけでなく、こちらから指示する参考文献を含め、様々な著作、思考、問題に自ら直接あたり、自分なりの思索を行うつもりでのぞんでほしい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------------|--------------------------|-----|
| 経 済 法 | おかだとしひろ 岡 田 外 司 博 | 法A3・4選 12以降入学生/法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

丹宗暁信・厚谷襄児編『新現代経済法入門』（法律文化社）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-------|----------------|----|
| 航空・宇宙法 | 関口 雅夫 | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

専門科目としての航空・宇宙法学は、航空法と宇宙法の全体についての概観的な知識、航空法と宇宙法に対する基本的な考え方、および個々の法律問題への取りくみ方など、航空法と宇宙法についての最も基礎的であると考えられる問題の理論的そして体系的な解明を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

航空法も宇宙法も新しい学問領域である。特に宇宙法は、航空法に比較しても極めて新しい学問領域である。学理的には、航空法も宇宙法も国内法としての航空法と宇宙法と、国際法としての航空法と宇宙法に分けられる。沿革的にみると、そこにはまず、一般的に国際法として成文化された航空法と宇宙法が生まれ、その内容が各国に浸透して国内法化される傾向がある。この意味で、航空法と宇宙法を体系的に学ぶためには、まずはじめに国際航空法と国際宇宙法の理解が不可欠になる。この講義の内容は、国際航空法と国際宇宙法を中心に進めて行く。

国際航空法は、国際航空公法と国際航空私法に大別出来る。国際航空公法の法源は、現在世界の170カ国が批准しているシカゴ条約（日本の正式名称は「国際民間航空条約」）やヨーロッパ連合（EU）の理事会指令のような地域協定および現在世界に2500ほど存在すると言われる例えば日米間航空協定のような二国間航空協定よりなっている。近年は、アメリカのノースウエスト航空やフェデラル・エクスプレス航空がアジア市場に進出し、そこでいわゆる「過大な以遠権を行使すること」が、日米航空協定に違反するか否かというような具体的事例を通して、国際航空公法の基礎理論を理解してもらうことにする。国際航空私法は、三つのテーマを研究する。その第一は国際航空事故が生じて旅客に人身事故が生じた場合の国際航空運送人（航空会社）の責任問題について、中華航空機名古屋空港事故を例にとって論考する。第二のテーマは航空機事故が発生し、地上の第三者とその財産に損害を与える場合の解決策を考えてみることにする。第三のテーマは、航空機事故と保険制度の関係を検討することである。

国際宇宙法も、国際宇宙公法と国際宇宙私法に大別することができる。国際宇宙法の中核的法源は、別名基本的条約と称する宇宙条約である。本講義の第一のテーマは、この宇宙条約に定められた基本原理の内容を検討することに置く。次に、救助協定、登録条約、月条約を順次解説して行く。国際宇宙私法の中心には、「宇宙物体が引起した損害についての国際的責任に関する条約（責任条約）」が存在する。第二のテーマとして、この内容を解説する。第三のテーマは、現在そこには国際宇宙運送条約が存在していないが、何故存在していないのか、存在させるとしたらどのような責任原理が採用されるべきかを検討する。第四のテーマは、宇宙物体・宇宙機の事故と保険との関係をみることにする。

履修上の留意点

この講義は、新しいかつ特殊な学問分野の講義であり、全ての学生が履修すべき科目とは考えられない。この科目を履修すべき学生は、何らかの意味で、航空機に関係する仕事につきたいと思う人、宇宙関係の仕事につきたいと思う人に適当なものである。

成績評価の方法

平常点と期末試験の結果により評価する。

教科書

関口雅夫著『国際航空運送人の責任制度』（成文堂）3,700円+税 を使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------|--------------------------|-----|
| 消 費 者 法 | あおのひろゆきの 青野博之 | 法A3・4選 12以降入学生/法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

消費者法は、新しい科目である。民法、行政法などこれまで履修した科目の考え方、知識をすべて使って、いろいろと受講生自身が考えてほしい。

担当する私の専攻の関係で、民法およびその特別法である割賦販売法、訪問販売法、住宅品質確保促進法、製造物責任法などを取り扱うことが多くなる。

講義の内容・
授業スケジュール

序論
訪問販売法
消費者のプライバシー
安全規制
表示規制
広告規制
製造物責任法
割賦販売法
住宅品質確保促進法
消費者契約法はできるか

履修上の留意点

質問は大歓迎である。出席者はそれほど多くないことが予想されるので、私から受講者に質問しつつ、また受講生からの質問に私が答えながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

成績評価の方法

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。

ほかに、年に6回、新聞記事から受講生自身が興味を持ったものを探し、その切抜き（またはコピー）とともにその感想、批評をレポートにして提出していただく（つまり、5月、6月、7月、10月、11月、12月に一度ずつ提出日を定める）。

受講生がそれほど多くなければ、発言（質問と応答）とレポートだけで成績を評価する。

受講生がレポートなどの平常点で評価することができないほど多ければ、定期試験で成績を評価する。なお、試験を行う場合には、いっさいの持込を不可とする。

教 科 書

正田彬ほか著『消費者問題を学ぶ [第3版]』（有斐閣）2,200円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------|----------------|-----|
| 証 券 取 引 法 | はる た ひろし 春 田 博 | 法 A 3・4 選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

証券取引法は会社の発行する株式・社債等の有価証券の発行・流通を規制の直接の対象とするが、その内容には、有価証券の定義、ディスクロージャーの規制、証券業と銀行業の業際問題、公開買付、5%ルール、インサイダー取引や相場操縦の規制等、数多くの現代的な問題が含まれており、また、実質的に会社法を補完する役割を担っていることもあって、今日その重要性を著しく増しつつある法分野である。加えて、平成10年の改正の結果、戦後一貫してきた規制の理念の多くが、その内容を大きく変ずることになった。本講義では、これら時事性のある問題にも可能なかぎり具体的に言及しながら、証券取引法による規制がどのような考え方や定義にもとづき、誰を名宛人とし何を目的に行なわれているかについて、わかり易く論じてゆくことにしたい。戦後に制定された若い法律であるため、母法であるアメリカ法の動向とも密接な関連を有しているが、こうした事情についても講義で伝えることができればと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

ほぼ法律の規定の順序に即して進める予定である。

履修上の留意点

履修者は会社法の履修を終え、あるいは自習している等、会社法に関する一応の理解を有していることが望ましい。また、出席に際しては必ず六法全書を持参すること。

成績評価の方法

学年末に実施される定期試験の結果によって行なう。

教 科 書

近藤光男・吉原和志・黒沼悦郎著『証券取引法入門（新訂版）』（商事法務研究会刊）4,000円

参 考 書 等

必要に応じ教室においてその都度指示する。

そ の 他

授業は講義形式で行なう予定である。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-----------------|-----------------|-----|
| 金 融 法 | かわ 川 た 田 えつ お 男 | 法 A 3・4 選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法 B3・4選 | |

講義のねらい

わが国の金融界は、金融のグローバル化、自由化という大きな流れのなかで、不良債権問題などバブル後遺症からの早期脱却と、金融ビッグバンのもと21世紀への生き残りをかけた業務戦略の再構築を図るという、相反する重要な経営課題に直面している。

これを利用者の側からみると、現代社会は企業も個人も金融機関と極めて密接な関わりあいをもっており、経済社会はもちろん個人の生活に至るまで銀行取引なしには成り立たないといっても過言ではない。

本講義は、このような認識のもとで、われわれ一般市民として、また将来の企業人・金融人として必要な金融取引に関する法律知識と諸問題について、できるだけ実社会の生きものとして学ぶことを狙いとしており、実学の楽しさも学びとっていただければと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

金融法はまだ新しい科目分野であるが、その対象領域はかなり広く関係する法律も多い。本講義では、これらを主に具体的な取引法の観点から学ぶこととし、制定法の規定が現実にはどのように修正されて実際取引に適用されているのか、また、金融環境の変化がどのような新しい法律問題を生じさせているのかなど生きた学問として学修する。

講義内容は次を予定している。詳しくは初回講義の際に資料配布する。

- I 金融法の特徴、わが国の金融制度、金融機関の業務内容
- II 預金取引、為替取引、電子マネー・EFT取引
- III 手形取引、手形交換と取引停止処分制度
- IV 貸出取引、消費者取引、担保、倒産、相続、差押

成績評価の方法

学年末試験を基本に評価する。

教 科 書

最初の講義のときに話します。

そ の 他

講義形式による。毎回のプリントを配布（サブテキスト配布）、一部ビデオ利用。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|---------|---------|-------------|
| 民事執行・保全法 | とが 梅 | よし 善 | 法A3・4選 4 |
| | | お夫 | |

講義のねらい

社会において重要な役割を果たしている民事執行法と民事保全法について講義します。
民事執行法は、権利の事実上の実現手続きです。民事保全法は、将来の権利実現を保全する手続きです。民事執行法、民事保全法の解釈と両法律の基本原則、重要判例についての理解を目的とします。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、以下のような順序と内容で行います。なお、より詳しい年間の予定表は第一回目の講義のときに配付します。

- ① 私法上の権利の実現方法
- ② 強制執行法の改正と民事執行法の成立
- ③ 仮差押え・仮処分法の改正と民事保全法の成立
- ④ 民事保全法
- ⑤ 民事執行法総則
- ⑥ 強制執行法総論
- ⑦ 強制執行法各論
- ⑧ 担保権の実行としての競売

履修上の留意点

民事訴訟法を履修しているか、併行して履修する人の履修を希望しています。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の筆記試験のみによって評価します。

教 科 書

内田武吉編著『民事執行・保全法要説（第2版）』（成文堂）1999年

参 考 書 等

竹下守夫・伊藤眞編『民事執行法判例百選』（有斐閣）1994年
中野貞一郎『民事執行法（新訂三版）』（青林書院）1998年
その他参考書については、授業の際に必要なに応じてその都度紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------|----------------|-----|
| 倒産処理法 | 馬越道夫 | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

倒産処理法とは破産法・和義法・商法上の会社整理・清算に関する規定、会社更生法など倒産に関する諸法規の総称である。倒産処理法という名称の法典が六法全書に存在するわけではない。なお、倒産とは債務者が経済的に破綻し、債務の弁済が極めて困難になった状況をさす。倒産処理法には目的の異なる二種の法規が存在する。一つは債務者の財産を清算し、債権者への平等弁済を図る制度である（例・破産法）。他の一つは債務者の財産を全面的に清算することなく、取引関係を整理し企業の再建を図る制度である（例・会社更生法）。上記二種の法規について判例を挙げ具体的に講述したい。

また、今日国際取引の拡大や多国籍企業の多発に伴い、一企業の破産もその影響は国内に止まらず破産的処理も国際的規模が要求される。かかる涉外破産の問題点についても平易に講述したい。

講義の内容・
授業スケジュール

4月・5月 倒産処理法の概説
6月・7月・9月 破産法
10月・11月・12月・1月 会社更生法
※授業時間ごとに、その時間の講義要旨を記載したプリント（レジュメ）を渡します。

履修上の留意点

受講者は民法・民事訴訟法の基礎知識を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験の結果及び出席状況を参考にします。

教科書

桜井孝一編 馬越道夫著『演習ノート破産法』（法学書院出版）1,800円

参考書等

石川明『破産法』（日本評論者発行）2,800円
馬越道夫編著『論点国際民事訴訟法』（不磨書房出版）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|--------|----------------|-----|
| 知的財産権法 | もり盛岡一夫 | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

知的財産権法には、狭義の工業所有権法（特許法・実用新案法・意匠法・商標法）および著作権法等が含まれている。知的財産権法は知的所有権法または無体財産権法といわれることもある。知的財産権法全般についての基礎理論を理解できるように、わかりやすく講義したいと考えている。学説・判例の対立している点については、これに関連する学説・判例を紹介し、問題点の所在をあきらかにしたい。

特許法においては、発明の定義、特許を受けるための要件、従業者が発明をした場合の法律関係、特許権の侵害に対する救済方法、実施契約等について、実用新案法においては、特許法との相違について、商標法については、商標登録要件および類似商標について詳しく解説する。著作権法および不正競争防止法についても講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期：特許法・実用新案法
後期：意匠法・商標法・著作権法・不正競争防止法

成績評価の方法

後期に行なう平常試験および学年末試験によって評価する。

教科書

盛岡一夫『工業所有権法概説－知的財産権法の基礎知識〔第3版〕－』（法学書院）

参考書等

特許庁編『工業所有権法逐条解説』（発明協会） 中山信弘『工業所有権法上』（弘文堂）
鴻・紋谷・中山編『特許判例百選』（有斐閣） 齊藤・半田『著作権判例百選』（有斐閣）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|---------------|----------------|----|
| 国際取引法 | よこ 横 山 真規雄 | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

昨今、日本企業の間でも、今後国際経営の発展・維持を図るには、如何にして効果的に法的リスク（危険性）発生を抑制出来るかが、帰趨を制するとの認識が定着しつつある。

如何に優れた経営ビジョン・技術開発能力を備えていようと、目配りの必要となる法律問題に対して十分な配慮を怠れば、致命的になることを、これまでの経験から、ようやく認知するようになったからである。

即ち、今後共、国際規模での経済活動を行っていくにあたっては、「国際社会に通用する」法律武装を十分図り、予めトラブルを未然に防ぐ「予防法学（病気が起こってから治療するのではなく予防に力点を置く姿勢）」の登場が求められてくるものと考え。そのためにも、「国際取引」に係わる様々な法律について、適確な知識を備えることが必要となる。

本講義では、このような視点から授業を行うことにする。即ち、定款上の企業活動が「国際性」を帯びた時、考えるべき様々な法律問題を考察することにした。

まず「国際法務」活動に求められる重要法律分野について、簡単な復習を行っていく。国際私法・国際民事訴訟法・国際法・国際商慣習・各国民法、各国商法、各国税法・知的所有権法等々の修得済み科目について、改めて国際経営法務の観点からの位置付けについて再考する。

その上で、国際契約を支える「準拠法」の決定・外国法適用問題等を検討し、更に①取引相手を巡る社会的・法的信用調査問題、②取引内容の確定問題、③支払手段と運送方法を巡る確定問題、④契約書を巡る法戦略、⑤契約内容の実現と担保方法、⑥準拠法と約定条項との関係、⑦トラブル発生時の処理方法と裁判・調停・仲裁、と言った、契約実施プロセス一連における具体的法律問題に検討を進めることにする。

もとより、各企業の営業活動は多種に及び、業種に応じて、「取引形態」には大きな違いがある。そこで、一般性の高い問題を中心に講義を進め、適宜、それぞれの業界での特徴的傾向について紹介することにする。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は、広範囲に及ぶことになるために、ノート講義を中心に進めることになるが、下記テキストは随時参照するので、持参した上で、必ず出席するようにしていただきたい。テキストに予習内容が記載されている場合には、前の授業までに指示するので、当日は各自予習を行って参加することになる。この場合、予習を前提とした授業を展開することになるので、留意されたい。

履修上の留意点

国際私法的発想が随所に求められるので、できれば、「国際私法」を併せて履修されることが望ましい。

尚、授業進行上、極めて障害が多いことから、授業中の私語・飲食等は当然の事ながら、遅刻・途中入室も一切認めないので、予め、その点を了解の上、誠実な気持ちをもって履修されることを御願います。

成績評価の方法

学年末試験における評価と出席点とを加味して決定する。

教科書

塩田親文・斎藤武『国際取引と法（第二版）』（有信堂）
必ず持参の上、授業に出ること。又、随時、六法も参照するので、持参していただきたい。

参考書等

その他参照すべき資料については、適宜指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|---------------------|--------------------------|----|
| 財政学 | さとなか つねし 里 中 恆 志 | 法A3・4選 12以降入学生/法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

経済生活の中で公共部門の占める比重は確実に増加しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこでは市場経済原理の私経済とは異なる原理が作用する。公経済は租税徴収等による資金調達と、それをとおしての財政支出によらねば需要を充足できない経済領域である。したがって租税負担分配の方式、財政支出基準の考え方を問題にする。経済社会の変遷につれて負担の方式や支出基準についての考え方も変化する。そして公経済の比重が高まるにつれて、公経済と私経済の相互のかかわりもますます重要になる。

国民が財政意志の形成に参加する方法は民主主義の手続きをとおしてであるから、有効な財政政策の実現のためには、国民が財政をコントロールするルールと、その背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。国民はまた財政政策に対する基礎的な判断基準をもっていないなければならない。このような観点から財政意志の形成過程、租税徴収による負担の分配、歳出の効率と合理性、財政の総需要管理政策について講ずる。

講義の進め方はまず財政意志の形成過程では予算の編成手続きの理解から入る。歳入面については租税収入を主要税種別に扱い、つぎに歳出面について主要経費別の考察を進める。さらに公経済の私経済のかかわりについて総需要管理政策を講ずる。

講義の内容・
授業スケジュール

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明 (第2週) 公共財と公共部門 (第3週) 財政の歴史概略 (第4週) 予算編成と主計局の査定 (第5週) 予算編成と政党政治 (第6週) 予算府案と議会審議 (第7週) 予算の執行と競争入札 (第8週) 予算の政治過程 (第9週) 租税原則学説 (第10週) 給与所得税と課税の普遍性 (第11週) 申告所得税と累進課税 (第12週) 法人税と徴税技術 (第13週) 国際化と移転価格税制 (第14週) 一般消費税と付加価値 (第15週) 地方税と地方歳出 (第16週) 地方財政費と財政調整の制度 (第17週) 機関費と純粹公共財 (第18週) 公共事業費と費用=便益分析 (第19週) 公共事業費と公共財産の形成 (第20週) 社会保障関係費と所得再分配 (第21週) 補助金とスピルオーバー (第22週) 公債費と公債負担 (第23週) 総需要管理政策と国民所得の決定 (第24週) 課税乗数と均衡予算定理 (第25週) 公債による財源調達と債券価格 (第26週) 大量国債の累積とその限界 (第27週) 財政金融政策と国際収支 (第28週) 財政投融资と政府貯蓄 (第29週) 試験と評価についての説明 (第30週) 試験

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

履修上の留意点

法学部には関連科目として経済学分野の「経済原論」及び「経済政策」の講義が設けられている。「財政学」は経済と政治の学際的な分野の科目であるから、こうした関連科目を履修することが望ましい。他学部履修の制度も活用が望まれる。

成績評価の方法

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。自筆のノート持ち込み可。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

大蔵省大臣官房調査企画課長編『図説日本の財政』各年度版(東洋経済新報社)
野口悠紀雄 著『公共政策』モダン・エコノミックス12(岩波書店) 2,000円
中谷巖 著『入門マクロ経済学』(日本評論社) 3,300円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|-------------------|----------------|----|
| 経済政策 | もり森 おか岡 じん仁 | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

経済学の実践部門としての経済政策が自由主義経済に成立した過程と、そこではたす役割を明らかにする。人口高齢化や少子化の経済的帰結にも言及し、最後に高齢化社会における経済政策と人口政策の関係を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

I. 現代経済と経済政策 II. 経済政策学の発展 III. 現代経済政策の課題 IV. 経済の成長政策 V. 経済の安定政策 VI. 産業組織政策 VII. 社会均衡化政策 VIII. 経済政策と人口政策

履修上の留意点

日常生活に生起する経済問題に日頃から関心を抱き、自分達の身の回りにある経済問題の解決手段として経済政策を考え、学ぶことが大切である。

成績評価の方法

学年末の定期試験、授業の出席状況

教科書

森岡他著『現代経済政策』（千倉書房）1975年

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|--------------------|----------------|----|
| 社会政策 | はま浜 むら村 あきら彰 | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義の内容・授業スケジュール

本年度の社会政策は、社会政策の総論として社会政策学の生成と発展に関する学説史的分析を行い、それを前提として現代社会政策の主要課題を具体的に設定して順次講義を進めることにする。特に日本の雇用慣行や労使関係に関するこれまでの研究成果をくみ上げながら、最新の統計調査データを用いてわかりやすく講義することに努めたい。主要な項目は以下のとおりであり、労使関係にとどまらず、女性・家庭問題や高齢化と社会福祉政策などの様々な項目を取り上げて、現代社会政策の今日的課題を論ずることにする。

- 第1 社会政策総論－社会政策の目的と領域
- 第2 現代社会政策の主要課題
- 第3 日本の雇用慣行とその変容
- 第4 長期雇用慣行と最近の雇用管理政策
- 第5 年功賃金と業績・成果主義
- 第6 企業別組合と日本の労使関係
- 第7 労働市場と雇用政策
- 第8 労働政策と労働条件規制
- 第9 女性労働
- 第10 健康と医療政策
- 第11 家庭と教育政策
- 第12 高齢化と社会福祉政策

教科書

講義開講時に指定する。

参考書等

授業中に配布するプリント。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---|----------------|-----|
| 国際関係論 | 前期：南 ^{みなみ} 山 ^{やま} 淳 ^{あつし} | 法A3・4選 | 4 |
| | 後期：首 ^{しよ} 藤 ^{とう} 素 ^{もと} 子 ^こ | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

現代の国際関係の理論と現状の課題について、知識と理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

次の項目をほぼ2週分の授業を割当てながら進める予定である。

- 前期（4～7月まで担当：南山 淳）
1. 国際政治理論の展開(1)現実主義
 2. 国際政治理論の展開(2)自由主義
 3. 国際政治理論の展開(3)マルクス主義
 4. 国際政治理論の展開(4)冷戦後の国際政治理論
 5. 冷戦後の安全保障研究
 6. 国連システムの変遷と冷戦後の地域紛争
 7. 経済のグローバル化と国際政治経済学
- 後期
8. 国連の開発戦略と南北格差の問題
近代化理論の変遷と従属論の影響
世銀・IMFの機能と問題
 9. 国際政治と人権保障の制度化
人権保障の法的枠組みの展開と課題
人権 NGO と国際社会
 10. 1970年代以降の経済のグローバル化
政策協調と国際交渉の多様化
Global Governance の課題
 11. 地球環境と国際関係の課題
地球環境問題の現状と政策的対応
「発展の権利」と「持続可能な発展」
 12. グローバル化と国家主権の変容

成績評価の方法

定期試験により評価する。

参 考 書 等

- ・PR.ピオティ・M.V.カピ著（D.J.ウエッセルズ・石坂菜穂子訳）『国際関係論第二版-現実主義・多元主義・グローバリズム』（彩流社）1993年
 - ・原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣）1996年
- とくに毎時間使用するわけではないが、次の文献を入手し、授業に関連する項目を各自で勉強しつつ、授業に出席することをすすめる。
- 細谷千博監修、横山・野林編『国際政治の21世紀像』（有信堂）1992年（第2版）2,987円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|---------------------|--------------------------|----|
| 外 交 史 | 前期：石井 修 後期：首藤 素子 | 法A3・4選 12以降入学生/法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

西欧国家体系の成立後、主として19世紀末から20世紀後半の時代を対象に、西欧世界と東アジアで展開した近代外交の特徴とその変容について講義する。その主な目的は当時の外交政策を形成する主体がどのような政治勢力であり、またどのような外交認識をもち、さらにその時代の国際環境が外交政策形成にどのような影響を与えたかを理解することにある。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期（4～7月担当：石井 修）
 (1)19世紀のヨーロッパ外交（ウィーン体制、ビスマルク外交）
 (2)19世紀のアジア・太平洋（清帝国の凋落、欧米植民地帝国主義、日本の台頭）
 (3)第一次大戦の外交、ヴェルサイユ講和
 (4)両大戦間期の外交
 (5)第二次大戦の外交、日米戦争の外交
 後期
 (6)戦間期日本の経済的「南進」（英領マラヤ・蘭領東インド）
 (7)サンフランシスコ講和条約と戦後賠償交渉
 (8)60年安保改定と60年代の日米外交
 (9)日本の援助政策とアジア
 (10)グローバル化とアジアの多国間外交の課題

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

石井修『20世紀の国際政治史』（有信堂）2000年4月刊行。

参考書等

池井優『日本外交史概説』（慶応通信）1992年、3,914円
 杉山伸也他『戦間期東南アジアの経済摩擦』（同文館）1990年、3,600円
 他に参考書を授業中に指示する。地図のコピー等も配布する予定。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|-------|--------------------------|----|
| 政 治 思 想 史 | 小林 正敏 | 法A3・4選 12以降入学生/法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

古代から現代に至る東洋的社会と西洋的社会の特質を比較し、なぜ「西洋」において多様な政治学説の発生を見るにいたったかという視点を重視する。また思想家の政治観の根底にある人間観、歴史観のもつ意味も併せて考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

プラトン、アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。前期はほぼN. マキアベリあたりまで、後期はJ. ボーダン以後になると思われる。

成績評価の方法

学年末試験の成績を中心に評価する。

教科書

特定のテキストは用いない。

参考書等

参考書、原典等は、講義の必要に応じて紹介していきたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|-----------------|---------|----|
| 外書講読（英書） | あおのひろゆぎ 青野博之 | 法A 3・4選 | 4 |
| | | 法B 3・4選 | |

講義のねらい

英米法総論（たとえば、判例法、裁判所制度、法曹）または英米私法（たとえば、契約法、不法行為法）に関する、著書（の一部）または論文を、受講生とともに読み、後に具体的な判例を読む。これにより、英米法の考え方・知識を学び、日本法のそれと比較する能力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいにおいて述べた範囲から、受講生と相談して決める。

履修上の留意点

英語、英米法、比較法に関心のある学生は、ぜひ受講してほしい。予習をしたうえでの出席が不可欠である。

成績評価の方法

平常点で成績を評価する。

教科書

プリントを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|------------------|---------|----|
| 外書講読（英書） | かねこしょうへい 金子昇平 | 法A 3・4選 | 4 |
| | | 法B 3・4選 | |

講義のねらい

講義のねらいは、アメリカの憲法や法律、あるいは重要と思われる論文や判例を読むことによって、単なる法知識を得ることのみならず、その基本的な考え方をつかみとっていききたい。すなわち英語を読むだけでなく、考える講義をしていきたい。

そのためには、基礎的学習として法律英語を知ることであり、英単語やテクニカル・タームを豊富に身につけることである。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、主にアメリカ合衆国憲法等の基本的なものを選び講読する。憲法は、構成要素としての統治機構（立法権、行政権、司法権）や、基本的人権について、どの様に規定しているのか、それぞれの意義及び内容について検討してみる。

後期は、受講生の希望をとり入れて、法律・論文、最高裁判所の判例等、いずれかを選択し、講義する。

履修上の留意点

英和辞典（和英辞典）は、持参すること。英単語の意味がわからないからこそ、辞典が必要である。受講生は、出来るだけ多く、辞典に当たることを身につけて欲しい。

成績評価の方法

講義への出席状態と、発表の評価で成績評価を行う。

教科書

開講時にプリントを配布する。

参考書等

講義内容に応じて適宜指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|--------------------|----------------|----|
| 外書講読（独書） | まつ 松 村 いたる 格 | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

外書講読の授業は、大学生活のなかで本格的な専門書に親しむことによって真の学問の妙味を味わうことにある。小中高の受験語学ではできない学問のすばらしさを体験する時間である。この授業では、ドイツ語の原書を読むことによってその体験をする。受講生の語学力に合わせて読み合せていくので心配はない。

講義の内容・授業スケジュール

教材には、刑法の基本をわかりやすく説明した文献を使用する。

履修上の留意点

何よりも意欲と熱意と関心が肝要である。ドイツ語力を必要とするが、初めてドイツ語に接する学生でも2年間で飛躍的に上達して、大学院にドイツ語で受験して合格していった卒業生が過去数名いた。興味のある専門書を通して語学力をのばすこともできるのである。

成績評価の方法

成績の評価は、毎週の努力度によって行うだけである。試験はしない。

教科書

教材は、上記のテーマに関係するものをコピーして渡す。

参考書等

その都度指示する。

その他

授業は、順番に翻訳部分を分担し、問題点を議論していく。原書の読み方は、丁寧に指導するから心配ない。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|----------------------------|----------------|----|
| 外書講読（仏書） | なか 中 の 野 ゆう 裕 じ 二 | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

外書講読の目標は、①翻訳者の目を通さずに直接文献にあたることで、筆者の思想を直接理解する、②語学の授業として始めたフランス語をより発展させる、③フランス語で書かれた文献が読めるようになる、などいくつか考えられるだろう。したがって、こちらであらかじめ決めずに受講学生のフランス語のレベルや受講目的に応じて決定したい。

講義の内容・授業スケジュール

毎回、分担箇所を決め、日本語に翻訳しながら文献を読み進める。ただし、これも受講学生に応じて進み方は変わる。

履修上の留意点

大学院への進学を考えている学生は第2外国語試験対策として位置づけてもらってかまわない。また、フランス語は全くやったことがないが、やる気だけはあるという学生も歓迎する。

成績評価の方法

出席と平常点で評価する。

教科書

コピーを配布する。

参考書等

辞書は同一の物を使用したいので、旺文社の『ロワイヤル仏和辞典』を購入しておくこと。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|---------------------------------------|----------------|----|
| 外書講読(中国書) | 江 林 英 基 <small>こう りん ひで もと</small> | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

現在の中国は経済の改革・開放政策をとっており、これを実現するため、1982年に四回目の新憲法を制定・施行し、その後二回にわたる改正を行った。その他の法律もこの憲法に基づき、“雨後春筍”のようにつぎつぎ公布された。“一衣帯水”の隣国である中国を認識することが必要である以上、その法制から着手しなければならないのである。

講義の内容・授業スケジュール

この授業は中国憲法138条の条文に書かれている中国の内政と外交方針、国民の基本権利と義務、人民代表大会の権限、人民政府の組織などを主な内容とする。

履修上の留意点

授業の進度は一週間5ページ程度である。学生諸君に朗読させ、法律用語、条文の構造(文型)を説明しながら立法理由と現在状況を論評する。

成績評価の方法

出席率、学修態度、レポートなどを判断基準として総合的に評価する。

教科書

江英居著『中国憲法』(大学書林) 3,500円

参考書等

『中華人民共和国法律滙編』(北京人民出版社)

その他

学生への要望：授業中私語禁止。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------|-------------------------------------|----------------|----|
| 外書講読(スペイン書) | 佐 藤 玖 美 子 <small>さとう くみこ</small> | 法A3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法B3・4選 | |

講義のねらい

スペインにおける今世紀最大の歴史学者であり、社会学者でもある Américo Castro 著 “Iberoamérica” の講読を行います。1年間で全冊を読破することは到底不可能なので、中南米各論の中の何国かを受講者の希望によって順次ピックアップしてゆきたいと思います。皆さんが1、2年で修得したスペイン語の知識の深化、発展を図ると共に中南米諸国がたどって来た苦難、屈折の歴史を知り、中南米の現状に対する理解を深め、その将来を考えることを試みたいと思います。

履修上の留意点

必ず次回講読部分の予習をして来て下さい。

成績評価の方法

出席状況、平常の学修態度並びにレポートによって成績評価を行います。

教科書

テキストはコピー使用。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------|---------|----|
| 演習 I | しお 塩 入 み ほ も | 法 A 3 選 | 4 |
| 演習 II | | 法 A 4 選 | |

講義のねらい

行政法上の諸問題について演習を行なう。他から教授されるだけの受動的な学問ではなく、判例及び学説を自分なりに分析・検討する作業を通じて能動的に研究し、報告し、且つ他人と法律学的検討を行なえるための能力を鍛錬することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

演習は、毎回学生一人一人に、自己に割り当てられた課題について、①論点の指摘、②判例及び学説の紹介・分析、③当該問題に関する検討ないし自説を報告してもらい、報告後に全員で討論する形式にて行なっていく。

演習題材は、行政法総論一般、行政手続法、情報公開法及び行政争訟法の各分野からそれぞれ重要なテーマを選び、学生の希望を踏まえた上で各自に割り当てる。

履修上の留意点

当演習では、学生諸君の主体性を重視する。したがって、授業の初回には演習の具体的な内容及び形式等に関して学生諸君の要望を聞き、上記の基本趣旨に反しない範囲で、できる限りその要望に応じていきたいと考えている。なお、報告者は毎回レジュメを作成するとともに、レポート（自己が報告時に読み上げるオリジナル原稿のコピーで構わない）を提出してもらう。

成績評価の方法

成績は、出欠と報告内容（レポート）の総合評価とする。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書等

演習であるので、参考図書等については、原則的に、各自が各々のテーマについて自主的に検索・収集するべきである。但し、行政法演習に総合的に役立つものとして最低限所持することが望まれる参考図書については、初回授業の際に紹介する。

その他

授業はゼミナール方式で行なう。

1. 專門教育科目

(2) 政治学科

1. 専門教育科目

(2) 政治学科

| | | |
|---------------|-----------|-----|
| 政治学概論 | 〈浦田早苗〉 | 81 |
| 政治学概論 | 〈小林正敏〉 | 81 |
| 政治学概論 | 〈前田英昭〉 | 82 |
| 憲法 | 〈竹花光範〉 | 83 |
| 政治学原論 | 〈大塚桂〉 | 85 |
| 日本政治論 | 〈上條末夫〉 | 86 |
| 東南アジア政治論 | 〈前期：川中豪〉 | 87 |
| | 〈後期：首藤素子〉 | |
| 中東政治論 | 〈休講〉 | |
| ヨーロッパ政治論(1) | 〈中野裕二〉 | 88 |
| ヨーロッパ政治論(2) | 〈小林正敏〉 | 89 |
| アメリカ政治論 | 〈小堀訓男〉 | 89 |
| 中南米政治論 | 〈岸川毅〉 | 90 |
| 中国政治論 | 〈竹花光範〉 | 90 |
| 日本政治史 | 〈楠精一郎〉 | 91 |
| 行政法総論 | 〈塩入みほも〉 | 92 |
| 国際法 | 〈齋藤洋〉 | 93 |
| 政治制度論 | 〈前田英昭〉 | 94 |
| 行政学 | 〈岡田彰〉 | 95 |
| 外交史 | 〈前期：石井修〉 | 96 |
| | 〈後期：首藤素子〉 | |
| 国際政治学 | 〈小堀訓男〉 | 97 |
| 政治社会学 | 〈中野裕二〉 | 98 |
| 政治思想史 | 〈小林正敏〉 | 99 |
| マス・コミュニケーション論 | 〈相田敏彦〉 | 99 |
| 現代政治理論 | 〈休講〉 | |
| 政治心理学 | 〈上條末夫〉 | 100 |
| 投票行動論 | 〈休講〉 | |
| ヨーロッパ政治史 | 〈浦田早苗〉 | 101 |
| 環境政策 | 〈横田匡紀〉 | 102 |
| 行政法各論 | 〈塩入みほも〉 | 103 |
| 地方自治法 | 〈富井幸雄〉 | 104 |
| 国際関係論 | 〈前期：南山淳〉 | 105 |
| | 〈後期：首藤素子〉 | |
| 比較政治学 | 〈岩崎正洋〉 | 106 |
| 国家安全保障論 | 〈休講〉 | |
| 外交政策論 | 〈小堀訓男〉 | 107 |
| 地方行政 | 〈休講〉 | |
| 国際行政学 | 〈福田耕治〉 | 108 |
| 国際組織論 | 〈山村恒雄〉 | 109 |
| 情報社会論 | 〈相田敏彦〉 | 110 |
| 議会関係法 | 〈前田英昭〉 | 111 |
| 立法過程論 | 〈休講〉 | |
| 政策決定論 | 〈休講〉 | |

| | | | | | | | | | |
|----|---|----------|---|----|---|---|------|-------|-----|
| 政治 | 過 | 程 | 論 | 〈早 | 川 | 純 | 貴〉 | | 112 |
| 現 | 代 | 家 | 論 | 〈大 | 塚 | 桂 | 桂〉 | | 113 |
| 社 | 會 | 原 | 理 | 〈渡 | 辺 | 源 | 樹〉 | | 114 |
| 比 | 較 | 會 | 論 | 〈中 | 野 | 裕 | 二〉 | | 115 |
| 財 | 政 | 社 | 學 | 〈里 | 中 | 恆 | 志〉 | | 116 |
| 國 | 際 | 政 | 學 | 〈德 | 永 | 俊 | 明〉 | | 117 |
| 經 | 濟 | 經 | 論 | 〈淺 | 野 | 克 | 巳〉 | | 118 |
| 日 | 本 | 原 | 史 | 〈茂 | 野 | 隆 | 晴〉 | | 119 |
| 西 | 洋 | 法 | 史 | 〈北 | 野 | か | ほる〉 | | 120 |
| 經 | 濟 | 制 | 策 | 〈森 | 岡 | 仁 | 仁〉 | | 121 |
| 社 | 會 | 政 | 策 | 〈浜 | 村 | 彰 | 彰〉 | | 121 |
| 比 | 較 | 政 | 法 | 〈齊 | 藤 | 寿 | 寿〉 | | 122 |
| 刑 | | 憲 | 法 | 〈松 | 村 | 格 | 格〉 | | 123 |
| 民 | 法 | (総則・物權法) | 法 | 〈大 | 宮 | 隆 | 隆〉 | | 124 |
| 英 | 米 | 法 | 法 | 〈北 | 野 | か | ほる〉 | | 125 |
| 會 | 社 | 法 | 法 | 〈荒 | 木 | 正 | 孝〉 | | 126 |
| 勞 | 働 | 法 | 法 | 〈藤 | 本 | 茂 | 茂〉 | | 127 |
| 經 | 濟 | 法 | 法 | 〈岡 | 田 | 外 | 司博〉 | | 128 |
| 時 | 事 | 英 | 語 | 〈休 | 講 | | | | |
| 外 | 書 | 講 | 書 | 〈相 | 田 | 敏 | 彦〉 | | 128 |
| 外 | 書 | 講 | 書 | 〈塩 | 入 | み | ほも〉 | | 129 |
| 外 | 書 | 講 | 書 | 〈前 | 田 | 英 | 昭〉 | | 129 |
| 外 | 書 | 講 | 書 | 〈早 | 川 | 純 | 貴〉 | | 130 |
| 外 | 書 | 講 | 書 | 〈中 | 野 | 裕 | 二〉 | | 130 |
| 外 | 書 | 講 | 書 | 〈江 | 林 | 英 | 基〉 | | 131 |
| 外 | 書 | 講 | 書 | 〈佐 | 藤 | 玖 | 美子〉 | | 131 |
| 演 | 習 | I | ・ | II | 塩 | 入 | みほも〉 | | 132 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-------------------------------------|--------|-----|
| 政治学概論 | 浦 田 早 苗 <small>うら た さ なえ</small> | 政治 1 必 | 4 |

講義のねらい

世界は今、大きな転換期にある。冷戦構造の崩壊と社会主義体制の変革、高度産業化に伴う社会の変質などによって、国家や政党、制度や組織、国民や民族などの概念に基本的な再検討が迫られている。国内では政治改革、行政改革、税制改革が政治経済の緊急課題となり、これまでの政治のありかたに変更が求められている。本講座は、激動の現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎知識を概論し、併せて政治学の専門分野への導入をはかるものである。政治と政治学の基礎用語の解説、及び政治の機構、理論、過程を考察していくが、政治的視野拡大のため適宜時事問題も取り上げていく。12年度は以下の講義を予定している。

講義の内容・授業スケジュール

○伝統的政治学と現代政治学 ○政治権力とリーダーシップ ○投票行動と政治参加 ○近代社会における公共性 ○議会政治の諸原理 ○世界各国の政治制度 ○現代社会と官僚制 ○政治的コミュニケーション ○国際社会の構造 ○現代社会の問題点

成績評価の方法

年5～6回行う小テスト－簡単な政治論評－は出席点代わりとし、学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した5問から2題出題する（ノートの持ち込みは不可）。

教科書

特に教科書は指定はしないが、さらに詳細に研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。参考書は必読でないが、常に新聞を「読む」ことが全員に義務づけられている。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------------------------------------|--------|-----|
| 政治学概論 | 小 林 正 敏 <small>こ ばやし まさ とし</small> | 政治 1 必 | 4 |

講義のねらい

本講座は、1年次生の「政治学入門」のために設けられているものである。したがって、政治学がいかなる学問であるかを理解するとともに、専門的な政治の領域を学ぶ上で必要とされる基礎的知識を身につけることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講座は、基礎的、一般的であると同時に、選挙制度、政治思想、民主政治論、国際機構などにも論及し、今後、政治学原論等の専門科目を学ぶためのステップとして役立つようにしたい。講義に際しては、随時、カレントな問題をも取りあげて、理論と現実との融合をはかるように努めたい。

成績評価の方法

学年末試験の成績、出席状況などを中心に評価する。

教科書

小林正敏他著『政治学講義』（成文堂）

参考書等

開講後に必要に応じて指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|--------|-----|
| 政治学概論 | まえ だ ひで あき 前 田 英 昭 | 政治 1 必 | 4 |

講義のねらい

政治学とは一体どのような学問でしょうか。この1年次の政治学の基礎としての「政治学概論」では、政治学のおもしろさがわかるように、具体的な例をあげつつ、政治学についてわかりやすく説明していきます。

政治学についてはいろいろな誤解や間違ったイメージがあります。誰でもが語る1億総評論家のような「床屋談義」としての政治学などは、それなりのわかりやすさと、おもしろさがありますが、本来の意味の政治学ではありません。この講義では、政治学を学問的に学ぶ際の入門として位置づけます。

講義の内容・授業スケジュール

この講義では以下の順序で行う予定であり、関連する時事問題を加える。

1 主権者としての国民、2 選挙制度の種類と問題、3 政治とテレビ、4 国会の役割、5 内閣総理大臣とその他の大臣、6 議院内閣制と大統領制、7 政党政治、8 官僚と政治、9 政治と金、10 政治改革、11 参議院問題、12 国会の歴史、13 外国の議会政治（イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ）、14 情報公開、15 規制緩和。その他、ビデオによる授業。

履修上の留意点

必ず出席して受講すること。

成績評価の方法

中間テスト、期末テストと平常点の総合点で成績を評価する。

参考書等

参考書は、講義の際に紹介するが、担当者の著書に以下のものがある。『イギリス議会政治の研究』『イギリスの上院改革』『政治腐敗防止法を考える』『エピソードで綴る国会の百年』『国会の立法活動』など。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|------------------|------|----|
| 憲法 | たけはなみつのり 竹花光範 | 政治1必 | 4 |

講義のねらい

本講義は、憲法とは何か、憲法はどうあらねばならないかといった視点からの考察を中心に、日本国憲法の実在性格を明らかにすることを目的としている。すなわち、日本国憲法が、どのようにして存在するに至ったのか（憲法の成立過程）、日本国憲法は、どのような憲法として存在しているのか（憲法の性格と特色）、日本国憲法の実在が、どのような結果を生ぜしめているのか（憲法の施行状況）といったことを明らかにしようというのである。

講義の内容・授業スケジュール

そのため、全体を二つに分け、前半は総論的講義、後半は各論的講義を行う。前半の総論的講義は、次のような章節から構成される。

第一章 憲法概念と歴史

- (一) 憲法とは
- (二) 憲法の種類
- (三) 憲法の歴史

第二章 日本国憲法成立の経緯と法理

- (一) 日本国憲法成立の経緯
- (二) 日本国憲法成立の法理

第三章 日本国憲法の特質

- (一) 日本国憲法の基本原理
- (二) 日本国憲法の特異性

各章節の内容は、それぞれの表題からほぼ明らかなるものと思われるが、第一章では、憲法とはどのような規範か、憲法にはどのような種類があるのか、成文の憲法はどのようにして生まれ、どのような発展をとげて今日にいたっているのかについて述べる。なお、我が国における憲法の歩みということで、明治憲法の成立過程、同憲法の主な内容、成立後の展開についても概説する。

第二章では、現行日本国憲法が、どのようなプロセスを経て成立するに至ったのか（アメリカの対日政策、極東委員会の動き、日本政府の対応、GHQ 民政局の役割、第九〇帝国議会での審議状況等）、日本国憲法の成立を法理上どのように説明したらよいか（明治憲法との関係、占領下の改憲をどう考えるか、八月革命説、改正憲法説、無効論の是非等）を論じる。

第三章では、憲法の分類上から認められる日本国憲法の特異性（例えば、民定憲法なのか、欽定憲法なのか、協約憲法なのか、はたまた占領憲法とよぶべき憲法なのかといった、憲法を成立せしめた主体をめぐる争いがある点等）を指摘し、そのような日本国憲法が、どのような基本原理に依って立っているのか（民主主義の原理、象徴天皇制の原理、平和主義の原理、基本的人権尊重主義の原理）を明らかにする。

一方、後半の各論的講義は、本来なら、日本国憲法の逐条（日本国憲法は世界でも有数の簡略な憲法であるが、それでも全体で、前文と本文十一章103カ条に及ぶ）解説ということであろう。しかし、限られた時間内では、それは、ほとんど不可能に近い。そこで、とりあえず、各章ごとに規定内容や問題点を整理し、一部に立法論的指摘（どこにどのような不都合があり、それをどのように改めたらよいかといった指摘）も加味しつつ、全体として、日本国憲法の性格と特色が理解できるような講義としたい。

もちろん、第九条をはじめ、解釈上の対立が大きい条項や多くの問題を抱えている条項については、判例の紹介をはじめ、比較憲法的な考察を行うなど、特別に時間を割きたいと考えている。

履修上の留意点

講義は教科書を用いて進めるが、時事的な憲法問題を取り上げ解説するなど立体的な講義を心がける予定であり、「教科書を読む」ような講義ではまったくないので、でき得る限り講義に出席することが望まれる。

成績評価の方法

成績評価は、論述型（「について述べよ」ないし「について論じよ」といったタイプの問題）のペーパーテストによって行う。評価に際しては、問いに答えているか（出題された問題に関係のないことを書いた場合は大幅な減点とする）、必要なことが書き込まれているか（簡にして要を得た内容であること、余計なことを多く書いても加点されない）、論理展開に説得力があるか（単なる箇条書きでは論述型の問題に対する解答とはいえない、全体として一つの小論文となっていること）、誤字、脱字がどの程度か（専門用語の誤まりは大幅な減点となる）などをチェックする。

教科書

竹花光範著『憲法学要論補訂版』（成文堂）3,300円

参考書等

必要に応じて、参考書の紹介、資料の配布等も考えている。

そ の 他

いずれにしても、学生諸君が、憲法に関心を持ち、憲法問題を積極的に考えていくよすがとなるような講義を心がけるつもりである。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|---------|-----|
| 政 治 学 原 論 | おお つか かつら 大 塚 桂 | 政 治 2 必 | 4 |

講義のねらい

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容・
授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、ならびに方法

B 政治の原理的究明

- ① 政治的なるもの
～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従
- ② 共同体的なるもの
～国家、社会、主権、法
- ③ イデオロギー的なるもの
～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（シティズンシップ）

C 政治の実体論的究明

- ① 制度論的究明
～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制
- ② 機能論的究明
～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化

成績評価の方法

V 成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は、

- 中間試験：50%
 - 学年末試験：50%
- 以上の割合によるものとします。
なお、追・再試験も実施します。

教 科 書

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円
大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参 考 書 等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|-------------|-----|
| 日本政治論 | かみ じょう すえ お 上 條 末 夫 | 政治1・2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

政治の理論を学ぶためには、その実態を知ることが不可欠である。また、各国の政治事情を理解するためには、まず自国の政治事情を把握していなければならないことは理の当然である。

本講義においては、現代の日本の政治の実態を明らかにすることをねらいとする。そのため、まず大衆社会化が始まった大正時代中期から第1次世界大戦（太平洋戦争）終了までの政治の流れを概観する。次いで、戦後政治の特徴を時系列的に分析し、体系的に日本的民主政治の実態を把握する。

講義の内容・授業スケジュール

1. 大衆社会の発生から政党政治の崩壊まで（4月～5月）

- ① 大衆社会化と護憲運動
- ② 普通選挙の実現
- ③ 政党政治の問題点
- ④ 軍部の台頭と戦争
- ⑤ 政党の解消と翼賛体制

2. 新政治原理の移入と独立の回復（6月）

- ① 占領の意味と戦前日本の否定
- ② 憲法改正と国民主権
- ③ アメリカナイズと講和問題
- ④ 保守党優位と官僚政治の萌芽

3. 自民党の長期政権の基盤形成（7月）

- ① 労働組合と社会主義政党
- ② 政党の再編と「55年体制」
- ③ 安保改定と革新勢力の挫折

4. 外交問題の処理と「戦後」の精算（9月）

- ① 経済成長と都市化の影響
- ② 日韓問題の処理
- ③ 沖縄返還と佐藤内閣

5. 内政問題への傾斜と「田中支配」（10月）

- ① 田中内閣の誕生と日中国交正常化
- ② 金権政治と政治腐敗
- ③ 与野党接近と連立政権構想
- ④ 野党の多党化

6. 「飽食の時代」の政治意識（11月）

- ① 「都市の保守化」と「農村の革新化」
- ② 政治関心の低下と野党の無力化
- ③ ガバナビリティの低下と政治不満
- ④ 政治の「ゲーム化」と「数の論理」

7. 政治改革と政界再編成（12月～1月）

- ① 政治改革と選挙制度の改正
- ② 政界再編成と政党の曖昧化
- ③ 連立政権の功罪
- ④ 新選挙制度と行政改革

成績評価の方法

定期試験の成績およびレポートなどによって評価する。

教科書

特になし。

参考書等

その都度指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------|-------------------|-------------|-----|
| 東南アジア政治論 | 前期：川中豪 後期：首藤素子 | 政治1・2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

東南アジア地域の諸国が第2次大戦後国家建設を行う過程で、政治的、経済的にどのような問題をかかえていたかについて理解すること、および現在の東南アジア地域とりわけASEANを構成する10か国のうち、ブルネイを除く構成国について、その政治体制の変容、1960年代以降現在までの外交政策や経済政策の進展と現状の課題について、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

次の諸項目について1～2週分の授業を割当てる予定で進める。

前期（4～7月まで、担当：川中豪）

1. イントロダクション：東南アジア政治論の課題
2. 国際政治と東南アジア
3. フィリピン政治の諸問題（政治制度の概要、社会経済問題）
4. フィリピンにおける植民地支配の遺産（スペイン、アメリカ統治）
5. 独立後のフィリピン：国民国家の建設
6. マルコス戒厳令体制
7. 「ピープル・パワー」：民主化の諸様相
8. 民主化以降の政治経済：アキノ、ラモス、エストラダ

後期（9～1月まで、担当：首藤素子）

9. インドネシアの国家建設と国民統合の課題
10. スカルノ体制の内政と外交
11. スハルト体制の内政と外交
12. スハルト後の「改革」と政策課題
13. マラヤ連邦、マレーシア連邦の結成
14. 1970年代以後のマレーシアの政策
15. 1990年代のマレーシアの経済政策
16. タイの政治制度と経済政策（1932年から1950年代まで）
17. 1959年～73年までのタイ政治の特徴と経済開発政策
18. 1980年代以降のタイ政治と市民社会の台頭
19. ASEANと日本

成績評価の方法

定期試験により評価する。

参考書等

池端雪浦・生田滋『東南アジア現代史Ⅱ：フィリピン・マレーシア・シンガポール』（山川出版社、1977年）
 浅野幸穂『フィリピン：マルコスからアキノへ』（アジア経済研究所、1992年）
 デイビッド・ワーフェル『現代フィリピンの政治と社会：マルコス戒厳令体制を超えて』（大野拓司訳、明石書店、1997年）
 参考文献は授業において紹介する。随時資料等を配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|----------------|-------------|-----|
| ヨーロッパ政治論(1) | なかのゆうじ 中野裕二 | 政治1・2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

本講義では、西ヨーロッパの政治や社会の今の動きをできるだけ理論的に把握することを目標とする。対象となるのが「西ヨーロッパ」であるので、すべての国やすべての政治現象を網羅的に紹介することはできないので、取り扱う国やテーマを絞っていく。そこで、特定の問題について書かれた論文を素材として、その筆者が、どのような説明枠組みで現象を説明しようとしているのかを、受講生とともに解明していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

I EU

1. EU 統合の歴史と制度的特徴
2. 「民主主義の赤字」
3. サブシディアリティ原則
4. ヨーロッパにおける歴史像の共有

II 西ヨーロッパ諸国

1. フランス…統合原理の模索
2. フランス…コルシカ紛争にみる民族
3. フランス…90年代の新しい移民問題
4. ベルギー…連邦制下の民族対立
5. スペイン…カタルーニャの社会変容
6. スペイン…バスク語の社会的位相
7. イギリス…マン島の言語文化復権運動
8. イギリス…北アイルランド紛争の基底
9. ドイツ…産業社会におけるエスニック・マイノリティ

成績評価の方法

年4回の小テスト、学年末試験を総合的に評価する。ただし、学生の積極的参加(意見、質問)は別個に高く評価する。

教 科 書

宮島喬編『現代ヨーロッパ社会論』(人文書院)1998年 2,600円

参 考 書 等

適宜紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------|------------------------|-------------|-----|
| ヨーロッパ政治論(2) | こ ばやし まさ とし 小 林 正 敏 | 政治1・2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

この講義は、ヨーロッパのなかでも東欧——つまり旧ソ連圏、旧ワルシャワ条約機構加盟諸国の政治、社会と国際関係を対象とするものである。この地域の政治の現状を主たるテーマとするが、歴史的経緯や対日関係をも視野に入れて講義を進めたい。

講義の内容・授業スケジュール

1989年以来の大変革によって、政治的概念としての「東欧」は変容した。各国は多様な道をたどっているが、今年度は混迷のなかにある「大国・ロシア」を中心に論述する予定である。

履修上の留意点

カレントな問題も少なくないので、東欧、ロシアなどに関する新聞、雑誌の報道、論評、解説等には注意して目を通すことを希望したい。

成績評価の方法

期末試験ばかりでなく、年間1～2回のレポート（書評などを含む）も参考にして成績の評価を行う。

教科書

特定のテキストは用いない。

参考書等

参考書、雑誌論文など、講義のなかで指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|----------------------|-------------|-----|
| アメリカ政治論 | こ ぼり のり お 小 堀 訓 男 | 政治1・2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

本講義のねらいは、“アメリカ政治の特質”を理解することにある。そのため、最初にアメリカ史と合衆国憲法を概観する。つまり、アメリカという国家の成立過程を、ヨーロッパ近代革命の枠組のなかでとらえ、国家の成立過程と合衆国憲法を考えることにより、アメリカという国家の特殊性を考察する。

第二に、アメリカ政治の大きな転換期であるニューディール体制をとりあげ、ニューディール体制前のアメリカと、体制後のアメリカの政治が、どのように変化したのか、また、それ以後のアメリカ政治に、どのような影響を与えたのかを考える。殊に、フーバー大統領とルーズベルト大統領の内政の比較をしながら見ていく。

第三に、トルーマン大統領の内政と外交を冷戦構造の開始との関係で見ながら、米ソのイデオロギー的対立のもとで、アメリカ政治がどのように変化し、展開していったかを考える。

第四に、冷戦構造のもとでの、歴代大統領の内政・外交政策をみる。内政では、60年代の社会変動と人種差別問題、70年代の女性の社会進出を中心に、アメリカ社会の変化を考察する。外交では、ベトナム戦争がアメリカ政治をどのように変質させたかを考える。

第五として、冷戦終結後のアメリカの内政と外交を考える。レーガン、ブッシュ、クリントン各大統領の内政と外交を概観し、ソ連邦崩壊後のアメリカ政治の変化と世界政治の変化を考察する。

履修上の留意点

ルーズベルト以後の各大統領の内政と外交政策については、受講生も研究発表をおこない、全員で討論しながら理解を深めていきたい。積極的に授業に参加することを望む。

成績評価の方法

研究発表30%、定期試験70%で評価。

教科書

授業中に指示する。

参考書等

授業中に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|------------------------------|-------------|----|
| 中南米政治論 | 岸川毅 <small>きし かわ たけし</small> | 政治1・2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

現代中南米の政治体制の基本的性格を比較政治学的視点から検討する。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、中南米地域の政治史を概観するなかで、その政治的伝統（軍の政治介入、個人独裁、寡頭支配、恩顧関係、中央集権、教会の影響など）が、様々な形の権威主義体制の形成をもたらす過程をみるとともに、20世紀に加わった要素（社会主義、ゲリラ闘争、テロリズム、麻薬など）が伝統的政治過程にいかなる形で組み込まれてきたかを解説する。後期は、1980年代に始まる民主化の流れに焦点を当てる。これらの国々が民主主義体制に「移行」し、またその「定着」を目指すなかで、どのような課題に直面しているかを、事例に則しつつ、実証的・比較論的に分析していく。

履修上の留意点

積極的参加・質問を期待する。

成績評価の方法

期末試験。

教科書

松下洋・乗浩子編『ラテンアメリカ：政治と社会』（新評論）1993年 3,296円

参考書等

講義のなかで紹介する。

その他

講義が中心となるが、できればビデオ教材なども使いたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|---------------------------------|-------------|----|
| 中国政治論 | 竹花光範 <small>たけ はな みつ のり</small> | 政治1・2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

当科目は、地域研究入門講座的な性格をもって設けられたものであり、中国政治の歴史と現状について、正しい理解を得ることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

授業内容は、中国の政治制度と政治事情の変遷（辛亥革命以後、最近に至るまで）が中心になるが、とくに（新中国建国後は）、そうした変遷が、国家の最高法規であるはずの憲法の上に、どのように反映しているかについて詳述する予定である。もちろん、いわゆる「中国の特色をもった社会主義」、すなわち社会主義市場経済体制の特色、並びに問題点についても論及する。

履修上の留意点

時事的な問題を取り上げて解説するなど立体的な講義を心がけるので、できる限り講義には出席すること。

成績評価の方法

成績の評価は、論述型のペーパーテストによって行う。
前もって数題提示し、その中から出題することになるものと思う。

教科書

竹花光範著『中国憲法論序説』（成文堂）3,500円

参考書等

参考書（とくに、中国政治史、中国共産党史や現代化路線に関するもの）は、必要に応じて講義の中で紹介する。

その他

中国は「近くて遠い国」といわれる。地理的には、まさに隣国といってよく、歴史的にも深い関わりがありながら、お互いの理解は、必ずしも充分とはいえない。そのことが両国の間に不必要な軋轢を生んでいるといつてよいであろう。学生諸君が、正しい中国認識をもって、「あるべき日中関係」を考えるよすがとなるような講義を心がけるつもりである。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---|-----------|-----|
| 日本政治史 | 楠 <small>くすのみ</small> 精 <small>せい</small> 一 <small>いち</small> 郎 <small>ろう</small> | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

近代日本の政治権力に関する歴史的分析。幕末から昭和戦前期まで、人物を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 幕藩体制の動揺と崩壊
2. 明治国家の形成
3. 政治批判と宥和策
4. 明治憲法と初期議会
5. 日清戦争と日露戦争
6. 政党政治の発展
7. 対華21カ条とシベリア出兵
8. ワシントン体制の成立と崩壊
9. 軍部の台頭
10. 満州事変と連盟脱退
11. 日中戦争と総動員
12. 日米戦争と戦時議会

履修上の留意点

履修にあたっては、とくに日本史の知識を必要としないが、歴史に関心を持つ学生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績は筆記試験によって行なう。

教科書

富田信男・楠精一郎他『日本政治の変遷』（北樹出版）2,600円

参考書等

猪木正道『軍国日本の興亡』（中公新書）760円。その他随時授業のなかで指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|-----------|-----|
| 行 政 法 総 論 | しお いり 塩 入 み ほ も | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

行政法の基本的な仕組と理論一般について講義を行なう。その際、行政法の新しい分野である情報公開法や、現下の行政改革に基づく行政組織の大幅な構造変革とそれによる組織論及び作用論の変容など、斬新な展開には特に注意し、従来の伝統的な行政法基礎知識だけでなく、まさに新世紀に向けた行政法学の構造と課題について見ていきたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

内容としては、まず一に、行政法学上の諸概念・諸制度・基本原理等に関する基礎論を説明した上で、二に、行政組織論、三に、行政過程(作用)論、四に、行政手続及び情報公開論、五に、行政救済論について、順次講義していく予定である。

行政組織論においては、特に現下の行政改革における地方分権化や新たな独立行政法人制度を取り上げ、国家組織の変革とそれに対する様々な議論についてもできる限り言及していきたい。また、行政手続法及び情報公開法の問題は、本来行政過程論の一部ではあるが、今後益々その発展と活用が要請される極めて重要な法分野であるため、行政過程一般論とは別個に論ずることとする。行政救済論では、行政不服審査法、行政訴訟法及び国家賠償法に関する総説のみを講義する。

履修上の留意点

当講義では、「行政法」をはじめて学修する者がその基礎知識を一年間で修得できるように、判例や通説も引用して解かりやすく、且つできる限り簡潔に解説するつもりである。また行政組織論では、行政改革の実務に携わった私自身の経験をも踏まえ、法制化の過程における議論と実情についても支障のない範囲で紹介する。行政法に関する基礎知識をまったく有していない者でも、ぜひ積極的に履修されたい。

成績評価の方法

成績評価は、基本的には学期末試験の結果を基準とするが、不定期に確認する出欠の状況も一判断材料とする。

教 科 書

基本的に使用しない。

参 考 書 等

最初の講義の際に紹介する。

そ の 他

授業は通常の講義形式で行なう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----|------------------|-----------|-----|
| 国際法 | さいとう ひろし 齋藤 洋 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

国際法学の基礎知識の修得を目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

いずれこの大学でも行われているようなオーソドックスな順序で講義する。国際法学の基礎理論、静的固定的秩序および動的秩序の説明が主な内容であり、受講生の理解度を観ながら、できるだけ広範囲に内容が及ぶようにしたい。

履修上の留意点

例えば数学でも加減乗除を知らないと微積分などできないように、国際社会秩序に関する法的基礎知識なしに現代国際社会を理解することはできない。いかなる学問でも基礎部分の修得は大変に退屈で苦勞するものであり、国際法学も例外ではない。しかし一度この基礎知識を修得したならば、日々生起する国際社会の様々な現象を法的視点をもって容易に理解することができ、何が問題の中心かを見いだすことができるであろう。受講生は苦勞の後の楽しさを思い描いて講義を受けてもらいたい。授業中に疑問のある点について、そのときの授業にかかわりなく、気軽に質問してもらえれば、それに答えるなかで他の様々な国際法のルールが説明できるので、おおいに質問を歓迎する。

成績評価の方法

成績は主として年度末の定期試験で決定する予定である。

教科書

後で指示する。

参考書等

特に指定しないが、市販されている条約集及び国際判例集があれば好ましい。

その他

講義では板書はほとんどないので、受講生は自分自身で自分なりのノートを作成してもらいたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|-----------|-----|
| 政 治 制 度 論 | まえ だ ひで あき 前 田 英 昭 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

講義では、政治制度のうち特に議会制度を中心に取り上げ、憲法上の議会制度に関する諸規定を前提にして、その背後にある議会運営の慣習とか原則や、それを動かすアクターを学び、その上で、多様に展開される議会政治の現実の生きた姿を理解することに力点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

前期には、イギリスの議会政治を学び、次いでそれをモデルにして生まれた各国の議会制度・政治を学び、それらを比較研究しながら、後期には、前期で得た知識をもとに、我が国の議会制度の特色と議会政治の実態を学び、併せて、今日、我が国において当面する議会政治の諸問題を取り上げ、それについての正しい見方を学び、改革の方途を考える。ビデオも利用する。
[取り上げるテーマ]

イギリス議会政治の発生・発展・現状、米・独・仏の議会政治の現状と特色、憲法と議会制度、政党政治、意思決定方法、選挙制度（小選挙区制、大選挙区制、比例代表制、多数代表・少数代表）、金権政治と政治倫理、二院制、代表民主主義と国民投票制、開かれた国会、政治資金、政党への公的助成、政権交代論、立法過程、国政調査と証人喚問、政治改革、国会と地方議会、政治腐敗、戦争と議会、その他（順不同）。

履修上の留意点

履修の仕方、単位取得方法については開講時に指示する。
できるだけ出席して、講義内容を正確に理解するとともに、周辺の時事問題にも耳を傾けて視野を広げることが望ましい。

教科書

前田英昭『現代政治制度』（高文堂出版社）2,600円

参考書等

- ラスキ（前田英昭訳）『イギリスの議会政治』（日本評論社）
- 前田英昭『イギリス議会政治の研究』（溪林出版社）
- 同 『世界の議会・イギリス編』（ぎょうせい）
- 同 『イギリスの上院改革』（木鐸社）
- 同 『エピソードで綴る国会の100年』（原書房）
- 同 『政治腐敗防止法を考える』（信山社）
- バジヨット『イギリスの議会政治』（中央公論社『世界の名著』60）
- グリフィス、ハートレー（浦田、元山訳）『イギリス憲法』（三省堂）
- 堀江 湛『国会改革の政治学』（PHP 研究所）
- 藤本一美『世界の議会改革』（東信堂）
- 田口富久治、中谷義和『比較政治制度論』（法律文化社）
- 佐藤 功『比較政治制度』（東京大学出版会）
- 野村敬三『比較政治制度』（有信堂）
- 水木惣太郎『議会制度論』（有信堂）
- 辻 清明監修『世界の議会』（全12巻）（ぎょうせい）
- 坪郷 実『統一ドイツのゆくえ』（岩波新書）
- 平島健司『ドイツ現代政治』（東京大学出版会）
- 奥島孝康、中村絃一『フランスの政治』（早稲田大学出版部）
- 桜井陽二『フランス政治体制論』（芦書房）
- デュヴェルジュ（時本義昭訳）『フランス憲法史』（みすず書房）
- 阿部 斎『アメリカの政治』（弘文堂）
- 日本国際交流センター『アメリカの議会・日本の国会』（サイマル出版会）
- 前田英昭『国会の立法活動』（信山社）
- 中村睦男『議員立法の研究』（信山社）
- 比較立法過程研究会『議会における立法過程の比較法的研究』（勁草書房）
- GHQ 正史（前田英昭訳）『国会の民主的改革』（日本図書センター）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-------------------|-----------|-----|
| 行 政 学 | おか だ あきら 岡 田 彰 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

行政学は政治学の中でも新しい分野である。わが国では明治時代にドイツの官房学の紹介として始まった。そして戦後はさらにアメリカ行政学の影響も受けることになる。

行政学と関連する学問は①行政法学（公法）②経営学（組織論）③財政学④政治学が主なものであるが、国によって関連領域への関心も異なる。日本では行政法学の影響が強いが、アメリカではむしろ経営学との関連などに関心が置かれており、それぞれの歴史を反映したものとなっている。行政学は地味なもので、それだけ学生諸君には取りつきにくいように思われるかもしれないが、いずれ社会で活躍すれば、出会う問題でもある。

政治学科

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 行政学の対象と方法
- 2 行政学説史
- 3 アメリカ行政学
- 4 官僚制
- 5 官僚制の生理と病理
- 6 行政統制と行政責任
- 7 内閣制度
- 8 公務員制度

履修上の留意点

遅刻や私語は遠慮して下さい。

教 科 書

森田朗『現代の行政』（放送大学）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|--------------------|-----------|-----|
| 外 交 史 | 前期：石井修 後期：首藤もと子 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

西欧国家体系の成立後、主として19世紀末から20世紀後半の時代を対象に、西欧世界と東アジアで展開した近代外交の特徴とその変容について講義する。その主な目的は当時の外交政策を形成する主体がどのような政治勢力であり、またどのような外交認識をもち、さらにその時代の国際環境が外交政策形成にどのような影響を与えたかを理解することにある。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期（4～7月担当：石井 修）
 (1)19世紀のヨーロッパ外交（ウィーン体制、ビスマルク外交）
 (2)19世紀のアジア・太平洋（清帝国の凋落、欧米植民地帝国主義、日本の台頭）
 (3)第一次大戦の外交、ヴェルサイユ講和
 (4)両大戦間期の外交
 (5)第二次大戦の外交、日米戦争の外交
 後期
 (6)戦間期日本の経済的「南進」（英領マラヤ、蘭領東インド）
 (7)サンフランシスコ講和条約と戦後賠償交渉
 (8)60年安保改定と60年代の日米外交
 (9)日本の援助政策とアジア
 (10)グローバル化とアジアの多国間外交の課題

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教 科 書

石井修『20世紀の国際政治史』（有信堂）2000年4月刊行。

参 考 書 等

池井優『日本外交史概説』（慶応通信）1992年 3,914円。
 杉山伸也他『戦間期東南アジアの経済摩擦』（同文館）1990年 3,600円。
 他に参考書を授業中に指示する。地図のコピー等も配布する予定。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|-----------|-----|
| 国 際 政 治 学 | こ ぼり のり お 小 堀 訓 男 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解することが、本講義のねらいである。

前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに“国際政治の本質”について考察する。つぎに、より理解を深めるために、“国際政治の基調”と題して、国際政治が展開し、現在に至るまでの、各時代の国際政治の基調を、歴史的に概観する。

後期では、“国際政治の問題”と題して、冷戦後の国際政治、ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーと環境問題、国連の使命と限界、地域統合と国家の役割の変化等の、国際政治学が取り組むべき課題を、理論的かつ実証的に解明しながら、受講生と共に考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義のテーマ、内容については予告する。受講生は、必ず予習をして、講義に出ること。基本的な知識については、共通の理解を徹底したいので、全員で討論しながら授業をすすめたい。よって、積極的な参加を求める。

成績評価の方法

1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

教科書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------|-----------|-----|
| 政 治 社 会 学 | なかのゆうじ 中野裕二 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

本講義は政治学の発展段階で目指された「科学化」をキーワードとする。政治学の「科学化」にとって重要な理論家やその理論を検討することで、現代政治学の現状と課題を明確化する。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義は次のような構成となる。

イントロダクション…政治社会学について

第1章 政治社会学の歴史

1. 19世紀以前の政治社会学
2. 19世紀以降の社会学
3. 20世紀の政治社会学

第2章 政治システム

第1節 システムの一般理論

第2節 パーソنز・モデル

1. 行為の一般理論
2. 社会システムと社会
3. 政治的下位システム
4. タルコット・パーソنزの貢献

第3節 イーストン・モデル

1. 環境の中の政治システム
2. インプット-アウトプット分析
3. デビット・イーストンの貢献

第3章 政治的機能

第1節 機能と機能主義

1. 機能概念
2. 機能主義と社会諸科学

第2節 機能主義と政治科学

1. 政治システムの諸能力
2. 変換機能
3. システムの維持・適応機能
4. 機能分析の貢献

第4章 政治的コミュニケーション

第1節 サイバネティクス

第2節 ドイツチュ・モデル

第3節 政治的コミュニケーションの機能

成績評価の方法

年4回の小テストと学年末試験によって評価する。ただし、学生の積極的参加（質問、発言）は別個に高く評価する。

教科書

教科書は用いないが、参考文献は適宜紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------|-----------|-----|
| 政治思想史 | 小林正敏 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

古代から現代に至る東洋的社会と西洋的社会の特質を比較し、なぜ「西洋」において多様な政治学説の発生を見るにいたったかという視点を重視する。また思想家の政治観の根底にある人間観、歴史観のもつ意味も併せて考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

プラトン・アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。前期はほぼN. マキアベリあたりまで、後期はJ. ボーダン以後になると思われる。

成績評価の方法

学年末試験の成績を中心に評価する。

教科書

特定のテキストは用いない。

参考書等

参考書、原典等は、講義の必要に応じて紹介していきたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------|------|-----------|-----|
| マス・コミュニケーション論 | 相田敏彦 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

マス・コミュニケーションの機能、影響について、広い視野から検討する。

講義の内容・授業スケジュール

- 報道と真実
この問題はいろいろな次元で考えられるが、ここでは記号論を援用して、原理的に掘り下げて検討する。
 - アイコン記号について
文字の意味とちがいが、写真の意味（何を表しているか）は習わずしてわかると大抵の人は思うが、果してそうか。映像（テレビなど）についても同じような問題がある。
 - 写真による世論誘導——ケース・スタディ
新聞の写真によって、読者は気づかぬうちに、真実ならざる「真実」を植えつけられ得ることを具体例によって確認する。
 - 表象理論とミメシス理論
写真や映像はそれを見る人にどのような「真実」を伝えるかの理論をまとめとして学ぶ。
- 意識培養分析
〈客観的現実〉は〈シンボリック現実〉を媒介として、どのような〈主観的現実〉として人びとの心に植えつけられるか。
- 意味構築の理論
メディアによる、また、視聴者・読者による意味付与、意味解釈とは何か。
- ヤコブソンのコミュニケーション・モデル
コミュニケーションとは単純に記号による一つの意味の受け渡しだろうか。通常、あまり意識されずに、いくつかの次元で意味の読みとりがなされている。ヤコブソンのモデルは、この問題を系統だてて考えるのに役立つ。

履修上の留意点

マスコミについて授業をききながら、自ら積極的に考える姿勢を強く望みたい。そのため、授業中にこちらから質問を発し、挙手または指名によって回答を求めることがある。

成績評価の方法

前期：レポート
後期：試験

参考書等

リップマン『世論』主として上巻（岩波書店）
田崎馬郎・児島和人（編著）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版）
カラン・グレヴィッチ（編著）『マスメディアと社会』（勁草書房）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|-----------|-----|
| 政治心理学 | かみ じょう すえ お 上 條 末 夫 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

民主政治は「参加の政治」といわれているが、それは国民がどのように政治に参加するかが政治を決定づけることを意味している。換言すれば、国民の政治行動が決め手になる政治であるということである。

本講義においては、国民の政治行動を心理的に分析し、そのあり方を探るのがねらいである。まず政治意識の形成過程とその問題点から始めて、世論の形成とあり方までを対象とする。特に高学歴者および若者の政治行動がガバナビリティを低下せしめ、民主政治を危機的状況に陥らしめる重要な一因となっていることを問題とする。

講義の内容・授業スケジュール

1. 政治心理学の性格と方法（4月）
 - ① 政治心理学の概念と性格
 - ② 政治研究と心理学的アプローチ
 - ③ 社会調査方法と分析手法
2. 政治意識の形成とその構造（5月）
 - ① 政治的社会化
 - ② 政治意識の構造
 - ③ 政治的態度
 - ④ ライフスタイルと政治意識
3. 政治心理の特徴（6月）
 - ① アイデンティティと青年
 - ② 権威主義的パーソナリティ
 - ③ アノミーと疎外
 - ④ 高学歴化と政治的無関心
4. 政治的リーダーシップ（7月）
 - ① 大衆社会と平準化
 - ② 管理社会と平等化
 - ③ 意思と能力のアンバランス
5. 群衆心理と操作（9月）
 - ① 群衆の特徴と心理
 - ② 高度大衆社会と公衆の群衆化
 - ③ 大衆操作の政治的影響
6. 政治宣伝（10月）
 - ① 政治宣伝の歴史と心理戦争
 - ② 政治宣伝の定則
 - ③ 政治宣伝の手段と効果
 - ④ 選挙と政治宣伝の実態
7. 世論の形成とその機能（11月）
 - ① 世論の概念と「世論政治」
 - ② 世論の形成と擬似環境
 - ③ マス・メディアと報道姿勢
 - ④ 世論操作と多数の形成
8. 現代の組織論（12月～1月）
 - ① 大衆心理と組織
 - ② 派閥の社会心理
 - ③ 官僚の心理と官僚政治

成績評価の方法

定期試験の成績およびレポート、出席などによって評価する。

教科書

堀江・富田・上條編著『政治心理学』（北樹出版）2,300円

参考書等

その都度指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------|----------------------|-----------|-----|
| ヨーロッパ政治史 | うら た き なえ 浦 田 早 苗 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかにし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること及び、現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

講義の内容・授業スケジュール

- 近代の始点—ルネサンス期と18世紀
- 英国革命とIRA
- ジャコバイトと英国王室
- 議院内閣制の成立変遷過程
- 英国における政治腐敗防止過程
- フランス革命と国家の概念
- フランス政治におけるジャコバン主義
- 「後発国型近代化」の問題点—ドイツの場合—
- 統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート—7～8×400字—は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------------|-----------|-----|
| 環 境 政 策 | よこ 横 田 匡 紀 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

ダイオキシン、地球温暖化問題の登場など現代の環境問題はその課題が多様化、複雑化、グローバル化している。この講義では、そうした環境政策形成と執行がどのような仕組みやプロセスによって成立しているのかに着目する。講義では我が国を含む各国の環境政策についての国際比較を行うことにより、政策に関与するアクターは誰か、アクター間の関係はどのようになっているか、環境政策の構造や制度の共通点や相違点は何かを明らかにし、理解を深めることに主眼を置く。

講義の内容・
授業スケジュール

講義では次の3点についてとりあげる。第一は、環境政策の変遷、成果と課題である。具体的には、公害問題から地球環境問題、貿易と環境など環境政策の対象となる問題と実際の対応について通事的に瞥見することで、対象が多様化、複雑化、グローバル化している様相を明らかにする。第二は、環境政策形成と執行における国内の制度的基盤である。具体的には、国際比較の観点から、行政、立法、司法の各々が環境政策の形成と執行において果たした役割や機能、各々の関係はどのようになっているのかをとりあげる。また行政に関しては、中央政府だけではなく、自治体の役割についてもとりあげる。第三は、企業、NGO についてである。具体的には、環境政策形成と執行における企業、NGO といった市場セクター、市民社会セクター組織の役割や機能について、行政、立法、司法とどのような関係にあるのか、各国間でどのような相違があるのかを念頭に置きつつとりあげる。以上の3点を講義するにあたっては、日本、アメリカなどの各国の環境政策の具体的事例をとりあげつつ国際比較をする。また余裕があれば、国際機関などの国際レベルの政策についてもとりあげる。

履修上の留意点

講義中は私語厳禁とする。

成績評価の方法

レポート、試験などにより総合的に評価する。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。

参 考 書 等

講義の中で指示する。

そ の 他

OHP の使用を予定している。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------|-----------|----|
| 行政法各論 | しお いら 塩 入 み ほ も | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

行政救済法（争訟法）に関する各論を講義する。総論とは異なり、単に制度の仕組みに関する一般的説明に留まるものではなく、現実社会において「国家-国民」の法関係に生ずる様々な具体的問題を取り上げ、行政救済制度の実効的機能を理論及び実践の両面から解説していく。したがって、この行政法各論においては、通説だけでなく、有力説や少数説の論理についても幅広く言及していくつもりである。また判例についても、従来の確定的先例に捕らわれず、下級審判例を含めた最新の動向を取り上げる。

講義の内容・授業スケジュール

大まかな内容としては、一に、行政不服審査制度について、二に、行政訴訟制度について、三に、国家賠償制度について、順次講義を行なっていく。具体的には、まず各々の行政救済制度上の諸概念や一般的な仕組み、またそれぞれの法制度の関係を解説し、次いで主要論点ごとの詳細な議論と諸問題を、主として判例及び学説を多く取り上げることによって、整理していく。論点としては、従来の定番の問題だけでなく、行政争訟法の現代的課題として判例及び学説理論の発展的形が執拗に要請されている、環境訴訟や消費者訴訟などの第三者保護問題や、今後益々重要性を増してくる情報公開請求訴訟について、とくに重点を置いて講義していく予定である。

履修上の留意点

原則的には、行政法総論を前年度において履修し、行政法の基礎知識を既に修得している者であることが望ましい。但し、講義はまず最初に、総論の復習として行政救済制度の仕組みに関する一般的説明から入る予定であるので、努力次第では総論と同時進行で学修することも不可能ではない。

成績評価の方法

成績評価は、基本的には学期末試験の結果を基準とするが、不定期に確認する出欠の状況もまた一判断材料とする。

教科書

基本的に使用しない。

参考書等

最初の講義の際に紹介する。

その他

授業は通常の講義形式で行なう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------------|-----------|-----|
| 地方自治法 | とみ い ゆき お 富 井 幸 雄 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをかみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎回レジメを配布し、それに沿って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験（40％）と学年末試験（60％）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教科書

南博方他『行政法(3) (第3版)』(有斐閣双書) 1,800円

参考書等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』(学陽書房)、『地方自治判例百選 (第2版)』(別冊ジュリスト)

なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』(良書普及会)は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方分権』(岩波書店)、同他『概説日本の地方自治』(東京大学出版会)は必読。

その他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法（『地方自治小六法』(学陽書房)があるがポケット六法でよい。）は必携。その都度チェックすること。平成12年度には地方自治法の大規模な改正があるので、必ず平成12年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---|-----------|-----|
| 国際関係論 | 前期：南 ^{みなみ} 山 ^{やま} 淳 ^{あつし} 後期：首 ^{しゅ} 藤 ^{とう} 素 ^{もと} 子 ^こ | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

現代の国際関係の理論と現状の課題について、知識と理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

次の項目をほぼ2週分の授業を割当てながら進める予定である。

前期（4～7月まで担当：南山 淳）

1. 国際政治理論の展開(1)現実主義
2. 国際政治理論の展開(2)自由主義
3. 国際政治理論の展開(3)マルクス主義
4. 国際政治理論の展開(4)冷戦後の国際政治理論
5. 冷戦後の安全保障研究
6. 国連システムの変遷と冷戦後の地域紛争
7. 経済のグローバル化と国際政治経済学

後期

8. 国連の開発戦略と南北格差の問題
近代化理論の変遷と従属論の影響
世銀・IMFの機能と問題
9. 国際政治と人権保障の制度化
人権保障の法的枠組みの展開と課題
人権 NGO と国際社会
10. 1970年代以降の経済のグローバル化
政策協調と国際交渉の多様化
Global Governance の課題
11. 地球環境と国際関係の課題
地球環境問題の現状と政策的対応
「発展の権利」と「持続可能な発展」
12. グローバル化と国家主権の変容

成績評価の方法

定期試験により評価する。

参考書等

- ・PR.ビオティ・M.V.カピ著（D.J.ウェッセルズ・石坂菜穂子訳）
『国際関係論 第二版－現実主義・多元主義・グローバリズム』（彩流社）1993年
- ・原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣）1996年
とくに毎時間使用するわけではないが、次の文献を入手し、授業に関連する項目を各自で勉強しつつ、授業に出席することをすすめる。
- 細谷千博監修、横山・野林編『国際政治の21世紀像』（有信堂）1992年（第2版）2,987円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------|-----------|-----|
| 比 較 政 治 学 | いわさきまさひろ 岩崎正洋 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

この科目で取り扱うテーマは、現代世界の民主主義国の政治に関する問題を、現代の比較政治学の理論の観点から検討することである。科目名は、「比較政治学」であるが、広義に捉えれば、「現代政治分析論」ということもできよう。

本講義では、比較政治学の基本的な理論の検討を通して、「比較政治学は現実政治を考える上でどのように役立つのか」という点を考える。比較政治学が研究対象とするのは、世界のあらゆる国々である。それ故、焦点を向けるのは、先進諸国だけではなく、また発展途上国だけだということでもない。先進国同士を比較することもあれば、発展途上国同士を比較することもある。さらには、先進国と発展途上国との比較を行うこともある。

本講義では、各国の政治現象を説明するさまざまな議論に言及し、現実政治の理解と政治理論の理解との間を架橋することを目的とする。この講義でとり上げる比較政治学の諸理論は、各国の政治の類似点や相違点を明らかにするための視点を提供することになるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような項目に従って、比較政治学の理論を広範に見渡し、現実政治が政治理論によってどのように説明され、捉えられているのかを明らかにする。それにより、現実政治と政治理論との間の橋渡しを行うこととする。

- I 比較政治学の課題と方法
- II 政治システム
- III 政治発展
- IV 政治文化
- V 政治体制
- VI 連立政権
- VII コーポラティズム
- VIII 福祉国家
- IX 民主化
- X 政党システム

なお内容・スケジュールについては、現実政治の変動を受けて、若干変更することもあるので、その点に留意されたい。

履修上の留意点

この科目のみが学部内の政治学に関連する科目として独立して存在するのではないため、関連分野の他の科目と併せて履修することが望ましい。

しかし、本講義のテーマに関心をもつ者が初学者であったとしても、何ら履修上の差し支えはない。受講者の知識の習得と理解の増進に役立つような授業展開としたい。

日常生活や研究においても、この科目に関連する情報を、新聞や雑誌、ニュース、インターネットを通じて収集し、理解増進に役立てられたい(例えば、各国の選挙結果についてのデータ・アーカイブや政党や政府のホームページなど)。

成績評価の方法

原則として、定期試験およびレポートの評価を総合して行う。前期もしくは後期のいずれかを試験とし、もう一方の学期をレポートとするような形態を考えている。

ただし履修者の数などにより、その方式に変更がありえることを念頭に置かれたい。

教科書

- * 岩崎正洋他編『民主主義の国際比較』(一藝社) 1999年
- * 岩崎正洋『政党システムの理論』(東海大学出版会) 1999年

参考書等

講義の際に詳細な文献目録を提示するが、さしあたり、以下に挙げる書物は、比較政治学について考える際に役立つだろう。

- * M. ドガン & D. ベラッシー / 櫻井陽二訳『比較政治社会学』(芦書房) 1983年
- * 西川知一編『比較政治の分析枠組』(ミネルヴァ書房) 1986年
- * H. J. ウィアールダ編 / 大木啓介他訳『比較政治学の新動向』(東信堂) 1988年
- * 砂田一郎・藪野祐三編『比較政治学の理論』(東海大学出版会) 1990年
- * 青木一能・野口忠彦・岩崎正洋編『比較政治学の視座』(新評論) 1998年
- * Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Politics and Society in Western Europe*, 3rd ed., Sage, 1994.
- * Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Comparative Politics: An Introduction and New Approach*, Polity Press, 1994.

その他

基本的に講義中心とする。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------------|-----------|----|
| 外交政策論 | こほりのけお 小堀訓男 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

国家の外交政策が、いかなる過程で、決定されるのかを、理解することが本講のねらいである。国家の外交政策を研究するとき、二つの側面から、考える必要がある。第一の側面は、政策決定をおこなうシステムを考えるべきである。政策決定のシステムと決定の過程は、国家によって大きく異なる。本講では、日本と米国の決定のシステムを分析・比較しながら、両国の決定過程を考察する。第二の側面として、取りあげなくてはならないのは、いかなる国家にも普遍的に認められる、本質論である。つまり、政策決定者と国民との関係である。政府決定者の身勝手さと、それに不満をもちながらも、許してしまう国民の許容範囲との関係には、どのような原則があるのだろうか。本講では、国家の枠組のなかに成立する、階級意識と民族意識（または、国家の一員としての国民意識）との関係から、国家の意思決定の原則を考察する。

履修上の留意点

政治学の基礎知識を整理しておくこと。殊に、国家、民族、階級についての予備知識を必要とする。講義を聞いたら質問をして欲しい。正確な理解のためには、質問をし、討論することが大切であると思っている。

成績評価の方法

成績の評価基準や答案作成上の注意は、定期試験直前の授業で説明する。

教科書

特に使用しない。

参考書等

必要に応じて講義のなかで紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|-----------|-----|
| 国 際 行 政 学 | ふく だ こう じ 治 福 田 耕 治 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

近年、経済のグローバル化に伴い、国や地方行政の「国際化」への対応が要請されている。国際機関の行政は、これにどのように関わっているのでしょうか。国民国家の枠を超える行政現象に注目し、国際機構内部の行政管理、国際行政と国内行政の関係、国際公共政策の管理や国境を越える政府間関係をめぐる諸問題を扱う「国際行政学」という新しい学問分野が拓けてきた。国際機関の行政は、その加盟国の中央行政や地方行政とどのような関係を持ち、いかにして国際政策を形成し、実施していくのか。国際行政学は、このようなグローバルな視点、人類共通の利益（国際公益）の実現という観点に立って、国際社会に貢献することを目的とする実施的性格をもった新しい研究領域である。

講義の際に、年間講義計画とレジュメ、資料等を順次配布するのでファイルして学修に役立ててもらいたい。また OA 機器、視聴覚教材なども利用し、受講者数なども考慮して可能であればシュミレーション・ゲーミングやパネル・ディスカッションなどの方式も取り入れてみたい。学生諸君の積極的な参加を希望する。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 「国際行政学の対象と方法」
- 2 「国際行政の歴史と国際行政学の研究」(国際行政思想史・国際行政史・国際行政理論)
- 3 「国際機構の人事行政と国際公務員制度」(国際人事行政管理論)
- 4 「国際機構の財源調達と財務行政」(国際財務行政管理論)
- 5 「国際公共政策過程と政策科学」(国際公共政策過程論)
- 6 「国際官僚制と国家官僚制の連繫制度」(国際行政と国内行政の行政組織関係論)
- 7 「国際協力行政と国境を越える政府間関係」(国際協力行政・政府間関係論)
- 8 「国際行政統制、国際行政情報論、国際オンブズマン制度論」(国際行政統制論)
- 9 「国際機構の行財政改革と加盟国行財政」(国際行財政改革論)
- 10 「国際行政学の課題」

成績評価の方法

前期・後期の試験による。

参考書等

拙著『国際行政学』(近刊)
 拙著『現代行政と国際化－国際行政学への序説(第二版)』(成文堂)、『EC 行政構造と政策過程』(成文堂)、その他の参考文献は、講義のなかで適宜紹介し、資料等は必要に応じ、プリントして配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|---------------------|-----------|----|
| 国際組織論 | やま 村 恒 雄 山 村 恒 雄 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

近年、国際社会が相互依存の度合いを強め国家間の緊密化を深めるにつれ、国際組織の果たす役割が急激に増大してきた。実際、国連、ユネスコ、WTO、EUなど、新聞紙上で国際組織の名前を目にしない日はないといっても言い過ぎではない。授業では、国連をはじめとする国際組織の種類や活動の内容について学修し、国際組織がいかなる役割を果たしており、又、どのような役割を果たし得るかを考察する。

講義の内容・授業スケジュール

主として次の内容につき講義するが、詳しい授業のスケジュール表は、第1回目の授業の際に配布する。

- 1 イントロダクション
- 2 国際組織の内部組織
- 3 国際組織の対外関係
- 4 国際組織の活動分野
- 5 地域的な国際組織
- 6 国際組織と日本

履修上の留意点

この授業はさまざまな国際組織について「丸暗記」してもらうことを目的とするものではない。激動する国際社会において国際組織が果たす可能性と限界について各自が考えることができる基礎を提供するので、出席者のひとりひとりが、自分の意見を形成することを期待する。「考える」ことを厭わない人の受講を歓迎する。

成績評価の方法

レポートと学期末試験による。評価基準については、別途配布する。なお、レポート未提出者は、学期末試験の受験資格を失うので注意すること。

教科書

横田洋三編著『国際機構論』補訂版（国際書院）価格3,200円＋税

参考書等

授業中、随時指定。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|-----------|-----|
| 情 報 社 会 論 | あい だ とし ひこ 相 田 敏 彦 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

いまやすっかり日常語になっている「情報(化)社会」、「情報」の観念・概念に関する的確かつ批判的な把握をめざす。そのために、相互に密接に関連する「情報」、「記号」、「コミュニケーション」などの概念を掘り下げて検討する。また、さまざまな情報メディア(機器)による媒介的(mediated)関係性という、情報社会の基本的特性について論じる。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 情報論
通信理論における情報概念は、日常の用語法とはかなり異なる。そこでは情報は確率的な量として定義される。
2. 記号論
ことばや映像はいうまでもなく、世の中の森羅万象が記号たり得るとというのが、現代記号論の基本的視角の一つである。常識的な記号の考え方をくつがえすこの視角について述べ、記号論の基本的タームにも言及する。
3. コミュニケーション論
やはり 通常いだかれていたコミュニケーションの考え方を抜本的に検討・批判する。G.H.ミードの理論にもふれたい。
4. 媒介的関係性
情報社会の基本的特性は、さまざまな情報メディア(機器)によって媒介された(mediated)関係性・コミュニケーションである。媒介的関係性・コミュニケーションについて論じ、その歴史的展開をふりかえり、さらに、現代情報社会における新たなメディア機器が、通常のコミュニケーションについての観念自体の変容をうみだしていることも指摘する。

履修上の留意点

講義は抽象度の高い内容であり、全体を通しての教科書は使わないので、毎回の出席と講義内容への精神集中が特に強く必要とされる授業である。それなしには成績はおぼつかないことはいうまでもない。

成績評価の方法

課題レポートと学年末試験の予定だが、受講者の人数により、最終的に決定したい。

教 科 書

一貫して使うものはない。

参 考 書 等

児島和人(編著)『講座社会学8. 社会情報』(東京大学出版会)
竹内郁郎他(編著)『メディア・コミュニケーション論』(北樹出版)
その他、授業中に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|-----------|-----|
| 議 会 関 係 法 | まえ だ ひて あき 前 田 英 昭 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

今年度は選挙法を中心に取り上げる。

選挙は、民主政治の基盤をなすものであり、民主政治の健全な発達を期するためには選挙が公明かつ適正に行われなければならない。選挙を公明かつ適正に行うためには、その根幹をなす公職選挙法や政治資金規正法や政党助成法などの規定を国民すべてが十分理解することが最も重要なことである。

衆議院選挙制度に関しては、賛否の議論の末、小選挙区比例代表並立制が導入され、1996年秋、改正法に基づく初めての総選挙が実施されたところであり、今年も総選挙が予想される。このような情勢を踏まえて、制度改革に民間政治臨調の委員として参画した経験をまじえながら、全学開講科目として、多くの学生にわかりやすく選挙法の趣旨を講義することとし、今年度から新たに「議会関係法」をスタートさせる。

講義の内容・
授業スケジュール

1 選挙制度改革の理由、2 選挙権と被選挙権、3 小選挙区比例代表並立制の内容、4 政党・政策本位の選挙、5 供託金、6 重複立候補、7 選挙運動期間、8 戸別訪問、9 連呼行為などの選挙運動、10新聞・放送による選挙運動、11選挙運動費用、12選挙運動・政治活動・選挙広告、13選挙違反と連座制、14選挙犯罪、15公務員の地位利用、16政治資金、17団体・個人の寄付制限、18政党交付金とその用途など。

履修上の留意点

できるだけ出席受講すること。

成績評価の方法

期末テスト、レポート、平常点の総合評価。

参 考 書 等

前田英昭監修『明解選挙法・政治資金法の手引』（新日本法規出版）

前田英昭『政治腐敗防止法を考える』（信山社）

その他各種の選挙法に関する解説書

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|-----------|-----|
| 政 治 過 程 論 | はや かわ よし き 早 川 純 貴 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

平成12年度の政治過程論は「現代日本の政治過程」をテーマに、現代日本政治の諸側面を考察する。現在、日本の政党や官僚機構は大きな変革期を迎え、激しく変わろうとしている。政界再編、官庁再編の渦のなかで政治構造はどのように変化していくのだろうか。前期は80年代以降の日本政治の流れを概観する。後期はいくつかの周知の政策決定をとりあげ、その中に含まれる政治構造の特質を論じる。

講義の内容・授業スケジュール

- 《前期》現代日本政治の外観
 序 ◆行動論政治学について
 ◆影響力理論と権力構造
 ◆日本政治におけるアクターとアリーナの検討
- 1 80年代の日本政治
 - 1) イデオロギーの変化
 - 2) 自民党の変化／官僚の変化
 - 3) 国民の意識変化／選挙動向
 - 2 行政改革のインパクト
 - 1) 民営化と規制緩和／経済構造の変化
 - 2) 政策形成と利益配分をめぐる新たな対抗関係
 - 3) 労働勢力の再編
 - 3 90年代の日本政治
 - 1) 冷戦構造の崩壊と湾岸戦争
 - 2) 自民党政権の崩壊と政界再編
 - 3) 政治改革
- 《後期》ケーススタディによる政治構造分析
 序 ◆理論的検討
 ①多元主義モデルからのアプローチ
 ②ステイティスト・モデル／新制度論からのアプローチ
- 【80年代の政策事例】
- 1 電電公社民営化をめぐる政治過程
 - 2 社会保障制度の改革と厚生省
 - 3 消費税導入をめぐる政治過程
- 【90年代の政策事例】
- 1 選挙制度改革
 - 2 住専処理と大蔵省

履修上の留意点

当講義は政治学科の専門科目であり、日本政治の具体的問題を理論的検討を加えつつ取り扱う。学生諸君は一定の政治学の知識と日本政治への関心を有し、かつ継続的に出席しない限り、講義内容の十分な理解は困難である。特に80-90年代の具体的政治過程については、学生自身の事前の学習を強く求めたい。

成績評価の方法

成績は中間試験と定期試験の結果をもとに判定する。また随時出席をとる。

教 科 書

教科書は使用しない。参考書は講義の際に随時紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------|-----------|----|
| 現代国家論 | おお つか かつら 大 塚 桂 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

福祉国家の見直しが叫ばれて久しい状況にあります。大国・日本丸はどこへすすもうとしているのでしょうか。ありうべき国家とは何か、が現代政治学において重要課題とされています。本講義は、諸君がいままで履修してきた政治学、憲法学などの学科目の知識をふまえて、現代国家の実相にせまるのを目的とします。

さしあたって、現代国家を理解するには、国家概念の展開を理論(史)的に整理することからはじめるのが、ベターでしょう。政治学の発達を顧みたとき、政治学=国家論であったことがわかります。講義では、隣接科目(憲法・行政法・政治制度・政治思想史・政治史・行政学)の研究成果を積極的にとりいれながら「国家」の問題を討究していきます。国家論は総合科学としての性格を有するからです。

講義の内容・授業スケジュール

- A 国家論の課題ならびに研究方法
 ①序論 ②官立アカデミズムの形成
 B 国家学説の史的展開
 ①古代国家学説 ②中世国家学説 ③近代国家学説 ④現代国家学説
 C 法治国家の構成原理
 ①法治国家論 ②政治制度 ③官僚制 ④国家緊急権
 D 行政国家の構成原理
 ①福祉国家論 ②ネオ・コーポラティズム ③シティズンシップ ④きたるべき国家像

成績評価の方法

受講生と相談の上で、以下のいずれかの方式によって単位を認定します。

- A方式(レポートによる単位認定)
 ~年4回の課題を提出してもらい成績を評価します。レポート作成を通して、読解力と書く能力を涵養します。
 B方式(試験による単位認定)
 ~ペーパーテスト(中間・期末)による評価です。
 C方式(AとBの折衷)
 ※ なお、B方式のみ追・再試験を実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂)3,000円

その他

私の研究室は、第2研究館8階(2835)にあります。電話は、3418-9377(直)です。質問など気軽に訪問してください。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------------|----------|----|
| 社会学原理 | わた なべ ちと き 渡 辺 源 樹 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会学的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 社会学とは何か 社会的事実／実証性 “予期せんがために見る”／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為 なぜ“action”からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程 人間の行為は“inter”して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準 1、役割の取得－社会化 フロイドとパーソンズの“社会化の過程”を中心に
- 第5回 2、役割の準拠－準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
- 第6回 3、役割の葛藤／マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為 1、規範と同調－逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
- 第8回 2、ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論 マクロ社会学とマイクロ社会学
- 第10回 社会集団 1、社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
- 第11回 2、集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGIL 図式)
- 第12回 3、地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第13回 4、集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM 理論とリーダーシップ
- 第14回 5、集団の凝集性・モラル 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラル
- 第15回 集団・文化・パーソナリティ
- 第16回 組織論と官僚制 1、組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第17回 2、官僚制組織の基本原則 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原則 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3、官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移”／ホーソン実験／ゲールドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識 1、社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第20回 2、ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3、社会的性格 i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- 第22回 ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第23回 4、社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成 1、経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
- 第25回 2、政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化 3、法と社会…法と法社会学／法の機能／規範 4、教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の一貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験とレポートによる。

教科書

開講時に提示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------|----------|-----|
| 比較社会論 | なかのゆうじ 中野裕二 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

グローバル化の進展とともに社会の多文化化も進展している。多文化社会化の過程で、移民や外国人労働者の抱える問題や困難に関する報告も行われている。それでは、多文化化した社会は、この多文化状況にどのように対応しているのか。その対応の一つの方向性が「多文化主義」である。実際、数多くの先進諸国で「多文化主義」が議論されるようになった。しかし、そこで語られる「多文化主義」とは何か？そこで語られる「多文化主義」は同じなのか？違うとすれば、どのように違うのか？

以上のような問題関心に立つ本講義のテーマは「比較多文化主義論」である。

講義の内容・授業スケジュール

本講義の構成は以下のようになる。

- 序章 比較社会論とは何か？
- 第I部 多文化主義の概念
 - 第1章 国民国家と多文化主義
 - 第2章 「多文化主義」をめぐる論争点
- 第II部 多文化主義の「先進国」
 - 第3章 カナダ
 - 第4章 オーストラリア
- 第III部 その他の国々における「多文化主義」
 - 第5章 アメリカ
 - 第6章 イギリス
 - 第7章 スイス、オランダ、ベルギー
 - 第8章 ドイツ、フランス
- 終章 日本の多文化主義？

成績評価の方法

年4回の小テスト、学年末試験を総合的に判断する。ただし、学生の積極的参加(質問、意見)は別個に高く評価する。

教科書

教科書は用いないが、参考文献は適宜紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|-------------------|-----------|----|
| 財政学 | さとなか つねし 里中 恆志 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

経済生活の中で公共部門の占める比重は確実に増加しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこでは市場経済原理の私経済とは異なる原理が作用する。公経済は租税徴収等による資金調達と、それをとおしての財政支出によらねば需要を充足できない経済領域である。したがって租税負担配分の方式、財政支出基準の考え方を問題にする。経済社会の変遷につれて負担の方式や支出基準についての考え方も変化する。そして公経済の比重が高まるにつれて、公経済と私経済の相互のかかわりもますます重要になる。

国民が財政意志の形成に参加する方法は民主主義の手続きをとおしてであるから、有効な財政政策の実現のためには、国民が財政をコントロールするルールと、その背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。国民はまた財政政策に対する基礎的な判断基準をもっていないなければならない。このような観点から財政意志の形成過程、租税徴収による負担の配分、歳出の効率と合理性、財政の総需要管理政策について講ずる。

講義の進め方はまず財政意志の形成過程では予算の編成手続きの理解から入る。歳入面については租税収入を主要税種別に扱い、つぎに歳出面について主要経費別の考察を進める。さらに公経済の私経済のかかわりについて総需要管理政策を講ずる。

講義の内容・授業スケジュール

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明 (第2週) 公共財と公共部門 (第3週) 財政の歴史概略 (第4週) 予算編成と主計局の査定 (第5週) 予算編成と政党政治 (第6週) 予算政策案と議会審議 (第7週) 予算の執行と競争入札 (第8週) 予算の政治過程 (第9週) 租税原則学説 (第10週) 給与所得税と課税の普遍性 (第11週) 申告所得税と累進課税 (第12週) 法人税と徴税技術 (第13週) 国際化と移転価格税制 (第14週) 一般消費税と付加価値 (第15週) 地方税と地方歳出 (第16週) 地方財政費と財政調整の制度 (第17週) 機関費と純粋公共財 (第18週) 公共事業費と費用=便益分析 (第19週) 公共事業費と公共財産の形成 (第20週) 社会保障関係費と所得再分配 (第21週) 補助金とスピルオーバー (第22週) 公債費と公債負担 (第23週) 総需要管理政策と国民所得の決定 (第24週) 課税乗数と均衡予算定理 (第25週) 公債による財源調達と債権価格 (第26週) 大量国債の累積とその限界 (第27週) 財政金融政策と国債収支 (第28週) 財政投融资と政府貯蓄 (第29週) 試験と評価についての説明 (第30週) 試験

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

履修上の留意点

法学部には関連科目として経済学分野の「経済原論」及び「経済政策」の講義が設けられている。「財政学」は経済と政治の学際的な分野の科目であるから、こうした関連科目を履修することが望ましい。他学部履修の制度も活用が望まれる。

成績評価の方法

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。自筆のノート持ち込み可。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

大蔵省大臣官房調査企画課長編『図説日本の財政』各年度版(東洋経済新報社)
野口悠紀雄 著『公共政策』モダン・エコノミックス12(岩波書店) 2,000円
中谷巖 著『入門マクロ経済学』(日本評論社) 3,300円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|-----------|----|
| 国際経済学 | 徳永俊明 | 政治2・3・4選必 | 4 |

講義のねらい

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけでもありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えになりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして、“社会主義”経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう1本の命綱としていることが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基本的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

講義の内容・
授業スケジュール

〈講義テーマ(予定)〉

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日＝第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱を一つずつ検討します。

前期——世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期——今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済
貿易・国際通貨制度・資本輸出——〔援助〕と多国籍企業・〈南北問題〉と新国際経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

成績評価の方法

成績は世界経済の基本事項、世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート(3回予定)および学年末レポートで評価します。(追・再試験は行ないません。)

参考書等

講義の中で適宜紹介する。

その他

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄って下さい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------------|----------|-----|
| 経 済 原 論 | あさの 浅野 かつみ 克巳 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

現実の経済の動きを念頭におきながら、現代経済学の基礎理論を以下の順序で解説する。なお、公務員試験（其他国家試験）の受験対策として必要に応じ問題練習も行うので、下記の問題集も用意されたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- I マクロ経済学の理論
 - 1. 経済循環と国民所得の概念
 - 2. 国民所得の決定
 - 3. 経済の変動と成長
 - 4. 賃金・物価・インフレーション
- II ミクロ経済学の理論
 - 1. 消費者行動の理論
 - 2. 企業行動の理論
 - 3. 市場と価格決定
 - 4. 市場と企業
- III 公共政策
- IV 国際経済学

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス改訂版』（成蹊堂）1995年

参 考 書 等

青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1996年

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------------------|----------|----|
| 日本法制史 | しげの たか はる 茂野隆晴 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

どんな学問にも史学がある。法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史である。日本法制史は、「日本国民の法律生活の歴史的考察」である。それ故、法制史は過去の制定法規を羅列し、その解釈にのみ留まるものではなく、その法の発生した社会的背景をさぐらなくてはならないのである。

講義では、そうした観点に立ち、国初から近代までの5期に分ち、主な法制を中心に取り上げ、各期の法の特性をできるだけ平易に講述していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 日本法制史とその時代区分
- 2 国生みの神話ほか
- 3 『魏志』倭人伝ほか
- 4 冠位十二階と憲法十七条
- 5 律令の刑罰体系と司法制度
- 6 律令の「戸令」
- 7 三世一身法と墾田永年私財法
- 8 御成敗式目
- 9 甲州法度之次第（信玄家法）
- 10 武家諸法度
- 11 五人組帳
- 12 公事方御定書
- 13 田畑永代売買禁止令と分地制限令
- 14 慶安の御触書
- 15 奉公年季の規制
- 16 商家の財産相続
- 17 荻生徂徠の『政談』
- 18 大名貸と御用金
- 19 相对済し令・本公事と金公事・棄捐令
- 20 出奔・欠落・勘当・旧離のことなど
- 21 去状（三下り半）
- 22 大津事件
- 23 登極令ほか
- 24 明治民法総則・親族・相続

履修上の留意点

めいめいには少しだけの私語かも知れないが大きな教室では騒音と化す。そうしたなかでは細やかな授業は不可能です。特に留意してもらいたい点である。

成績評価の方法

学年末の試験に平常点として出席点を加味して行なう。

教科書

大久保治男・茂野隆晴〔編著〕『日本法制史史料60選』（芦書房）本体2,300円

参考書等

大久保治男・茂野隆晴〔共著〕『日本法制史』（高文堂出版社）2,980円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------|----------|-----|
| 西 洋 法 制 史 | きたの 北 野 かほる | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。イギリスの法制度の歴史を、特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会、政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)

教科書

特に指定しない。

参考書等

年度当初に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-------------------------------|----------|-----|
| 経済政策 | もり 森 おが 岡 じん 仁 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

経済学の実践部門としての経済政策が自由主義経済に成立した過程と、そこではたす役割を明らかにする。人口高齢化や少子化の経済的帰結にも言及し、最後に高齢化社会における経済政策と人口政策の関係を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

I 現代経済と経済政策 II 経済政策学の発展 III 現代経済政策の課題
IV 経済の成長政策 V 経済の安定政策 VI 産業組織政策 VII 社会均衡化政策
VIII 経済政策と人口政策

履修上の留意点

日常生活に生起する経済問題に日頃から関心を抱き、自分達の身の回りにある経済問題の解決手段として経済政策を考え、学ぶことが大切である。

成績評価の方法

学年末の定期試験、授業の出席状況

教科書

森岡他著『現代経済政策』（千倉書房）1975年

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|--------------------------------|----------|-----|
| 社会政策 | はま 浜 むら 村 あきら 彰 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義の内容・授業スケジュール

本年度の社会政策は、社会政策の総論として社会政策学の生成と発展に関する学説的分析を行い、それを前提として現代社会政策の主要課題を具体的に設定して順次講義を進めることにする。特に日本の雇用慣行や労使関係に関するこれまでの研究成果をくみ上げながら、最新の統計調査データを用いてわかりやすく講義することに努めたい。主要な項目は以下のとおりであり、労使関係にとどまらず、女性・家庭問題や高齢化と社会福祉政策などの様々な項目を取り上げて、現代社会政策の今日的課題を論ずることとする。

- 第1 社会政策総論－社会政策の目的と領域
- 第2 現代社会政策の主要課題
- 第3 日本の雇用慣行とその変容
- 第4 長期雇用慣行と最近の雇用管理政策
- 第5 年功賃金と業績・成果主義
- 第6 企業別組合と日本の労使関係
- 第7 労働市場と雇用政策
- 第8 労働政策と労働条件規制
- 第9 女性労働
- 第10 健康と医療政策
- 第11 家庭と教育政策
- 第12 高齢化と社会福祉政策

教科書

講義開講時に指定する。

参考書等

授業中に配布するプリント。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------------|----------|-----|
| 比 較 憲 法 | さいとう ひさし 斉 藤 寿 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

人権保障制度、国会制度、内閣制度、自治制度、財政制度など、各国の憲法制度について興味深い講義を続けながら、楽しく研究します。また、西欧主要諸国の憲法にとどまらず、アジア・アフリカ諸国や中南米諸国の憲法にもふれ、その特色を楽しく研究します。これらの講義は、1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回 イギリス憲法は、どのように歩んできたか。
- 第2回 アメリカ憲法は、どのように歩んできたか。
- 第3回 フランス憲法は、どのように歩んできたか。
- 第4回 ドイツ憲法は、どのように歩んできたか。
- 第5回 東ヨーロッパ憲法は、どのように歩んできたか。
- 第6回 中国憲法は、どのように歩んできたか。
- 第7回 発展途上国憲法（アジア・アフリカ・中南米諸国憲法）は、どのように歩んできたか。
- 第8回 世界各国の憲法は、どのような類型化が可能か。また、その特質は何か。
- 第9回 君主国憲法（イギリス・ベルギー・デンマーク憲法）の憲法上の特質は何か。
- 第10回 共和国憲法（アメリカ・フランス・ドイツ・イタリア・スイス憲法）の憲法上の特質は何か。
- 第11回 ロシア・中国憲法の憲法上の特質は何か。
- 第12回 発展途上国憲法の憲法上の特質は何か。
- 第13回 これまで（第1回～第12回）の review。
- 第14回 世界各国憲法の人権保障制度は、どのようにになっているか。また、その科学的な比較研究の方法について。
- 第15回 世界各国憲法の平等権保障について。
- 第16回 世界各国憲法の自由権保障について。
- 第17回 世界各国憲法の人身保護権保障について。
- 第18回 世界各国憲法の救済権保障について。
- 第19回 世界各国憲法の参政権保障について。
- 第20回 世界各国憲法の社会権保障について。
- 第21回 世界各国憲法の統治制度は、どのようにになっているか。また、その科学的な比較研究の方法について。
- 第22回 世界各国憲法の国会制度について。
- 第23回 世界各国憲法の議院内閣制度について。
- 第24回 世界各国憲法の大統領制度について。
- 第25回 世界各国憲法の司法制度について。
- 第26回 世界各国憲法の自治制度について。
- 第27回 現代世界諸国の憲法上、人権保障制度と統治制度は、どのように運用されているか。また、今後は、どのように運用されるべきか。
- 第28回 これまで（第14回～第27回）の review。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「比較憲法」を楽しく研究してみませんか。— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送ります。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合せて、学年の成績とします。

教科書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|------------------------------------|----------|----|
| 刑法 | まつ 村 格 <small>まつ むら いたる</small> | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

刑法（刑罰法規）は、歴史的には支配者が市民を抑圧する最強の手段として長い間悪用されてきたし、近年に入ってからファシストたちから悪用された。今日、刑法は、市民の自由と権利を保障する機能をもつものとして把握されなければならない。そのためにも、刑罰権の発動と処罰の範囲をできる限り制限する理論操作が必要である。法益保護と人権保障の両方を考えながら刑法理論を構築しなければならない。授業では、刑法総論を中心に講義していくが、もちろん、刑法各論とのかわりを無視することなく具体的な事例を参考にしながら刑法総論を学ぶことによって、刑法学の全体像を理解できるようにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期

- 第1回（刑法システムとその余のシステムとの関係および刑法システムと隣接領域システムとの関係）
- 第2回（刑法および刑法学システムとその部分システムとの関係ならびに刑法総論とその部分システム）
- 第3回（刑法の意義と機能および犯罪の意義）
- 第4回（刑罰論と罪数論＝刑罰の本質と機能および目的／罪数論の意義）
- 第5回～6回（刑法の原理・原則論＝罪刑法定主義／責任主義／謙抑主義）
- 第7回～9回（行為と構成要件の理論＝行為論／犯罪の主体と客体／故意と錯誤の理論／不作為犯論／因果関係論）
- 第10回以降（違法性の理論＝違法性の本質と実質／正当防衛と緊急避難／自救行為／正当業務行為とくに治療行為／臓器移植／安楽死・尊厳死）

後期

- 第1回～3回（責任論＝責任の本質／責任能力／故意と違法性の意識／期待可能性）
- 第4回～5回（未遂論＝未遂の意義と処罰根拠／実行の着手／中止未遂／不能未遂）
- 第6回～9回（共犯論＝共犯の意義と形態／処罰根拠／正犯と共犯の区別と関係／共同正犯／共犯と身分／共犯の諸問題）
- 第10回～最終回（補足）

履修上の留意点

刑法学は、きわめて体系的な学問なので、継続的に出席して講義を受けないと理解できなくなる。できる限り具体的な事例を利用して説明するが、それでも観念的思考が入りこむので、考える力を必要とする。教科書以外のことをたくさん話すので、講義をよく聴き、必ずノートをとることが大切である。ただし、黒板に書くことは最小限度必要な事項だけであるから、それを筆記するだけでは意味がない。六法全書・教科書・ノートを毎回持参することが必要条件である。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の定期試験とその他の小テストなどの成績を総合して判断する。

教科書

松村格『刑法学への誘い』（八千代出版）
松村・神田・都築・野崎『刑法総論』（ミネルヴァ書房）

参考書等

立石二六『刑法総論』（成文堂）
別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅰ総論（第4版）』（有斐閣）
斉藤誠二編『演習ノート刑法総論』（法学書院）
『刑法基本講座（全6巻）』のうち1～4巻（法学書院）

その他

授業の方法は、すべて講義方式で行なう。必要に応じてプリントを配布することがある。その場合には、そのプリントに沿って講義をする。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|-------------|----------|-----|
| 民法（総則・物権法） | おお 大 宮 隆 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。よって講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の子告をするので、教科書を読んでくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教科書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）1,854円

参考書等

講義の中で随時紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------|----------|-----|
| 英 米 法 | またの 北 野 かほる | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を概観し、その主要な理由をなすと考えられる、法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教科書

特に指定しない。

参考書等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----|-----------------------|----------|-----|
| 会社法 | あら き まさ たか 荒 木 正 孝 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・
授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、多くの人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を探り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原理を理解してもらおうつもりである。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。商法は、民法を一般法とする特別法であるから、会社法に限らず、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層理解しやすい。ただ、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履修していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末に行われるペーパーテストの点数で評価します。

教 科 書

荒木正孝著『現代企業法（第3版）』（成文堂）

参 考 書 等

鴻・落合・岩原・江頭編『会社判例百選』（第6版）（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第2版』（成文堂）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|-----------------------------|----------|----|
| 労働法 | 藤本茂 <small>ふじもと しげる</small> | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌しています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域でこの変動に無関係ではられません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働条件決定に組合の及ぼす影響をみておく必要があります。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正（裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、労働条件の明示義務などなど）がありました。また男女雇用機会均等法、労働者派遣法、職業安定法などの改正も、なされました。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中にあっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

労働法は、皆さんが、将来どのようなところに職を得ようとも、もっとも身近な方法であります。会社もまた、労働法に関する十分な知識なしには円滑な人事管理が行い得ないことは、常識です。労働法は、皆さんが労働生活の節目節目で選択を迫られるとき、自ら考え自らを処していく上で、知っておくべき必要な知識であり、知っているかいないかは、よりよい選択をする上で、とても重要であると思います。

講義の内容・
授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。

ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件の決定－労働契約、就業規則、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、出席等を加味することはありませんが、学年末試験がメインです。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------------|----------|-----|
| 経 済 法 | おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博 | 政治2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

丹宗暁信・厚谷襄児編「新現代経済法入門」（法律文化社）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|------|-----|
| 外書講読Ⅰ（英書） | あい だ と し ひこ 相 田 敏 彦 | 政治3選 | 4 |
| 外書講読Ⅱ（英書） | | 政治4選 | |

講義のねらい

英文で書かれたマスコミ、メディア、情報化に関する分析、理論に関する読解力を向上させること。

講義の内容・授業スケジュール

はじめ数回は、英字の新聞・雑誌などで腕ならし・イントロダクションとしたい。
ついで、多方面にわたるマスコミ理論、メディア分析のなかから、読みやすさ、理解しやすさに留意して教材を提示する。
教材は適宜コピーを配布する。
マスコミ、メディア、情報化自体はいかにも身近な対象だが、常識的理解を打ち破る、深く鋭い分析が少なくない。
マスコミ、メディア、情報化に関し、考え、分析することの楽しさが多少とも理解される場としたい。

履修上の留意点

英語が好き、あるいは比較的得意な人であればよく、「マス・コミュニケーション論」、「情報社会論」の授業をとっている、いないとは関係なく、内容を理解できるようにしたい。

成績評価の方法

平常点による。
試験、レポート等はない。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|------------------|--------|----|
| 外書講読Ⅰ（英書） | しお いり 塩 入 みほも | 政治 3 選 | 4 |
| 外書講読Ⅱ（英書） | | 政治 4 選 | |

講義のねらい

英書を講読する。基礎的な翻訳力を養うことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

当講座は、翻訳力に特別優れていない者でも講読し易いように、あまり高度な内容の文献を用いるつもりはない。内容については、履修者の要望を聞いた上で決定したい。

履修上の留意点

履修者には、各々翻訳する文章を分担してもらい、担当箇所のを順次報告していただく。しかし、比較的易しい英書を用いる予定であるので、特別な英語力を有していない者でも安心して、基礎的な英書講読力を養うために積極的に履修されたい。

成績評価の方法

成績は、学期末試験、出欠、及び担当翻訳文の総合評価に基づくものとする。

教科書

講読する文献は、授業の初回到履修者の希望を聞いた上で決定する。

その他

授業は、基本的に履修者による輪読の形式によって行なう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|-----------------------|--------|----|
| 外書講読Ⅰ（英書） | まえ だ ひで あき 前 田 英 昭 | 政治 3 選 | 4 |
| 外書講読Ⅱ（英書） | | 政治 4 選 | |

講義のねらい

英語の原書または論文による議会政治に関する文献を取り上げ、議会政治に関する多様な考え方を理解するとともに、英語による社会科学に関する本の読み方を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、英語による戦後日本の国会改革に関する論文、または英語によるイギリス議会に関する本を読み、それを素材にして、国会の仕組みを考え、国会の現状について自由な意見交換をする。最初のうちは、やさしい英語であっても、1回に数行しか読めないかもしれないが、慣れるにつれて読む速度は次第に速くなる。ゼミ形式で行うので、常時出席できて、かつ議会政治に関心を持つ学生、進学を目指す学生の参加を期待する。

使用する文献は事前にコピーして配付する。

成績評価の方法

平常点

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|--------|-----|
| 外書講読Ⅰ（独書） | はや かわ よし き 早 川 純 貴 | 政治 3 選 | 4 |
| 外書講読Ⅱ（独書） | | 政治 4 選 | |

講義のねらい

現代政治に関するドイツ語文献を読むことで、ドイツの現実政治をより深く理解し、あわせてドイツ語の読解能力を高める。

講義の内容・授業スケジュール

ドイツ社会民主党 SPD が89年に採択した基本綱領いわゆる「ベルリン綱領」を講読する。ベルリン綱領は現在、世界の先進諸国における主要政党の基本綱領のなかでは最も進んだ綱領の一つといわれる。それではこの綱領は他の政党のそれとどこが違うのか。そして社会民主主義の理念は政策としてどのように表現されているのか。このような問題を講読を通じて考えていきたい。

履修上の留意点

受講生はドイツ語の新聞・雑誌を理解できるレベルであることが望ましい。毎回出席し、予習（日本語訳）を欠かさないこと。

成績評価の方法

試験は行わないで平常点で評価する。

教科書

講読開始前に『SPD 基本綱領』のコピーを配布。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|--------|-----|
| 外書講読Ⅰ（仏書） | なか の ゆう じ 中 野 裕 二 | 政治 3 選 | 4 |
| 外書講読Ⅱ（仏書） | | 政治 4 選 | |

講義のねらい

外書講読の目標は、①翻訳者の目を通さずに直接文献にあたることで、筆者の思想を直接理解する、②語学の授業として始めたフランス語をより発展させる、③フランス語で書かれた文献が読めるようになる、などいくつか考えられるだろう。したがって、こちらであらかじめ決めずに受講学生のフランス語のレベルや受講目的に応じて決定したい。

講義の内容・授業スケジュール

毎回、分担箇所を決め、日本語に翻訳しながら文献を読み進める。ただし、これも受講学生に応じて進み方は変わる。

履修上の留意点

大学院への進学を考えている学生は第2外国語試験対策として位置づけてもらってかまわない。また、フランス語は全くやったことがないが、やる気だけはあるという学生も歓迎する。

成績評価の方法

出席と平常点で評価する。

教科書

コピーを使用する。

参考書等

辞書は同一の物を使用したいので、旺文社『ロワイヤル仏和中辞典』を購入しておくこと。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------|---------------------------------------|--------|-----|
| 外書講読Ⅰ(中国書) | 江 林 英 基 <small>こう りん ひで もと</small> | 政治 3 選 | 4 |
| 外書講読Ⅱ(中国書) | | 政治 4 選 | |

講義のねらい

現在の中国は経済の改革、開放政策をとっており、これを実現するため、1982年に四回目の新憲法を制定・施行し、その後二回にわたる改正を行った。その他の法律もこの憲法に基き、“雨後春筍”のようにつぎつぎ公布された。“一衣帯水”の隣国である中国を認識することが必要である以上、その法制から着手しなければならないのである。

講義の内容・授業スケジュール

この授業は中国憲法138条の条文に書かれている中国の内政と外交方針、国民の基本権利と義務、人民代表大会の権限、人民政府の組織などを主な内容とする。

履修上の留意点

授業の進度は一週間5ページ程度である。学生諸君に朗読させ、法律用語、条文の構造(文型)を説明しながら立法理由と現在状況を論評する。

成績評価の方法

出席率、学修態度、レポートなどを判断基準として総合的に評価する。

教科書

江英居著『中国憲法』(大学書林) 3,500円

参考書等

『中華人民共和国法律滙編』(北京人民出版社)

その他

学生への要望：授業中私語禁止。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------|-------------------------------------|--------|-----|
| 外書講読Ⅰ(スペイン書) | 佐 藤 玖 美 子 <small>さとう くみこ</small> | 政治 3 選 | 4 |
| 外書講読Ⅱ(スペイン書) | | 政治 4 選 | |

講義のねらい

スペインにおける今世紀最大の歴史学者であり、社会学者でもある Américo Castro 著 “Iberoamérica” の講読を行います。1年間で全冊を読破することは到底不可能なので、中南米各論の中の何国かを受講者の希望によって順次ピックアップしてゆきたいと思います。皆さんが1、2年で修得したスペイン語の知識の深化、と共に中南米諸国がたどって来た苦難、屈折の歴史を知り、中南米の現状に対する理解を深め、その将来を考えることを試みたいと思います。

履修上の留意点

必ず次回講読部分の予習をして来て下さい。

成績評価の方法

出席状況、平常の学修態度並びにレポートによって成績評価を行います。

教科書

テキストはコピー使用。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------|--------------------|---------|-----|
| 演 習 I | しお いら 塩 入 み ほ も | 政 治 3 選 | 4 |
| 演 習 II | | 政 治 4 選 | |

講義のねらい

行政法上の諸問題について演習を行なう。他から教授さけるだけの受動的な学問ではなく、判例及び学説を自分なりに分析・検討する作業を通じて能動的に研究し、報告し、且つ他人と法律学的検討を行なえるための能力を鍛錬することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

演習は、毎回学生一人一人に、自己に割り当てられた課題について、①論点の指摘、②判例及び学説の紹介・分析、③当該問題に関する検討ないし自説を報告してもらい、報告後に全員で討論する形式にて行なっていく。

演習題材は、行政法総論一般、行政手続法、情報公開法及び行政争訟法の各分野からそれぞれ重要なテーマを選び、学生の希望を踏まえた上で各自に割り当てる。

履修上の留意点

当演習では、学生諸君の主体性を重視する。したがって、授業の初回には演習の具体的な内容及び形式等に関して学生諸君の要望を聞き、上記の基本趣旨に反しない範囲で、できる限りその要望に応えていきたいと考えている。なお、報告者は毎回レジュメを作成するとともに、レポート（自己が報告時に読み上げるオリジナル原稿のコピーで構わない）を提出してもらう。

成績評価の方法

成績は、出欠と報告内容（レポート）の総合評価とする。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書等

演習であるので、参考図書等については、原則的に、各自が各々のテーマについて自主的に検索・収集するべきである。但し、行政法演習に総合的に役立つものとして最低限所持することが望まれる参考図書については、初回授業の際に紹介する。

その他

授業はゼミナール方式で行なう。

2. 他学部履修科目

2. 他学部履修科目

| | | |
|-----------------|------------------------|-----|
| 禅学概論 | 〈佐藤秀孝〉 | 139 |
| 中国禅宗史 | 〈田中良昭〉 | 139 |
| 日本禅宗史 | 〈佐藤秀孝〉 | 140 |
| 禅籍講読Ⅰ | 〈田中良昭〉 | 140 |
| 禅籍講読Ⅲ | 〈佐藤秀孝〉 | 141 |
| 仏教概論 | 〈平井俊榮〉 | 142 |
| インド仏教文化史 | 〈休講〉 | |
| 中国仏教文化史 | 〈永井政之〉 | 143 |
| 日本仏教文化史 | 〈袴谷憲昭〉 | 143 |
| 中国古典語初級 | 〈石井公成〉 | 144 |
| 中国哲学史 | 〈前川亨〉 | 144 |
| 上代文学研究Ⅰ | 〈小野寛〉 | 145 |
| 中古文学研究Ⅰ | 〈高橋文二〉 | 145 |
| 中世文学研究Ⅰ | 〈村上光徳〉 | 146 |
| 近世文学研究Ⅰ | 〈富士昭雄〉 | 146 |
| 近代文学研究Ⅰ | 〈山崎眞紀子〉 | 147 |
| 比較文学 | 〈満谷マーガレット〉 | 148 |
| 児童文学 | 〈山口節子〉 | 149 |
| 西洋思想史 | 〈麻生建〉 | 149 |
| 演劇概論 | 〈井上理恵〉 | 150 |
| 編集実務 | 〈長谷川孝〉 | 150 |
| イギリス文学特講Ⅰ | 〈逢見明久〉 | 151 |
| イギリス文学特講Ⅱ | 〈高野正夫〉 | 152 |
| イギリス文学特講Ⅲ | 〈岡崎寿一郎〉 | 152 |
| イギリス文学特講Ⅳ | 〈中岡洋〉 | 153 |
| イギリス文学特講Ⅴ | 〈富士川義之〉 | 153 |
| イギリス文学特講Ⅵ | 〈丸小哲雄〉 | 154 |
| アメリカ文学特講Ⅰ | 〈東雄一郎〉 | 155 |
| アメリカ文学特講Ⅲ | 〈前期：足田和人〉 〈後期：川崎笑佳〉 | 155 |
| 演劇特講〈イギリス・アメリカ〉 | 〈前期：荒井良雄〉 〈後期：落合和昭〉 | 156 |
| 時事英語 | 〈サンダース, L. P.〉 | 157 |
| 地理思想史 | 〈竹内啓一〉 | 158 |
| 地形学 | 〈清水長正〉 | 159 |
| 人口地理学 | 〈大友篤〉 | 159 |
| 文化地理学 | 〈小田匡保〉 | 160 |
| 応用地理学 | 〈高木正博〉 | 160 |
| 現代地理学特論 | 〈長谷川均〉 | 161 |
| 日本史特講Ⅶ〔近代〕 | 〈小泉雅弘〉 | 161 |
| 東洋史特講Ⅹ〔近・現代〕 | 〈休講〉 | |
| 考古学特講Ⅲ | 〈矢野和之〉 | 162 |
| 日本仏教史Ⅱ | 〈遠藤廣昭〉 | 163 |
| 西洋文化史Ⅰ | 〈休講〉 | |
| 日本民俗学 | 〈谷口貢〉 | 164 |
| 哲学史 | 〈山口祐弘〉 | 165 |

| | | |
|-------------------------|----------------------------------|-----|
| 歴 史 哲 学 | 〈麻 生 建〉 | 165 |
| 産 業 ・ 職 業 社 会 学 | 〈安 藤 喜 久 雄〉 | 166 |
| マ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論 | 〈川 本 勝〉 | 166 |
| 社 会 福 祉 発 達 史 | 〈林 千 代〉 | 167 |
| 国 民 所 得 論 | 〈吉 野 紀 子〉 | 168 |
| 日 本 小 企 業 論 | 〈橋 野 知 逸 友〉 | 169 |
| 中 小 企 業 論 | 〈三 井 博 美〉 | 170 |
| 社 会 政 策 論 | 〈光 岡 正 光〉 | 172 |
| 教 育 經 済 論 | 〈谷 敷 正 人〉 | 173 |
| 日 本 經 済 論 | 〈小 林 正 章 淵〉 | 175 |
| ア ジ ア 經 済 論 | 〈鄭 章 修 二〉 | 176 |
| 中 国 經 済 論 | 〈小 杉 修 二〉 | 178 |
| ア メ リ カ 經 済 論 | 〈瀬 戸 岡 紘 志〉 | 179 |
| ロ シ ア ・ 東 欧 經 済 論 | 〈山 縣 弘 博 之 孝〉 | 181 |
| 商 業 政 策 論 | 〈曾 我 信 義 治 龍 二 孝 透 吉 安 紘 貢 寿 講 〉 | 182 |
| マ ー ケ テ イ ン グ 論 | 〈百 田 義 治 龍 二 孝 透 吉 安 紘 貢 寿 講 〉 | 183 |
| 經 営 管 理 論 | 〈堀 藤 章 利 安 紘 貢 寿 講 〉 | 184 |
| 勞 務 管 理 論 | 〈遠 藤 章 利 安 紘 貢 寿 講 〉 | 185 |
| 財 務 計 算 論 | 〈飯 岡 章 利 安 紘 貢 寿 講 〉 | 186 |
| 会 計 監 査 論 | 〈中 原 章 利 安 紘 貢 寿 講 〉 | 188 |
| 管 理 會 計 論 | 〈加 藤 章 利 安 紘 貢 寿 講 〉 | 189 |
| 原 価 計 算 論 | 〈古 沢 利 安 紘 貢 寿 講 〉 | 190 |
| 原 貿 易 行 法 論 | 〈米 田 利 安 紘 貢 寿 講 〉 | 191 |
| 銀 行 政 法 論 | 〈齊 藤 利 安 紘 貢 寿 講 〉 | 192 |
| 比 較 憲 法 論 | 〈休 講 〉 | 193 |
| 親 族 法 論 | 〈竹 中 智 香 講 〉 | 194 |
| 相 統 法 論 | 〈竹 中 智 香 講 〉 | 194 |
| 西 洋 法 制 史 | 〈北 野 か ほ る 講 〉 | 195 |
| 英 米 法 法 論 | 〈北 野 か ほ る 講 〉 | 196 |
| 經 済 政 治 学 | 〈岡 田 外 司 博 講 〉 | 197 |
| 国 際 政 治 学 | 〈小 堀 訓 男 講 〉 | 198 |
| ヨ ー ロ ッ パ 政 治 史 | 〈浦 田 早 苗 講 〉 | 198 |
| 地 方 自 治 法 | 〈富 井 幸 雄 講 〉 | 199 |
| 議 会 法 論 | 〈前 田 英 昭 講 〉 | 200 |
| 立 法 過 程 論 | 〈休 講 〉 | 201 |
| 比 較 政 治 学 | 〈岩 崎 正 洋 講 〉 | 201 |
| 現 代 国 家 論 | 〈大 塚 桂 講 〉 | 202 |
| 比 較 憲 法 論 | 〈休 講 〉 | 203 |
| 經 営 勞 務 論 | 〈鹿 嶋 秀 晃 講 〉 | 203 |
| 国 際 經 済 論 | 〈茂 垣 広 志 講 〉 | 204 |
| 商 業 史 | 〈山 田 勝 講 〉 | 205 |
| 保 險 經 営 論 | 〈石 名 坂 邦 昭 講 〉 | 206 |
| 財 務 會 計 論 | 〈渡 邊 惠 一 郎 講 〉 | 207 |
| 經 営 分 析 論 | 〈片 桐 伸 夫 講 〉 | 208 |
| 稅 務 會 計 論 | 〈高 木 克 己 講 〉 | 209 |
| 經 営 情 報 論 | 〈高 井 徹 雄 講 〉 | 210 |
| 情 報 理 論 | 〈西 村 和 夫 講 〉 | 211 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------|---|----|
| 禅学概論 | 佐藤秀孝 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禪那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にはかならない。

はじめにインド仏教における禅（禅定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禅宗）の基本的な歴史（禅宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及びたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

教科書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

参考書等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

その他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|---|----|
| 中国禅宗史 | 田中良昭 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

本講座は、中国の禅宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禅が中国に伝来し、菩提達磨を初祖とする系統がやがて中国禅宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禅の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

講義の内容・授業スケジュール

菩提達磨の渡来以前の仏教における禅の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達磨の渡来による独特の禅法の開示から、馬祖の洪洲宗、石頭の石頭宗によって禅宗が宗として確立された中国禅宗の成立を第Ⅱ部とし、禅宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐宋・五代から、日本の禅宗の元となった宋朝の禅、更に元代以後の禅という中国禅宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

履修上の留意点

中国・日本の禅学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禅の流れを確かなものにしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

成績評価の方法

学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

教科書

現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

参考書等

比較的理解しやすいものに、〈講座禅〉第3巻『禅の歴史——中国——』中の柳田聖山稿『中国禅宗史』があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真大『禅宗思想史』、柳田聖山『初期禅宗史書の研究』、『禅仏教の研究』、田中良昭『敦煌禅宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禅』、鈴木哲雄『唐五代禅宗史』、『中国禅宗史論考』、石井修道『宋代禅宗史の研究』等が代表的なものである。

その他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------|---|-----|
| 日本禅宗史 | 佐藤秀孝 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

本講座は、日本における禅宗の歴史を講義するものである。唐・宋代に隆盛した中国禅宗がどのように日本に伝来し、如何なる展開・発展を遂げて日本禅を形成していったのか、その過程を探ることで、思想史的な意義と日本文化への影響などを論じたい。

講義の内容・授業スケジュール

禅宗の伝来、栄西と能忍、兼修禅の系譜、道元の仏法と初期永平寺僧団、来日僧と純粹禅、日本禅の二十四流、五山の成立と五山文学、中世文化と禅宗、応燈関の一流、瑩山紹瑾と曹洞宗の地方展開、隠元の来日と黄檗宗、近世臨済宗と白隠禅、近世の曹洞宗の宗統復古、近代国家と禅宗、といったテーマを順次進めていく。

履修上の留意点

禅の教理や思想の理解および日本史の一般的知識を習得しておくこと。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験による総合評価。

教科書

特定の教科書は使用しないで、講義の中で適宜に資料などをコピーで配布する。

参考書等

田中良昭編『禅宗研究入門』（大東出版社）6,000円
駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）2,600円
船岡誠『日本禅宗の成立』（吉川弘文館）2,500円
その他、日本の禅宗に関する諸文献

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------|---|-----|
| 禅籍講読Ⅰ | 田中良昭 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

この講義は、中国で成立した初期の禅籍（禅宗語録）を講読するものである。本年は、昨年に引続き、初期の禅籍の内、六祖慧能（638～713）が韶州大梵寺で道俗のために説法した記録とされる『六祖壇経』を読む。『六祖壇経』は、長い年月にわたって数多くの異本が生み出され、その間に著しい増広がなされたが、本講義では、最も素朴な姿を伝える現存最古のテキストである敦煌本の内、最初にその存在の知られたスタイン本（S5475号）と、近年、周紹良氏によってその内容が明らかにされた敦煌県博物館所蔵本（敦煌本）を比較しつつ、その読解を通じて、初期の禅宗語録の特徴、禅思想、特に南宗禅の基本的立場を明らかにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 慧能に至る初期の禅宗について、2. 『六祖壇経』とその構成、3. 前年に講読した部分の概要、4. 新たな部分の講読

履修上の留意点

原文（影印本）に触れることの意義を体験し、認識していただきたい。

成績評価の方法

平常の出席状況と学年末試験の結果を総合して評価する。

教科書

スタイン本を校訂した大正蔵48巻と周紹良編著『敦煌写本壇経原本』（文物出版社）の該当部分をコピーして配布する。

参考書等

柳田聖山訳『六祖壇経』（世界の名著）18『禅語録』（中央公論社）及び『世界古典文学全集』36A『禅家語録』Ⅰ（筑摩書房）、楊曾文校写『敦煌新本・六祖壇経』（上海古籍出版社）、佐藤悦成和訳『敦煌新本・六祖壇経』（全国曹洞宗青年会事務局）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|--|-----|
| 禅 籍 講 読 III | さ とう ひで たか 佐 藤 秀 孝 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経 A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

この講義は日本禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものであり、それを通して日本の禅宗の特質を考えていくことを目的とする。日本への禅宗の伝来は平安末期から鎌倉時代に始まっており、南北朝時代から室町・戦国時代にはその隆盛期を迎えている。ここで初期の日本禅籍というのは、こうした中世禅林に成立したものをその対象としている。

はじめに日本への禅宗の伝来、兼修禅と純粹禅、臨済宗と曹洞宗の展開とその状況、五山叢林と林下、漢文語録と仮名語法などの問題を概観し、日本禅籍の分類や特徴を講ずる。とくに永平道元（1200～53）や登山紹瑾（1264～1325）に始まる曹洞宗の禅籍についてはいくぶん詳しく説明したい。

その後当該の禅籍を講読するわけであるが、今年は『道元禅師語録』をその対象とし、特徴的な上堂語その他を順次に読み進めることにしたい。本書は道元の語録である『道元和尚広録』（『永平広録』とも）10巻を抜粋編集して1巻となした『永平元禅師語録』すなわち『永平略録』のことであり、その編集は道元と同門に当たる南宋の無外義遠（?～1266）によってなされているらしい。その間の事情などを踏まえて本書を精読吟味していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

はじめは講義形式で行ない、後半は内容の講読へと進みたい。

履修上の留意点

仮名の『正法眼蔵』と違い、本書は漢文の語録であるので、読解力を増すように努力してもらいたい。

成績評価の方法

平常点（出席率や学習・発表態度）と年度末の定期試験による。

教 科 書

鏡島元隆訳註『道元禅師語録』（講談社学術文庫）700円

参 考 書 等

大久保道舟訳註『道元禅師語録』岩波文庫（岩波書店）520円
酒井得元訳註『永平元禅師語録』『道元禅師全集』第5巻に所収（春秋社）4,120円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------------|--|-----|
| 仏 教 概 論 | ひら い しゆん えい 平 井 俊 榮 | 英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

仏教について基本的な教理を中心に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

次の大綱にしたがって授業をすすめる。

- 序 章 仏教とは何か
- 第1章 仏陀の生涯
- 第2章 仏の本質
- 第3章 法——仏教の真理観——
- 第4章 一切法——法の分類——
- 第5章 輪廻と業の煩悩
- 第6章 悟りへの道
- 第7章 心——実践の主体——
- 第8章 修行者の理想像
- 第9章 戒律と教団の組織
- 第10章 仏教の歴史

履修上の留意点

出欠は随時採る。

成績評価の方法

期末筆記試験の成績により評価

教 科 書

高崎直道著『仏教入門』（東京大学出版会）1,600円（変更あるやも知れず）

参 考 書 等

平川彰著『三国仏教通史』（春秋社）2,575円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|---|---|----|
| 中国仏教文化史 | <small>なが</small> 永 <small>い</small> 井 <small>まさ</small> 政 <small>し</small> 之 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。当然、「仏教」という宗教も「文化」の枠組みの中に入る。このように「仏教」をとらえるとき、それが中国の歴史の中で、どのような変化展開をしたか。それが本講義のテーマとなる。

今年度は、インドで生まれた仏教が中国に定着するさまざまな紆余曲折の中で、特に興味を引く「葬送儀礼・追善」を取りあげて、仏教教団において葬送が儀礼として成立する過程を考えてみたい。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要な参考書は授業において指示する。またコピーを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|---|---|----|
| 日本仏教文化史 | <small>はかま</small> 袴 <small>や</small> 谷 <small>のり</small> 憲 <small>あき</small> 昭 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

「浄土思想と日本文化」という課題のもとに講義を行いたい。日本文化史の上に及ぼした浄土思想の影響は極めて大きいですが、その浄土思想を仏教思想の中にどう位置づけるべきかを断えず考慮しながら講義を進めたい。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、インドの世親の『浄土論』を中心にインド仏教における浄土思想の展開を押え、それが中国においてどのように定着したかを、曇鸞、慧遠、吉蔵、善導などを中心に考察し、それらが日本の浄土思想にどのように現われ発展したかを、智光、永観、覚鑿、源信、法然、親鸞などを中心に検討していく。

履修上の留意点

講義において指示する文献を自分できちんと読むことが要求されるであろう。

成績評価の方法

学年末の定期試験による。

教科書

末木文美士『日本仏教史』（新潮文庫）

参考書等

家永三郎『日本文化史』第二版（岩波新書）
石田瑞麿『日本人と地獄』（春秋社）
袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』（大蔵出版）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|---|-----|
| 中国古典語初級 | いし い こう せい 石 井 公 成 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『荘子』『易経』およびそれらの注釈を読む。

履修上の留意点

口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。

成績評価の方法

試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。

教科書

使用せず、コピーを配布する。

参考書等

教場で指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------|---|-----|
| 中国哲学史 | まえ かわ とおる 前 川 亨 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

中国人の世界観・人間観・死生観などの歴史的展開を把握することを目的とする。具体的には儒教・仏教・道教の思想とその相互関係の理解が主な課題となる。その際、東アジア世界の中で中国思想という広い視野を失わないよう心掛けたい。この授業を通して、中国人の思考様式がどのような特徴をもっており、それが日本人の思考様式とどこまで共通し、どれだけ異なっているかを、いささかでも明らかにしたいと思う。一見抽象的にみえる思想の世界も、実は我々の現実と密接につながっていることを、共に学んでいこうと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

受講者の関心の方向を勘案して、前年度同様に孔子から始めて唐・宋代に及ぶか、それとも唐・宋代から始めて近・現代に及ぶかを決めたい。いずれにしても、断代史的ではなく、問題史的に進めていくつもりである。受講者はそこから関心のある問題を発見して行ってほしい。

履修上の留意点

中国の思想・宗教・文化など多方面に関心のある諸君の受講を期待する。古典中国語もしくは現代中国語の初歩的な知識をもっていること（持とうという意欲を持っていること）が望ましいが、授業じたいはそれなしでも理解可能であろう。継続して出席する意志と意欲を有する者以外の登録は認めない。レポートのみ提出して単位を取得しようなどという安易な気持ちで受講しないでもらいたい。問題意識と積極的な意欲をもった皆さんの受講を望む。

成績評価の方法

授業の内容に関連するレポートを前期・後期に提出してもらう。それ以外の評価方法も検討したい。

教科書

特に必要としない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

その他

できるだけ多くの情報を提供するため、講義形式をとるが、受講者の皆さんの意見なども聞きながら進めたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|---------|--|-----|
| 上代文学研究Ⅰ | おのの 野 寛 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

万葉集をよむことから、上代文学の特質を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

今年度は万葉集巻二から、名作・問題作を選び、その作品について原文の検討、その訓みの確定、語句の研究、ことばの原義・語法、歴史的・社会的・地理的背景を詳細に調べる。授業は全面的講義方式による。毎時出欠をとる。

履修上の留意点

講義はその都度、新しく調査研究してまとめてゆくものだから、必ず出席して、ひたすらノートをとること。講義でわからないことはそのままにせず、チェックし、メモして、自分で調べてみる。質問も歓迎。

成績評価の方法

数回のレポートと学年末の筆記試験（持込一切なし）によって評価する。

教 科 書

小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院刊）1,600円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|----------|---|-----|
| 中古文学研究Ⅰ | たか 橋 文 二 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大・短英 | 4 |

講義のねらい

平安朝の女流文学作品の中に表れた人間観、宗教観、自然観の意味するところを問い尋ね、その文学世界の特質を考える。

履修上の留意点

講義の該当箇所を予習し、そこに出てきている作品の原文を確認しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席の状況、夏休みの課題レポートの提出、期末テストの成績で評価する。

教 科 書

高橋文二『源氏物語の時空と想像力』（翰林書房）

参 考 書 等

講義時間内に紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------------------------|--|-----|
| 中世文学研究Ⅰ | むら 村 かみ 上 みつ 光 のり 徳 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

『徒然草』を講読し、兼好の物の考え方－自然観・人生観等にふれる。

講義の内容・
授業スケジュール

テキストを使い関係ある章をたねんに読み先学の説など参考にして考えてゆく。

成績評価の方法

①筆記試験 ②出席状況

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|---------------------------|--|-----|
| 近世文学研究Ⅰ | ふ 富 じ 士 あき 昭 お 雄 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

芭蕉の俳諧文学研究。本年度は『おくのおそ道』の講読を通して、芭蕉の俳諧紀行文の特質を考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

『おくのほそ道』の主要な章段を中心に、『曾良旅日記』その他の資料を参照しながら、講読する。

成績評価の方法

学年末の試験により評価する。

教科書

萩原恭男校注『芭蕉 おくのほそ道』（岩波文庫）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|-------------------------|---|----|
| 近代文学研究Ⅰ | やま さき まき こ 山 崎 眞 紀 子 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経 A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

人は言葉を介して考えていることを伝達するが、心の中に生じたいろいろな感情や思いを的確に言語化するのは難しい。とりあえず自らが蓄積している語彙を用いて、抽象的な心の中を言葉として表に出し具象化するしかないだろう。語彙が貧弱であったりすると、思いと言葉とが一致しにくく、相手にもうまく伝わらず、自分自身も消化不良のようで居心地が悪い。また、考える力や現象を分析する力も育たない。言葉は生きていく上で大切なツールであるにも関わらず、それを磨くことを怠りがちである。豊かな語彙力、適切な単語の選択、具象化できるだけの文脈づくり、文章の構成力などを学ぶひとつの方法として日本の近代小説を読む、というのはいかがであらうか。

複雑な感情を一元化して何にでも「カワイイ」と表現してしまったり、安易に「超〜」「っていか」をつけて自分の世界を表現し得たように思いこんでしまう平板な言語力には、平板な世界観しか築けないだろう。それでは生きていてもつまらない。日本の近代小説には豊かな言葉が溢れている。言葉を磨くには恰好の教材になる。作品中に描かれている都市に注目して集められた日本近代小説のアンソロジーを読み、めまぐるしく変化している現代社会の都市の中に生きる私たちの感性と言葉を磨くことがねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

泉鏡花、樋口一葉、田山花袋、谷崎潤一郎、芥川龍之介、江戸川乱歩、三島由紀夫、大江健三郎らの小説。アンソロジー所収以外の現代小説を読むこともある。

履修上の留意点

授業に臨む前にテキストを読み、感想や意見を述べられるように準備しておくこと。また、〈都市〉を解説するために、街を歩く際に観察力をもち柔軟な感受性のアンテナを立ててキャッチしておくこと。自らが感じとったことを口頭発表や文章化してもらう。なお、年間を通じて3分の1以上欠席した場合は単位は認定しないので注意すること。

成績評価の方法

出席や授業時の意見・発表などの平常点と前期と後期の論述テストにより評価。

教科書

東郷克美・吉田司雄編『近代小説〈都市〉を読む』（双文社出版）2,000円

その他

教科書以外のテキストを準備して貰うこともあり。ビデオも時に使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------------|--|-----|
| 比 較 文 学 | みつたに 満谷 マーガレット | 禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

文化交流のもっとも重要な手段である翻訳の問題について考えてみたい。明治時代の日本は西欧文化のすべてを「翻訳」しようとしていたといっても過言ではないが、授業では、比較的扱いやすい詩の問題が中心になる。前期では、讃美歌、イギリスの浪漫派、フランスの象徴派の詩人たちやシェークスピアなどが近代日本にどのようにして翻訳されてきたか、作品を精読しながらみていきたい。後期では、逆に日本語の詩（短歌、俳句を含めて）の翻訳問題を焦点にして、十九世紀からの英訳短歌、E. パウンドの英訳謡曲や戦後のハイク・ブームなどをみていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義科目ではあるが、授業中、なるべくたくさんのテキストを精密に読んでいきたい。教科書はないが、必要に応じてプリントを配る。

成績評価の方法

前期、後期と試験を行う。

教 科 書

プリント

参 考 書 等

秋山勇造『翻訳の地平』（翰林書房）1995
『翻訳の思想』日本近代思想体系15（岩波書店）1991
西田直敏『「新体詩抄」研究と資料』（翰林書房）1994など

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|------------------|--|-----|
| 児童文学 | やまぐち せつこ 山口節子 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短英 | 4 |

講義のねらい

子どもの発見に始まる日本児童文学の流れの中で、リアリズム作品、ファンタジー作品がそれぞれどう描かれてきたかを、具体的作品を通して理解する。特に宮沢賢治の日本的ファンタジー作品については、作品の底を流れる賢治童話のフィロソフィーを共に考え合う。また、ファンタジー作品が今日的状況をのり超える力をもつことを、M. エンデの『モモ』やルグインの『ゲド戦記』などの海外児童文学も含めて読み解く。

講義の内容・授業スケジュール

日本児童文学の成立と展開を年代を追ってリアリズム、ファンタジー作品ごとにとりあげる。今日の現代児童文学の状況と新しい潮流について、作家・作品を具体的にとりあげながら児童文学の流れとこれからの展望を考察する。賢治作品については、人間とは何か、真実とは何か、生きるとは何かといった人間の本質を、作品を通して共に考え合い、生きる力を得る授業としたい。海外児童文学では、テーマ、モチーフ、全体の構成を理解し、ファンタジーのもつ力とは何かに迫る。

履修上の留意点

授業でとりあげる作品は事前に予告するので、必ず読んで授業に臨んでいただきたい。

成績評価の方法

成績評価は、前・後期2回のレポートによる。出席状況や授業態度も考慮に入れる。

教科書

授業の際に、事前に紹介する。

参考書等

授業の進行に併せて関連図書を紹介する。

その他

講義を中心に、ビデオなども用いる。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------|--|-----|
| 西洋思想史 | あそう けん 麻生 建 | 禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経A 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

ヨーロッパ人の基本的なものの考え方、さらに思想史という形で何が形成され、求められてきたかを、できるだけ日本との比較の視点から明らかにする。
特に言語の問題に焦点を当て、教科書に基づきながら説き明かし、その背景をも考察する。

履修上の留意点

教科書は毎回持参すること。問題を自分なりに整理し直すため、ノートをとることを勧める。講義は連続しているので、可能なかぎり続けて出席するよう努力すること。

成績評価の方法

学年末の試験による。教科書に記述されていることのみが講義の内容ではないから、その都度の講義に留意すること。

教科書

麻生建著『ドイツ言語哲学の諸相』（東京大学出版会）3,502円

参考書等

特になし。必要な場合は授業中に指示する。

その他

講義。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|------|---------------------------------------|-----|
| 演劇概論 | 井上理恵 | 禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経A・商・経営・短英 | 4 |

講義のねらい

演劇とは何か、演劇学とは何か、について西洋及び日本のこれまでの演劇論を検討しながら考えていく。特に戯曲と演出、俳優、演技の関係、文学と演劇の間に横たわる深く広い大河をいかに収斂すればいいのかについて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

演劇史、ドラマトウルギー論、演劇理論史など、ギリシャからフランス、イギリス、ドイツ、そして日本の状況等について比較検討しながら触れることになる。ビデオで舞台に展開される演劇を観て、西洋と日本の演劇の違いを理解し考えるつもりである。

履修上の留意点

個別的な日本の戯曲を検討する時間はないので個別研究を学びたい者は「国文学特講Ⅹ」を同時に受講されることが望ましい。

また、実際の舞台を見ていって批評を書いてもらうつもりであるから本講座を受講する者は前期一回、後期一回、劇場に足を運ぶことを条件とした。

成績評価の方法

レポート（二回の観劇批評およびその他二回）による。

教科書

授業時に指示する。

参考書等

毛利三彌『東西演劇の比較』（放送大学教育振興会）

その他

講義形式。ビデオ視聴や観劇後には討論をする。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|------|---------------------------------------|-----|
| 編集実務 | 長谷川孝 | 禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経A・商・経営・短英 | 4 |

講義のねらい

編集とは、「だれかに—何かを—伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を讀みとるのかという「視点(目のつけどころ)」と、「なぜ」それを伝えるのかという意思と責任が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材・原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして、「自分の視点」を育てることを目指したいと考えています。

「だれかに—何かを—伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読みとり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみることであれば、と思います。個人紙(誌)づくりの課題は、こうしたねらいもあります。

成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙(誌)を課題作品として提出してもらったほか、自己評価点と平常の提出物などによります。

教科書

プリントを使用します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|-----------------|---|-----|
| イギリス文学特講Ⅰ | おうみあきひさ 逢見明久 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

シェイクスピアの原作からその友情観を探る。併せて、シェイクスピア映画にみとめらる友情の主題も扱う。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 講義内容の説明
- 第2回 プラトン以来の友情の伝統
- 第3回 『ソネット集』における友情の主題
- 第4回 『ヴェローナの二紳士』のヴァレンタイン
- 第5回 ・BBC版『ヴェローナの二紳士』
- 第6回 『ロミオとジュリエット』のマーキュリオとロミオ
- 第7回 ・MGM版『ロミオとジュリエット』
- 第8回 ・カステラーニ版『ロミオとジュリエット』
- 第9回 ・ゼフィレリ版『ロミオとジュリエット』
- 第10回 ・ラーマン版『ロミオとジュリエット』
- 第11回 『ヴェニス商人』のアントーニオとバッサーニオ
- 第12回 ・ミラー版『ヴェニス商人』
- 第13回 ブラナー版『ヘンリー5世』のフォールスタッフとハル王子
- 第14回 前期レポート試験
- 第15回 『ハムレット』のホレーシオとハムレット
- 第16回 ・オリヴィエ版『ハムレット』
- 第17回 ・リチャードソン版『ハムレット』
- 第18回 ・BBC版『ハムレット』
- 第19回 ・ゼフィレリ版『ハムレット』
- 第20回 ・ブラナー版『ハムレット』
- 第21回 ・黒澤明の『悪い奴ほどよく眠る』の西と板倉
- 第22回 ナン版『十二夜』のヴァイオラとオーシーノー
- 第23回 『二人の血縁の貴公子』のアーサイトとパラモン
- 第24回 『二人の血縁の貴公子』
- 第25回 後期レポート試験

成績評価の方法

レポートから判断する。

教科書

プリント配布。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|----------------|---|-----|
| イギリス文学特講Ⅱ | たかのまさお 高野正夫 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心を持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。

もちろん、DrydenやPopeなどに代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomsonのように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward YoungやRobert BlairそしてThomas Grayなどのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。

そして、1798年にWilliam WordsworthとSamuel Taylor Coleridgeによって出版されたLyrical Balladsという、1冊の詩集によってこのような古典主義的で因襲的な詩の流れが大きく変わってしまったのである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。

イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩などを中心に読みながら、ワーズワスの詩の世界を見ていくことにする。

履修上の留意点

授業ではよくノートをとること。

教科書

教場にて指示します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|---------------------|---|-----|
| イギリス文学特講Ⅲ | おかざきとしいちろう 岡崎寿一郎 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく「現代」modernityという言葉の感覚を理解することは、むつかしいとおもいます。この認識の方法によって、19・20世紀の英詩について、その現代的な意味を確認します。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進行については、前期では、ワーズワス、コールリッジ、バイロン、シェリー、そしてキーツのロマン派詩人たちの詩について、フランス革命・イギリスの産業革命という時代的背景を捨象することなく論究してみたい。後期では、ヴィクトリア朝の時代と詩人たちについて、テニスン、ブラウニング、スウィンバーン、そしてマシュー・アーノルドの詩を検証した後、イギリスの近代文学を拓いたオスカー・ワイルドの詩と批評を出発として、近代詩人イエーツ、エズラ・パウンド、T. S. エリオットの現代詩（モダニズム）、さらにD. H. ロレンスの詩の論究を経て、現代イギリスの詩人たちの詩にと到達したいとおもいます。

成績評価の方法

成績評価については、平常評価としての出席(50%)、前期試験に代わる夏季レポート(25%)、後期試験(25%)による総合評価とします。

教科書

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、対象とした詩人と詩について必要なプリントを配布します。

参考書等

参考書・文献については講義中に適宜言及します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|-------------------|---|----|
| イギリス文学特講Ⅳ | なか 岡 ひろし 中 岡 洋 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

- 講義のねらい**

イギリス小説のなかで特異な地位を占めつつ、もはや伝統の外部とはいいいがたくなっているブロンテ文学について講義する。わが国では比較的よく親しまれていると思われるが、正しく理解するためにあらゆる方面から考察を加えてみようと思う。
- 講義の内容・授業スケジュール**

具体的には Charlotte Brontë (1816-55) の *Jane Eyre* (1847) をはじめとして、姉妹のすべての小説にふれ、初期作品から詩歌、エッセイの類まで扱う。また映画化された作品もあり、それらを上映、鑑賞する機会ももちたい。全体をほぼ把握した段階で、その周辺の作家たちとの関連に言及し、広くイギリス文学の特質を理解するように努める。
- 履修上の留意点**

出席に励むこと。各自が自覚をもって勉強に励むことを期待している。
- 成績評価の方法**

出席回数と試験の結果によって評価する。
- 教科書**

特に定めないが、その都度参考書を挙げて説明するので、読んでおくようにする。
- 参考書等**

教場で適宜指示する。
- その他**

真面目に受講することを期待し、不真面目な受講態度の学生は退席してもらう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|---------------------------|---|----|
| イギリス文学特講Ⅴ | ふ じ かわ よし ゆき 富 士 川 義 之 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

- 講義のねらい**

英国における文学と絵画についての講義。ロマン主義時代の風景詩と風景画、ラファエル前派から世紀末の文学と絵画の関連性についてふれる予定である。
- 講義の内容・授業スケジュール**

講義で述べる詩人や作家の文例をコピーで読むとともに、19世紀英国の画家たちの絵画をテレビ画面に映して見ることにより、文学と絵画により親しんでほしいと願っている。
- 履修上の留意点**

積極的に取り組んでいただきたい。毎回出席をとる。
- 成績評価の方法**

レポートと試験。
- 教科書**

コピーを配布する。
- 参考書等**

適宜指定する。
- その他**

講義が中心だが、討論の機会を随時もうけるつもりなので、ぜひ参加してほしい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|------------------|---|-----|
| イギリス文学特講Ⅵ | まるこつお 丸 小 哲 雄 | 禪・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

批評行為は人間の本能です。文学テキストの読みについての論議が必要なのは、やみくもに文学テキストを読んでもそれほど大きな効用はなく、テキストの読み・解釈・批評の交通整理が必要であるからです。テキスト間の相違に折り合いをつける枠組は、いわば作者の「方法」を読みとるためであり、読み手自身のテキストを作ることもあります。その「方法」は一般化、普遍化できるものですが、人間の不合理や不条理を取り扱う文学論はテキストの神秘的な解釈から脱神秘的な解釈へいたる回路を、いかに創り出してゆくかが問題となります。

であるから、初発の読書体験を大切に、主体としての〈持続する〉テキストをどう形成してゆくかを説明し、そこから文学批評方法を修得し確立して、テキストの印象や感想に価値を見出せるようにしてゆきます。とりわけ批評行為は、テキストの読み・解釈・批評の過程にあって、テキストの構造の織り目をゆるめて、テキストの持つ価値や姿勢に対して対立し、そのイデオロギーと対決する最後の機会であり、テキストに対してどのようにして責任をとるかを発見することです。文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題になってきますので、本講義は文学批評のさまざまな方法に親しみつつ、テキストの印象や感想に価値を見出せるように講義してゆきます。そのために文学テキスト内部からテキスト外部へどう出てゆくかの手順を批評的ディスクールとして説明してゆきます。

講義の内容・授業スケジュール

テキストの読み方と研究の仕方を覚えるためにさまざまな文学テキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

1. 文学テキストの虚構的世界とその必要性について
2. 文学的言語とは何か：日常言語と虚構言語の差異について
3. 文学テキストの機能と力について
4. 英文学研究の成立過程：文学研究制度の問題について
5. 伝統的方法とテキスト演習
6. ロシア・フォルマリズム
7. ニュー・クリティシズムとテキスト演習
8. 受容理論（読者論の立場）
9. 「精神分析批評と原型批評」とテキスト演習
10. 構造主義
11. 記号論
12. 「構造主義と記号論」とテキスト演習
13. ポスト構造主義
14. ニュー・ヒストリシズム
15. 批評精神の遍在性と批評的態度について

成績評価の方法

試験等による成績評価については、平常点50%、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）50%。クラスでの発表者には別途評価。

教科書

- イ) 『〈持続する〉テキストへの意匠』（英宝社）
ロ) プリント使用：プリントのファイルを用意すること：読書リストのプリント配布

参考書等

- イ) 『楽しく読めるアメリカ文学』（ミネルヴァ書房）
ロ) 『楽しく読めるイギリス文学』（ミネルヴァ書房）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|-------------|---|----|
| アメリカ文学特講Ⅰ | あずま 東 雄 一 郎 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

アメリカの1640年の *The Bay Psalm Book* から現在にかけて、子供たちに読み継がれてきた詩を読みます。イギリスから渡ってきた人々は聖書とマザーグースを新世界にもたらしました。植民地時代の子供たちは、教会や学校で、大人たちと同じく、信仰心にあつい詩を読み、それを教材としました。子供たちはロングフェロー、ホイットィアー、ブライアントなどの詩を暗誦しました。独立革命の *The New England Primer* のアルファベットの W は“Whale”から“Whashington”に変わりました。19世紀になると、女性詩人たちが様々な雑誌に、自作の詩を掲載し、家族を支えました。夫に先立たれた女性、なまけ者の夫をもつ女性、病気の両親を養う女性、おさない弟や妹のめんどうをみなければならなかった女性たちでした。19世紀のアメリカの児童文学は、現在のデイズニーランドもはるかに及ばない大輪の花を咲かせていました。シゴニーは、先住民の悲惨な生活を訴え続けました。ナサニエル・グラハム・シェファードは南北戦争の兵士の死を人類の死滅と訴えました。この一方で、アメリカの子供たちの詩には、実に楽しい言葉あそびの詩、ナンセンス詩も多くあります。その代表は、ジェイムズ・ホイットコム・ライリーです。永年、アメリカにはライトヴァースは存在しないなどと吹聴されてきましたが、それはウソです。そして、文学は、ウォレンス・ステイブンスが言う、至高のウソです。虚構は現実を超越します。そして、現実人間の想像世界よりも常に先んじてしまいます。この想像の森の中のしげみの中で、子供たちの詩はその未知の訪問者を待っています。アメリカの子供たちは、その当初から、大人の世界を共有してきたのです。そこには大人と子供の境界線などありません。ジョン・レノンの〈イマジン〉の世界があるだけです。

教科書

The Oxford Book of Children's Verse in America

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|--|---|----|
| アメリカ文学特講Ⅲ | 前期：あし だ かす ひと 足 田 和 人 後期：かわ 崎 えみ か佳 川 崎 笑 佳 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

ロスト・ジェネレーションと呼ばれる作家の短編小説を読み、その特徴を探る。また、歴史的、文学史的背景を考慮に入れながら、彼らの技法を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

それぞれの作家の作品に目を通しながら、講義を行う。

履修上の留意点

あらかじめ指定された英文テキストを読んでいることを前提に講義を進める。授業中に発言を求めることもあるので、積極的な参加を希望する。

成績評価の方法

毎時間、小レポートを提出してもらい出席とする。加えて、前期・後期あわせて2回のレポートを課し、年間の評価とする。

教科書

プリント配布。

参考書等

必要に応じて紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------------|--------------------|--|-----|
| 演 劇 特 講 (イギリス・アメリカ) | 前期：荒井良雄 後期：落合和昭 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経 A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

イギリス演劇とアメリカ演劇を、欧米演劇の原点であるギリシア・ローマ演劇の伝統をはじめ、最近のロンドンやブロードウェイにおける上演や、映画化作品、さらには日本における受容も視界に入れて講義する。とくに20世紀の英米演劇の劇作家と作品を重点的に取り上げる。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、シェイクスピアを中心に、イギリス演劇を荒井が講義する。Comedy of Manners、オスカー・ワイルド、20世紀のイギリス演劇を代表する劇作家と作品を、時代順に取りあげる。後期は、20世紀のアメリカ演劇を落合が講義する。Eugene O'Neill, Thornton Wilder, Tennessee Williams, Edward Albee, Sam Shepard などの劇作家論と作品研究を中心に授業を進める。

履修上の留意点

前期のイギリス演劇は荒井、後期のアメリカ演劇は落合が担当することを承知の上で受講すること。

成績評価の方法

前期は7月に試験、後期は定期試験の形ではなく、レポート課題（原稿用紙5枚程度）を3回以上提出してもらう。出席に関しては、出席率は三分の二が必要である。

教 科 書

前期 特定の教科書は使用しない。戯曲や参考書は講義の主題毎に紹介する。
後期 プリント、また、必要があれば、教室で指示。

参 考 書 等

荒井良雄著 『英米文学映画化作品論』（新樹社）2,500円
太平和登・荒井良雄共著 『ブロードウェイ！ブロードウェイ！』（朝日新聞社）1,200円

そ の 他

舞台や映画のビデオや演劇の朗読テープを随時使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------------------------------------|--|-----|
| 時 事 英 語 | Sanders, Leonard P. (サンダース, L. P.) | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

このクラスでは、様々なマスメディア（ドキュメンタリーフィルム、TVニュース、雑誌、タブロイドなど）で使われている英語を通じて、表現や文化を学んでいく。
Intertextual Analysis のメソッドで行う。

講義の内容・
授業スケジュール

テキストを読み内容を把握し、ビデオを見てエクササイズを行う。後半はディスカッションを行う。

成績評価の方法

年に2回テストを行う。

教 科 書

教科書は使用せずプリントを配布する。

そ の 他

ビデオを使用する。授業は英語で行う。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------|------------------------------|-----|
| 地理思想史 | たけのうち けいいち 竹内啓一 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・経A・商・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

地理学史ではなく、地理思想史の講義であり、一昨年度は、日本地理思想史の講義をしたので、本年度は世界地理思想史の講義をする。ここで、地理思想史とは、領域、場所、環境といった空間的な生活条件に関する社会思想史であり、そのような地理思想史が、時代により、世界各地の文化により、どのように異なり、同時に普遍性、共通性を持っているかということが、まず大きなテーマになる。また地理思想史という場合、民衆レベルでの思想と実践 (folk geography) から、統治者のものの (official geography)、近代における制度化された高等教育機関でアカデミシャンとして禄をはんでいる者のもの (academic geography) まで、様々な次元のものがあり、これらの社会的背景を異にする多様な地理思想の間の接続と断絶関係を明かにすることも、この講義の一つの課題である。また地理的イマジネーション、環境に対する関心、地理的实践は空間的に限定された局地的なもの (local concerns)、国家レベルのもの (national concerns)、世界的なもの (global concerns) とスケールを異にするものがあり、これらの間には多様な拮抗関係があって、その解明も地理思想研究の課題となる。このような folk、official academic geographies が、local、national、global concerns をめぐって、どのような関係にあったかを、通時的 (diachronic)、かつ通文化的 (cross-cultural) に解明するのがこの講義の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

下記の教科書、および配布資料を用いて、講述方式で講義をすすめる。まず上記の私の問題意識にしたがって、地理思想史の構造について話をし、後半の部分では地理的知識の形成と知の体系として地理学の展開、土木、軍事などにおける地理的実践の歴史を、いくつかのトピックごとに時代をおいながら話していく。講義への出欠のチェックはしないが、予告なしに、講義時間の最初または最後に小テストを何回か行う。

成績評価の方法

上記小テストの成績 (40%) と学年末の持ち込み一切自由の筆記試験 (60点) による。

教科書

ポール・クラヴァル (竹内訳) 『現代地理学の論理』 (大明堂) 2,500円

参考書等

読むべき文献・参考書等は講義中の提示するが、アカデミー地理学の歴史、地図史、探検史に関する文献を以下にかかげておく。
 手塚章 (訳編) 『地理学の古典』 (古今書院)
 西川治 (編) 『地理学総論』 (総観地理学講座 1) (朝倉書店)
 水津一朗 『近代地理学の開拓者たち』 (地人書房)
 野沢秀樹 『フランス地理学の群像』 (地人書房)
 飯塚浩二 『人文地理学説史：方法論のための学説史的反省』 (日本評論社) (『飯塚浩二著作集』 6 平凡社に収録)
 野沢秀樹 『ヴィダル・ド・ラ・ブラーシュ研究』 (地人書房)
 竹内啓一 『とぼろうぐ』 (古今書院)
 織田武雄 『古地図の世界』 (講談社)
 織田武雄 『地図の歴史』 (講談社)
 長澤和俊 『世界探検史』 (白水社)
 スケルトン (増田・信岡訳) 『探検地図の歴史：大航海時代から極地探検まで』 (原書房)
 増田義郎 『大航海時代』 (世界の歴史13) (講談社)
 ジョン・ノーブル・ウィルフィールド (鈴木訳) 『地図を作った人びと：古代から現代まで』 (いたる地図製作の偉大な物語) (河出書房新社)
 日本における近代地理学の発達については以下の私の著書がある。
Modern Japanese Geography: An Intellectual History. (Kokon-Shoin)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|--------------------|---------------------------------------|----|
| 地形学 | しみず ちょうせい 清水 長正 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉 心理・経A・商・短大 | 4 |

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。
1. 地形学の成り立ち、2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）、4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）、6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点も多少加味する。

教科書

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円

参考書等

小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------|--|----|
| 人口地理学 | おおとも あつし 大友 篤 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

地理学は、地域の特性や機能、地域的關係、地域間の相互作用、地域構造、あるいはこれらの変化を明らかにする学問である。しかし、地域は、地球表面上の一定の広がり（空間）と定義することができるが、きわめて抽象的な実在であるために、上記の諸要素を明らかにするためには、地球上に存在している何らかの事象を媒介にすることが必要になる。すなわち、人口地理学は、人口現象を媒介にして、上記の諸要素を明らかにしようとする学問である。したがって、人口地理学の研究にあたっては、まず、人口現象を正しく理解することが必要であり、そのためには、人口学の知識が必要となる。1年間という制約のなかでは、人口学とその知識に基づく人口地理学の2分野の講義はできないので、ここでは、人口学の基礎知識を説明しながら、これまでに人口地理学研究のなかで明らかにされた法則や理論などを平行して説明する。

講義の内容・授業スケジュール

人口構造（基本的構造、社会的構造、文化的構造、経済的構造）、人口動態（出生、死亡）、人口移動（国内移動、国際移動）、人口の地域分布、人口変動と将来予測、人口と資源、人口と環境などの項目について、体系的に説明する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------|---|-----|
| 文化地理学 | 小 田 匡 保 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経 A・商・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

文化地理学の内容は幅広いが、本講義では、特に宗教地理学の研究例について述べる。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 文化地理学とその概要
2. 宗教地理学
3. 宗教分布
4. 宗教集落・宗教都市
5. 巡礼

成績評価の方法

成績評価は、レポートと試験によって行なう。レポートが提出されない場合は、単位認定は保証できない。

教 科 書

使用しない。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------|---|-----|
| 応用地理学 | 高 木 正 博 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経 A・商・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

この科目は、地理学と他の研究分野を視野に入れた学際的なテーマを考えている。講義では「河川」を対象とし、これの専門分野である河川工学や農業水文学などの成果をふまえつつ、地理学として河川をどのように扱うかを考える。河川は、河道だけでなく流域全体を捉えることが必要である。流域（地域）における自然的特性とその土地の人々とのかかわりあいを利用・災害・自然環境などの視点から考える。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、河川の流出に関する基本特性について水文学的に講ずる。つぎに、いくつかの具体的な河川を事例として、利用・災害・河川環境などの視点からそれぞれの河川特性を考える。また、都市の水環境など、川をめぐる現実的な課題について、その本質を探る。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。

成績評価の方法

学年末試験と夏休みのレポートの他、授業中の課題など平常点も加味する。

教 科 書

授業時間に配布するプリントを使用。

参 考 書 等

高橋 裕『河川工学』（東京大学出版会）その他随時紹介する。

そ の 他

講義中心。事例紹介のためのスライドや OHP、ビデオも使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------------------|---|-----|
| 現代地理学特論 | はせがわ ひとし 長谷川 均 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経 A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

新聞やテレビで“沖縄”の二文字を目にすることが多い。沖縄県では、本土復帰以降、巨額な資金がつぎ込まれ、島々の自然がいたるところで痛めつけられている。また最近、本島北部に米軍基地の移転と空港建設を目指した新知事が誕生し、それに伴う自然へのダメージを懸念する声も強い。この講義では、これらの現状とその背景にある沖縄の自然を解説し、地理学の分野で試みられている環境保全の取り組みや新しい調査方法を紹介したい。

講義の内容・授業スケジュール

前期のテーマは「沖縄の自然」「沖縄における土地改変と自然環境の悪化」である。これらは、私が最近興味をもって取り組んでいるテーマでもある。サンゴ礁の自然をとおして、これらの現状を解説したい。地元紙の記事やインターネットで流れている情報なども紹介する予定である。なお、後期は、前期の内容を受け「リモートセンシングデータ」や「地理情報システム」を使って、地球や環境の変化を抽出する方法、地理学への応用例を沖縄での事例を中心に解説する。詳しいスケジュールについては、講義開始時に年間計画表（シラバス）を配布し説明する。

履修上の留意点

講義中の私語、いねむり、教室からの退回は認めない。

成績評価の方法

2回の定期試験結果により評価する。出席し講義をまじめに受けていれば単位取得は容易なはずである。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書等

シラバスの付録として参考書のリストを示す予定である。

その他

VTR、スライド、PCによるプレゼンもおこなうが、基本的には講義形式の授業である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------------|--------------------|---|-----|
| 日本史特講Ⅶ 〔近代〕 | こいずみ まさひろ 小泉 雅弘 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経 A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

近代日本の出発点となった幕末維新期の諸問題について講義し、最近の研究動向にも触れながら維新変革と近代国家の成立について考える。

講義の内容・授業スケジュール

最初に明治維新史の時代区分に関する諸説を検証し、次いで幕藩体制の崩壊から明治国家成立の過程を検討する。その際、必要に応じて史料講読を行いながら授業を進める。具体的には、ペリー来航・開国、安政の大地震と民衆、幕政改革、幕末の政治運動、江戸の都市騷擾、戊辰戦争、維新政権、民権分離問題、廃藩置県、岩倉使節団と留守政府、明治六年の政変、文明開化、藩閥権力の生成などを、集団・情報・国民国家といった観点も取り入れながら述べていく。

履修上の留意点

既成の歴史認識にとらわれるのではなく、史料批判や史料解釈などを基礎とした自ら歴史を考える姿勢を身につけてほしい。

成績評価の方法

定期試験により評価し、出席状況を加味する。

教科書

特にないが、必要な資料はコピーして配布する。

参考書等

講義内容に則して、適宜参考文献を紹介したい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|----------------------|---|-----|
| 考 古 学 特 講 Ⅲ | や の かず ゆき 矢 野 和 之 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経 A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学、歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。

このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
 - ・日本建築史（古代）概要
 - ・遺構とその上部構造体の復元
 - ・保存計画概論
 - ・保存科学、保存工学概論
 - ・まちづくりと文化財
 - ・計画策定の実務
 - ・国内の事例
 - ・海外の事例、文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物

教 科 書

なし。

参 考 書 等

適宜指示。

そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------------------------|---|-----|
| 日本仏教史Ⅱ | えん どう ひろ あき 遠 藤 廣 昭 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経 A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

中世の仏教諸宗派の展開を、特に関東にスポットをあてて概観し、その過程を明らかにしていきたい。その中でも、地域社会とのかかわりを中心にしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は古代仏教も概観するが、講義の中心は中世の関東における仏教諸宗派の展開にしぼって見たい。

中でも真言宗と曹洞宗については詳述する。なぜならば、関東においては、古代仏教諸宗派中真言宗が最も多く展開を見、いわゆる鎌倉新仏教の中では曹洞宗が最も展開をとげていることから、両宗は地域社会とのかかわりも深いと考えられるからである。このうち真言宗の展開の場合は、鎌倉・室町時代を通して、京都・鎌倉との関係は無視できない。そのような視点からも講義を進めて見たい。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験の結果と出席を基本とするが、出席は特に重視する。

教科書

特になし。必要な資料は、授業時に配布する。

参考書等

特になし。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|---------------------------------------|-----|
| 日 本 民 俗 学 | たに ぐち みつぎ 谷 口 貢 | 禅・仏教・英米文 地理・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の霊魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）
新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』（日本実業出版社）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|------------------|-------------------------------------|----|
| 哲学史 | やまぐちまさひろ 山口祐弘 | 国文・英米文・地理 社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

カントを源とするドイツ観念論の諸思想は現代に様々な照明を与えてくれる。今日確実な思索を行おうとするならば、繰り返しそこに立ち返ることが求められ、またその意義は尽きない。だが、その発展を一望のもとに収めることはたやすいことではない。その根本にあった問題は何か、それを駆動してものは何か、が問われねばならない。そうした問題論的展開として捉えた時に、ドイツ観念論は一つの歴史となるのである。本講は、この意味でドイツ観念論に歴史を発見しようとする試みである。カントが提起しかつ後世に残した課題を明らかにし、それが如何なる方向に解決を求めていったかをフィヒテ、シェリング、ヘーゲルを軸として考察する。

参考書等

山口祐弘『カントにおける人間観の探求』『ドイツ観念論における反省理論』（勤草書房）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|--------------|--|----|
| 歴史哲学 | あそうけん 麻生建 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は、単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末の試験による。

教科書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------|--------------------------|--|-----|
| 産 業 ・ 職 業 社 会 学 | あん どう き く お 安 藤 喜 久 雄 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経A・商 法A・政治・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

急激な環境変化によって企業社会が大きく変貌しつつある。この点について産業社会、企業、労働組合、勤労者相互の関係をふまえながら考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の諸項目について講義を進める。

1. 企業変容と勤労者生活
2. 企業と経営組織
3. 職場集団と人間関係
4. 日本的経営と組織風土
5. 日本的雇用慣行の転機
6. 労使関係と労働組合
7. 就業構造の変化と職業意識
8. 企業と社会

成績評価の方法

出席点と定期試験の両方で評価する。

教 科 書

安藤喜久雄他『企業社会の構図』（学文社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------------------|--------------------|------------------------------------|-----|
| マ ス ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論 | かわ もと まさる 川 本 勝 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経A・商 経営・短大 | 4 |

講義のねらい

社会的コミュニケーションの特質を整理し、マス・コミュニケーションの社会的機能を考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、社会生活とコミュニケーションの関連を考える。私たちの社会生活は、コミュニケーション活動による他者との相互作用によって成り立っている。現代社会におけるメディア状況を整理し、メディア環境の変容とそれらを利用してどのようなコミュニケーション活動が営まれているかを考察する。パーソナル・コミュニケーション、マス・コミュニケーションなど社会的コミュニケーションの特質を講義する。

後期は、マス・コミュニケーション活動が社会や人々に対してどのようなインパクトや社会的機能を果たしているか、問題点は何かについて考える。特に、マス・コミュニケーションの受容過程研究を扱いながらその結果、影響について考える。

履修上の留意点

他学部・学科履修ができる科目であるが、他学部・学科の学生は、社会学の科目をすでに履修しているなど社会学の基礎知識を修得しておくことが望ましい。

成績評価の方法

講義中に課する小レポート、出席を考慮し、試験によって行う。

教 科 書

用いない。

参 考 書 等

適宜紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------|--|-----|
| 社会福祉発達史 | ほやし 林 千代 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経A・商 法A・政治・経営・短大 10以降入学生/心理 | 4 |

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

成績評価の方法

後期にレポートを提出してもらいそれによって行なう。

教 科 書

特にきめないが、今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）をあげておきたい。

そ の 他

9年度以前入学の社会学科心理学コースの学生は、この科目を履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------|---|----|
| 国民所得論 | よしの野 おきむ紀 | 簿・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法 A・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」……………5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」……………4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」……………8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」……………4回
前講までの内容が理解できれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内および国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」……………5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。再試験は実施。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』(第6版)(多賀出版)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------|---|----|
| 日本経済史 | はしの野知子 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法 A・政治・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

本講義では、近代日本における経済社会の動きを国際的な経済環境のなかに位置づけながら概観していきます。特に近年の数量経済史や経済発展論の分野における研究蓄積を利用しながら、西欧やアジアとの比較を念頭において講義する予定です。

学生諸君には、日本経済における現代的課題や戦後経済史の重要なトピックスが、この講義で考察する歴史的背景のなかで生まれてきたことを理解して欲しいと思っています。よって、単なる「丸暗記」を要請するものではありません。講義の中で、第二次大戦以前の日本経済における基本的事実を理解し、大まかな流れをつかみ、重要な問題を発見して下さい。また時代・地域を問わず、社会には光と影が存在します。それらについては講義の中でも触れるつもりですが、自らその両面を常に意識し考えながら講義に出席されることを希望します。

講義の内容・授業スケジュール

- (1)近代日本経済史へのアプローチ1－日本経済史に対するさまざまな見方
- (2)近代日本経済史へのアプローチ2－幕末の経済と開港、明治維新、近代国家の形成と経済共通基盤の整備
- (3)近代経済成長の始動－殖産興業と松方財政、在来部門の成長と再編成
- (4)国際政治・経済秩序「ボックス・ブリタニカ」のなかの日本経済
- (5)工業化の進展1－近代工業の発展と貿易、技術移転とその担い手
- (6)工業化の進展2－農業部門と非農業部門との関係
- (7)日清・日露戦争と日本経済
- (8)第一次世界大戦と日本経済－工業化の新しい局面
- (9)1920年代－世界秩序の再編「ボックス・アメリカーナ」と日本経済
- (10)「慢性的不況」－金融再編成と産業合理化
- (11)二重構造の発生と都市化に伴う社会の変化
- (12)1930年代－対立へと変化する国際社会と日本経済
- (13)「戦後経済史」への展望－産業構造の変化、市場経済の変容、戦時経済の意味

履修上の留意点

基本的には教科書にそって講義を進める予定です。重要なトピックスについては参考文献に加えて統計資料、一次資料などを配布して説明します。日本経済史への理解を深めるためにも、講義中紹介された参考文献については、できる限り読むように心がけて下さい。

現在起こっているさまざまな問題には、必ず歴史的な背景があります。日常生活の中でニュースや新聞などに積極的に慣れ親しみ、そこで感じた「なぜ? どうして?」という疑問を大切にして下さい。

成績評価の方法

夏休みのレポート、後期試験、出席状況を総合して評価します。

教科書

三和良一『概説日本経済史 近現代』（東大出版会）1993年 2,400円＋税

参考書等

講義の中でその都度紹介します。

その他

授業は講義形式。OHP、ビデオの利用による説明もあります。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|---|----|
| 中小企業論 | 三井逸友 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

「中小企業」を論じるということは、意外に容易ではない。なぜなら、「社会科学的概念」を抽象的に論じるのではなく、慣れ親しんでおり、それなりの「固定観念」や「イメージ」が「言霊」としてつきまとっているのが、日本語の慣用語の一つとしての「チューショーキギョー」だからである。しかしそんな「日用語」を一年もかけて論じようというのがここでのねらいではない。ねらいはむしろ、「中小企業は経済のきわめて重要な (critical) 構成要素である」(クリントン米国大統領) と評される事実を、客観的総合的にとらえ、考えていくことにある。

日本の中小企業はその数約600万、企業の99%、従業者数の80%を占め、製造業中心企業に限っても80万を数え、付加価値の50%以上を生み出している。まさしく、『日本は「中小企業国」だから強い』(森清著、ダイヤモンド社刊) のである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が十分その成果の恩恵にあずかっていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差・不利・経営不安などの「問題状況」も依然広く見られ、長期不況と信用収縮の中でまた、きわめて深刻ともなっている。しかもこのように「期待」と「困難」とが交錯するという事態は、いずれの国でも共通して確認できる。それにもかかわらず、日本の政府は、従来の中小企業政策を不要とし、時代錯誤な姿勢を世界にさらけ出した。

中小企業をめぐる現実をとくカギを、その役割と当面する問題、そしてこれに対する経済学的な理解の方法を検討し、中小企業の役割・可能性とこれを妨げる諸問題への政策的対応の意味を通じて明らかにしていくのが、この講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

第一部 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況

ここでは、「中小企業論」の性格と方法を示し、その対象としての中小企業の存在の実態を、国際比較を含めて概観する。その上で、中小企業が直面している問題状況や、中小企業の新生・成長と転廃業・退出の経済的社会的メカニズムを具体的に検討し、「日本の中小企業問題」の位相と今日性を再確認する。

第二部 「中小企業論」研究の理論と方法

ここでは、中小企業の存立と問題性をめぐる従来の理論・研究を振り返り、新たな方法を提起する。「中小企業存立論」「問題論」や「貢献論」だけでなく、今日の「企業家論」、さらに、いわゆる「ベンチャー企業論」や「企業家精神論」、「ポストフォーダイズム論」もここでの批判的検討対象である。それらの限界性をふまえて、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけの方法を指摘する。

第三部 中小企業の現代的存在形態と「経済システム」「経済的關係」

ここでは、うへの研究方法にもとづいて、中小企業の存在の実態を構造的に解明する。「下請制」「地場産業産地」「大都市中小工業」などといった、我が国の従来の中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追う。あわせて、80年代後半以降の、日本企業の「国際化」のもとでの、日本的企業間関係と管理手法の「輸出」、「現地化」の示した特徴と限界から、中小企業の存立の普遍的意味をあらためて考える。結合生産力の「効率性」と、競争と統制・管理の原理の貫徹がもたらす「経済的關係」のうちの問題状況・「自立」企業の可能性と経営展開の意義が、基本的視角となる。

第四部 中小企業政策の展開と国際比較

ここでは、「中小企業問題」の展開とこれに対する各国の「中小企業政策」の国際比較研究を行う。ポイントは「生産力的」に成功を取ってきた我が国の「中小企業の近代化政策」の評価であるが、これに対する欧米の政策の相違、そして世界経済の一体化、地域経済圏の形成のもとで、近年の「収斂傾向」を検討し、特に EU 欧州連合ならびに欧州諸国の政策の最新の特徴にふれる。また、我が国については、近年の「中小企業政策」否定、創業促進策、ベンチャー企画支援策などへの「転換」も検討する。

履修上の留意点

中小企業の研究は、ナマの企業の実態から始まるものであり、その意味で現実感覚が大切である。講義の中では、「教科書をなぞる」ようなことはなるべく避け、今日の現実的な話題を重視したいので、教科書くらいは事前に読んでおくようにしてほしい。また、夏休みには補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。

成績評価の方法

基本的には、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。「出席」を取るという空しい作業をするつもりはないが、「出席状況」は加味する。「再試験」は実施する。

教科書

三井逸友『現代経済と中小企業』(青木書店) 2,800円 (税抜)
 同編『日本の生産システムの評価と展望』(ミネルヴァ書房) 3,600円

参考書等

三井『EU 欧州連合と中小企業政策』（白桃書房）2,330円
巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ 新版』（有斐閣）2,200円
中小企業庁編『中小企業白書』[各年次]
中小企業総合研究機構訳編『ヨーロッパ中小企業白書 1997』（同友館）3,500円
佐藤編『21世紀、中小企業はどうなるか』（慶大出版会）2,300円
中小商工業研究所編『現代日本の中小商工業－国際比較と政策編』（新日本出版社）、刊行予定

その他

「講義」形式を基本とするが、企業のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、「ベンチャー」起業家、企業経営者や行政関係者の方々の話なども取り入れたい。その中で、企業の経営実態、産業動向等についての、担当者の世界各地や全国での最新の見聞も豊富に活用していく。また、諸方面の WEB サイトの提供する情報は（担当者自身のものを含めて）、必須の材料である。

http://www.komazawa-u.ac.jp/Gakubu/Mitsui_Seminar/mit/

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|----------------------------------|-----|
| 社 会 政 策 | みつ おか はく み 光 岡 博 美 | 禅・仏教・国文 英米文・地理・歴史 経営・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけでなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととした。

- (1) 社会改良の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 高齢化社会と社会保障
- (7) 日本的労使関係の現実と未来

上にのべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者があるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。なお、再試験は実施しない。

教科書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------|---|----|
| 教育経済論 | やしきただみつ 谷 敷 正 光 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 法A・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるとされている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の経済と教育の現状をまず明らかにする。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育

- (1) 日本の産業化と教育
- (2) 日本の経済成長と教育
- (3) アメリカの教育最前線 (ビデオ)
- (4) レーガン大統領の経済と教育 1 「危機に立つ国家」 (一部ビデオ)
- (5) レーガン大統領の経済と教育 2 「国家は応える」 (一部ビデオ)
- (6) ブッシュ大統領の経済と教育 1 「全米教育サミット」 (一部ビデオ)
- (7) ブッシュ大統領の経済と教育 2 「2000年のアメリカ」 (一部ビデオ)
- (8) クリントン大統領の経済と教育 「21世紀アメリカ教育行動計画」 (一部ビデオ)
- (9) サッチャー首相の経済と教育 「教育改革法」 (一部ビデオ)
- (10) メージャー首相の経済と教育 「競争力白書」 (一部ビデオ)
- (11) ブレア首相の経済と教育 (一部ビデオ)

2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策

- (12) 学制時代における経済と教育 1 富国強兵・殖産興業 (映画)
- (13) 学制時代における経済と教育 2 学制公布と「行政管理学校」
- (14) 教育令時代における経済と教育 1 工場払下と産業の勃興
- (15) 教育令時代における経済と教育 2 教育令公布と実業補習学校・徒弟学校
- (16) 学校令時代における経済と教育 1 産業革命と産業の発展 (一部ビデオ)
- (17) 学校令時代における経済と教育 2 学校令公布と実業教育
- (18) 実業学校令時代における経済と教育 1 資本主義の確立 (一部ビデオ)
- (19) 実業学校令時代における経済と教育 2 実業学校令、専門学校令公布と「委託教育」「企業内学校」

3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策

- (20) 復興期の経済発展と教育 産業教育振興法公布 (一部ビデオ)
- (21) 高度成長第1期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
- (22) 高度成長第2期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
- (23) 高度成長第3期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
- (24) 高度成長終焉後の経済発展と教育

履修上の留意点

- ① 年間5回程度小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用する。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しない。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

- ① 授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。
- ② 再試験を実施。

教科書

毎時間、講義の教材として年間30～40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参考書等

参考文献を講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。
小林泰宏『アメリカで進む教育改革』（朝日新聞社）
土志田征一『レーガノミックス』（中公新書）
原田和男『ブッシュの米国経済』（日本経済新聞社）
大原 進『クリントンの米国経済』（日本経済新聞社）
森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』（岩波新書）
G・メイナード『サッチャーの経済革命』（日本経済新聞社）
A・グリーン、J・ハリスン『英国病』（新評論社）
天野郁夫『教育と近代化』（玉川大学出版部）
沼口 博『学校教育と経済発展』（学文社）
その他は講義の中で紹介。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------------------|--------------------------------------|----|
| 日本経済論 | 小林 正人 こばやし まさと | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・法 A 政治・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

日本経済の（第二次世界大）戦後の歴史について総合的に講義する。とくに日本経済を支える産業の発展史について詳しく説明し、これに対する日本的経営システムの役割について検証する。さらに、今の平成不況のなかで浮き彫りになってきた日本の経済システムの課題について述べる。日本経済は、高度経済成長をへたのち、幾度かの「危機」（とくに1970年代の石油ショックと、1980年代後半の円高）をのりこえてきた。しかし今日の平成不況の中で、日本の経済システムや経営システムの問題点も浮き彫りになった。これまでの発展の条件が、地球規模での技術発展と競争環境の中で、逆の条件に転化したのである。このような経済の発展や変化の意味をリアルにつかむには、産業や企業のレベルにまで立ち入り、技術発展や企業間競争の実態について調べる必要がある。講義ではここに力を注ぐ予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

- 戦後日本経済の展開過程
戦後改革
日本の高度経済成長：歴史とその原因
産業政策の役割
石油ショック、円高、バブル経済、平成不況
- 日本の産業構造
産業構造の理論と歴史
主要産業の歴史：鉄鋼、自動車、電機、半導体、工作機械
日本型経営システムの意義。欧米諸国との比較
- 日本の経済発展の総括と展望
平成状況の意義
情報通信革命（インターネット）
- 日本の産業問題
食糧問題と農業部門の意義
製品の安全性と PL 法
環境問題と経済発展

履修上の留意点

配布した講義資料は保管をする。講義では OHP などをよく使うので、見やすい位置に着席すること。また、講義の節目に出席状況の調査をする。

成績評価の方法

学期末テストによる。試験は論述式である。再試験は実施する。

教科書

なし

参考書等

適時指定する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|------------------------|---|-----|
| ア ジ ア 経 済 論 | ちよん 鄭 ちゃん 章 よん 淵 | 福・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法 A・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

いま、アジアから目が離せない。ついこの間まで「東アジアの奇跡」として世界の称賛を浴びていたアジア経済は、97年夏のタイ通貨急落を引き金とするアジア経済危機を機に、いまや世界デフレの震源地として国際的評価を失墜させている。この「ヤヌスの神」の顔を持つアジア経済を、私たちは、いったい、いかなる視点からアプローチすればよいのだろうか。これは、経済危機の当事者である日本人にとって非常に気の重い作業ではあるが、それ以上に、私たちの知的冒険心を刺激してやまない研究課題でもある。

この講義では、受講生諸君のアジア経済に対する理解を深めるために、アジア経済を歴史・理論・現状分析の3分野に大きく分け、できるだけその全体像に迫る予定である。基本的な視座としては、1960年代以降本格化したアジアの経済発展を20世紀後半期に新たに勃興した資本主義発展の事例と捉え、その特徴並びに発展と矛盾のメカニズムの解明に焦点を当てる。その際、従来のアジア経済論のように（典型的には、新古典派開発経済学）工業化の本格化した60年代以降の時期にのみ注目するのではなく、その「前史」をなす時期（特に、植民地期や戦後1950年代までの時期）も射程に入れて、通史的に経済発展過程を捉える。また、60年代以降の工業化過程において常に経済発展をリードしてきたアジア国家の役割を重視し、「開発独裁」概念を援用した分析を試みる。そして、あくまでもアジアに視座を置きつつも、現在に至る歴史過程において、その都度、アジア経済に決定的な影響を及ぼしてきた世界資本主義の動向にも注意を払いたい。

講義計画は、以下の通りである。

講義の内容・授業スケジュール

〔前期〕

1. 経済発展の前史
 - (1) 植民地経済
 - ① 資本主義萌芽問題
 - ② 植民地経済の実情
 - ③ 「植民地近代化論」批判
 - (2) 戦後経済発展の初期条件
 - ① 農地改革
 - ② 外国（アメリカ）援助
 - ③ 帰属財産払下
2. アジア NIEs の経済発展
 - (1) アジア NIEs の範疇と経済発展の特徴

※ NIEs の用語説明、経済開発戦略の特徴、産業の特徴
 - (2) 開発独裁体制の成立

※ 韓国の事例、その他の開発独裁
 - (3) 経済発展と民主化の弁証法
3. ASEAN 諸国の経済発展
 - (1) タイ・マレーシア・インドネシアの経済発展過程
 - (2) ASEAN の歴史
 - (3) 日本企業の進出状況

〔後期〕

4. アジア社会主義諸国の開放政策
 - (1) 中国の開放政策
 - (2) その他……ベトナム、北朝鮮
5. アジア経済発展論の系譜
 - (1) アジア NIEs 論
 - ① 新古典派アプローチ
 - ② 世界システム論的アプローチ
 - ③ その他…歴史・文化的アプローチ
 - (2) 東アジア経済発展論
 - ① 世銀のアプローチ
 - ② 国家主義的アプローチ
 - ③ 経済システムアプローチ・市場強化アプローチ
 - ④ その他……企業論的アプローチ etc.
6. アジアにおける地域経済協力
 - (1) APEC の発展過程
 - (2) ASEAN の自由化過程

(3)その他の中小規模経済圏

7. アジア経済の現状

- (1)アジア通貨危機の発生とその影響
- (2)その他の諸問題……環境問題 etc.
- (3)日本とアジアとの関係の展望

成績評価の方法

前後期二回のペーパーテストで評価する。試験の際に自筆のノートを参照にしてもらうので、講義中ノートをよくとってもらいたい。

教科書

特に定めないが、準テキストとして以下の文献を読んでもらいたい。
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』（有斐閣アルマ）2,000円（税抜き）
参考文献については、講義中に随時紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------|---|-----|
| 中国経済論 | 小杉修二 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法 A・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的解明をはかる。
前期授業のはじめに、キーワードを3週間分かけて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

これについて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立(1949年)から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル(1949~57年)、(2)毛沢東モデル(1958~78年)、(3)鄧小平モデル(1978~)として、それぞれの時期の特徴とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えられるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれなからう。そこで歴史的方法をとるわけである。

上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。
教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

再試験あり。

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設——超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎)4,000円

その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係っている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------|------------------------------------|---|-----|
| ア メ リ カ 経 済 論 | 瀬 戸 岡 紘 <small>と おか ひろし</small> | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法 A・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅広くわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅広く、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発をしてみようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥深く興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

講義の内容・ 授業スケジュール

年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

《導入の話題》

- ◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

- ◇アメリカの建国の理念と現代の経済
- ◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

- ◇アメリカの農業
- ◇アメリカの工業
- ◇アメリカの企業家とベンチャービジネス
- ◇アメリカの雇用と労働者
- ◇アメリカの商業とサービス
- ◇アメリカの交通・通信・情報
- ◇アメリカの金融
- ◇アメリカの教育と経済
- ◇アメリカの科学技術
- ◇アメリカの先端産業
- ◇アメリカ経済と環境問題
- ◇アメリカ社会とヴォランティア
- ◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

- ◇国際通貨ドルの地位と IMF
- ◇アメリカと貿易 (GATT と WTO)
- ◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義
- ◇アメリカの海外援助
- ◇アメリカの多国籍企業
- ◇多国籍企業とアメリカ経済

《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとカナダ・メキシコ
- ◇アメリカとEU
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- 《むすびの話題》
- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらぬで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をとおさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。すなわち、この講義では、一発の年度末試験よりも、平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定なのです。たとえば、授業で学んだことがらや感想を簡単に記した文章を年間をとおして何回も提出してもらうことを考えています。今年度も受講者との合意が成立すれば、平常点を中心に成績評価をすることにしたいと考えています。

なお、この成績評価のためまえから、再試験は実施しません。

教科書

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本全体の、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳、青木書店、1994年）をおすすめします。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|---|-----|
| ロシア・東欧経済論 | やまがたひろし 山 縣 弘 志 | 禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法 A・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることはできないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まざれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達しえたか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに応えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論とマルクス
 - (2) ロシア革命のめざしたもの——レーニン時代——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への転換
 - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立と実態
 - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
 - (1) 経済構造の特質と軍事生産
 - (2) 工業生産力と工業技術
 - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧の文化と社会
 - (2) 資本主義化の諸問題
 - (3) ロシアと日本——比較経済史——

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。
再試験あり。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るの当然のことになるだろう。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|---|-----|
| 商 業 政 策 | ばん ば ひろ ゆき 番 場 博 之 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法 A・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

近年、日本の商慣行や流通の多段階性、出店規制などに対して諸外国からの批判が高まり、いわゆるグローバルスタンダードなる基準の名のもとにこうした問題に対する改善が要求された。また、日本国内でも「消費者の利益」という大義名分のもとに流通規制緩和が急速に進んできた。しかしながら、そもそも日本の流通システムは非合理的なのであろうか。また、消費者の利益とは単に商品の価格が安いことだけなのだろうか。さらに、どのような規制緩和が本当にわれわれの生活を豊かにしてくれるのだろうか。本講義ではこのような問題意識のもと海外諸国の流通および商業政策との比較を通して日本の商業政策および流通を考えて行く。

講義の内容・授業スケジュール

講義はまず流通経済学の基本的事項を概説し、そのあと日本の流通政策（商業政策）体系を解説する。また、数回に1回の割合で講義の流れとは別に、テーマ講義を行う。ここでは、現在問題となっている商業政策・流通に関するテーマを取り上げて、1回完結の講義を行う。

- (1) ガイダンス（講義の進め方、流通経済・商業政策の枠組み）
- (2) 流通機構と流通構造
- (3) 流通の意義と機能
- (4) 資本主義商業の基礎理論
- (5) 日本の流通政策・商業政策とその枠組
- (6) 独占禁止法とその体系
- (7) 再販売価格維持制度と景品表示法
- (8) 取引の規制：おとり広告・二重価格表示・不当廉売等
- (9) 訪問販売法の改正と自立する消費者
- (10) 流通政策の転換と街づくり
- (11) 中小小売業の役割
- (12) 大規模小売店舗法
- (13) 流通規制緩和と大規模小売店舗法
- (14) まちづくり三法
- (15) 商店街再生への取り組み
- (16) 海外の流通・商業政策

年間で4～5回の実施を予定しているテーマ講義で取り上げるテーマには、例えば①小売業の組織化、②消費者心理とコンビニ、③電子マネー、④ヒット商品とマーケティング戦略、⑤大店立地法の施行とその問題点、⑥広告と流通、⑦キャッチセールスと消費者被害といったものを考えている。なお、詳細かつ正確なシラバスは開講時に配布する。

成績評価の方法

原則として定期試験の結果のみで評価する。再試験は実施しない。

そ の 他

- ・ 講義には OHC（教材提示装置）ならびにビデオを用いて、より具体的に商業政策にかかわる問題を見て行くこととする。
- ・ 講義の多くで教員の方で用意した書き込み式プリント、統計資料などを用いる。
- ・ 参考書・教科書・参考資料等は必要に応じて指示する。
- ・ 問い合わせ先、E-mail : h2banba@cuc.ac.jp、HP : <http://www.cuc.ac.jp/~h2banba>

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|------|--|----|
| マーケティング | 曾我信孝 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短国・短放 | 4 |

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
 - 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
 - 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
 - チャンネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
 - 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
- 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
 - 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合社との役割などである。
 - 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合社との関係などである。
 - 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
 - 総合社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていっそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合社の子会社戦略、②総合社のマーケティングの特性などについて説明する。

成績評価の方法

定期試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。定期試験に大きなウエイトをおいていることはいうまでもないが、ここでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。
再試験を実施する。

教科書

曾我信孝『総合社とマーケティング』（白桃書房）4,000円

参考書等

必要に応じて紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|---|-----|
| 経 営 管 理 論 | ひゃく た よし はる 百 田 義 治 | 揮・仏教・国文・英米文 地 理 ・ 社 会 福 祉 ・ 心 理 ・ 短 国 | 4 |

講義のねらい

大企業間の合併や提携、持株会社の解禁、企業集団の再編、リストラ、終身雇用・年功制の崩壊、能力主義・成果主義の台頭などなど、21世紀を目前に日本企業は大きく変貌しようとしています。その底流には、情報化・国際化（グローバル化）・規制緩和の進展、メガ・コンペティション（大競争）、「グローバル・スタンダード」など日本企業を取り巻く経営環境の激的な変化があります。本講義では、このような激動のなかにある日本企業の経営管理の問題に焦点をあて、国際比較の視点からアプローチします。

講義の内容・
授業スケジュール

- I. 現代企業の所有・支配・管理
 - ①株式会社と経営者
 - ②企業集団と持株会社
 - ③コーポレート・ガバナンスの国際比較
 - ④企業の社会的責任とビジネス・エシックス
- II. 現代企業の経営管理・経営組織
 - ①経営管理とは（管理過程、管理職能、管理原則）
 - ②大量生産体制と経営管理（テイラー・システム、フォード・システム）
 - ③経営管理と人間性（人間関係論と行動科学、労働の人間化…）
 - ④経営管理の近代理論（個人と組織の統合理論）
 - ⑤経営組織の基本形態（権限と責任、ラインとスタッフ…）
 - ⑥経営組織の発展形態（事業部制、カンパニー制、分社化…）
 - ⑦国際経営と企業文化（グローバル化、ローカル化、異文化共生…）
- III. 日本企業の競争力と日本的経営
 - ①日本的企業システムの変化（所有構造、統治システム、企業と政府…）
 - ②日本的生産システムの再編（トヨタ・システム、製販統合システム…）
 - ③日本的労働システムの変化（終身雇用、年功制、能力主義、成果主義…）

履修上の留意点

現代の企業経営をめぐるホットな話題を取り上げ、授業のテーマと関連づけて話を進めます。新聞・雑誌・ニュースなどを通して企業、経営、労働などに関心を向け、現代の企業経営についての問題意識をもって授業に参加してください。また、経営学史、労務管理論、経営戦略論、財務管理論、マーケティングなどと併せて履修することを勧めます。

成績評価の方法

出席、レポート、試験で総合的に評価します。再試験なし。

教 科 書

なし。（随時、コピーを配布します）

そ の 他

授業や課題レポート（夏休み）に関連して紹介します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|---|-----|
| 労 務 管 理 論 | ほり 堀 りゅう 龍 じ 二 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

最近急激な変化をみせているわが国の労務管理の基本的動向と特徴を把握することをねらいとしている。高度経済成長期に形成されたいわゆる「日本的経営」ないし「日本的労務管理」は年功賃金、終身雇用、企業別組合を柱としていた。1970年代以降、大企業は基本的にはこうした労務管理制度の利点と有効性を認識しながらも、他方で「画一的年功制からの脱皮」を目指して「能力主義管理」を推進してきたが、その内実には年功制の要素がなお色濃く残されていた。ところが最近における日本経済の低迷のなかで、この年功制の完全払拭＝能力主義・成果主義への本格的移行が急速に進展しつつある。相次いでリストラが断行されるとともに、年俸制の導入、職能資格制度の再編、採用方法の柔軟化、退職金・年金制度の変更等々、賃金と雇用に関する基本的な制度に大きな変化が進行している。これらの動向と特徴やその背景にあるものを探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず「日本的労務管理」の形成過程とその構造や機能についてまとめる。ついで能力主義管理に関して同様のまとめを行う。とくに職能給、職務給、職能資格制度、小集団管理、人事効果などを賃金・処遇制度に焦点を当てる。これら日本的労務管理と能力主義管理との整理を踏まえて、現在進行中の労務管理の「地殻変動」の現状と特徴を把握するという段取りを考えている。なお、初回講義において具体的なガイダンスを行う予定である。

成績評価の方法

原則として定期試験の成績で評価する。再試験は実施する。

教 科 書

現在選定中。初回講義までに指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------|---|-----|
| 財務会計論 | えん どう たかし 遠 藤 孝 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短大 | 4 |

講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計(FINANCIAL ACCOUNTING)について、その伝達、開示の手段である貸借対照表(BALANCE SHEET)、損益計算書(INCOME STATEMENT)を中心に、その性格、内容、役割について講義する。できるだけ時の実務上の会計問題にひきつけて講義する。例えば、ヤオハン、三田工業、山一証券の粉飾問題。会計監査の信頼性－監査法人の損害賠償責任問題。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期

- (1) 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- (2) 4月第2週
先週に引き続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- (3) 5月第1週
財務会計の制度性について。
財務会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- (4) 5月第2週
貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- (5) 5月第3週
資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- (6) 6月第1週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- (7) 6月第2週
繰越資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- (8) 6月第3週
引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- (9) 6月第4週
同上。
- (10) 7月第1週
資本会計について。

後 期

- (11) 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- (12) 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- (13) 9月第3週
同上。
- (14) 10月第1週
同上。連結キャッシュ・フロー計算書、税効果会計
- (15) 10月第2週
セグメント会計について。
リース会計について。
年金会計、退職給与引当金と年金会計
- (16) 10月第3週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表(書)。
- (17) 10月第4週
同上。
- (18) 11月第1週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- (19) 11月第2週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。会計監査の信頼性、何を監査するのか、監査の範囲「企業会計原則」について。

- (20) 11月第3週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- (21) 11月第4週
同上。会計の国際化と日本企業会計制度改革、会計 Big Bang。
- (22) 12月第1週
世界企業会計の最新動向。
- (23) 12月第2週
同上。
- (24) 12月第3週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。総括。
- (25) 最終週
予備。
- 以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

成績評価の方法

試験による。(前期、後期2回実施の予定)

教科書

遠藤孝他著『会計学』(森山書店)1998年

参考書等

遠藤孝著『引当金会計制度の展開』(森山書店)1998年

その他

授業の方法、教科書、OHP、ときにプリント配布。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------------|---|-----|
| 会 計 監 査 論 | い い 飯 岡 お か 岡 と お る 透 | 祥・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短社 | 4 |

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・
授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

[前 期]

4 月 会計監査の目的と種類

- (1) 会計監査の目的
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性和その構造

5 月 わが国監査制度の展開

- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開

監査人の要件と責任

- (1) 監査人の要件
- (2) 監査人の選任と解任
- (3) 監査人の職務権限と責任

6 月 監査要点と監査手続の選択適用

- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 通常実施すべき監査手続とその内容

7 月 監査証拠の種類と内容

- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

[後 期]

9 月 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素
- (2) 内部統制の評価
- (3) 監査リスクと重要性

10月 監査計画と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

11月 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
- (2) 監査調書の種類と保存

経営者確認書の意義と記載内容

- (1) 経営者確認書の意義と目的
- (2) 経営者確認書の記載内容

12月 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短文式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

1 月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』（中央経済社）3,500円

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）3,800円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|-------------------------|---|-----|
| 管 理 会 計 論 | なか はら しょう きら 中 原 章 吉 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの段階を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思います。例えば、中原章吉著『企業会計の基礎』（創成社）3,500円平成11年。

教科書

中原章吉編『管理会計論』（税務経理協会）平成12年

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------|---|-----|
| 原価計算論 | かとうとし やす 加藤利安 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計の側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状况の認識の下で、ある特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状況の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとするれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に説明することをこころがける。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。
後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」、と関連させながら説明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。
再試験を実施しない。

教科書

最初の授業時に指示する。

参考書等

授業時に適宜挙げる。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|-----------------|---|----|
| 貿易論 | ふる古 かわ沢 こう紘 ぞう造 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法 A・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. グローバリゼーション
 5. 持続可能な発展と貿易

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。再試験は実施する。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-------------------|---|-----|
| 銀 行 論 | よね だ みつぐ 米 田 貢 | 禪・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 法A・政治・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

前半の【現状分析編】では、現代日本の金融構造を概観したうえで、90年代日本における金融危機の展開過程を具体的に紹介する。後半の【理論篇】では、それらの金融危機を理解するための基礎理論として信用理論を体系的に説明する。

講義の内容・
授業スケジュール

【現状分析編】

1. 現代日本の金融構造
2. 1990年代の日本金融危機の概観
3. 銀行取付とは何か？－木津信用組合の経営破綻の事例研究
4. 住専処理をめぐって
5. 現代日本における土地問題－80年代の土地投機をふりかえる
6. 97年金融危機はいかに急展開したか－三洋証券、山一証券、北海道拓殖銀行の経営破綻
7. 98年金融危機と日本長期信用銀行、日本債券信用銀行の特別公的管理＝一時的「国有化」
8. 1980年代アメリカ金融危機とセーフティネット
9. 現代日本における金融危機管理の失敗

【理論篇】

1. 銀行とは何か？
2. 貸借関係と利子生み資本
3. 預金通貨と信用創造
4. 現実資本の蓄積と貨幣資本の蓄積
5. 中央銀行の機能
6. インフレーションとは何か？
7. 現代資本主義の投機化現象について
8. 現代資本主義のグローバル化と為替投機

成績評価の方法

- 1) 【現状分析篇】終了時点で、現代金融危機についてのレポートを提出。評価40点満点。
- 2) 学年末に、【理論篇】の内容について論述試験を行う。評価60点満点。
両者合計が60点以上の場合に単位を付与する。
再試験を実施する。

教 科 書

授業はレジメに沿って行う。

参 考 書 等

参考文献については適宜紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------|---|-----|
| 行 政 法 各 論 | さいとう ひさし 斉 藤 寿 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・経A・商・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」
1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用取用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望
この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。
— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。
目には火を、顔には光をいできて、ついてきて下さい。
Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送ります。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|---------------------------------------|-----|
| 親 族 法 | たけ なか ち か 竹 中 智 香 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経A・商 政治・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』（有斐閣双書）1,648円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円
六法

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|--|-----|
| 相 続 法 | たけ なか ち か 竹 中 智 香 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・政治・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』（有斐閣双書）1,648円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円
六法

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------|--|-----|
| 西洋法制史 | また の 北 野 かほる | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。イギリスの法制度の歴史を、特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教科書

特に指定しない。

参考書等

年度当初に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------|--|-----|
| 英 米 法 | きたの 北 野 かほる | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を概観し、その主要な理由をなすと考えられる。法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------------|--|-----|
| 経 済 法 | お か だ と し ひ ろ 岡 田 外 司 博 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

丹宗暁信・厚谷襄児編『新現代経済法入門』（法律文化社）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------|---|----|
| 国際政治学 | こぼりのお堀訓男 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経A 商・法A・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解することが、本講義のねらいである。

前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに“国際政治の本質”について考察する。つぎに、より理解を深めるために、“国際政治の基調”と題して、国際政治が展開し、現在に至るまでの、各時代の国際政治の基調を、歴史的に概観する。

後期では、“国際政治の問題”と題して、冷戦後の国際政治、ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーと環境問題、国連の使命と限界、地域統合と国家の役割の変化等の、国際政治学が取り組むべき課題を、理論的かつ実証的に解明しながら、受講生と共に考えたい。

履修上の留意点

講義のテーマ、内容については予告する。受講生は、必ず予習をして、講義に出ること。基本的な知識については、共通の理解を徹底したいので、全員で討論しながら授業をすすめたい。よって、積極的な参加を求める。

成績評価の方法

1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

教科書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|------------|--|----|
| ヨーロッパ政治史 | うらたさなえ浦田早苗 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・法A・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかにし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること及び、現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点が置かれている。

講義の内容・授業スケジュール

- 近代の始点—ルネサンス期と18世紀
- 英国革命とIRA
- ジャコバイトと英国王室
- 議院内閣制の成立変遷過程
- 英国における政治腐敗防止過程
- フランス革命と国家の概念
- フランス政治におけるジャコバン主義
- 「後発国型近代化」の問題点—ドイツの場合—
- 統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート 7～8×400字 は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------------------|---|----|
| 地方自治法 | とみ い ゆき お 富 井 幸 雄 | 禪・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをかみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎回レジメを配布し、それに沿って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験（40％）と学年末試験（60％）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教科書

南博方他『行政法(3) (第3版)』(有斐閣双書) 1,800円

参考書等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』(学陽書房)、『地方自治判例百選 (第2版)』(別冊ジュリスト)。なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』(良書普及会)は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方分権』(岩波書店)、同他『概説日本の地方自治』(東京大学出版会)は必読。

その他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法(『地方自治小六法』(学陽書房)があるがポケット六法でよい。)は必携。その都度チェックすること。平成12年度には地方自治法の大幅な改正があるので、必ず平成12年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両方分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|---|-----|
| 議 会 関 係 法 | まえ た ひで あき 前 田 英 昭 | 禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経A 商・法A・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

今年度は選挙法を中心に取り上げる。
選挙は、民主政治の基盤をなすものであり、民主政治の健全な発達を期するためには選挙が公明かつ適正に行われなければならない。選挙を公明かつ適正に行うためには、その根幹をなす公職選挙法や政治資金規正法や政党助成法などの規定を国民すべてが十分理解することが最も重要なことである。
衆議院選挙制度に関しては、賛否の議論の末、小選挙区比例代表並立制が導入され、1996秋、改正法に基づく初めての総選挙が実施されたところであり、今年も総選挙が予想される。このような情勢を踏まえて、制度改革に民間政治臨調の委員として参画した経験をまじえながら、全学開講科目として、多くの学生にわかりやすく選挙法の趣旨を講義することとし、今年度から新たに「議会関係法」をスタートさせる。

講義の内容・授業スケジュール

1 選挙制度改革の理由、2 選挙権と被選挙権、3 小選挙区比例代表並立制の内容、4 政党・政策本位の選挙、5 供託金、6 重複立候補、7 選挙運動期間、8 戸別訪問、9 連呼行為などの選挙運動、10新聞・放送による選挙運動、11選挙運動費用、12選挙運動・政治活動・選挙広告、13選挙違反と連座制、14選挙犯罪、15公務員の地位利用、16政治資金、17団体・個人の寄付制限、18政党交付金とその用途など。

履修上の留意点

できるだけ出席受講すること。

成績評価の方法

期末テスト、レポート、平常点の総合評価。

参 考 書 等

前田英昭監修『明解選挙法・政治資金法の手引』（新日本法規出版）
前田英昭『政治腐敗防止法を考える』（信山社）
その他各種の選挙法に関する解説書

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------|---|-----|
| 比 較 政 治 学 | いわきまさひろ 岩崎正洋 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経A 商・法A・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

この科目で取り扱うテーマは、現代世界の民主主義諸国の政治に関する問題を、現代の比較政治学の理論の観点から検討することである。科目名は、「比較政治学」であるが、広義に捉えれば、「現代政治分析論」ということもできよう。

本講義では、比較政治学の基本的な理論の検討を通して、「比較政治学は現実政治を考える上でどのように役立つのか」という点を考える。比較政治学が研究対象とするのは、世界のあらゆる国々である。それ故、焦点を向けるのは、先進諸国だけではなく、また発展途上国だけだということでもない。先進国同士を比較することもあれば、発展途上国同士を比較することもある。さらには、先進国と発展途上国との比較を行うこともある。

本講義では、各国の政治現象を説明するさまざまな議論に言及し、現実政治の理解と政治理論の理解との間を架橋することを目的とする。この講義でとり上げる比較政治学の諸理論は、各国の政治の類似点や相違点を明らかにするための視点を提供することになるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような項目に従って、比較政治学の理論を広範に見渡し、現実政治が政治理論によってどのように説明され、捉えられているのかを明らかにする。それにより、現実政治と政治理論との間の橋渡しを行うこととする。

- I 比較政治学の課題と方法
- II 政治システム
- III 政治発展
- IV 政治文化
- V 政治体制
- VI 連立政権
- VII コーポラティズム
- VIII 福祉国家
- IX 民主化
- X 政党システム

なお内容・スケジュールについては、現実政治の変動を受けて、若干変更することもあるので、その点に留意されたい。

履修上の留意点

この科目のみが学部内の政治学に関連する科目として独立して存在するのではないため、関連分野の他の科目と併せて履修することが望ましい。

しかし、本講義のテーマに関心をもつ者が初学者であったとしても、何ら履修上の差し支えはない。受講者の知識の習得と理解の増進に役立つような授業展開としたい。

日常生活や研究においても、この科目に関連する情報を、新聞や雑誌、ニュース、インターネットを通じて収集し、理解増進に役立てられたい(例えば、各国の選挙結果についてのデータ・アーカイブや政党や政府のホームページなど)。

成績評価の方法

原則として、定期試験およびレポートの評価を総合して行う。前期もしくは後期のいずれかを試験とし、もう一方の学期をレポートとするような形態を考えている。

ただし履修者の数などにより、その方式に変更がありうることを念頭に置かれたい。

教科書

岩崎正洋他編『民主主義の国際比較』(一藝社)1999年
岩崎正洋『政党システムの理論』(東海大学出版会)1999年

参考書等

講義の際に詳細な文献目録を提示するが、さしあたり、以下に挙げる書物は、比較政治学について考える際に役立つだろう。

- * M. ドガン&D. ベラッシー/櫻井陽二訳『比較政治社会学』(声書房)1983年
- * 西川知一編『比較政治の分析枠組』(ミネルヴァ書房)1986年
- * H. J. ウィアールダ編/大木啓介他訳『比較政治学の新動向』(東信堂)1988年
- * 砂田一郎・藪野祐三編『比較政治学の理論』(東海大学出版会)1990年
- * 青木一能・野口忠彦・岩崎正洋編『比較政治学の視座』(新評論)1998年
- * Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Politics and Society in Western Europe*, 3rd ed., Sage, 1994.
- * Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Comparative Politics: An Introduction and New Approach*, Polity Press, 1994.

その他

基本的に講義中心とする。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|---|-----|
| 現 代 国 家 論 | おお つか かつら 大 塚 桂 | 禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経A 商・法A・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

福祉国家の見直しが叫ばれて久しい状況があります。大国・日本丸はどこにすすもうとしているのでしょうか。ありうべき国家とは何か、が現代政治学にあつて重要課題とされています。本講義は、諸君がいままで履習してきた政治学、憲法学などの学科目の知識をふまえて、現代国家の実相にせまるのを目的とします。

さしあたって、現代国家を理解するには、国家概念の展開を理論（史）的に整理することからはじめるのが、ベターでしょう。政治学の発達を顧みたとき、政治学＝国家論であったことがわかります。講義では、隣接科目（憲法・行政法・政治制度・政治思想史・政治史・行政学）の研究成果を積極的にとりいれながら「国家」の問題を討究していきます。それというのも、国家論は総合科学としての性格を有するからです。

講義の内容・授業スケジュール

- A 国家論の課題ならびに研究方法
 - ①序論
 - ②官立アカデミズムの形成
- B 国家学説の史的展開
 - ①古代国家学説
 - ②中世国家学説
 - ③近代国家学説
 - ④現代国家学説
- C 法治国家の構成原理
 - ①法治国家論
 - ②政治制度
 - ③官僚制
 - ④国家緊急権
- D 行政国家の構成原理
 - ①福祉国家論
 - ②ネオ・コーポラティズム
 - ③シティズンシップ
 - ④きたるべき国家像

成績評価の方法

受講生と相談の上で、以下のいずれかの方式によって単位を認定します。

- A 方式（レポートによる単位認定）
～年4回の課題を提出してもらい成績を評価します。レポート作成を通して、読解力と書く能力を涵養します。
 - B 方式（試験による単位認定）
～ペーパー・テスト（中間・期末）による評価です。
 - C 方式（AとBの折衷）
～レポートと授業時間における小テストにより評価します。
- ※ なお、B方式のみ追・再試験を実施します。

教 科 書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円

そ の 他

私の研究室は、第2研究館8階(2835)にあります。電話は、3418-9377（直）です。質問など気軽に訪問してください。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------------|---|----|
| 経営労務論 | か しま ひで あき 鹿 嶋 秀 晃 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

この講義では、現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。具体的には経営学と経営労務論、戦後日本経済と日本の経営論、終身雇用、年功序列賃金、企業別組合制度、福利厚生制度、異動と昇進、人材形成、労働時間問題、ホワイトカラーの労働問題、女性労働問題、新しい労働法制と労働問題などの小テーマを設けて講義していく。学生には経営労務論を受講することで企業と労働、社会について幅広い問題関心を持ってもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は1コマ1テーマの原則。各回の最初に「日本は本当に終身雇用なのか？」といったような問題点を掲げ、その解説をおこなう。また、最近の新聞記事から重要な経営労務問題をピックアップして紹介する。

履修上の留意点

詳細は最初の講義で説明する。出席は取らないので、出席点はなし。①私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるのでしないこと。②携帯電話は消音すること。ひどいときには退室してもらう。

成績評価の方法

評価は学期末試験のみ。①空欄補充問題（約60点分）②論述問題1問（約40点分）の予定。試験は持ち込み不可とする。

教科書

テキストは特に指定しない。

参考書等

参考図書としては、津田真激『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）1993（定価3,000円程度）、労務学説史をわかりやすく説明したものとして渡辺峻『企業組織の労働と管理』（中央経済社）1995（定価2,600円程度）、経営労務をより体系的に深く学習するのにより白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』（東洋経済新報社）1992（定価3,500円程度）をあげておく。この他にも講義の中で適宜いろいろな文献を紹介していく。

その他

授業は講義形式でおこなうが、図表やグラフを多用し、ただ聞いてノートを取るだけでなく「頭をつかう」ような形にする。ホームページでも授業に関する情報提供をしていく。
http://www.komazawa-u.ac.jp/Gakubu/Kashima_Seminar/index.html

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------|--|-----|
| 国際経営論 | も 茂 垣 広 志 | 禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経A・商・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

国際経営論とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点の諸活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存のドメスティックな経営理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業（MNC）特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論（アプローチ）、データ、ケースを援用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の観点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

海外に拠点を高度に分散化している MNC にとっての大きな課題は、それら拠点の現地化（適応性）の要請とグローバルな統合化（効率性）の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本のマネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系 MNC と異なる様相を示している。その日系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴を理論、欧米系 MNC との比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点について理解を深められる授業内容と構成を予定している。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク（隣接領域との異同と関連性）
 - II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討（IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説、経営資源移動仮説等）
 - III. 国際経営／企業多国籍化の発展段階モデル（ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、アンゾフ・モデル、EPRG モデル等）
 - IV. 国際競争戦略（国際戦略の基本パターンないしタイプ）
 1. 国際競争優位性（規模の経済・範囲の経済・連結の経済・比較優位・国家特殊優位性）
 2. 国際競争戦略の類型（ポーター・モデル、ドズ＝ブラハラード・モデル、バートレット＝ゴシャル・モデル等）
 3. 国際戦略提携
 - V. 国際戦略と組織構造
 1. マクロ構造（国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造）
 2. ミクロ構造および内部ネットワーク（トランスナショナル・モデル、ヘテラルキー・モデル）
 - VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
 1. 欧州系 MNC とアメリカ系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴（経営伝統と現状）
 2. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴（その必要性と問題点、進出地域別特徴）
 3. 異文化マネジメントと海外派遣社員の選抜、教育、給与問題
 - VII. 国際マーケティング戦略（海外市場参入、グローバル・マーケティング・ミクス、製品ポジショニングとグローバル市場細分化戦略等）
- 以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。

成績評価の方法

成績は、期末試験の結果による。

教科書

茂垣広志・池田芳彦『国際経営論』（学文社）2,800円

参考書等

根本孝・諸上茂登『国際経営の進化』（学文社）2,800円

その他

OHP あるいはプロジェクターを用いて授業を進める。また、必要に応じて資料を配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-------------------|--|-----|
| 商 業 史 | やま だ まさる 山 田 勝 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点 | (6) 継 続 性 |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流 通 量 |
| (3) 利 潤 | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商 品 | (9) 価 格 革 命 |
| (5) 市 場 | (10) 情報社会と商業 |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。
教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教 科 書

山田勝著『現代商業史』（創成社）2,800円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---------------------------|---|-----|
| 保 險 経 営 論 | いし な ぎが くにあき 石 名 坂 邦 昭 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危機管理論」(リスク・マネジメント)研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の態度と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

教 科 書

石名坂著『リスク・マネジメントの理論』(白桃書房) 3,500円

参 考 書 等

石名坂著『ファミリーリスク・マネジメント』(白桃書房)
石名坂著『リスク・マネジメントの基礎』(白桃書房)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------------|---|-----|
| 財 務 会 計 論 | わた なべ けい いち ろう 渡 邊 恵 一 郎 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の経営成績と財政状態を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を負う経営者が、投資者、債権者、その他企業に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が、損益計算書、貸借対照表などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心的課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規も取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の内容は、おおむね下記の教科書により、この授業スケジュールは次のとおりである。

- ① 4～5月 財務会計の概念（財務会計の定義、課題、制度など）、財務会計の計算構造（損益計算書と貸借対照表との関係）及び会計公準と会計原則（財務会計の前提、債的特徴及び一般原則など）。
- ② 6～7月、9～10月 財務会計の測定論（収益、費用、資産、負債及び資本の各構成要素に関する会計処理の具体的展開）。
- ③ 11～1月 財務会計の伝達論（個別・中間・連結の各財務諸表の作成と開示、外貨換算、財務分析、財務諸表の国際比較など）。

履修上の留意点

毎時間の出席率と宿題提出（年2回）を重視する。

成績評価の方法

成績評価は、出席率、宿題提出及び期末試験点数の総合による。

教 科 書

染谷恭次郎著『現代財務会計（改訂増補4版）』（中央経済社）

参 考 書 等

寫井剛雄編『体系会計諸則集（最新版）』（白桃書房）
日本公認会計士協会編『監査小六法』（中央経済社）

そ の 他

授業の方法、講義による。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|--|-----|
| 経 営 分 析 論 | かた ぎり のぶ お 片 桐 伸 夫 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
- 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
- 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、

といった内容です。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析を取りあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にあふれます。

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

成績評価はレポートと学年末試験で行います。

*レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」

：後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

☆提出日（授業はじめに配布するシラバスに明記）以外は受け付けませんのでご注意ください。

*テ ス ト 範 囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教 科 書

渋谷武夫著『経営分析の考え方・すすめ方』（中央経済社）3,568円

参 考 書 等

随時、紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|---|-----|
| 税 務 会 計 論 | たか き かつ み 高 木 克 己 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

「簿記学」「会计学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

開講時に指示する。

そ の 他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------------|--|-----|
| 経営情報論 | たか い てつ お 高 井 徹 雄 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経 A・商・法 A・政治・短国 | 4 |

講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関する体系的な観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

I. 経営情報と体系的観点（前期）

(1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）

情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法と体系的なものの方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。

(2) 情報学の基礎と周辺領域（5月～6月：5週）

情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。

(3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

II. 情報の利用技術（後期）

(1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ類法について、その原理と適用方法を学ぶ。

(2) シミュレーション（11月～12月：4週）

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。

(3) DSSとES（12月～1月：3週）

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待される DSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。

※なお、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータルームを利用して実習形式で授業を行う。

成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

教 科 書

高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』（日刊工業新聞社）3,200円
上記教科書の他に、適宜プリントで補足する。

そ の 他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|----------------------|--|-----|
| 情 報 理 論 | にしむら かず お 西 村 和 夫 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経A・商・法A・政治・短国 | 4 |

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C. E. Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（シャノンという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえばDNAの情報をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。

また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・授業スケジュール

| 月 | 回数 | 内 容 |
|----|----|----------------------------------|
| 4 | 3 | 授業内容概説、情報とは、情報量への要求 |
| 5 | 3 | 対数の原理と性質、計算練習 |
| 6 | 4 | 情報量の定義、練習、情報量の利用 |
| 7 | 3 | 暗号系と用語、古典的な暗号 |
| 9 | 2 | 現代的な暗号、暗号技術を使っていること |
| 10 | 2 | 符号化（JISコード、万国共通文字符号）、対数・情報量の間中試験 |
| 10 | 2 | 確率過程およびマルコフ過程 |
| 11 | 2 | 遷移確率と同時確率 |
| 11 | 1 | エントロピーの定義 |
| 12 | 2 | 冗長度、言語のエントロピー |
| 12 | 1 | 価格以外の情報がない場合の市場占有率予測 |
| 1 | 1 | チェック桁、情報の圧縮と乱数、デジタルとアナログ |

履修上の留意点

4年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加していないと、試験問題を解くことは無理でしょう。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30%）と定期試験（70%）との合計点によります。

教科書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、プロジェクトとプリントを使います。適当な教科書はありません。

参考書等

各種の参考書をそのつど紹介します。

その他

〔関連科目〕 → 経営情報論

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|----------------------------|--|-----|
| 経 営 統 計 | やまの 山 うち しん じ 慎 二 | 祥・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・法A・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについて取り扱う経営統計は、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造について予測し、いろいろな意志決定をサポートすることを目的とする学問である。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たせるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明する。また、数学苦手の学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止めていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

| | | |
|------------|-------------------|----|
| 経営統計について： | 経営統計の役割、基礎概念 | 1回 |
| 統計特性値： | 平均、分散、正規分布 | 2回 |
| 市場調査と統計整理： | 調査の諸段階、標本設計、データ整理 | 6回 |
| 統計推測： | 標本分布、区間推定、仮説検定 | 2回 |
| 前期復習と中間試験： | (7月中旬) | 2回 |
| 経営時系列： | 季節指数、時系列予測 | 4回 |
| 経営指数： | 物価指数、数量指数 | 2回 |
| 分散・回帰分析： | 一元配置法、相関係数、最小2乗法 | 3回 |
| 統計的意志決定理論： | 意志決定基準、期待効用理論 | 2回 |
| 後期復習と定期試験： | (翌年1月中旬) | 2回 |

履修上の留意点

年間数回程度の演習問題を適時に配布し、それを本講義内容の基礎的部分をもとに独自に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により総合的に判断する。

教 科 書

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館) 1995 2,100円(税別)
講義を補充するプリントを適時に配布する。

参 考 書 等

守口栄一・竹田仁共著『経営数学・経営統計とその応用』(日本理工出版社) 1992 2,200円(税別)

そ の 他

統計学、あるいは統計原論を先に又は同時に履修することが望ましい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-------|---|----|
| 上代文学講読 | 佐原 作美 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

授業では『万葉集』を対象にその講読を行う。『万葉集』は承知のごとく、舒明朝（629-641）の頃から奈良朝の天平宝字3年（759）までの約120年間の和歌約4,500首が収められている、わが国最大の和歌集である。そこで授業では、『万葉集』の中から代表的な歌人や和歌を選んで講読していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

『万葉集』を理解するには、作品を読解し作者を知るほかに、当時の歴史や社会的文化的な背景を視野に入れながら読んでいくことが大切である。そうした点を考慮に入れ踏まえながら、作品を読んでいきたい。

成績評価の方法

レポートや出席状況をもって評価する。

教科書

土橋 寛編『作者別 万葉集』おうふう（桜楓社）1,800円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-------|---|----|
| 中古文学講読 | 鈴木 裕子 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

『源氏物語』は、それが書かれた平安の昔からたくさんの人々に読み継がれて来た日本文学の傑作です。『源氏物語』のどこにそのような価値があるのでしょうか。受講者の一人一人に答を見付けてもらいたいと思います。そのためには、とにかく原文を自分の力で読まなくてはなりません。作品を正確に読み、理解し、感じ、考え、といったことを授業を通して繰り返し、最後には、他者の評価を鵜呑みにするのではない、自分自身の『源氏物語』評価がもてるようになるとよいと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

今年は、篝火の巻から読みます。六条院の栄華を誇る権力者光源氏の保護を受け、華やかな生活の中で玉鬘の苦悩は続きます。父の期待を裏切らない息子夕霧の成長ぶりや、六条院世界における紫の上の位置も気になるところです。

履修上の留意点

講読という科目の性格上、授業はテキストを用いての講義形式です。教師の一方通行にならないように適宜受講生に小作文などの課題を課す予定です。

成績評価の方法

前期・後期に一度ずつ行う試験・授業態度・課題などから総合的に行います。

教科書

『源氏物語四』新潮日本古典集成（新潮社）

参考書等

授業中に指示します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|---------------|---|-----|
| 中世文学講読 | その 園 部 幹 生 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

中世の作品の中から、『無名草子』をとりあげる。今年度は特に後半の女性論の部分を中心に読み進めたい。その関連から、記録類や説話集類も読むことになる。評論として書かれた内容について理解するだけでなく、小野小町以下の古典文学史上著名な女性たちがどのような経緯を経て、どのように受けとめられ、評価されてきたのかを確認し、それらについての自分なりの意見を持てるようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期の前半は、序から源氏物語論の前までを講義する。前期の後半から後期にかけては、小野小町・清少納言・小式部内侍・和泉式部・宮宣旨・伊勢御息所・兵衛内侍・紫式部・皇后定子・上東門院・大斎院選子・小野皇太后宮といった女性たちに対する女性論や関連作品を読み進める。

履修上の留意点

毎時限、その日の講義内容に対する意見文を書いて提出することを求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

毎時限提出する意見文で50点分を評価し、十二月末の時間内に50点満点の筆記試験（持ち込み参照何でも可）を行う。なお、追再試験はレポートとするが、これについては、一月の授業時間内に指示するので必ず出席すること。

教科書

新潮日本古典文学集成『無名草子』（新潮社）2,000円

参考書等

必要が出てくれば時間内に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|---------------|---|-----|
| 近世文学講読 | えち 越 後 敬 子 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

西鶴の代表作の一つである『好色五人女』を読む。本書は実際にあった五つの恋愛事件をもとに描かれた作品である。当時は封建体制のもと厳しい身分制度がしかれており、自由な恋愛が認められていなかった。そのため悲劇的な結末を迎えざるを得ない男女が数多くあった。それを西鶴はどのように描いたか、当時の時代背景や先行文芸との関わりを視野に入れながら読み進めていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

第一回 授業の進め方の説明
第二・三回 西鶴と『好色五人女』に関する概説
第四回以降 『好色五人女』講読

履修上の留意点

毎回、授業範囲分の下調べをしてきてほしい。また教科書は活字本を用いるが、適宜影印資料を配布するので、変体仮名に慣れてほしい。

成績評価の方法

前・後期末の試験に平常点（出席、授業への貢献度）を加味する。

教科書

江本裕『好色五人女 全訳注』（講談社学術文庫）1,200円
その他、授業時にプリントを配布する。

参考書等

授業時に紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|------------|----------|----|
| 近代文学講読 | いしわり 石割 | とある 透 | 4 |

講義のねらい

1910年代から1920年代に発表された、わが国の代表的な小説を、多様な角度から読み、同時代の文学史、表現史の一助としたい。

講義の内容・
授業スケジュール

扱う作品は、芥川龍之介『羅生門』『鼻』『芋粥』『奉教人の死』、谷崎潤一郎『小さな王国』『白昼鬼語』、志賀直哉『清兵衛と瓢箪』『十一月三日午後の事』『雨蛙』、内田百閒『旅順入城式』など。

また、それらの作品や時代に共通する課題をかかえた菊池寛、宇野浩二、近松秋江、江戸川乱歩などの作品も自由にとり入れて、この時代の文学のもっていた課題を考えていく予定。

履修上の留意点

文庫本などで接することが難しい作品を扱う場合もあるが、そうした作品も、受講者は、必ず前もって読んで授業に臨んでほしい。

成績評価の方法

レポートなどでは、これまでの研究文献にもたれかかることのない、斬新な視角によるものを期待したい。

教科書

『芥川龍之介全集 1・II』（ちくま書房）志賀直哉『小僧の神様、城の崎にて』『清兵衛と瓢箪・網走まで』（以上新潮文庫）谷崎潤一郎『美食倶楽部－谷崎潤一郎大正作品集』（ちくま文庫）内田百閒『冥途・旅順入城式』（岩波文庫）

参考書等

授業時に適宜指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|---|-----|
| 現 代 文 学 講 読 | まつ だ なお ゆき 松 田 直 行 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経A・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

「よりによって」とあなたは言うかもしれない。それでも、現在の文学界において最もポピュラーな作家の一人である村上春樹を読む。年間を通じての講義タイトルは、「現象としての村上春樹」（あるいは、「よりによって村上春樹」）。彼の作品を読み進めながら、作品に描かれたフィクションの「世界」と、我々が生きる現実との距離、その位相の違い、そして接点を探る。ここには村上春樹という作者研究の視点は無い。私は村上春樹の友達ではないし、会ったこともないので、彼がどんな人間であろうと私には関係がない。また同時に、たとえば『ノルウェイの森』が400万部以上売れたことによって、一種の社会現象になったという文脈での「現象」を考察したいわけでもない。もちろんそうした情報は、事実として何らかの前提にはなり得るわけだが。本講において注目したいのは、彼の作品と読者がきり結ぶ関係そのものである。すなわち具体的に、作品と私の関係、作品とあなたの関係が、すべての出発点である。さらに教場において共に講読した結果として、「作品を通しての私とあなたの関係」が想定されるとしたら、そこから村上作品と現代社会の関係性についての何かが浮かびあがるはずである。通常の文学鑑賞においては、作品と読者との一対一の関係によって表現のほとんどすべてが完結してしまえるが、村上春樹現象と言われるほどのポピュラリティを持ってしまった作品については、それが現代社会の中でどのように認識されるのかを意識せずには読めない部分があると思えるからである。

講義の内容・授業スケジュール

順次、村上春樹の作品を講読する。できるだけ多くの作品に触れたいと思うが、具体的にどの作品をどのようなスケジュールで読み進めて行くかは、講義を進める中で随時決めさせていただきます。

履修上の留意点

当然ながら授業時間中に読むことのできる部分はごく限られているので、各自が授業以外の時間で少しでも多くの作品を読むことが要求される。また、国文科であるのに恐縮だが、村上春樹が翻訳したアメリカ現代小説もいくつか、参考として講読の対象としたい。原文を英語で読む必要はないが、講義において翻訳文と原文との比較を行うことがある。

成績評価の方法

出席回数と、レポートの提出によって評価を行う。レポートの内容・時期・回数等も、授業を進める中で適宜決めさせていただきます。

教科書

テキストとして、加藤典洋編『村上春樹 イエローページ』（荒地出版社）1,553円＋税、およびユリカ臨時増刊号『総特集 村上春樹の世界』（青土社）1,260円を指定するので、各自購入し、毎回授業の際に持参してほしい。これらをいわゆる教科書として読み進めるわけではないが、村上作品の全体像を見渡すことのできるガイドとして使用する。前者は主要な長編小説の紹介として、後者は短編や翻訳作品を含めた全体像を概観するのに有効である。実際に講読する村上作品については、これらのガイドにも紹介されているのでそれを参考に、各自で用意していただく。読んでいない者は、まず『羊をめぐる冒険』（講談社）および講談社文庫と『ノルウェイの森』（上・下 講談社）だけは読んでおいてほしい。

参考書等

村上春樹に関する出版物は数多いが、最寄の書店で入手できる参考書として、鈴木和成『村上春樹クロニクル 1983-1995』（洋泉社）1,500円と、木股知史編『日本文学研究論文集46 村上春樹』（若草書房）3,500円＋税をあげておく。

その他

講読形式の授業であり、それは学生が各自講読するという意味である。講義では、全員が声を出して読んでも仕方がないので代わりに私が読むが、あくまで自分が読まなければ意味のないものだという前提を忘れないでいただきたい。そのあとは、作家研究・作品研究の講義でない分、各自の興味と感性に引きつけて、むしろそれぞれの受け入れ方をしてほしい。私は私の感性をもとに、作品について何かを述べることになるが、それをそのまま受け入れるのではなく、むしろそれとあなた自身の感じ方の「ズレ」を意識することの方が重要である。年間の授業の最後に、あなたにとっての村上春樹とは何か、と訊ねることになるだろう。その時に、それぞれの感じ方で、それぞれの言葉で答えてほしい。音楽が好きな人だったら、音楽にたとえるなら、という個人的な言い方でかまわない。ほくにとって村上春樹は、なぜか佐野元春なんですけど。どうしてかうまく説明できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|---------------|---------------------------------------|----|
| 応用計測学 (前期) | かし 檀 尾 英 次 | 禪・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉 心理・経A・商・経営 | 1 |

講義のねらい

放射線機器工学を2年次に学習し、医用機器工学を3年次に学習するが、これらの講義で含まれなかった重要な機器について行う。
医用画像診断装置を主体とするが、生体電気計測および生体磁気計測についてもそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 核医学診断装置
 - 放射性核種および放射線計測の基礎
 - ガンマカメラ
 - SPECT
 - PET
 - 核医学データ処理装置およびソフトウェア
- 2) X線診断装置
 - CR (Computed Radiography)
 - DSA (Digital Subtraction Angiography)
- 3) 超音波診断装置
- 4) PACS (画像管理システム)
- 5) 生体電気計測
- 6) 生体磁気計測

履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。国家試験で核医学機器関連に対応できるよう講義するので全員受講することが望ましい。他学科にあっては高校で物理を習得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教科書

教材としてプリントを使用する。

3. 随意科目

随意科目

3. 随 意 科 目

| | |
|-----------------------------|-----|
| 英 語 (海 外 演 習) | 223 |
| 比 較 思 想 特 講 (洗 建) | 223 |
| 比 較 思 想 特 講 (末 木 恭 彦) | 224 |

| 科 目 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------|-------------------|-----|
| 英 語 (海 外 演 習) | 全学科・短大 1 年 次 ~ | 2 |

講義のねらい

この科目は本学の海外協定校であるクインズランド大学(オーストラリア)、ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)、エクセター大学(イギリス)、カリフォルニア大学アーバイン校(アメリカ)における短期留学セミナーでの4週間におよぶ現地での集中演習を中心としておこなわれる英語随意科目である。英語受講対象学生は全学部・短大の1年次生から卒業年次生までとする。

成績評価の方法

現地演習後に4大学より受講生の成績・評価等が出される。受講生には単位の認定がなされる。

そ の 他

受講希望者は、国際センターの短期留学英語セミナーに参加申込みをする。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|---------------|----------------------|-----|
| 比 較 思 想 特 講 | あらい 洗 けん 建 | 法 A ・ 政 治 2 年 次 ~ | 4 |

講義のねらい

宗教にかかわる「法思想」と、その背景にある宗教文化、宗教思想問題について、考察する。現代においては、信教の自由を容認していない国はほとんどない。すなわち、信教の自由は人間に固有の「人権」の筆頭であり、普遍的な価値として国や文化の違いを越えるものと考えられている。そのことから信教の自由は「宗教をめぐる闘争と流血の悲劇の歴史」に学び、人類の到達した英知であるとされる。それに間違いはないにしても、この理念はキリスト教文化を離れて、どのような地域でも生まれることができたものなのだろうか。実際にどのような歴史的経過の中から、この理念が生まれ出たものであるかを振り返り、この理念とキリスト教文化やその思想との関係について考察し、わが国を含む非キリスト教文化圏に存在する信教の自由をめぐる諸問題を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに宗教改革以降の、国家と宗教をめぐる思想の歴史、特にキリスト教側からの思想の展開をたどり、その発想特質を明らかにする。次に西洋で確立された信教の自由の理念がどのような形で日本に導入され、どのような変容が加えられたかをたどる。そして、今日なお残る諸問題について考える。

履修上の留意点

個々の歴史を覚えるのではなく、問題の所在を理解し、自分でも考えてみる態度で受講して貰いたい。ときどき、意見交換などの時間を持ちたい。

成績評価の方法

出席点、またはレポートで評価する。

教 科 書

教科書は用いない。

参 考 書 等

随時、紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|-------------------|-----|
| 比 較 思 想 特 講 | すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦 | 法 A・政治 2 年 次 ~ | 4 |

講義のねらい

比較思想（哲学）は、世界各地に成長した思想（哲学）を比較し、ある地域に特有の思想（哲学）はその地域に固有の囚われた視野の中にあることを明らかにし、普遍的な思想（哲学）の獲得を目指す学問である。果たして、普遍的な思想（哲学）が有り得るか、そこに疑問も残るが、我々が井の中の蛙とならない知恵としての意義は大きい。この點に意義を見出し、比較思想（哲学）という学問への基礎的理解を得ることを、本科目では目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

比較思想（哲学）という学問は、今世紀初め西欧に於て近代の自己反省として生まれた。その比較思想（哲学）の誕生の記念碑とも言得る書物が、マッソン・ウルセル『比較哲学』である。この書は近年邦訳も刊行され読み易くなった。このマッソン・ウルセルの書（邦訳）を講読しながら、洋の東西の思想（哲学）に目を配り、比較思想（哲学）を学んでいくことにする。

履修上の留意点

必ず予習をし、自分の疑問・意見が発表できる用意をして授業に臨むこと。

成績評価の方法

次の二つの材料を勘案して判定する。
1. 平常点（出席回数、授業参加の積極性）
2. 試験又はレポート（年一回以上）

教 科 書

小林忠秀訳『マッソン・ウルセル比較哲学』（法蔵館）

参 考 書 等

授業中適宜指示する。

そ の 他

出来る限り講師の一方的講義は避け、講師を含めた出席者による討議として進めたいと考えている。

4. 「日本語」・「日本事情」科目

4. 「日本語」・「日本事情」科目 (対象：外国人留学生・海外帰国子女)

《日本語科目》

| | | | | | | |
|---|---|---|-----|---------|-------|-----|
| 日 | 本 | 語 | I | 〈佐野典子〉 | | 229 |
| 日 | 本 | 語 | I | 〈多田羅哲子〉 | | 229 |
| 日 | 本 | 語 | II | 〈佐野典子〉 | | 230 |
| 日 | 本 | 語 | II | 〈多田羅哲子〉 | | 230 |
| 日 | 本 | 語 | III | 〈多田羅哲子〉 | | 231 |
| 日 | 本 | 語 | III | 〈湯村礼子〉 | | 231 |
| 日 | 本 | 語 | IV | 〈石川守〉 | | 232 |
| 日 | 本 | 語 | IV | 〈湯村礼子〉 | | 232 |
| 日 | 本 | 語 | V | 〈石川守〉 | | 233 |
| 日 | 本 | 語 | V | 〈多田羅哲子〉 | | 233 |
| 日 | 本 | 語 | VI | 〈石川守〉 | | 234 |
| 日 | 本 | 語 | VI | 〈多田羅哲子〉 | | 234 |

《日本事情科目》

| | | | | | |
|-----------|---------|------|----------|-------|-----|
| 日本事情 I | 〔地理〕 | 〔前期〕 | 〈須山 聡〉 | | 235 |
| 日本事情 II | 〔自然〕 | 〔前期〕 | 〈清水 善和〉 | | 235 |
| 日本事情 III | 〔歴史〕 | 〔後期〕 | 〈宮本 由紀子〉 | | 236 |
| 日本事情 IV | 〔思想〕 | 〔前期〕 | 〈赤羽 由規子〉 | | 236 |
| 日本事情 V | 〔社会〕 | 〔後期〕 | 〈吉田 素子〉 | | 237 |
| 日本事情 VI | 〔政治・法律〕 | 〔後期〕 | 〈上條 末夫〉 | | 237 |
| 日本事情 VII | 〔文学〕 | 〔前期〕 | 〈村上 光徳〉 | | 238 |
| 日本事情 VIII | 〔文化・芸術〕 | 〔後期〕 | 〈赤羽 由規子〉 | | 238 |
| 日本事情 IX | 〔経済〕 | 〔前期〕 | 〈瀬戸岡 紘〉 | | 239 |
| 日本事情 X | 〔経営〕 | 〔前期〕 | 〈猿山 義広〉 | | 240 |

《日本語科目》

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 I | き 佐 の のり こ 佐 野 典 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本語の聴解能力の向上を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本の映画、TVドラマ、ニュース、などの内容を把握する。

成績評価の方法

試験、提出物、授業態度、出席率等により、総合的に評価する。

教 科 書

特に教科書は使わない。聴解シートはその都度、配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 I | た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。
漢字の正確な読み書き、語彙の様々な意味・使い方、文法、表現等の練習を通して日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。

講義の内容・
授業スケジュール

- 常用漢字を正確に読めるようにする。そのためには読み方のルールも知る。
- 語句の基本的意味・用法とともに学生生活に必要なと思われる派生的意味や使い方も練習する。
- 助詞・機能語・慣用表現・文法事項等の復習もする。

成績評価の方法

平常点と期末試験の成績で評価する。

教 科 書

プリント教材（常用漢字を基本とした語彙集、および文系教科の概論、入門書、小説、新聞等から抜粋した例文集）を配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|---------|------------------|-----|
| 日 本 語 II | 佐 野 典 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本語の読解能力の向上を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本の現代作家の小説、ノンフィクション、エッセイ等を輪読する。

成績評価の方法

試験、提出物、授業態度、出席率等により、総合的に評価する。

教 科 書

授業で使用する教材は担当者がそのコピーを用意する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|-----------|------------------|-----|
| 日 本 語 II | 多 田 羅 哲 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

話すことを中心に日本語の運用能力を養う。

- 事実の説明や、スピーチ、質疑応答、討論等を通して、正しく適切な表現を用いて日本語が自由に話せるようになることを目指す。
- 発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。
- あわせて書く練習もする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 発音アクセントの基礎練習、朗読練習等を行う。
- 読んだこと、聞いた内容を自分の言葉で説明したり、それに対する自分の考えを述べる練習をする。
- スピーチをし、その内容について質疑応答、意見交換、討論等を行う。
- ディベートを通して適切な表現で自己主張したり、相手を説得する練習をする。
- 話したことを文章にまとめる。
- テープを聞き自分の日本語を意識し矯正する。

履修上の留意点

積極的に授業活動に参加し、提出物は必ず提出すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

必要に応じてコピーを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|--------------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 III | た た ら あ き こ 多 田 羅 哲 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて生の日本語を通じて深く理解し、また的確に表現できるようになることを目指す。
 - 一つのテーマについて聴きとる（見る）・読む・話す・書く活動を通じてバランスのとれた日本語の力を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- 今話題になっているテーマについてビデオを見たり、本・新聞・雑誌などの文章を読んで内容を把握する。
- その内容を説明したり、それについて自分の考えを述べたり討論したりする。
- また、それらを文章に表現する練習もする。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点、つまり授業中の発言や提出物を重視する。

教科書

ビデオを使用。プリントを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 III | ゆ む ら れ い こ 湯 村 礼 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに強化し、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、自分の意見を持ち、発表・説明ができるようになること目指す。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読み進める。読んだ後に、意見を出し合ったり、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出してもらう。後期には、各自分担を決めて調べたり、資料を収集したりしての発表も行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

試験（漢字・語彙テスト etc）、内容把握小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の意見を良く聴くこと・授業態度 etc）を総合的に評価する。

教科書

授業中にプリントを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------|---------------------------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 IV | いし ^{かわ} 石 ^{まもる} 川 守 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本語の中・上級のさまざまな文型の用法を分析して、理解するばかりでなく、会話や作文で使えるようにしていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の進め方は、テキスト「日本語中上級文型」を使って、そこに出てくる文型や、文法事項、語彙、表現、アクセントの問題などをともに分析して進めていきたい。

履修上の留意点

授業は一方的な講義の形ではなく、教師の側が、学生に質問をしながら進めて行く。教師から教えてもらうのではなく、自分で考え、自分で準備し、積極的に参加するようにしてもらいたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------|---------------------------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 IV | ゆ ^{むら} 湯 ^{れい} 村 礼 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

書くことを中心に授業を進める。日常生活、大学生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義し、実践し学生に書いてもらう。書いたものについて再度見なおし進めていく。

履修上の留意点

講義・授業中の実践活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

作文・レポートなど（5回程度）
授業活動（発言、授業態度、授業中の提出物 etc）

教 科 書

授業中にプリントを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------|------------------|----|
| 日本語 V | いし かわ まもる 石 川 守 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特徴を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、テキスト「日本語基礎文法」を使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、初級レベルから始め、時間が許せば中級レベルのものも分析してみたい。

履修上の留意点

扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は基本的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでもらいたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教科書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参考書等

特になし

その他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------------------------|------------------|----|
| 日本語 V | た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

中上級の文法・表現練習及び作文演習。自分の言いたいことを正しく適切な表現を用いて話したりわかり易く書くための基本的練習をする。

講義の内容・授業スケジュール

- 留学生の文章によく見られる問題箇所（たとえば「は」と「が」の使い分け、その他の助詞、自他動詞、接続表現、文末表現など）について正しく使えるよう練習する。
- より適切な表現が選べるよう中上級の文法・表現の復習をする。
- 話し言葉と書き言葉の使い分け、事実と意見の述べ方、表・グラフを使う表現等レポートを書くときに役立つ基礎的な練習をする。

履修上の留意点

平常の練習が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教科書

プリントを配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|--------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 VI | いし かわ まもる 石 川 守 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本語の「会話文型」を中心に、より高度な日本語の日常会話の表現について分析する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は ICJ (intermediate) の会話部分を用い、そこに出現する会話文型、会話特有の文型、アクセント等について分析をしながら進める。

履修上の留意点

講義は教師が一方的に講義するというのではなく、常に学生に質問をしながら進めるため、自分の意見をはっきりもってもらいたい。また、本講義は、日常会話の文型や文法的要素を分析するもので、実際の会話をしたり、会話練習をするものではない。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

コピーを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|-------------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 VI | た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

読むことを中心に話す力、聴解力、作文力など日本語の総合的な能力を高める。

講義の内容・
授業スケジュール

- 今話題になっていることについて、語彙・表現・文法事項などを押さえながら、本・新聞・雑誌等の生教材を読む。
- 関連したビデオを見て、それらが実際にどう使われているかを知る。
- テーマについて話し合ったり書いたりすることで日本語を豊かにする。

履修上の留意点

授業中の活動が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

プリントを配布、ビデオを使用。

《日本事情科目》

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|-----------------------------|------------------|----|
| 日本事情Ⅰ 〔地理〕(前期) | 須山 聡 <small>すゝま さとし</small> | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本の風土や地域性をわかりやすく紹介し、日本に対する理解を深める。日本各地の風土や地域性に関する簡単なテキストを用いて受講者に新たな日本のとらえ方を提示したい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 日本列島のなりたち－暑い、寒い、湿っぽい－
- 2 日本列島の文化的多様性－日本は多民族社会？－
- 3 伝統の「日本」－フジヤマ・ゲイシャ・ジンリキシャー－
- 4 技術の「ニッポン」－ハイテク国家の実像－
- 5 日本の都市－繁栄と退廃－
- 6 日本の農村－そしてお年寄りばかりが残った－
- 7 日本人の知らない日本－こんな日本、あんな日本－

履修上の留意点

受講者の活発な発現を期待する。

成績評価の方法

出席を重視するが、場合によってはレポートも課す。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書等

日本地図帳を持参されたい。

日本事情科目
日本語

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|-------------------------------|------------------|----|
| 日本事情Ⅱ 〔自然〕(前期) | 清水 善和 <small>しみず よしかず</small> | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り、亜熱帯の沖縄まで約3,000kmの細長い国土を有している。国土の67%は山地であり、複雑な海岸線とあいまって多様な地形を形成している。日本は複数のプレートの境界域に当たり、世界でも有数の火山・地震地帯となっている。このような多様な環境を反映して、日本には独特の動物・植物が多数生息・生育している。

本講義では日本の自然を気候、地形・地質、生物の3分野に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジアの自然の中での日本の位置づけ、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながり、(3)自然と日本の文化との関係。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることによって、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。また、講義の最後には日本の自然破壊の歴史とその保護の在り方についても言及する。

成績評価の方法

レポート(2、3回)と出席回数に基づいて評価する。

教科書

特定の教科書はなし。参考書は適宜紹介する。

その他

毎回配付する補助教材のプリントを用いて講義する。適宜スライドによる事例紹介を行なう。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------------------------|-----------------------|------------------|-----|
| 日 本 事 情 III 〔 歴 史 〕 (後 期) | みやもと ゆきこ 宮 本 由 紀 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本の歴史を学ぶことで日本民族の持つ民族性を理解する手掛りとして。

講義の内容・
授業スケジュール

特に江戸時代に至る過程を講義し、鎖国制度の完成までを目安にする。

履修上の留意点

板書を中心とし、わかり安く楽しい講義をこころがけるので、ノートを取り、理解できないところは質問するなどして疑問を残さないようにすること。

成績評価の方法

出席日数を評価の参考とし、レポートで成績の評価とする。

教 科 書

なし

参 考 書 等

なし

そ の 他

講義のみ

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------------------|----------------------|------------------|-----|
| 日 本 事 情 IV 〔 思 想 〕 (前 期) | あかほ ゆきこ 赤 羽 由 規 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本人が古くから伝承してきた民俗音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。
民俗音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。

履修上の留意点

第一回日にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

そ の 他

その都度知らせる。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------------------------|------------------------|--------------------------|-----|
| 日 本 事 情 V 〔 社 会 〕 (後 期) | よ し だ も と こ 吉 田 素 子 | 全 学 科 ・ 短 大 (短 放 随 意) | 2 |

講義のねらい

この講義では、現代の日本人の意識や行動様式を、社会現象を通して検討します。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、日本で起きた社会現象や事件をとらえた新聞記事・雑誌記事などを読み、理解します。そして、受講生の間でその記事についての意見を交換したり、他国で起こっていることと比較したりすることによって、日本社会の特質を分析します。

成績評価の方法

毎回出席をとり、授業中の発言なども平常点として加味します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------------------------|----------------------------|--------------------------|-----|
| 日 本 事 情 VI 〔 政 治 ・ 法 律 〕 (後 期) | か み じ ょ う す え お 上 條 末 夫 | 全 学 科 ・ 短 大 (短 放 随 意) | 2 |

講義のねらい

戦後日本の政治制度と政治の実態を解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1、日本国憲法の意味
- 2、国会法の内容
- 3、選挙法の沿革と意味
- 4、内閣法と立法府との関係
- 5、司法制度のあり方
- 6、衆議院議員選挙の推移
- 7、参議院議員選挙の推移
- 8、地方自治と地方選挙
- 9、政党の実情と政党政治
- 10、議員立法と国会のあり方
- 11、内閣の性格とそのあり方
- 12、日本の政治文化

成績評価の方法

平常点による。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------------------|------------------------------|------------------|-----|
| 日 本 事 情 VII 〔 文 学 〕 (前 期) | むら 村 かみ 上 みつ 光 のり 徳 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

中世の軍記文学を講ずる。

講義の内容・
授業スケジュール

保元の乱の『保元物語』から平治・治承の戦いまでを作品を中心に講義する。

履修上の留意点

出席とレポートを課す。

教 科 書

その都度必要に応じ配布する。

日 本 事 情 科 目

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------------------------------|-------------------------------|------------------|-----|
| 日 本 事 情 VIII 〔 文 化 ・ 芸 術 〕 (後 期) | あか 赤 ぼ 羽 ゆき 由 きこ 規 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。

また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見て行きたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参 考 書 等

その都度知らせる。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|----------------------|------------------|----|
| 日本事情Ⅸ 〔経済〕(前期) | 瀬戸岡 弘 ^{ひろし} | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本の経済事情のアウトラインをわかりやすく解説します。わかっているようで、わからないことを、なるべくいいねいに話します。たとえば、明治時代以来の工業化は、アジア諸国のなかでなぜ日本が先んじて成功したのか？ 日本的経営が今あちこちで問題にされていますが、どのようにしてそれが日本に根をおろしていったのか？ 就業人口に占める農業人口の割合は、日本とオーストラリアとイギリスとアメリカでは、どこが一番高いか？ そして農業生産高はどうか？そして時には余談もします。たとえば、この国本当の名前ってニホンなの？ ニッポンなの？それともジャパンでもいいの？など、みなさんが日本にきた以上、ぜひ知って帰りたいことを、たくさん話すことがねらいです。

講義の内容・ 授業スケジュール

以下のようなトピックを一回の講義でひとつずつとりあげます。しかし、とりあげる順序は、みなさんの希望に応じていれかえることがあります。

日本の工業地帯と工業
日本の農村と農業および日本の水産業
日本のサービス業および金融
明治維新以前の日本経済の歴史
第2次世界大戦以降の日本経済の展開
日本経済とアメリカ経済
日本経済とアジア経済
日本経済と政府の役割
日本の労働者・サラリーマンの生活
日本経済と社会や文化の変化
その他

成績評価の方法

日ごろの授業態度で評価します。具体的には、出席40%、小テスト(クイズ)30%、宿題30%が目安です。

なお、この成績評価のためまえから、再試験は実施しません。

教科書

日本経済について書かれた本はあまりにたくさんあるので、特定の本を指定することはいたしません。しかし、授業のなかでその都度適切な本を紹介します。日々のニュースをよく聞いてください。この講義では、日ごろあなたが目にするそのものを題材として授業をすすめます。いわば、あなたの周囲にあるものそれ自体が教科書です。とくに、よい本をもとめたい人は、私に相談してください。いくらでも紹介します。

その他

授業は、おおむね日本語ですすめます。しかし、その日の要点は、英語でも話します。質問は、日本語でも英語でもどちらでも受けつけます。授業のなかで、みなさんが積極的に発言することを期待しています。はじめのうち、どうしても日本語がうまくつかえなければ、英語で発言してもかまいません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------------------------|---------|------------------|-----|
| 日 本 事 情 X 〔 経 営 〕 (前 期) | 猿 山 義 広 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

この講義では、日本の広告事情について学びます。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 広告の歴史
- II 日本の広告メディア
- III 日本の広告会社
- IV 日本の広告主
- V 広告プランニングの実際
- VI 最近の日本の広告

履修上の留意点

日常生活の中で接する広告の中から、自分が面白いと思うものを見つけておくこと。

成績評価の方法

期末レポート「私が選ぶ2000年のテレビCMベスト10」によって評価します。

教 科 書

授業中に適宜プリントを配布します。

参 考 書 等

『宣伝会議』『ブレーン』『広告批評』等。

5. 教職課程・資格講座科目

- I 教 職 課 程
- II 学校図書館司書教諭講座
- III 社会教育主事講座
- IV 博物館学講座
- V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

※上記の教職課程および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。
(履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。)

| 課程・講座名 | 資格取得学部 |
|----------------------|----------|
| 教 職 課 程 | 全 学 部 |
| 学校図書館司書教諭講座 | 全 学 部 |
| 社会教育主事講座 | 全 学 部 |
| 博物館学講座 | 仏教学部・文学部 |
| 社会福祉主事 社会福祉士基礎 講座 | 全 学 部 |

5. 教職課程・資格講座科目

〔注意〕頁（ ）は、他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は、主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示しています。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する科目（必修）

| | | |
|---------------------------|---|-----|
| 教 職 入 門 | 〈大浜幾久子・伊藤茂樹・遠藤 司・北村三子 坂本信昭・豊田千代子・村山輝吉〉 | 251 |
| 教 育 の 思 想 | 〈豊 田 千代子〉 | 251 |
| 教 育 の 思 想 | 〈北 村 三 子〉 | 252 |
| 教 育 の 思 想 | 〈伊 藤 茂 樹〉 | 253 |
| 教 育 の 思 想 | 〈村 山 輝 吉〉 | 254 |
| 教 育 の 思 想 | 〈坂 本 信 昭〉 | 255 |
| 教 育 と 社 会 | 〈豊 田 千代子〉 | 256 |
| 教 育 と 社 会 | 〈北 村 三 子〉 | 256 |
| 教 育 と 社 会 | 〈伊 藤 茂 樹〉 | 257 |
| 教 育 と 社 会 | 〈村 山 輝 吉〉 | 257 |
| 教 育 と 社 会 | 〈坂 本 信 昭〉 | 258 |
| 発 達 と 学 習 の 心 理 学 | 〈大 浜 幾久子〉 | 258 |
| 発 達 と 学 習 の 心 理 学 | 〈川 田 三 夫〉 | 259 |
| 発 達 と 学 習 の 心 理 学 | 〈上 淵 寿 夫〉 | 260 |
| 発 達 と 学 習 の 心 理 学 | 〈角 野 善 司〉 | 261 |
| カ リ キ ュ ラ ム と 学 習 | 〈 休 講 〉 | |
| 教 育 と メ デ ィ ア | 〈小 倉 康 仁〉 | 262 |
| 教 育 と メ デ ィ ア | 〈石 橋 達 也〉 | 263 |
| 教 育 と メ デ ィ ア | 〈芝 崎 順 司〉 | 264 |
| 道 徳 教 育 の 研 究 | 〈加 藤 幸 夫〉 | 265 |
| 道 徳 教 育 の 研 究 | 〈小 川 一 郎〉 | 266 |
| 道 徳 教 育 の 研 究 | 〈鶴 卷 武 夫〉 | 267 |
| 特 別 活 動 | 〈加 藤 幸 夫〉 | 268 |
| 特 別 活 動 | 〈小 川 一 郎〉 | 269 |
| 特 別 活 動 | 〈鶴 卷 武 夫〉 | 270 |
| 生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む) | 〈小 宮 山 要〉 | 271 |
| 生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む) | 〈国 眼 眞 理 子〉 | 272 |
| 生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む) | 〈佐 藤 尚 人〉 | 273 |
| 生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む) | 〈遠 藤 司 郎〉 | 274 |
| 生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む) | 〈川 原 誠 司〉 | 274 |
| 教 育 臨 床 | 〈 休 講 〉 | |
| 宗 教 科 教 育 法 | 〈小 山 一 乘〉 | 275 |
| 国 語 科 教 育 法 | 〈神 谷 道 倫〉 | 276 |
| 書 道 科 教 育 法 | 〈那 須 隆 吉〉 | 276 |
| 英 語 科 教 育 法 | 〈荒 井 良 雄〉 | 277 |
| 社 会 科 教 育 法 I | 〈久 保 田 武 夫〉 | 277 |
| 地 理 歴 史 科 教 育 法 I | 〈久 保 田 武 夫〉 | 278 |
| 社 会 科 教 育 法 I | 〈桜 井 明 久〉 | 279 |
| 地 理 歴 史 科 教 育 法 I | 〈桜 井 明 久〉 | 279 |
| 社 会 科 教 育 法 I | 〈藤 木 正 国〉 | 280 |

| | | |
|-------------------------|---------|-------|
| 地理歴史科教育法Ⅰ | 〈藤木正国〉 | 280 |
| 社会科教育法Ⅱ | 〈橋爪敏〉 | 281 |
| 公民科教育法Ⅰ | 〈橋爪敏〉 | 281 |
| 社会科教育法Ⅱ | 〈谷敷正光〉 | 282 |
| 公民科教育法Ⅰ | 〈谷敷正光〉 | 283 |
| 社会科教育法Ⅱ | 〈上條末夫〉 | 284 |
| 公民科教育法Ⅰ | 〈上條末夫〉 | 285 |
| 商業科教育法 | 〈谷敷正光〉 | 286 |
| 職業科教育法 | 〈前田幸一〉 | 287 |
| 教育実習Ⅰ・Ⅱ | 〈豊田千代子〉 | 287 |
| 教育実習Ⅰ・Ⅱ | 〈坂本信昭〉 | 288 |
| 教育実習Ⅰ・Ⅱ | 〈村山輝吉〉 | 288 |
| 教育実習Ⅰ・Ⅱ | 〈北村三子〉 | 289 |
| 教育実習Ⅰ・Ⅱ | 〈伊藤茂樹〉 | 289 |
| (2) 教職に関する科目〈選択〉 | | |
| 教育関係法規 | 〈広沢明〉 | 290 |
| 教育評価 | 〈大浜幾久子〉 | 290 |
| 教育法規研究 | 〈休講〉 | |
| 教育哲学 | 〈北村三子〉 | 291 |
| 教育情報学 | 〈小倉康仁〉 | 292 |
| 教育臨床心理学 | 〈牟田隆郎〉 | 293 |
| 教育社会学 | 〈熊谷一乗〉 | 294 |
| 教育史 | 〈山本敏子〉 | 295 |
| 教育調査 | 〈鈴木規夫〉 | 296 |
| 芸術教育 | 〈香川良成〉 | 296 |
| 現代社会の諸問題と教育Ⅱ | 〈熊谷一乗〉 | 297 |
| 青少年問題研究 | 〈讚岐真佐子〉 | 298 |
| 宗教教育 | 〈小山一乗〉 | 299 |
| 生涯学習概論Ⅰ | 〈豊田千代子〉 | (300) |
| 生涯学習概論Ⅱ | 〈豊田千代子〉 | (300) |
| 視聴覚教育 | 〈飯森彬彦〉 | (300) |
| 社会教育施設 | 〈村山輝吉〉 | (300) |
| 学校経営と学校図書館 | 〈山田節子〉 | (300) |
| 読書と豊かな人間性 | 〈山田節子〉 | (301) |
| 学校図書館メディアの構成 | 〈源昌久〉 | (301) |
| 情報メディアの活用 | 〈源昌久〉 | (301) |
| 学習指導と学校図書館 | 〈山田節子〉 | (301) |
| (3) 教科に関する科目 | | |
| 【社会・地理歴史・公民】 | | |
| 東洋思想史 | 〈末木恭彦〉 | 302 |
| 美術史概説 | 〈矢野陽子〉 | 302 |
| 民間信仰論 | 〈谷口貢〉 | 303 |
| 人文地理学概説 | 〈小池とみ子〉 | 303 |
| 自然地理学概説 | 〈高木正博〉 | 304 |
| 自然地理学概説 | 〈早船元峰〉 | 304 |
| 地誌学概説 | 〈川元豊和〉 | 305 |
| 地誌学概説 | 〈久保田武〉 | 306 |
| 地誌学概説 | 〈藤島範孝〉 | 307 |

| | | | | |
|---------|----|---------|-------|-------|
| 日本文化史 | 史 | 〈遠藤廣昭〉 | | 307 |
| 日本文化史 | I | 〈休講〉 | | |
| 日本文化史 | II | 〈廣瀬良弘〉 | | 308 |
| 日本文化史 | 哲学 | 〈麻生建〉 | | 308 |
| 日本史概説 | 説 | 〈黒田基樹〉 | | 309 |
| 日本史概説 | 説 | 〈小松寿治〉 | | 309 |
| 世界史概説 | 説 | 〈井村行子〉 | | 310 |
| 世界史概説 | 説 | 〈渡辺惇〉 | | 311 |
| 社会学原論 | 論 | 〈渡辺源樹〉 | | 312 |
| 宗教人類学 | 学 | 〈佐々木宏幹〉 | | 313 |
| 経済学原論 | 論 | 〈浅田統一郎〉 | | 314 |
| 経済学原論 | 論 | 〈阿部弘〉 | | 315 |
| 経済学原論 | 論 | 〈浅野克巳〉 | | 316 |
| 経済学原論 | 論 | 〈松井柳平〉 | | 317 |
| 経済学原論 | 論 | 〈橋本泰明〉 | | 318 |
| 民法学原論 | I | 〈大宮隆〉 | | 319 |
| 民法学原論 | 論 | 〈大塚桂〉 | | 320 |
| 日本宗教文化史 | 史 | 〈池上良正〉 | | 321 |
| 民衆宗教成立史 | 史 | 〈津城寛文〉 | | 321 |
| 宗教学概説 | 説 | 〈洗上良正〉 | | 322 |
| 宗教学概説 | 説 | 〈池上良正〉 | | 322 |
| 宗教学概説 | 説 | 〈津城寛文〉 | | 323 |
| 哲学概説 | 説 | 〈久保陽一〉 | | 324 |
| 哲学概説 | 説 | 〈末木恭彦〉 | | 324 |
| 倫理学概説 | 説 | 〈河谷淳〉 | | 325 |
| 【職業】 | | | | |
| 産業界概説 | 説 | 〈前田幸一〉 | | 326 |
| 職業業指 | 導 | 〈山田勇治〉 | | 326 |
| 商職業指 | 導 | 〈前田幸一〉 | | 327 |
| 【商業】 | | | | |
| 職業指 | 導 | 〈山田勇治〉 | | (327) |

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

| | |
|-------------------|-----|
| 学校経営と学校図書館〈山田節子〉 | 331 |
| 読書と豊かな人間性〈山田節子〉 | 331 |
| 学校図書館メディアの構成〈源昌久〉 | 332 |
| 情報メディアの活用〈源昌久〉 | 332 |
| 学習指導と学校図書館〈山田節子〉 | 333 |

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

| | |
|----------------|-----|
| 社会教育計画〈村山輝吉〉 | 337 |
| 生涯学習概論Ⅰ〈豊田千代子〉 | 338 |
| 生涯学習概論Ⅱ〈豊田千代子〉 | 339 |
| 社会教育実習〈豊田千代子〉 | 340 |
| 社会教育実習〈村山輝吉〉 | 340 |

(2) 選択必修科目

| | |
|--------------------|-------|
| 社会教育行政〈東寿隆〉 | 341 |
| 社会教育施設〈村山輝吉〉 | 341 |
| 成人学習論〈東寿隆〉 | 342 |
| ジェンダーと教育Ⅰ〈中澤智恵〉 | 342 |
| ジェンダーと教育Ⅱ〈中澤智恵〉 | 343 |
| 職業教育Ⅰ〈塩川正人〉 | 344 |
| 職業教育Ⅱ〈塩川正人〉 | 344 |
| 社会体育Ⅰ〈古田潤子〉 | 345 |
| 社会体育Ⅱ〈古田潤子〉 | 345 |
| 教育の思想 | (346) |
| 教育と社会 | (346) |
| 発達と学習の心理学 | (346) |
| 教育とメディア | (346) |
| カリキュラムと学習〈休講〉 | |
| 社会心理学〈休講〉 | |
| 視聴覚教育〈飯森彬彦〉 | (347) |
| 教育社会学〈熊谷一乗〉 | (347) |
| 教育史〈山本敏子〉 | (347) |
| 教育調査〈鈴木規夫〉 | (347) |
| 青少年文化〈香川良成〉 | 347 |
| 現代社会の諸問題と教育Ⅰ〈熊谷一乗〉 | 348 |
| 現代社会の諸問題と教育Ⅱ〈熊谷一乗〉 | (348) |
| 青少年問題研究〈讚岐真佐子〉 | (348) |
| 青少年指導演習〈平野学〉 | 349 |
| 博物館学Ⅰ(概論)〈太田喜美子〉 | (350) |
| 博物館学Ⅱ(資料論)〈岸上興一郎〉 | (350) |
| 情報メディアの活用〈源昌久〉 | (350) |
| 読書と豊かな人間性〈山田節子〉 | (350) |

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

| | |
|--|-------|
| 視聴覚教育〈飯森彬彦〉 | 353 |
| 考古発掘実習〈飯島武次・酒井清治〉 | 353 |
| 博物館学Ⅰ(概論)〈太田喜美子〉 | 354 |
| 博物館学Ⅱ(資料論)〈岸上興一郎〉 | 354 |
| 博物館学Ⅲ(経営論・情報論)〈岸上興一郎〉 | 355 |
| 博物館実習Ⅰ(館務)〈飯島武次・酒井清治・太田喜美子〉 | 356 |
| 博物館実習Ⅱ(収集) 久保田昌希・瀧音能之・佐藤元英 小林和幸・廣瀬良弘 | 356 |
| 博物館実習Ⅲ(見学)〈酒井清治・太田喜美子・松本信道〉 | 357 |
| 教育の思想 | (357) |
| 教育と社会 | (357) |
| 生涯学習概論Ⅰ〈豊田千代子〉 | (357) |
| 生涯学習概論Ⅱ〈豊田千代子〉 | (357) |

(2) 選択必修科目

| | |
|------------------|-----|
| インド仏教文化史〈休講〉 | |
| 中国仏教文化史〈永井政之〉 | 358 |
| 日本仏教文化史〈袴谷憲昭〉 | 358 |
| 禅美術〈海老根聰郎〉 | 359 |
| 仏教美術〈松田誠一郎〉 | 359 |
| 仏教民俗学〈須藤寛人〉 | 360 |
| 日本民俗学〈谷口貢〉 | 361 |
| 美術史概説〈矢野陽子〉 | 362 |
| 現代美術〈矢野陽子〉 | 362 |
| 地形学〈清水長正〉 | 363 |
| 第四紀学〈鈴木毅彦〉 | 363 |
| 考古学概説Ⅰ(日本)〈酒井清治〉 | 364 |
| 考古学概説Ⅱ(外国)〈飯島武次〉 | 364 |
| 日本文化史Ⅰ〈休講〉 | |
| 西洋文化史Ⅰ〈休講〉 | |
| 日本文化史Ⅱ〈廣瀬良弘〉 | 365 |
| 西洋文化史Ⅱ〈休講〉 | |
| 考古学特講Ⅰ〈高浜秀〉 | 366 |
| 考古学特講Ⅱ〈休講〉 | |
| 考古学特講Ⅲ〈矢野和之〉 | 367 |
| 考古学特講Ⅳ〈休講〉 | |
| 西域美術史〈松平美和子〉 | 368 |
| 宗教人類学〈佐々木宏幹〉 | 368 |

V 社会福祉主事・社会福祉士基礎講座

(1) 必修科目

| | |
|---------------|-----|
| ※社会福祉原論〈伊藤秀一〉 | 371 |
| ※社会福祉原論〈船水浩行〉 | 372 |

(2) 選択科目

| | |
|------------------|-----|
| ※法学(福祉)〈小林弘人〉 | 373 |
| 社会福祉発達史〈林千代〉 | 374 |
| リハビリテーション論〈原田信一〉 | 375 |
| ※社会保障論〈船水浩行〉 | 376 |
| 家庭福祉論〈休講〉 | |
| 社会福祉計画論〈川廷宗之〉 | 377 |
| 国際社会福祉論〈山本真実〉 | 378 |
| 保健福祉論〈長尾譲治〉 | 379 |
| ※公的扶助論〈伊藤秀一〉 | 379 |
| ※障害者福祉論〈原田信一〉 | 380 |
| ※老人福祉論〈東條光雅〉 | 381 |
| 児童福祉論〈許斐有〉 | 382 |
| 女性福祉論〈林千代〉 | 382 |
| 医療福祉論〈春見静子〉 | 383 |
| ※地域福祉論〈渡辺一城〉 | 384 |
| ※社会学(福祉)〈橋爪敏〉 | 384 |
| ※心理学(福祉)〈高橋良博〉 | 385 |

上記科目のうち、※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみを対象とする科目です。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する科目（必修）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|--|--------------|----|
| 教職入門（後期） | 大浜幾久子・伊藤茂樹・遠藤司・北村三子 坂本信昭・豊田千代子・村山輝吉 | 12以降入学生/教職1必 | 2 |

講義のねらい

高度消費社会の出現や、情報化社会の進展の中で、今日の日本の教育界は多くの困難な問題を抱えています。将来教師になろうとする人には、そうした問題に自ら取り組んでいく覚悟とそれを越えてゆける力量が必要となるでしょう。その力量の中には、知識ばかりでなく、関心の広さ、感受性、想像力、柔軟な発想、そして体力など、きわめて多様なものが含まれます。この講義では、教職課程の専任教員七名に加え、外部からも講師をお迎えして、さまざまな角度から教育を語っていきますが、教師になるための勉強の第一歩として、教師という職業には関心を持つべき多くのことがあるということを、まずは実感してください。

講義の内容・授業スケジュール

今日の教育に関する諸問題をオムニバス形式で講じていきます（毎回テーマと講師が代わっていきます）。また11月9日、16日は、普通の講義ではなく、教職課程の履修に関するガイダンスが予定されています。詳しいスケジュールは、初回の講義で配布される予定です。

成績評価の方法

レポートによる評価。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|-------|------------|----|
| 教育の思想（前期） | 豊田千代子 | 教職2必（禅・仏教） | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この授業では、人間の成長・発達を、他者や自然等に向けて自らのコミュニケーション回路を開いていく力の形成（自分と自分を取りまく世界との関係を意識し、新たな関係を編み出していく力の形成）と捉え、このような点に注目した教育の思想について検討したい。

講義の内容・授業スケジュール

自然とのかかわりのなかで育んできたネイティブ・アメリカンの生命観や世界観等に学びつつ、人間の存在を全体（すべてのものとの不可分なつながり）として捉える「ホリスティックな視点」で教育を考えるととはどういうことかを議論する。また、このような視点で取り組まれている教育実践の検討をとおして、それが今日の日本の教育状況にどのような意義をもつのかを考えあう。

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------------------|-----------------|------------------------------|-----|
| 教 育 の 思 想 (前 期) | きたむらみつこ 北村三子 | 教 職 2 必 (国文・英米文・社会・福祉・心理) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日の日本の教育制度の理念や思想について深く理解するために、その源流となる西洋近代の教育思想を学んでいきます。あわせて、今日の教育をめぐる諸問題を乗り越えていけるような新たな教育思想のあり方を探っていきたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①近代教育思想の特徴…18世紀の啓蒙思想、19世紀後半から20世紀にかけて発展をみる教育学や発達論など、近代社会・国家の成立と手を携えて近代学校制度を生み出したもののうち、代表的なものをいくつか取り上げて検討します。
- ②近代教育思想の再考…今日の不登校や学級崩壊などの現象は、近代学校システムが機能不全になりつつあることを暗示していますが、それはまた近代教育思想の行き詰まりを意味しています。そこで近代教育思想から何を受け取り、何を変革しなくてはならないのかを探るために、たとえば次のようなものを検討していきます。
 - ・今日の子どもや若者の精神的ストレスや、彼らの引き起こした事件
 - ・近代の教育をより広い観点から問いなおすような子ども史や若者史、あるいは、社会史的視点を含む人間形成の歴史
 - ・近代では周辺的だった教育思想や実践

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

試験（あるいはそれに代わるレポート）

参 考 書 等

教場で指示

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------|----------|-------------------------|-----|
| 教育の思想 (前期) | 伊藤 藤 茂 樹 | 教職 2 必 (地理・歴史・法A・政治) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的機能について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。

講義の内容・
授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
 ・近代社会と教育
 ・学校という場

履修上の留意点

自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------------------|------------------------|--------------------|-----|
| 教 育 の 思 想 (前 期) | むら やま てる よし 村 山 輝 吉 | 教 職 2 必 (経 A) | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育は個々人の人格形成に深く関与する個人的事象であると同時に、社会のありようによって大きく影響され、また逆に、社会のあり方やその形成に直接間接作用を及ぼす歴史的・社会的事象でもある。従ってここでは、「教育の思想（前期）」と「教育と社会（後期）」の両科目を通じて、教育事象にかかわる学生自身の個人的経験やおもいを出発点としながらも、各種の資料や下村湖人の著作等をも参考にしながら、人間の形成と教育・文化・社会のかかわりについて原理的・総合的な考察をおこなう。両科目を通じて、人間形成にかかわる諸事象を狭い個人的見地を超え広く開かれた歴史的・社会的視座から考えられる能力を育てることをめざしているが、この「教育の思想」では、主として教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な理解を図ることに重点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

第1ステップ 教育にかかわる学生自身の体験やおもいの発表（口頭または作文）と、それを系統的・論理的に整理する作業

第2ステップ 第1ステップで整理された諸課題のうち、主として教育の理念や歴史、思想にかかわるものについて、資料や文献を参考にしながら考察を深める作業

成績評価の方法

出席、レポート、口頭発表、試験等により総合的に判定する。

参考書等

そのつど紹介する。

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|----------------------|----------------|----|
| 教育の思想 (前期) | さかもと のぶ あき 坂本 信 昭 | 教職2必 (商・経営) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

民主主義的教育思想はルソー、ペスタロッチ、フレーベル、エレン・ケイ、デューイなど多くの思想家によって生み出され、継承されて今日に至り、教育思想と実践の面で多様な展開を示した。

20世紀の教育思想を生み出し、継承することに貢献した思想家たちの教育思想・教育目的を概観することを手初めに、次のようなテーマを取り上げて進める。

- ・教育の理想と目的
- ・わが国の教育目的
- ・現代・社会の変化と教育目的
- ・その他

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教科書

西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円

参考書等

デューイ著『学校と社会』（岩波文庫）410円

その他

- ・必要な資料を適宜配布する。
- ・この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
- この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|-------|----------------|----|
| 教育と社会 (後期) | 豊田千代子 | 教職2必 (禅・仏教) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育と社会とは、相互に緊密な関係にある。教育は社会のあり方に影響を受けるとともに、社会にも影響を及ぼしている。したがって、教育を考える場合、それを社会と切り離して考えることはできず、社会の中での教育・教育の中にみられる社会という視点からの検討が不可欠であろう。授業では、現代における教育の諸問題を総合的にとらえる力を形成するために、このような視点を養うことをめざしたい。

講義の内容・授業スケジュール

自分たちが受けてきた教育をふり返り、その中でみえてきた教育のさまざまな問題を、社会の歴史や構造等との関連で検討する。また、障害者、女性、在日外国人、義務教育未修了者などの教育に焦点を当て、それらの教育と社会との関係を考える。

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|------|--------------------------|----|
| 教育と社会 (後期) | 北村三子 | 教職2必 (国文・英文・社会・福祉・心理) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育のあり方と社会のあり方との間には密接な関係がありますが、本講義では、とりわけ、近代社会と教育との関係を中心に考察してゆきます。今まで体験してきた学校教育をもう少し広い視野から捉えなおし、自分達がどのように社会的に形成されてきたのかを改めて考えてみたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

- ・前近代的な社会と教育……原始古代・中世社会の人間形成
- ・近代社会と学校制度……近代学校制度の成立と発展
- ・近代学校の社会的機能……政治的機能・経済的機能・文化的機能
- ・近代学校制度の諸問題

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

試験（またはそれに代わるレポート）

参考書等

教場で指示

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|-------|-----------------------|----|
| 教育と社会 (後期) | 伊藤 茂樹 | 教職2必 (地理・歴史・法A・政治) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会において学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
 ・現代の教育問題
 ・教育改革の現在

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がけること。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|-------|--------------|----|
| 教育と社会 (後期) | 村山 輝吉 | 教職2必 (経A) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育は個々人の人格形成に深く関与する個人的事象であると同時に、社会のありようによって大きく影響され、また逆に、社会のあり方やその形成に直接間接作用を及ぼす歴史的・社会的事象でもある。従ってここでは、「教育の思想（前期）」と「教育と社会（後期）」を通じて、教育事象にかかわる学生自身の個人的経験やおもいを出発点としながらも、各種資料や文献を参考に、人間の形成と教育・文化・社会のかかわりについて原理的・総合的な考察をおこなう。両科目を通じて、人間形成にかかわる諸事象を狭い個人的見地を超え広く開かれた歴史的・社会的視座から考えられる能力を育てることをめざしているが、この「教育と社会」では、主として教育に関する社会的・制度的事項についての基礎的な理解を図ることに重点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

第1ステップ 教育にかかわる学生自身の体験やおもいの発表（口頭または作文）と、それを系統的・論理的に整理する作業

第2ステップ 第1ステップで整理された諸問題のうち、主として教育に関する社会的、制度的事項について、資料や文献を参考にしながら考察を深める作業

成績評価の方法

出席、レポート、口頭発表、試験等により総合的に判定する。

参考書等

そのつど紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------------|------------------------|-------------------|-----|
| 教育と社会 (後 期) | さか かも のが あき 坂 本 信 昭 | 教 職 2 必 (商・経営) | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

人間の社会に余暇をもつ少数の人々がうまれたときに学校は生まれた。いわば余暇とともに学校は生まれたのである。もし余暇がすべての人々のものとなるとき、それは、社会そのものが全体として学習と教育の場所、つまり学校になるときであるかも知れない。

講義で取り上げるテーマとしては、次のようなものを考えている。

- ・学校教育のあゆみ
- ・学校の社会的機能
- ・学校教育の現実と課題
- ・その他

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、主自レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教科書

西村絢子他著『現代教育を考える』(昭和堂) 2,600円

参考書等

デューイ著『学校と社会』(岩波文庫) 410円

そ の 他

- ・必要な資料を適宜配布する。
- ・この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
- この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------|--------------------------|-------------------------|-----|
| 発達と学習の心理学 (前 期) | おお はま き く こ 大 浜 幾 久 子 | 教 職 2 必 (障・仏教・国文・英文) | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

子どもが大人になる過程を20世紀の心理学は、どのようにとりあげ、また解明しようとしてきたのだろうか。他の諸学問分野が心理学の成立に果たしてきた役割にも言及しつつ、次のような基本的な問題をめぐる諸研究を学んでいく。その際、基礎的な心理学実験の実習も試みたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 発達と学習は、どのように定義され、また両者の関係はどのように説明されるのか。
- 2) 知能の発達と情意の発達は、どのような関係にあるのか。
- 3) 障害をも含む発達および学習における個人差を、どのようにとりあげ得るのか。

成績評価の方法

レポート提出を中心とした平常点評価の予定である。

教科書

参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------|------------------------|-----------------------------|-----|
| 発達と学習の心理学 (前期) | かわ だ みつ お 夫 川 田 三 夫 | 教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理) | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

| | |
|----------------|--|
| 講義のねらい | (1)子供の成長・発達の概要を理解する。 (2)教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | ①発達について、乳児期、②幼児期前期、③幼児期後期、④児童期前期、⑤児童期後期、⑥青年期前期、⑦青年期中期、⑧青年期後期、⑨人格の発達、⑩社会性の発達、⑪問題行動、⑫学習・教育心理学、⑬教育学・教育原理、⑭学校・教育をめぐる問題点、⑮試験 |
| 履修上の留意点 | 教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。 |
| 成績評価の方法 | 学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点（100点満点）で所定の基準に従い評価される。 |
| 教科書 | 教科書は特に指定しない。 |
| 参考書等 | 参考文献は授業中に適宜紹介する。 |
| その他 | 授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。 この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。 この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。 |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------|--------------------|--|-----|
| 発達と学習の心理学 (前期) | うえ ぶち ひよし 上 淵 寿 | 教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理) (経A・商・法A・政治・経営) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、従来でいえば「教育心理学」と呼ばれていたものである。そのため、学校教育に関する問題や現象について理解し、そこにいかに心理学的知識をもって関わっていく必要があるのかを、理解する。

特に、現代の教育問題が何であるのかに受講者が直面すること、またそれに対しつい偏った見方を抱きがちであることを理解してもらうことを最優先にする。その上で、様々な身近な教育問題について、受講者なりの解決策を、心理学的な知識を利用しながら考えてもらうことを狙いとす。

したがって、講師からの一方的な講義は問題に焦点をあてたり、この内容の理解の導入を容易にするのとどめて、受講者同士でグループによるディスカッションや資料調査などを中心に行ってもらう。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 オリエンテーション (全体の概説)
- 2 教育心理学とは (学校心理学と教育心理学) グループ編成
- 3 問題を抱える教師1 - 子どもがわからない - (教師の教育観、学級崩壊)
- 4 問題をかかえる教師2 - 忙しさと向き合う - (教師のバーンアウトとその対策)
- 5 問題を抱える子ども1 (意欲の減退、他人との関わり、ひきこもり)
- 6 問題を抱える子ども2 (学習観や認知方略の指導等、学習相談)
- 7 みとりとまなざし (評価、学力の問題)
- 8 意思決定と判断のあやまり (教育活動の判断の偏り)
- 9 発達に応じた関わりをするには?

以上のような内容について講義をするが、それぞれの問題について、グループでの話し合いの時間を十分にとる。

履修上の留意点

単に受け身で講義を聴くような態度では、単位取得は難しいだろう。

当然だが、講義中の私語はマナー違反である。いつまでも平気で私語をするような学生には、即座に退室してもらう。

成績評価の方法

学期末に提出するレポートによる。具体的な評定の仕方については、初回の講義で述べる。

教 科 書

無藤隆・市川伸一 (編著) 『学校教育の心理学』 (学文社)

参 考 書 等

講義中に指示する。

そ の 他

講義形式で行うが、ビデオ・OHP等を併用する。また、グループによるディスカッションや、資料調べなども行う。

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育心理学 (教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学 (教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|---------------|--|-----|
| 発達と学習の心理学 (前期) | すみ の 野 ぜん し 司 | 教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理) 経A・商・法A・政治・経営 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育心理学は、教育場面对して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものです。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てています。

講義を通じて学び、考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと願っています。

講義の内容・授業スケジュール

以下の2つを中心テーマとして進めます。

- ①発達：人間の生涯にわたる発達について
- ②教授－学習：生徒の学習について、および学習に対する教授過程について

履修上の留意点

自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席し、主体的な態度で臨んでください。出席回数が一定基準に達しない場合には、単位を付与しません。

成績評価の方法

平常点(出席および課題の提出状況)2割、学期末テスト3割、学期末レポート5割の配点で、評価する予定です。

教科書

指定しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参考書等

子安増生ほか『ベーシック現代心理学6 教育心理学』(有斐閣)
この他、講義の進行に合わせて、適時紹介します。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回日の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------------|-----------------------|--|-----|
| 教育とメディア (前期)(後期) | お ぐら やす よし 小 倉 康 仁 | 教 職 2 必 (<small>禅・仏教・国文・英米文</small> <small>地理・歴史・社会・福祉・心理</small>) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

ここ十年あまりの間に、コンピュータ関連技術のめざましい進歩と同時に、我々とコンピュータとの係わり合いの在り方が以前と比べて様変わりしてきている。かつてルーティンワークの省力化・効率化の手段として我々の社会に導入されたコンピュータは、今や個人の表現・創造活動や問題解決思考のツール(道具)として不可欠のものとなっている。しかもそれらの活動を行うための単なる道具の手段に止まるのではなく、我々がそれらの活動を通じてこの世界に参加していく(世界と相互作用する)際のメディア(媒介物・媒体)としての役割を果たしていると言える。とくに最近では、個人と個人の間を取り持ち人間のネットワークを支える「コミュニケーションのメディア、コラボレーション(協働作業)のメディアとしてのコンピュータ」という位置づけが重要視されるようになってきている。

このようなコンピュータの利用形態と社会的位置づけの変化を背景として、教育分野におけるコンピュータ活用形態も大幅に変化してきている。そこでこの授業のねらいは、次の三つとする。

1. 「メディアとしてのコンピュータ」という切り口で、教育分野におけるコンピュータの活用方法について、教育学(教育方法論)の視点から理論的に考察する。
2. 問題解決思考のツール(メディア)としてコンピュータを利用してみる。
3. コミュニケーションやコラボレーションのメディアとしてコンピュータを利用してみる。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせる授業を進める。講義部分の授業内容は、上述のねらい1.としてあげた事柄が主体となる。実習部分の授業内容は、上述のねらい2.と3.としてあげたものが相当し、具体的には以下の事項を予定している。(なお実習授業の進行速度は、パソコン初心者でも付いて来られるように配慮するつもりである。)

パソコン(Macintosh)の基本操作
表計算ソフト EXCELによるデータ整理・集計・分析、およびシミュレーション
WWWブラウザによるホームページ閲覧
インターネット(WWW)上での情報検索・収集
インターネット上での電子メールによるやりとり
コンピュータネットワーク上での協働作業体験

履修上の留意点

履修者はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。また履修者は全員、必ず授業開始時点でパソコン自習室の利用者登録をすること(提出用の課題作成等のために必要になる)。

成績評価の方法

平常点(出席、学習態度、提出物など)と期末試験(ペーパーテスト)との総合点によって、成績評価を行なう。

教 科 書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参 考 書 等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

そ の 他

授業で使用するパソコンは、Macintoshのみを用いる。
教室のパソコン(Mac)の台数にあわせて、受講者数を制限する場合があります。前期の1回目の授業に出席して、担当者の指導に従ってください。また、後期に履修を希望する者も、前期の1回目の授業に出席することを原則とします。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------------------|-----------------------|---|-----|
| 教育とメディア (前期) (後期) | いし ばし たつ や 石 橋 達 也 | 教 職 2 必 (英・仏・独・国文・英米文・地理・歴史・社会) (福祉・心理・経A・商・法A・政治・経営) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この授業では、情報化社会が著しく進展していく今日の状態での教育の在り方について学んでいきます。はじめに、教育/学習あるいは授業の捉え方や教育におけるメディアの利用の仕方について、教育心理学や教育方法学の観点から眺めます。それに続いて、インターネットなどを含めたコンピュータ活用教育について焦点を当て、その実践のために必要な技法や教師としての姿勢などについて学ぶとともに、コンピュータ利用上の問題点や注意点についても検討していきます。

講義の内容・ 授業スケジュール

授業のスケジュールとしては、およそ以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。

1. 教育の情報化と教育方法、2. 授業と学習過程の理解、3. 学習者特性の理解、4. 授業モデルと授業設計、5. 教育メディアとメディアリテラシー、6. 教育へのコンピュータの導入、7. コンピュータと情報活用能力、8. インターネットの活用と協同学習、9. インターネット社会への参加態度など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚して、まじめに出席することと積極的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は、期末試験の得点を中心にして、授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教 科 書

次のものを使用する予定です。
今栄国晴編著『新版 教育の情報化と認知科学——教育の方法と技術の革新——』（福村出版）1988 定価：本体2,400円＋税

参 考 書 等

参考文献や関連する資料などは、必要に応じてそのつど授業の中で紹介あるいは配布していく予定です。

そ の 他

授業の中で、コンピュータを使用する実習の時間があります。初歩的なレベルから始めていきますので、初心者でも興味があれば安心して出席できます。

教室のパソコン（Mac）の台数にあわせて、受講者数を制限する場合があります。前期の1回目の授業に出席して、担当者の指導に従ってください。また、学部（昼間）の後期に履修を希望する者も、前期の1回目の授業に出席することを原則とします。

この科目は、平成11年度までに、「教育心理学（教育方法論を含む）」あるいは「青年心理学（教育方法論を含む）」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------|------------------------|--|-----|
| 教育とメディア (前期)(後期) | しば ぎき じゅん じ 芝 崎 順 司 | 教 職 2 必 (海・仏教・国文・英米文・地理・歴史・社会 福祉・心理・経A・商・法A・政治・経営) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、マルチメディア・ネットワーク時代の学校教育・社会教育等教育活動の担い手として、さらには、生涯学習者として、必須と思われる各種のリテラシー（知識・技能・態度）を修得する目的や方法論について検討することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 メディアの歴史を概観し、現状、および将来の展望について検討する。
- 2 学校教育・社会教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の目的・方法について具体的に検討する。
- 3 マルチメディア・ネットワークに対応する各種のリテラシーについて、主として、欧米の先行的事例を紹介し、かつ、検討する。
- 4 マルチメディア・ネットワークワークリテラシープログラムを具体的に体験し、自己の情報リテラシーを高めるとともに、その目的や方法論について検討する。

履修上の留意点

コンピュータや各種の映像機器を活用した講義や実習を多く取り入れる。現在進行中の内容を扱うため、問題提起にならざるをえない内容も多く含む。授業への積極的参加を期待する。

成績評価の方法

出席重視。評価は小レポートと最終レポートを総合的に評価しておく。

教科書

授業中に紹介する。

参考書等

必要に応じて、授業中に紹介する。

その他

コンピュータや各種の映像機器を活用した講義や実習を中心とする。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------------|-------------------------|--|-----|
| 道 徳 教 育 の 研 究 (前 期) | か とう 藤 幸 お 夫 加 藤 幸 夫 | 教 職 2 ・ 3 必 (禪 ・ 仏 教 ・ 国 文 ・ 英 米 文) | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

道徳教育の問題は、単に学校教育だけの問題ではなく、子どもを取り巻く社会生活全体に係わる問題である。すなわち、時代や社会の変化の中で、人間（子ども）はいかに生きるべきかという課題と密接に関連している。それ故、道徳教育の研究においては、道徳性の原理的追究と学校教育における実際の側面を精確に把握することが常に求められる。

このような視点に立って、人間形成における道徳教育の位置づけを明確にし、且つ、道徳教育の歴史の変遷を概観しながら、現代における道徳教育の基本的課題を分析・考察することが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

- I 道徳および道徳教育の本質
- II 現代社会と道徳教育
- III 戦前・戦後における道徳教育
- IV 道徳性の発達と道徳教育
- V 学習指導要領と道徳教育
- VI 道徳の時間における道徳教育
- VII 道徳教育の評価
- VIII 道徳教育の課題と展望

履修上の留意点

これまで各自が受けた道徳教育を思い起こし、整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教科書

中野目直明・小川一郎編『新しい道徳教育』（酒井書店・育英堂）1,995円

参考書等

岩村俊郎・志村欣一・他編『資料 道徳教育の研究』（北樹出版）

その他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------------|------------------------------------|--|-----|
| 道徳教育の研究 (前期) | 小 川 一 郎 <small>がわ いち ろう</small> | 教職2・3必 <small>(地理・歴史・社会・福祉・心理・経営)</small> | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

道徳教育は、人格の完成を目指す教育の根幹をなすものである。道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行うものであるが、小・中学校には、その中核として「道徳の時間」が設置され、学級担任が担当することになっている。

この「道徳の時間」を指導することができることを目指して、授業案を作成したり、模擬授業など実施し、実践的指導力を身につけさせたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①道徳教育の目的と意義
- ②戦前の道徳教育の特色
- ③戦後の道徳教育の特色、道徳の時間の設置の意味
- ④学習指導要領と道徳教育
- ⑤道徳性と道徳的実践力
- ⑥道徳の時間の内容と方法
- ⑦学習指導案の作成
- ⑧模擬授業の実施
- ⑨道徳の授業展開の問題点
- ⑩道徳教育と教師の役割

履修上の留意点

単なる知識の習得でなく、実践的指導力をつけることを目指しているので、授業に出席して、指導力を身につけるようにする。

成績評価の方法

授業への参加を重視する。レポートか筆記試験のどちらかを行う。

教 科 書

小川一郎・中野目直明編著『新しい道徳教育』（酒井書店）2,000円

参 考 書 等

小川一郎著『在り方生き方指導の理論と実践』（清水書院）1,500円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------------|------------------------|------------------------|----|
| 道徳教育の研究 (前期) | つるまき 鶴巻 たいし 武 | 教職2・3必 (経A・商・法A・政治) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日の学校教育では、一人ひとりの生徒が夢や目標をもち、自らの人生や社会を切り開くことのできる豊かでたくましい心を育てるための道徳教育の一層の充実発展が求められている。この時間では、教育課程の一領域として位置づけられている「道徳」の教育的意義や目標及び内容、方法等についての研究を行う。また、新学習指導要領に示された改善の趣旨に基づいて教師としての実践的な指導力を身につけるため道徳の時間の指導計画（道徳の学習指導案）について、実際に立案し、具体的な指導の方法などを研究する。

講義の内容・
授業スケジュール

①今求められる心の教育 ②道徳教育の目標と道徳の時間の役割 ③道徳の時間の指導内容
④生徒の道徳性をどうとらえるか ⑤道徳教育と学級経営の充実 ⑥生命を尊重する心を育てる指導の在り方 ⑦社会のルールを守る心を育てる指導の在り方 ⑧道徳の時間の学習指導案の書き方 ⑨道徳の時間の資料と活用の工夫 ⑩道徳の時間の資料分析の仕方 ⑪道徳の学習指導案を書く ⑫道徳と体験的な活動 ⑬教師の指導技術をどう高めるか

履修上の留意点

文献に基づく道徳教育に関する研究だけでなく、道徳の具体的な指導の内容や方法について理解し、実際に指導できる能力を身につけて欲しい。

成績評価の方法

試験、出席状況、学習指導案の作成等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説－道徳編－』（大蔵省印刷局）260円

参考書等

七條正典編著『改訂 中学校学習指導要領の展開』（明治図書）1,480円

その他

講義、指導案の立案、毎時間講義内容に則した小レポートを提出する等

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|------------------|-----------------------------|-----|
| 特 別 活 動 (後 期) | かとう ゆきお 加藤 幸夫 | 教職 2・3 必 (禅・仏教・国文・英米文) | 2 |

※経 B・法 B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

登校拒否やいじめ・非行など学校の内外を取り巻く諸問題が社会的問題となりつつある今日、児童・生徒の自主的・実践的態度を育成することを主なねらいとする特別活動が、現代の学校教育において果たすべき役割は誠に重要である。

教育現場において、これまで開発・展開されてきた特別活動の指導原理及びその方法について分析かつ考察し、特別活動の現代的意義と課題を明確にすることが本講の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

- | | |
|----------------|------------------|
| I 学校教育の構造と特別活動 | VI 児童会・生徒会活動の指導 |
| II 特別活動の歴史の変遷 | VII クラブ活動・部活動の指導 |
| III 特別活動の特質と内容 | VIII 学校行事の意義と課題 |
| IV 学級活動 | IX 特別活動の評価 |
| V ホームルーム活動 | X 特別活動の課題と展望 |

履修上の留意点

小・中・高校時代に受けた特別活動の内容を整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

柴田義松 編『特別活動』教職課程講座・第6巻(ぎょうせい)

参 考 書 等

中野日直明・小川一郎 編『現代の特別活動』(酒井書店・育英堂)

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------------|------|--|----|
| 特別活動 (後期) | 小川一郎 | 教職2・3必 <small>(地理・歴史・社会・福祉・心理・教育)</small> | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

特別活動が人間形成に果たす役割は大きい。特に、青少年の社会性の欠如が言われている現代では、望ましい集団活動を通じて人間形成を図る特別活動の重要性は増大している。

すべての教員が学級活動（ホームルーム活動）を中心に特別活動を指導することになるので、その実践的指導力をつけることがねらいとなる。

講義の内容・
授業スケジュール

①特別活動の意義・目的 ②特別活動の方法的特質 ③特別活動の歴史の変遷 ④特別活動の内容 ⑤特別活動の指導計画と実践 ⑥特別活動と新しい学力観 ⑦特別活動と総合的な学習の時間 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨特別活動と道徳教育 ⑩特別活動と進路指導 ⑪特別活動と地域との連携 ⑫特別活動と人間形成

履修上の留意点

単なる知識の記憶でなく、実践的指導力を身につけることをねらいとしているので、出席して、意見・疑問等を出すことを希望する。

成績評価の方法

授業への参加を重視する。レポートか筆記試験のどちらかを行う。

教科書

小川一郎・中野目直明編著『現代の特別活動』（酒井書店）2,000円

参考書等

小川一郎著『在り方生き方指導の理論と実践』（清水書院）1,500円

その他

講義を主に、随時討議などを行う。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|-----------------|--------------------------|-----|
| 特 別 活 動 (後 期) | つる 鶴 巻 武 たけし | 教職 2・3 必 (経A・商・法A・政治) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現在、教師には生徒の心身の健全な発達を図り、当面する課題に適切な指導や援助をする実践的な指導力が求められている。この時間で学ぶ「特別活動」は、集団活動を通じた教育活動により、集団や社会の一員としての自覚を深め、生徒の個性の伸張と調和のとれた豊かな人間性を育成するとともに、学級や学校生活の基盤の形成に重要な役割を果たしている。この「特別活動」の教育的意義や目標、内容及び方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。中でも、実践的な面を重視し特別活動の内容や活動内容の取り扱い方、指導方法などについての具体的な研究を通して、教師としての実践的な指導力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

①生きる力の育成と特別活動の役割 ②特別活動の目標と基本的な性格 ③学級活動の内容相互の関連 ④学級活動の指導と適応指導 ⑤学級活動の指導とガイダンスの機能の充実 ⑥生徒会活動の特質とその活性化 ⑦学校行事の特質と指導、家庭・地域との連携の推進 ⑧生徒指導の充実と教育相談 ⑨特別活動と学級経営の充実 ⑩特別活動と総合的な学習との関連 ⑪特別活動と体験活動 ⑫学級崩壊の現象とその対応 ⑬特別活動と特色ある学校づくり

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特に特別活動の具体的な実践にかかわる指導内容、指導方法等についての研究を深め、教師としての識見を高め、実践的な指導力を身につけて欲しい。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し評価する。

教 科 書

文部省『中学校学習指導要領 解説－特別活動編－』（ぎょうせい）70円

参 考 書 等

森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著『改訂中学校学習指導要領の展開－特別活動編－』（明治図書）1,680円

そ の 他

講義、毎時間の内容に則した小レポートを提出する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------------------|----------------------|------------------------|-----|
| 生徒指導論(進路指導を含む) (前期) | こみやま 小宮山 かなめ 要 | 教職2・3必 (禅・仏教・国文・英文) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現在の学校現場には、「いじめ」「不登校」「校内暴力」「学級崩壊」「非行」等さまざまな問題が発生している。本講義ではこれらの問題を正しく理解し、適切に対応できる教師としての基礎的能力を身につけることを目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

本講義では生徒のいじめ問題に焦点を当てながら、生徒理解と生徒指導の方法を下記のような流れに従って具体的に学習する。

- 1 生徒指導の意義と課題
- 2 生徒指導の原理
- 3 生徒の問題行動の実態
- 4 行動理解のための基礎理論・心の法則
- 5 生徒の問題行動の発現メカニズムとその理解
- 6 生徒の問題行動への対応
- 7 学校・家庭・関係機関との連携

履修上の留意点

履修する学生は、教職志望者であることを念頭に置き、授業に積極的に参加することを希望する。

成績評価の方法

定期試験、レポート、出席等をもとに総合的に判断する。

教 科 書

小宮山要『間違いだらけのいじめ指導』(明治図書) 1,760円

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------------|-----|
| 生徒指導論(進路指導を含む) (前 期) | こく がん まり こ 国 眼 眞 理 子 | 教職2・3必 (国・英・文・理・歴・社・福・心・理) | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

生徒理解や、生徒の心の発達を促すうえで役立つ基礎的な視点を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

前半は「青年期」理解を深めるとともに、心理学の基礎的な視点を習得する。
 1. 「青年期」と、その心理的な課題（アイデンティティ形成）
 2. 自己のアイデンティティを探る
 3. 自己の発達と対人関係（親子関係、友人関係、教師生徒の関係他）
 後半は、前半で学んだ基礎知識をもとに、進路指導や教師と生徒間のコミュニケーションのあり方を考える
 5. 進路選択と職業的アイデンティティの形成
 6. サポーターとしての教師の役割
 7. コミュニケーション（非言語的なコミュニケーション）

成績評価の方法

指定図書の中から、2冊を選び、論題に沿ったレポートを提出。
 講義終了時にレポートもしくは試験を実施（受講者数による）
 レポート点各30点（60%）、定期試験30%、出席点10%で成績を認定する。
 但し、レポート提出、定期試験受験を成績認定の条件とし、未提出者および試験を受験しなかった者は成績を認定しない。

教 科 書

今年度は特に使用しない。適宜授業中に資料を配布。

参 考 書 等

- ① 河合隼雄『カウンセリングを考える（上）』（創元社）1995
- ② 菅佐和子『思春期女性の心理療法』（創元社）1988
- ③ 清水将之『思春期のころ』（日本放送出版会）1996

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------------|--------------------|----------------------------|-----|
| 生徒指導論(進路指導を含む) (前 期) | さ とう なお 佐 藤 尚 人 | 教職2・3必 (地理・歴史・社会・福祉・心理) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育において、教科の学習や集団生活への参加が、一人ひとりの児童生徒でスムーズにいくよう指導することを教師は求められる。しかしながら、子どもは決して等質・均一存在ではない。画一化された教師の指導方法や対応では日々起こりうる種々の問題の解決がうまくいかない、あるいはむしろ問題を引き起こしてしまうことすらあるであろう。

本授業では、昨今教育問題として取り上げられる機会が多い「いじめ」「不登校」「非行」などについて、そのような問題行動を示す子どものこころのありようの理解や対応の仕方、さらには問題行動を未然に防ぐための教師としての心構えなどを考えてゆく。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 X はじめに 学校教育の歴史と目的 教師のなすべきこと
- 2 X 子どもの理解 問題行動について医学的・工学的な理解と教育的な理解
- 3 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その1)
- 4 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その2)
- 5 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その3)
- 6 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その4)
- 7 X さまざまな問題行動とその理解「いじめ」
- 8 X さまざまな問題行動とその理解「不登校」
- 9 X さまざまな問題行動とその理解「非行」
- 10 X こころの病・不適応「神経症」「精神病」
- 11 X 問題行動への対応の方法「学習理論にもとづくもの」
- 12 X 問題行動への対応の方法「心理療法にもとづくもの」
- 13 X まとめ 生活指導において大切なこと

履修上の留意点

原則として出席はとらないが単位を取得することを希望する学生は毎回出席すること。さらに、授業中に質問や意見などを積極的に表現することが望ましい。

参加学生に対してはすべて公平にあつかう。(さまざまな事情があっても特別扱いはしない。)

成績評価の方法

原則として定期的筆記試験(ノート等の持ち込みは一切不可)の結果により成績を評価する。ただし、授業中の発言(質問・意見)や宿題等の課題の提出を試験の成績にプラスして評価する。

教 科 書

特に使用しない。講義ノートをもとに授業を進めてゆく。

参 考 書 等

大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) 2,200円

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------------|--------------------|---------------------------|-----|
| 生徒指導論(進路指導を含む) (前 期) | えん どう つかさ 遠 藤 司 | 教職2・3必 (経A・商・法A・政治・経営) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは、現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとしている人間として、生徒（他者）の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生徒指導観、あるいは進路指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 生徒指導、進路指導の理論、歴史とその目的の変遷
2. 「問題行動とは何か」という問いに関わる諸問題
3. 不登校、いじめ等の実際の事例を通しての実践的考察
4. 教師－生徒関係の中での生徒指導、進路指導
5. 個の尊重と組織・集団活動との相克の中での生徒指導、進路指導

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験を予定している。

教 科 書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------------|-----------------------|---------------------------|-----|
| 生徒指導論(進路指導を含む) (前 期) | かわ はら せい し 川 原 誠 司 | 教職2・3必 (経A・商・法A・政治・経営) | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

生徒指導に関して必要なことは何かということ、[生徒指導という言葉の響きと現実との差]「教師としてのあり方と現在の自分との差」「生徒指導についての具体的理論」といった観点から検討していきます。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容やスケジュールについては、受講者の数や受講者の動機などによって変わりますので、その状況を把握した上で、受講生に伝えます。

履修上の留意点

どのような学生がどの程度の人数受講するのかということ、私は最初の講義時間に把握したいと考えていますので、受講を希望する学生はそのつもりで行動してください。

成績評価の方法

受講人数や受講態度によって変わりますので、講義を進めていく中で受講生に伝えます。

教 科 書

講義を進めていく中で、必要なものを適宜紹介していきますので、その際に自ら購入していくようにしてください。

そ の 他

授業の一部では、生徒指導・学級経営に関する英語の文献をグループで要約して発表してもらうことを予定しています。

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|------------------------|-----|
| 宗 教 科 教 育 法 | こ 山 一 乗 こ やま かず のり | 教 職 3 必 (禪 ・ 仏 教) | 4 |

講義のねらい

講義と模擬授業とで構成する。
 教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育職員免許法を概観する。
 特に、各教科と宗教科との関係、「宗教科教育」と「宗教教育」との異同点にも留意する。
 我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。
 その上で、「宗教の定義集」への着目をし、『宗教に関する寛容の態度』の涵養への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。
 宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。適宜、童歌なども、導入し、幼稚園教育から高等学校教育までの接続も考察に含めたい。

講義の内容・授業スケジュール

『仏教概論 — 分かりやすい仏教 —』をテキストにして、原則として模擬授業（50分）を課します。教材研究の実際、学習指導要領、学習指導案の基礎的・基本的事項を講義する。その上で、具体的に、学習指導案の様式と教育観との関係が思量でき、主体的に選択した様式に基づいて実際に学習指導案を作成してもらう。
 模擬授業は、その様子をビデオに収録し、再生して、爾後の授業分析の鏡利用とし、自己分析に供する。

履修上の留意点

学年、他教科との関連を常に勘案すること。社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

模擬授業、レポート、出席点により評価する。特に出席を尊重する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容 — 宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点 —』（宣協社）2,940円
 『仏教概論 — 分かりやすい仏教 —』（曹洞宗宗務庁）800円
 小中高各『学習指導要領』各 230円 250円 370円

参考書等

井上順孝監修『宗教教育資料集』（すずき出版）3,900円
 『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版）1985年
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』（大法輪閣）1,600円
 『教育小六法』（学陽書房）2,200円
 その他適宜紹介する。

その他

講義を基調とするが、実際には、講義と模擬授業（演習）を折衷した形態となろう。定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。
 プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|----------------------|--------------------|-----|
| 国 語 科 教 育 法 | かみ 神 谷 みち のり 倫 | 教 職 3 必 (国 文) | 4 |

講義のねらい

中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、さらに各領域・教材に応じたそれぞれの指導方法等について概観したのち、実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、主に模擬授業の形式で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・
授業スケジュール

重点的に以下の三点を中心に進める。

- ① 国語科教育の現況の確認
- ② 国語科教育の方法、実践等について先人の試みの意義を探る。
- ③ 教育実践の準備

以上のうち①②については、教科書・プリント等を用いて講義形式で行う。③については、教材研究の実際、指導案の作成など課題形式のものの提出と、実際の教材による模擬授業の形式(グループ分けにより全員が何らかの形で必ず参加)で行う。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

科目の性質上、出席は当然重視する。(なお、中学校・高等学校時代使用の国語の教科書・副読本があれば、手元に整理して必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい。)

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加(出席)の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教 科 書

全国大学国語教育学会編 新中学校・高等学校『国語科教育研究』(学芸図書株式会社)
1,300円+消費税

参 考 書 等

国語科教育法に関するもの、特に後半使用する教材に関するもの等少なからずあるが、その都度指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|--------------------------|--------------------|-----|
| 書 道 科 教 育 法 | な 那 す たか 隆 よし 吉 | 教 職 3 必 (国 文) | 4 |

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特徴を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教 科 書

高等学校芸術科書道指導資料 文部省編著『指導計画の作成と学習指導の工夫』(教育図書)
990円

参 考 書 等

随時紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-----------------------|-----------------|-----|
| 英語科教育法 | あら い よし お雄 荒 井 良 雄 | 教職 3 必 (英米文) | 4 |

講義のねらい

英語科教育法の理論と実践を、教授法の実践面を重視しつつ、授業計画、授業の展開、評価などを中心に実習する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 主な英語教授法
2. 言語材料と指導
3. 「聞き方」の指導法
4. 「話し方」の指導法
5. 「読み方」の指導法
6. 「書き方」の指導法
7. 指導案のあり方
8. 指導形態の研究
9. 評価とテストの方法
10. 視聴覚器具の利用法

履修上の留意点

中学校や高等学校の教壇に立つて教える立場になることを常に念頭において、英検準1級、TOEFL600点前後を取得していることが望ましい。中学生や高校生で2級はもとより準1級取得者もいることを忘れないように。

成績評価の方法

平常点を重視し、前期、後期、学年末試験の成績を総合して判定する。

教科書

塩澤利雄ほか著『新英語科教育の展開』（英潮社）2,600円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|----------------------|--------|-----|
| 社会科教育法 I (後 期) | く ぼ た たけし 久 保 田 武 | 教職 3 必 | 2 |

講義のねらい

中学校社会科、高校地理歴史科・公民科を教えるにあたって必要な基礎的知識・技法の修得と暗記科目にならない教授内容構成と教授法の考察。

講義の内容・
授業スケジュール

毎回教授者による社会科各分野（地理、歴史、公民）の授業事例を通じて、生徒の興味関心と学力を増す教授内容構成とその指導法を示す。
講義（教授者による授業例）と関連事項の質疑応答・実習・課題作成等。学生の中から発表者を選んで模擬授業の機会を1回設ける。

履修上の留意点

授業の終りに毎回授業内容に関連して、まとめ、コメント、実習内容等の提出を求め出欠調査を兼ねる。提出物は添削（質問、意見には回答）のうえ次回に返却する。

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲（出席状況他）等を総合して評価。出席状況は単位認定と成績評価の際特に重視する。

教科書

使用しない。

参考書等

授業の際そのつど紹介する。但し関連する教科書、地図帳、年表、資料、文部省学習指導要領等はこの際揃えた方がよい。特に地図帳、年表、統計資料は初回から持参した方がよい。

そ の 他

毎回授業時間の前半は講義。後半に視聴覚学習、作業、実習課題作成を入れるのを原則とする。OHP、スライド、ビデオ、写真等の視聴覚教材を多用し、講義内容の理解と機材利用法習得を図る。
地歴教育法 I との併習が基礎的知識修得のために望ましい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------------|-----------------|---------|-----|
| 地理歴史科教育法 I (前 期) | くぼ た 武 久 保 田 | 教 職 3 必 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

高校地歴科を教えるにあたって必要な基礎的知識・技法の修得
教科の目標（存在理由）と暗記科目にならない教授内容構成と教授法の考察

講義の内容・
授業スケジュール

- ◆講義の内容
毎回教授者による地理および歴史の授業事例を通じて生徒の興味関心と学力を増す教授内容構成とその指導法を示す。社会科教育法と合わせて内容を一本化する。
生徒の学力評価法、生徒による教授者評価を利用する自己評価法
教育現場での体験談から具体的な学習指導法へのヒントを示す。
- ◆授業スケジュール
講義（教授者による授業例）と、関連事項の質疑・実習・課題作成等
学生の中から発表者を選んで模擬授業の機会を1回設ける。

履修上の留意点

授業の終わりに毎回授業内容に関連して、簡潔なまとめ、コメント、実習内容等の提出を求める（出欠調査に代える）。提出物は添削（質問、意見には回答）のうえ次回に返却する。

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲（出席状況他）と実績（発表等）等を総合して評価。出席状況は単位認定と成績評価の際特に重視する。

教 科 書

使用しない。

参 考 書 等

授業の時にそのつと紹介する。但し、地理、歴史、社会科教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料、文部省学習指導要領（地歴編、社会編）等は、この際揃えたほうがよい。とりあえず地図帳、年表と統計資料は初回から持参した方がよい。

そ の 他

毎授業時間の前半は講義、後半は視聴覚学習、質疑、作業、実習を原則とする。
OHP、スライド、ビデオ、写真など視聴覚機材を多用し講義内容の理解と機材の利用法を示す。
社会科教育法 I と併習することが基礎的知識習得のために望ましい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------------|------------------------|--------|-----|
| 社会科教育法Ⅰ (後期) | さくら い あき ひさ 桜 井 明 久 | 教職 3 必 | 2 |

講義のねらい

中学校社会科の方法について、地理分野を例に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。
④指導案の作成 ⑤模擬授業 ⑥授業の研究と方法 ⑦地理教師の仕事

履修上の留意点

個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。このため、巡検や調査による公欠以外の欠席については厳しく取り扱う。担当部分の放棄、担当日の欠席は許されない。それが避けられない場合は、事前に連絡し、相談すること。

中学校社会科のうち、地理分野を中心題材とするので注意すること。

なお、授業計画上、前期の地理歴史科教育法Ⅰ（地理A、地理Bを中心課題とする）とセットとして授業計画を組むので注意すること。後期のみ受講するものは、後期の最初に模擬授業の準備のための宿題を課すので講義の第1日目には必ず出席のこと。それが不可能な場合には、事前に桜井まで申し出ること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、模擬授業の成果など 70点
レポート 10点 期末試験 20点

教科書

桜井明久（1999）『地理教育学入門』（古今書院）3,800円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|------------------------|--------|-----|
| 地理歴史科教育法Ⅰ (前期) | さくら い あき ひさ 桜 井 明 久 | 教職 3 必 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理A、Bを概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。
①地理教育の目標 ②マイクロティーチング ③教授方法上の工夫
④指導案の作成

履修上の留意点

各自マイクロティーチングを試みるなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。このため、巡検や調査による公欠以外の欠席については、厳重に注意すること。担当部分の放棄、担当日の欠席は許されない。それが避けられない場合は、事前に連絡し、相談すること。なお、地理歴史科の科目・地理A、Bを中心題材とするので注意すること。

なお、授業計画上、後期の中学校社会科教育法Ⅰとはセットとして授業を組むつもりであるので注意すること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチングなど 70点
レポート 10点 期末試験 20点

教科書

桜井明久（1999）『地理教育学入門』（古今書院）3,800円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------------|-----------------------|------|-----|
| 社会科教育法Ⅰ (後期) | ふじ き まさ くに 藤 木 正 国 | 教職3必 | 2 |

講義のねらい

中学校社会科(特に歴史的分野)の教師として、自ら授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・授業スケジュール

- ①明治以降日本教育制度の変遷
- ②社会科成立の事情と学習指導要領の変遷
- ③学習指導計画と指導案の作成
- ④グループ別の模擬授業

履修上の留意点

受講する以上は、教員をまごし努力すること。安易な単位取得は考えない。出席状況と提出物はとくに重視する。常に努力と創意工夫を忘れぬよう。

成績評価の方法

出席状況、提出物、定期考査などを総合し評価する。

参考書等

文部省学習指導要領(中学校)、教科書(必要に応じて授業時に紹介する。)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|-----------------------|------|-----|
| 地理歴史科教育法Ⅰ (前期) | ふじ き まさ くに 藤 木 正 国 | 教職3必 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

高等学校地歴科(特に日本史)の教師として、自ら授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・授業スケジュール

- ①明治以降日本教育制度の変遷
- ②学習指導要領の変遷と地歴科成立のいきさつ
- ③学習指導計画と指導案の作成
- ④グループ別の模擬授業

履修上の留意点

受講する以上は、教員をまごし努力すること。安易な単位取得は考えない。出席状況と提出物はとくに重視する。常に努力と創意工夫を忘れぬよう。

成績評価の方法

出席状況、提出物、定期考査などを総合し評価する。

教科書

文部省学習指導要領(高等学校)、教科書(必要に応じて授業時に紹介する。)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------------|--------------------|------|-----|
| 社会科教育法Ⅱ (後期) | はし づめ さとし 橋 爪 敏 | 教職3必 | 2 |

講義のねらい

この授業は、中学校社会科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、社会科教育法に関する文献購読(下記テキスト)を主としたい。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、社会科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教科書

社会認識教育学会編『社会科教育学ハンドブック』(明治図書)

参考書等

適宜、授業中に紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------------|--------------------|------|-----|
| 公民科教育法Ⅰ (前期) | はし づめ さとし 橋 爪 敏 | 教職3必 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この授業は、高等学校公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献購読を主としたい。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、公民科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教科書

使用するが、未定。

参考書等

適宜、授業中に紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------|----------------------|---------|-----|
| 社会科教育法Ⅱ (後期) | や 谷 敷 正 光 やしきただみつ | 教職3必 | 2 |

講義のねらい

本講は中学校社会科で教育実習を行う学生や社会科教師を目指す学生に、「教育とは」「社会科教育とは何か」といった社会科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで社会科教師としての資質・力量形成を目標に行います。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立
3. 中学校社会科学学習指導要領の変遷
4. 中学校の教育課程と社会科
5. 中学校社会科の学習指導計画
6. 中学校社会科学学習指導案の意義と作成
7. ビデオによる社会科教師の授業研究
8. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
9. 平成10年12月告示の中学校学習指導要領と社会科
10. 教育評価
11. 社会科教育実習の意義
12. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導します。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。

教 科 書

大森・谷敷共著『社会科教育研究』(梓出版)

参 考 書 等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ① 大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ② 槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
- ③ 谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
- ④ 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
- ⑤ 浜上薫『発問づくりの技術』(明治図書)
- ⑥ 中学校社会科(地理的分野、歴史的分野、公民的分野)の教科書
- ⑦ 文部省『中学校学習指導要領』、文部省『中学校指導書』(大阪書籍)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------------|---------------------|---------|-----|
| 公 民 科 教 育 法 I (前 期) | や 谷 敷 正 光 しきただみつ | 教 職 3 必 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のため方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで公民科教師としての資質・力量形成を行います。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立
3. 高等学校社会科（公民科）学習指導要領の変遷
4. 高等学校の教育課程と公民科
5. 高等学校公民科の学習指導計画
6. 高等学校公民科学習指導案の意義と作成
7. 4年生による模範授業
8. 模範授業を通じての高等学校公民科の授業実践研究
9. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
10. 平成11年3月告示の高等学校学習指導要領と公民科
11. 教育評価
12. 公民科教師論
13. 公民科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。

教 科 書

大森・谷敷共著『社会化教育研究』（梓出版）

参 考 書 等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ① 大田堯『教育とは何か』（岩波新書）
- ② 槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
- ③ 谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』（黎明書房）
- ④ 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』（明治図書）
- ⑤ 福山憲市『資料提示の技術』（明治図書）
- ⑥ 高等学校社会科（現代社会、政治経済、倫理）の教科書
- ⑦ 文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（実教出版）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------------|------------------------|---------|-----|
| 社会科教育法Ⅱ (後 期) | かみ じょう すえ お 上 條 末 夫 | 教 職 3 必 | 2 |

講義のねらい

本年度から、従来の社会科と公民科の授業が分離され、それぞれ半期ずつの授業が行われる。社会科には中学校の社会に関する科目がすべて含まれるので、その範囲は非常に広く、かつ多岐にわたる。社会科は社会人として必要な知識と社会的適応力を育成することが目的である。そのため、教える側にそれ相応の知識と方法論が必要になる。それらについての基本的事項について講義するのが、本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 学校教育における社会科の位置づけ
2. 発達心理学的にみた中学生
 - (1) 社会化と家庭および学校の責任
 - (2) 発達に応じた教育のあり方
3. 民主主義教育のあり方
 - (1) 自由と平等の意味と両者の矛盾
 - (2) 多数決の原理と集団意思の決定方法
 - (3) 権利と義務のバランス
 - (4) 参加と責任のあり方
4. 歴史教育のあり方
 - (1) 「温故知新」とその評価
 - (2) 実証主義と客観性
5. 地理教育のあり方
 - (1) 地方文化とその特性比較
 - (2) 国際的基礎知識としての地理学
6. 表現と伝達の心理学
 - (1) 言語の性格と表現方法
 - (2) 文字による表現とリテラシー
 - (3) 数字の魔術性と図表の扱い方
 - (4) 単純化と拡大化の効果

履修上の留意点

必ず出席すること。

成績評価の方法

出席点と平常点によって評価する。

教 科 書

なし。必要に応じてプリントを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------------|------------------------|------|-----|
| 公民科 教育法Ⅰ (前期) | かみ じょう すえ お 上 條 末 夫 | 教職3必 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本年度から、従来の社会科と公民科の授業が分離され、それぞれ半期ずつの授業が行われる。公民科は高等学校の社会に関する科目のうちから、地理と歴史の科目を除いたものが、これに該当する。したがって、政治・経済・社会・倫理などにわたった、かなり専門的な知識を必要とする。その基礎的な知識と教育の方法論について講義することが、本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 高校における公民科の位置づけ
2. 政治教育のあり方
 - (1) 政治的社会化の過程における学校の役割
 - (2) マス・メディアによる報道の影響とその対応
 - (3) 国民主権と国民の政治的責任の自覚
 - (4) 日本と諸外国との比較
3. 経済教育のあり方
 - (1) 資本主義と民主主義の関係
 - (2) 社会主義経済と共産主義経済の相違
 - (3) 市場経済と競争の原理
 - (4) 経済水準と社会の安定度との関係
4. 社会教育のあり方
 - (1) 少子化と高齢化時代の福祉政策
 - (2) 労働の流動化とグローバル経済
 - (3) 環境問題と科学技術の発達
 - (4) 情報化とモバイル時代の社会問題
5. 双方向的教育のあり方
 - (1) コンピュータ・リテラシーの重要性
 - (2) 受信と発信（創造と表現）の必要性
 - (3) アジェンダ形式と討論形式の授業
 - (4) 時事問題と映像教育のあり方

履修上の留意点

必ず出席すること。

成績評価の方法

出席点と平常点によって評価する。

教科書

なし。必要に応じてプリントを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|---------|---------------------|----|
| 商業科教育法 | 谷 敷 正 光 | 教職 3 必 (経A・商・経営) | 4 |

※経B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「専門教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「専門学科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従つて、この講義のねらいは、「専門教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 日本経済の発展と専門教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 専門教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 商業科学習指導案の作成
9. ビデオによる商業科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての商業科、授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 商業科教育実習の意義
15. 商業科教師論
16. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価する。
- ② 定期試験、追再試は実施せず。

教科書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参考書等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ①大田 堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ②産経新聞社『学校ってなんだろう』(新潮社)
- ③毎日新聞社『教育改革 現場の試み』(毎日新聞社)
- ④岩下 修『指導案づくりの技術』(明治図書)
- ⑤新牧賢三郎『やる気を引き出す技術』(明治図書)
- ⑥高等学校商業科の教科書(『流通経済』など)
- ⑦文部省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(大日本図書)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|----------------------|----------------|-----|
| 職業科教育法 | まえ だ ち かず 前 田 幸 一 | 教職3必 (経A・商) | 4 |

※経Bの12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- 基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。
- ① 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
 - ② 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討していく。
 - ③ 職業教育について考えていく。
- ①、②は前期授業、③は後期授業で行う予定です。

履修上の留意点

自分や周りの人の家庭や職業について改めて考えてきてほしい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。再試験はしません。

教科書

『中学校学習指導要領』（文部省平成元年3月）。他については授業の際指示します。

参考書等

中学校で使用していた『技術・家庭』の教科書など。

その他

授業を受ける人は少人数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-------------------------|----------------------------|-----|
| 教育実習Ⅰ | とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子 | 教職4必(簿・仏教・社会・福祉・心理) | 3 |
| 教育実習Ⅱ | | 12以降入学生教職4必(簿・仏教・社会・福祉・心理) | 5 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

中学・高校での教育実習を充実させるための準備を行なうことと、実習をとおしてみえてきた教育のさまざまな課題について、ともに考えることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 事前指導 — ・実習の心がまえ
・生徒指導について
・教科指導について
・指導案作成
・模擬授業
- 訪問指導 — ・研究授業訪問指導
- 事後指導 — ・授業実習の検討

成績評価の方法

実習ノート、実習校からの評価、授業での実習報告、レポート。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜指示する。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成12年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------------|------------------------------|----|
| 教育実習Ⅰ | さかのぶあき 坂本信昭 | 教職4必(国文・歴史・法A・政治・経営) | 3 |
| 教育実習Ⅱ | | 12以降入学生/教職4必(国文・歴史・法A・政治・経営) | 5 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育実習での失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくするというよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導(教育)も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容(領域)等に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成(提出)、教育問題にかかわるビデオの視聴、ディスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か—どうあるべきか—について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像等についても一緒に考えたいと思う。

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

①実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、②教育実習報告(口頭報告)及び報告レポート、③ビデオ視聴のコメント(感想)、④年度末試験(または、課題レポート)によって、総合的に評価します。なお、①～④について重視する度合は、全て同グレードに考えている。

教科書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』(宣協社)1,500円

参考書等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』(学文社)1,000円

西村純子他編『現代教育を考える』(昭和堂)2,600円

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成12年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------|-------------------|----|
| 教育実習Ⅰ | むらやまてるよし 村山輝吉 | 教職4必(英文文) | 3 |
| 教育実習Ⅱ | | 12以降入学生/教職4必(英文文) | 5 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

年間を通じておおむね次の事項を取りあげる。

- 教育実習の意義と心がまえ
- 学習指導について
- 生徒指導について
- 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

成績評価の方法

実習校からの評価、口頭発表、レポート、出席等により総合的に評価する。

教科書

教科書・参考書等はそのつど指示する。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成12年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------|----------------------|----|
| 教育実習Ⅰ | きたむらみつこ 北村三子 | 教職4必(地理・経A・商) | 3 |
| 教育実習Ⅱ | | 12以降入学生/教職必(地理・経A・商) | 5 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

中学・高校での教育実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。教生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、その実習のための準備と、実習後その体験を他の人々と共有し、深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、講義の内容・授業のスケジュールで述べるような様々なことを試みたい。また、実習後は、教える立場から新たに見えてきた、学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を、考え合いたい。

講義の内容・授業スケジュール

実習の準備としては、全般的な注意、ビデオによる実習の概要把握、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から、後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は、話し合いの上で決めたいが、今まで扱われたテーマは、いじめや体罰といった学校内での暴力、不登校、若者の文化や人間関係に関連するものなど、多岐にわたる。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。教場を変更する場合がありますので注意すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテスト。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成12年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------------|------------------|----|
| 教育実習Ⅰ | いとうしげき 伊藤茂樹 | 教職4必(歴史) | 3 |
| 教育実習Ⅱ | | 12以降入学生/教職4必(歴史) | 5 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関する講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献講読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教科書・参考書等

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成12年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

(2) 教職に関する科目（選択）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------------------|------|-----|
| 教育関係法規 | ひろさわあきら 広 沢 明 | 教職2選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

憲法、教育基本法、学校教育法など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、いじめ、内申書、日の丸、君が代、宗教、教科書検定、障害児、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 学校の種類
2. 教育の機会均等（民族・性・障害）
3. 義務教育
4. 教育の中立性（政治・宗教）
5. 教育行政
6. 懲戒

履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

教科書

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

参考書等

授業中に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|----------------------|----------|-----|
| 教育評価 | おおはまきくこ 大 浜 幾 久 子 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究方法（実験・観察・調査・テスト）の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。パソコンに関しては、まったくの初心者でも可。

成績評価の方法

平常点による。

参考書等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|--------------------|----------|-----|
| 教 育 哲 学 | きたむらみつこ 北 村 三 子 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日、近代社会の矛盾が様々な形で人間の生活を脅かしており、その中で、かつての人々が当然のこととしてあてにできた子育ての社会的、自然的基盤も揺るがされている。この混迷の時代に、私たちはどのようなありかたに向けて、またいかにして、次の世代を育み、支えてゆくことができるのだろうか。この授業では、生命とは何か、また、生命的な知とは何かを学ぶことを通して、そうしたことを考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

以下のような文献を検討していく。

- ・G・バイトソン『精神と自然』（思索社）
- ・M・ボラニー『暗黙知の次元 言語から非言語へ』（紀伊國屋書店）
- ・佐々木正人『アフォーダンス——新しい認知の理論』（岩波書店）
- ・清水博『生命知としての場の理論』（中公新書）

文献とその進め方は、受講者と相談の上、最終的に決定する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|----------|-----|
| 教 育 情 報 学 | お ぐら やす よし 小 倉 康 仁 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- この授業のねらいは、次の三つである。
1. 我々の社会におけるコンピュータの役割・位置づけの歴史的変遷について概観し、コンピュータと我々の社会との係わり合いの在り方について考察する。
 2. 教育分野でのコンピュータ利用方法・形態の変化について教育学の視点から理論的に考察し、コンピュータの教育的活用とは何かを探る。
 3. 普遍性のあるソフトウェアの操作実習を通して、教育現場で必要とされる実際的なコンピュータ（パソコン）活用能力とセンスを育成する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせる。前期の授業内容としては、以下のものを予定している。
 コンピュータの基礎知識（講義）、情報理論の基礎知識（講義）、パソコンの基本操作（実習）、コンピュータの社会的役割の変遷（講義）、ワープロソフトの基本操作（実習）、表計算ソフトの基本操作（実習）、インターネットの基礎知識（講義）、初歩的なネットサーフィン（実習）
 後期の授業内容としては、以下のものを予定している。
 教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理（講義）、コンピュータの教育的活用とは？（講義）、教育用ソフトウェアの選択・活用方法について（講義と実習）、コンピュータネットワーク（LAN、パソコン通信、インターネットなど）と教育（講義）、インターネット（WWW）上での情報検索の方法（実習）、HTMLによるホームページ作成方法（実習）、画像データの加工処理方法（実習）

履修上の留意点

パソコンに初めて触れるという初心者も歓迎する。履修者はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。また履修者は全員、必ず授業開始時点でパソコン自習室の利用者登録をすること（提出用の課題作成等のために必要になる）。

成績評価の方法

平常点（出欠、学習態度）、小テスト（ペーパーテスト）、提出物（レポート、課題作品）の総合点によって成績評価を行う。

教科書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

その他

授業で使用するパソコンは Macintosh のみを用いる。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|---------|----------|-----|
| 教育臨床心理学 | 牟 田 隆 郎 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育現場並びに教育をとりまく諸状況において生じている青少年の問題（教師、学校の問題も含む）の、臨床心理学的観点からの考察を施す。

講義の内容・授業スケジュール

初めに、人間事象を見つめる基本的視点について講義する。次いで、リアルタイムに今現在教育並びにその周辺に生じている種々の出来事を、新聞・雑誌・書籍等の媒体をテキストとし、その「人間心理」的側面の解説を試みる。

履修上の留意点

知識伝達型の講義ではなく、種々生起している事柄を「何故そうなのか」と共に考え、そしてまたそれらが、実は自ら自身にも深く関わるものとして考察する態度をもつことを期待したい。

成績評価の方法

出席点を基本とする。

教科書

特定の教科書・参考書は使用しない。必要とあらばその都度紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|----------|-----|
| 教 育 社 会 学 | くま がい かず のり 熊 谷 一 乗 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育は、人と人との関係を基本とする多様で複雑な社会的関係の組み合わせのなかで行われている。教育社会学は、人間の成長と教育をめぐって生ずる社会的関係について研究し、望ましい人間形成をめざして、その関係の改善、充実をめざす学問である。講義は、教育に関する具体的な事例を検討することにより、教育をめぐって形成される社会的関係がどのようなものであるかを明らかにし、望ましい教育のためにどのように社会的関係を整え、充実させたらよいかという課題に対して示唆を与えることをねらいとしている。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義は、次の四つの領域に分けて行われる。

(1)社会的変化のなかの教育問題と子供（4～5月）＝①教育問題の発生と近代社会②現代社会における教師と児童生徒間の不適合③現代における社会的環境の変化と子供の発達をめぐる問題④市場化と情報化のなかの文化と教育⑤社会性不全症候群の問題と教師の悩み⑥社会性と学力低下の問題。

(2)人間の発達と集団（6～7月）＝①文化的共同存在としての人間と社会化の重要性②集団の教育力と人間形成③家族の性質と教育機能④家族構成の変化と家庭教育の危機。

(3)教育の社会的条件（9～11月）＝①社会システムとしての教育の構造と機能②政治のインパクトと教育③現代国家におけるナショナリズムと教育④教育の条件としての経済⑤経済成長と教育－戦後日本の事例を中心に⑥地域社会と教育⑦人口構造と教育⑧現代社会のイデオロギーと教育。

(4)社会としての学校（12～1月）＝①学校化された社会②社会としての学校の機能と構造③学校と人間のライフサイクル④競争社会としての学校－学校選択⑤学校改革の動向。

成績評価の方法

定期試験の成績による。

教科書・ 参考書等

教材についてはプリント配布、参考書は授業のさいに紹介。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-----------------|----------|-----|
| 教 育 史 | やまもととしこ 山本敏子 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日の私たちに自明な〈教育〉というものは、西洋近代の産物である。日本において、〈教育〉なるものの観念や関係、制度は、かつての人間形成のあり方の何を解体しつつ、いつどのように創出されてきたものなのか。そこには、いかなる矛盾や困難が内在していたのか。こうした問題を、人間形成の歴史という長期の時間の流れの中で考察し、近現代日本の教育および教育学を相対化する視座や方法を培ってきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

日本の近世から近代への教育史実を中心に、取り上げたい主なトピックスは以下の通りである。前期は講義中心に授業を進め、後期はゼミ形式で文献を読む予定。

- ①教育基礎論としての教育史の方法と課題
- ②〈教育〉のない社会の子供と大人
- ③日本の民俗社会における人間形成の諸相
- ④江戸時代にみる新しい〈教育〉意識誕生
- ⑤学校の発生と近代公教育制度の成立
- ⑥クラス、一斉教授法の発明
- ⑦専門職としての教師の登場
- ⑧子供期・青年期の創出
- ⑨教師中心主義と子供中心主義との相克
- ⑩家族と学校との関係 など。

履修上の留意点

歴史的アプローチを主とする教育基礎論の授業であるが、たえず現代の子供・若者の置かれている社会状況や教育問題に関心をもって授業にのぞんでほしい。

成績評価の方法

授業内の小レポート・発表、期末レポート。

教科書

特に用いない。随時、参考文献を紹介し、基本的史料はプリントして配布する予定。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------|----------|-----|
| 教 育 調 査 | すずき のりお 鈴 木 規 夫 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二宮の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。

講義の内容・授業スケジュール

具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するために不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。

履修上の留意点

調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。

教科書

講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。

参考書等

特に指定しない。

その他

授業は討論中心の形態をとる。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|--------------------|------------------|-----|
| 芸 術 教 育 | か がわ よし しげ 香 川 良 成 | 11以前入学生/教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評を併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない場合以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）、富田博之著『日本演劇教育史』（国土社）、菅忠道著『日本の児童文学』I 総論

その他

現在行われている演劇教育（“劇あそび”その他）の模様や実際の舞台をビデオで観たり、実際観劇するというも行いたいと思っています。

この科目は、平成11年度までに「児童文化」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------------|---------------------|------------------|-----|
| 現代社会の諸問題と教育Ⅱ (後 期) | くまがいかずのり 熊 谷 一 乗 | 12以降入学生/教職2・3・4履 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

社会の政治的・経済的変化にともなう問題と教育の在り方との関係を現代史における具体的な事例をとおして検討し、今後の教育のめざすべき方向を展望することをねらいとして、「戦後日本社会の変容と教育の展開」をテーマに授業を行う。教育社会学と教育政策学の研究をふまえてグローバル化と情報化が進展するなかでの社会の諸問題と教育の動向との関係を分析する。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義は、次の三つの領域に分けて行われる。

(1)終戦にともなう政治的・経済的変化と教育改革(9～10月)＝この領域で扱われる事項は、次のとおりである。①対日軍事占領と教育の状況②政治・経済改革と教育改革(第一次米国教育使節団報告書の検討)③民主化・自由化と最初の学習指導要領。

(2)東西冷戦の激化と教育基本法体制の動揺(10～11月)＝この領域で扱われる事項は、次のとおりである。①東西冷戦の激化にともなうナショナリズムの強調と教育②経済成長への願い－財界の教育要求と戦後教育改革の見直し③55年体制の形成と教育をめぐる路線対立の激化。

(3)高度経済成長にともなう社会の諸問題と“第三の教育改革”(11～1月)＝この領域で扱われる事項は次のとおりである。①国家目標としての高度経済成長と教育における能力主義の強調②マンパワーの育成とカリキュラム改革③経済合理主義の浸透と教育における組織の合理的再編－多様化と管理強化④経済成長にともなう社会の諸問題と“第三の教育改革”の模索⑤社会的変化の激しさと生涯教育－学習の推進。

履修上の留意点

教育に強い関心をもっていること。

成績評価の方法

平素の出席状況と定期試験の成績による。

教科書・ 参考書等

教材についてはプリント配布、参考書は授業のさいに紹介。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「現代社会の諸問題と教育」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|----------------------|----------|-----|
| 青少年問題研究 | さぬき まさこ 讚 岐 真 佐 子 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不適応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。

講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中での青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、主にテキスト記載の事例を中心に、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるだろうが、何らかの形で受講生のフィード・バックを得る方法を考えていきたい。

成績評価の方法

出席状況と定期試験

教 科 書

氏原寛・東山紘久編『発達とカウンセリング』
別冊『発達』第18巻（ミネルヴァ書房）2,500円

参 考 書 等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』
『日本人の深層分析』第9巻と10巻（有斐閣）
- ・季刊『仏教——特集癒し』No.31（法藏館）2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』（楡出版）『子どもの宇宙』（岩波新書386）
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』（岩波書店）1,200円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|---------------------|----------|----|
| 宗教教育 | こやま かず のり 小山 一 乗 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考(Legal mind)、そこに看取されるいわゆる宗教的思考(religious mind)、教育的思考(educational mind)の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができないのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しきは大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえる。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米国占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法規立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先入観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と措定したい。その上で、tell(告げる)とteach(教える)との差異、(religious education)と(education about religion)との差異につき、教授概念を検討する。

講義の内容・授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何〜何事、what〜whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケアー等を粗上に載せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共住社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもより、混血児も学級には数人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。無知解消の教育が要る。

教職・資格講座

履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

レポート、出席点による。特に出席を尊重する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』(宣協社) 2,940円

参考書等

指定図書→『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版) 1985年
土持ゲーリー法一著『米国教育使節団の研究』(玉川大学出版部) 9,785円
井上順孝監修『宗教教育資料集』(すずき出版) 3,900円
杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』(日本評論社)
小中高各『学習指導要領』各230円 250円 370円
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』(大法輪閣) 1,600円
参考図書→KYOUKO INOUE. 1991. *MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION* (THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS)

その他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------------|------------------|----------|----|
| 生涯学習概論Ⅰ (前期) | とよ たちよこ 豊田千代子 | 教職2・3・4選 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.338) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------------|------------------|----------|----|
| 生涯学習概論Ⅱ (後期) | とよ たちよこ 豊田千代子 | 教職2・3・4選 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.339) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------|----------|----|
| 視聴覚教育 | いいもりあきひこ 飯森彬彦 | 教職2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.353) 参照

教職・資格講座

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|------------------|------------------|----|
| 社会教育施設 | むらやまてるよし 村山輝吉 | 11以前入学生/教職2・3・4選 | 4 |

(P.341) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------------------|----------------|----------|----|
| 学校経営と学校図書館 (前期) | やまだせつこ 山田節子 | 教職2・3・4選 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.331) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------|----------------------|----------|-----|
| 読書と豊かな人間性 (後 期) | やま だ せつ こ 山 田 節 子 | 教職2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.331) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------------------|-----------------------|----------|-----|
| 学校図書館メディアの構成 (前 期) | みなもと しょう きゅう 源 昌 久 | 教職2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.332) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------|-----------------------|----------|-----|
| 情報メディアの活用 (後 期) | みなもと しょう きゅう 源 昌 久 | 教職2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.332) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------|----------------------|----------|-----|
| 学習指導と学校図書館 (前 期) | やま だ せつ こ 山 田 節 子 | 教職2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.333) 参照

(3) 教科に関する科目

【社会・地理歴史・公民】

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 東洋思想史 | すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

始めに、二つのことを断っておく。第一に「東洋思想」と題しているが、私は漢文による思想言説に限って問題とする。特に、中国と日本に限られるであろう。第二に、「思想史」と題しているが、通史や他の歴史現象との関連付けは主要な関心ではない。長い時間をかけて蓄積された、漢文化の思想言説、その思想言説に光を当て、その一斑なりとも理解しよう——これが本講義の目指すところである。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、『経史博論』を手掛りにして上記の試みを行う。但し、『経史博論』そのものの理解を目指すのではない。この書は、中国思想（儒教的教養）の概説書である。近代の眼差しが入る以前の儒教の基礎的教養を、この書を通じて確かめることができる。授業では、この書を購読する。購読を通じて、その背景にある中国の思想言説の伝統の一端に觸れてゆきたいと考えている。

履修上の留意点

最低書下し文が理解できる程度の漢文の基礎的教養が必要である。

成績評価の方法

成績判定は下記の材料を勘案して行う。

1. 試験又はレポート（年1回以上）
2. 平素の受講態度（年数回内容理解の調査を行う。なお、この調査は予告せずに行う。）
3. 受講の積極性（質問、任意のレポートなどによって判断する。質問は書面で必ず質問者名を明記して提出して欲しい。）

教科書

授業は講師が用意したプリントを用いる。

参考書等

適宜授業中に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------------------|------|-----|
| 美術史概説 | や の よう こ 矢 野 陽 子 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

この授業では、西洋美術史を材料にして、作品記述、作品の意味解釈や様式分析など美術史の技法を学び、美術史学の研究対象や方法論について考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

前期は美術史学の歴史をたどることで、美術史のさまざまな傾向を紹介する。後期は西洋美術の流れに沿って、毎回具体的な事例を取り上げて、個々の問題——美術と政治、芸術家の再発見や再評価、複数の芸術家による共作の問題、美術における寓意表現とその解釈など——を検討する。

履修上の留意点

履修希望者は各自、西洋美術史の概説書（高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社など）を読んで授業に臨むようにしてほしい。

成績評価の方法

前期のレポートと後期の定期試験、出席等を合わせて評価する予定。

参考書等

参考図書：マルシア・ポイントン著 木下哲夫訳『はじめての美術史』（スカイドア）1900円

その他

授業ではスライドを使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|------|----|
| 民間信仰論 | 谷口 貢 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定。

教科書

使用しない。

参考書等

桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、宮田登『日本人と宗教』（岩波書店）

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|--------|------|----|
| 人文地理学概説 | 小池 とみ子 | 教職教科 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

地理学における人文地理学分野をとり扱う。地理学的視点から、世界の諸地域の問題を検討することによって、現代世界の現状と課題を明らかにすることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

最初に、地理学発達史・人文地理学と自然地理学・環境論をとりあげる。次に前期は主として民族・国家の観点から、後期は経済発展と地域の変貌の観点から、世界の諸地域が現在どのような問題をかかえているか、具体的に各地域をとりあげながら検討する。

履修上の留意点

地図帳を持参していただきたい。

成績評価の方法

試験を行う。また平常時のレポートも参考にする。

教科書

特に指定しない。講義時に資料プリントを配布する。

参考書等

高校用地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など。高校時代に使用したものがあればそれでもよい。）
その他の参考書は講義の中で順次紹介する。

その他

授業は講義形式で行う。ときどきビデオ、スライドなどを取り入れる予定である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------------|------|-----|
| 自然地理学概説 | たかぎ まさひろ 高木正博 | 教職教科 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

自然地理学の分野のうち、河川や地下水などにかかわる水の地理学を講ずる。
近年、河川環境や地下水汚染などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の特性について、地域事例をもとに説明する。

講義の内容・授業スケジュール

次の諸点について講ずる。
1) 水循環・水収支など水文学の基礎について
2) 河川や地下水の水量・水質などの特性と地域とのかかわりについて
3) 河川地形と水災害について
4) 身近な水源としての地下水・湧水の保全などについて
地域事例を紹介する際、地形図や空中写真などを利用して地域調査の基礎についても概説する。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休みに現地調査を伴う課題を提示する。地域を把握するために、地図帳や地形図を利用してほしい。

成績評価の方法

学年末定期試験と夏休みの課題の他、授業中に随時実施する課題など平常点も加味して行う。

教科書

授業時間にプリントを配布する。

参考書等

地学団体研究会編『地球の水圏－海洋と陸水』（東海大学出版会）
その他随時紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|--------------------|------|-----|
| 自然地理学概説 | はやふね げん ほう 早船元峰 | 教職教科 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

人間生活の舞台である第四紀の大地の生成過程などを論じ、さらに自然に対し人間はいかにあるべきかを災害などの環境問題を通して共に考えていく。また、いくつかの地域をとりあげ、人間と自然とのかかわりあい（人間に対する自然の影響・自然への人間の働きかけ）を、歴史的観点をもとに、主に環境地誌学的立場から論じる。

講義の内容・授業スケジュール

- ・関東平野の地形発達史
- ・北海道本部の気候地形
- ・北海道美瑛町・富良野市における傾斜地の土地利用の変化と環境保全
- ・大気温・湖水温の垂直分布の季節的変化と人間とのかかわり
- ・その他

履修上の留意点

国土地理院の地形図を数枚用意してもらい、それらをもとに種々の作業（土地利用図・帯状平行投影地形断面図・切峰面図など）をして理解をより一層深めてもらう。直定規・方眼紙・トレス紙・硬質色鉛筆・黒色水性ペンを各人用意すること。

成績評価の方法

課題（地形図より主題図作成）・小テスト出席状況などによる平常点。

参考書等

水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）
脇田武光・石原照敏編『観光開発と地域振興』（古今書院）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|---------|-----|
| 地 誌 学 概 説 | かわもと とよかず 川 元 豊 和 | 教 職 教 科 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

南及び東南アジアの地誌について講義する。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。

講義の内容・
授業スケジュール

前半では、主にバングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。また、農村から大量の人々を吸収し続けている都市についても考察したい。後半では、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴やマレー村落とその変貌、社会経済構造の変化などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。また、近年の高度経済成長にともなう工業化・都市化の問題についても考えてゆきたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

白田雅之・佐藤宏・谷口晋吉編『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂）1993 2,800円
水島司編『アジア読本マレーシア』（河出書房新社）1993 2,000円

そ の 他

年に2～3回はスライドを使用した授業を予定している。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-------|------|-----|
| 地誌学概説 | 久保田 武 | 教職教科 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

一般教養として広く世界の諸地域の特色と課題について基礎的知識の修得と理解
 高校地歴科、中学校社会科の授業で世界の諸地域を扱う際に必要な基礎知識の修得と文献紹介
 暗記科目にせず世界の諸地域に対し生徒の興味関心を増す教授内容構成と教授法の考察

講義の内容・
授業スケジュール

- ◆講義の内容
世界の諸地域の地域学習（地理・歴史・政治・経済・社会・文化・課題等）。大地域は世界中を一通り学習。中小地域と国は範例学習的に選択
教授者による毎回の授業、情報源になる資料紹介、その他
- ◆授業スケジュール
前期は東アジアに始まり
後期はオセアニアで終る。日本の地域を1回取り上げる。

履修上の留意点

毎回授業の終わりに授業内容に関連して、簡潔なまとめ、コメント、実習内容等の提出を求め
 出欠調査に代える。提出物は添削（質問、意見には回答）のうえ次回に返却する。

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲（出席状況他）等を総合して評価。
 出席状況は単位認定と成績評価の際特に重視する。

教科書

使用しない。

参考書等

授業の時に紹介する。但し、地理教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料等は、この際揃えた方がよい。とりあえず地図帳と統計資料、歴史年表は初回から持参した方がよい。

その他

毎授業時間の前半は講義、後半は質疑、実習、課題作成等を原則とする。
 OHP、スライド、ビデオ、写真など視聴覚機材を講義内容理解と補足のため頻繁に使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------------------------------|------|-----|
| 地誌学概説 | ふじ 藤 しま 島 のり 範 たか 孝 | 教職教科 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

アジアには30億の人が居住し、古代文明を生み出したが、その後欧米至上主義によって旧態依然といわれる。更に民族独立と社会主義崩壊、人口爆発と飢餓、核汚染と地球環境の破壊など多くの問題をかかえてきた。この実情をアジアに見る。特に日本はアジアの一員であることを忘れてきた経緯を反省し、各分野から分析してみたいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

アジアの地図を描き、最近の変貌を加え、新しいアジア観の把握に努める。

履修上の留意点

各種の地図を利用するので、描写及び着色することがある。作図できるようにしておく。国境及首都等は構造として把握する。

成績評価の方法

最近のアジア各地の変貌を報告発表を要求する。

教科書

大藪友和『アジアを読む地図』（講談社）1,800円

参考書等

浅井信雄『民族世界地図』（新潮社）1,000円
 泉三郎『世界地図の新しい読み方』（日本実業出版社）1,300円
 アンドリュウ・ボイド『世界紛争地図』（創元社）1,600円

その他

講義、作図。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|------|-----|
| 日本仏教史 | えん どう ひろ あき 遠 藤 廣 昭 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

中世の仏教諸宗派の展開を、特に関東にスポットをあてて概観し、その過程を明らかにしていきたい。その中でも、地域社会とのかかわりを中心にしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は古代仏教も概観するが、講義の中心は中世の関東における仏教諸宗派の展開にしばって見たい。
 中でも真言宗と曹洞宗については詳述する。なぜならば、関東においては、古代仏教諸宗派中真言宗が最も多く展開を見、いわゆる鎌倉新仏教の中では曹洞宗が最も展開をとげているから、両宗は地域社会とのかかわりも深いと考えられるからである。このうち真言宗の展開の場合は、鎌倉・室町時代を通して、京都や鎌倉との関係は無視できない。そのような視点からも講義を進めて見たい。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験の結果と出席を基本とするが、出席は特に重視する。

教科書・参考書等

教科書・参考書は特になし。必要な資料は、授業時に配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------|------------------------------------|---------|-----|
| 日 本 文 化 史 II | ひろ 瀬 良 弘 ひろ さ りょう こう 廣 瀬 良 弘 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを、明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに⑧～⑬の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------------------------|---------|-----|
| 歴 史 哲 学 | あ 生 建 あ そう けん 麻 生 建 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は、純粋な講義の形をとるので、きちんとノートをとり、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は、教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末試験

教 科 書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 日本史概説 | 黒田基樹 <small>くろだもとき</small> | 教職教科 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

歴史学という学問は、過去の社会を正確に認識するとともに、現代社会をどのように把握するか、ということを追究するものである。そのため、過去の日本社会を題材としつつも、常に現代の日本社会との対話を意識し、歴史を「考える」という観点を重視していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

日本史を通時的に概観するのではなく、主として平安時代末期から江戸時代初期を対象として、個々のテーマを設定し、検討する。

成績評価の方法

学年末に試験をおこない、出席数と試験の結果を総合して評価する。

教科書

特になし。

参考書等

授業のなかで随時紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------------|------|-----|
| 日本史概説 | 小松寿治 <small>こまつとしはる</small> | 教職教科 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

社会科教員として最低限の日本史に関する知識をつけてもらえればと思います。したがって高校時代に日本史の経験がなくても問題はありません。

講義の内容・授業スケジュール

講義は日本史全般を話すつもりですが、武士の時代が中心になります。板書を多くしますのでノートをとることを勧めます。

成績評価の方法

成績の評価は試験で行いますが、出席を重視しますので、より多く出席することを望みます。

教科書

教科書等は設定しませんが、参考図書については、必要に応じて話しますが、強制するものではありません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------------------|---------|-----|
| 世 界 史 概 説 | 井 村 行 子 <small>いむら ゆきこ</small> | 教 職 教 科 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

西洋史を中心に世界史を概説する。できるだけ情報量を制限して、考え方の筋道がつかみやすい授業を心がけたい。

講義の内容・
授業スケジュール

| | | | |
|------|---------------|------|----------------|
| 第1講 | 世界史とは何か | 第13講 | 南北戦争と農奴解放 |
| 第2講 | 古代オリエント | 第14講 | イタリアとドイツの統一 |
| 第3講 | 古代ヨーロッパ | 第15講 | 19世紀後半のヨーロッパ |
| 第4講 | 中世ヨーロッパ | 第16講 | 帝国主義の世界分割 |
| 第5講 | 16世紀のヨーロッパ | 第17講 | 20世紀初頭のヨーロッパ |
| 第6講 | 17世紀のヨーロッパ | 第18講 | 第1次世界大戦とロシア革命 |
| 第7講 | 18世紀のヨーロッパ | 第19講 | 1920年代のヨーロッパ |
| 第8講 | 産業革命とアメリカ独立革命 | 第20講 | 戦間期のアメリカとソ連 |
| 第9講 | フランス革命 | 第22講 | 1930年代のヨーロッパ |
| 第10講 | ナポレオン独裁 | 第23講 | 第2次世界大戦 |
| 第11講 | ウィーン体制 | 第24講 | 第2次世界大戦後のヨーロッパ |
| 第12講 | 自由主義の発展 | | |

成績評価の方法

前期と後期の筆記試験の成績による。

教 科 書

未定

参 考 書 等

開講時に世界史全般に関する文献目録を配布する。個々のテーマについてはその都度、必要性に応じて適宜紹介する。

そ の 他

歴史映画のビデオ等によって歴史的なイメージの喚起に努めたいが、扱わなければならない事項は多く、時間は限られているので、現実にはなかなかむずかしい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------------------------|---------|-----|
| 世 界 史 概 説 | わた ^{なべ} 辺 ^{あつし} 惇 | 教 職 教 科 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

世界史概説は担当者の関係により、東洋史と西洋史の二つの部分に分けて行われます。受講者はこのいずれか1つをとればよい。

上記のうち、私は東洋史の部分を担当します。東洋史はアジア全体を対象とするもので、その領域は非常に広く、かつ多面的です。この授業は教職科目であり、また時間の関係から、以下に記すような順序で、広く浅く行うこととなります。換言すれば“アジア歴史散歩”とでもいえましょう。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 世界史教育の歩み

学校教育における世界史という科目は戦後の教育の中で新しく成立したもので、はじめは東洋史と西洋史を束ねたようなものであったが、やがてヨーロッパ中心主義、大国（中国）中心主義が批判され、よりグローバルな世界史が求められるようになった。以上の経緯を文部省の世界史指導要領の変遷等を折り込んで説明したい。

(2) アジアの歴史世界は多面的でモザイクである。それゆえ、以下のような5つの世界に分けて、それぞれの世界の歴史の舞台となった自然環境、風土、そして歴史展開の特色などについて概観する。

- a. 東アジア世界；中国を中心とし、その周辺を含む地域。農耕生活。
- b. 中央（内陸）アジア；海への出口をもたない砂漠と草原の地域。遊牧とオアシス農耕の生活。
- c. 西アジア世界；オリエント及び地中海の一部を含む乾燥風土の地域。オアシス農耕と遊牧生活。
- d. 南アジア世界；インドを中心とした地域。農耕生活。
- e. 東南アジア世界；半島部と世界最大の多島海よりなる地域。海洋生活。

履修上の留意点

出席は必ずとります。

成績評価の方法

評価は定期試験、平常点に出席点を加味する。

そ の 他

またビデオを活用して、各地域の特色を視覚を通して把握することも行いたい。その際感想文を書いてもらいます。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------|------|-----|
| 社会学原論 | わた なべ もと き 渡 辺 源 樹 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会学的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 授業内容とそれに必要な準備
- 第1回 社会学とは何か
社会的事実／実証性 “予期せんがために見る”／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為
なぜ“action”からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程
人間の行為は“inter”して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準
1. 役割の取得 — 社会化 フロイドとパーソンズの“社会化の過程”を中心に
- 第5回 2. 役割の準拠 — 準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
- 第6回 3. 役割の葛藤 — マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為
1. 規範と同調 — 逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
- 第8回 2. ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論、マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団
- 第11回 1. 社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
- 第12回 2. 集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGIL 図式)
- 第13回 3. 集団の構造と機能 地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第14回 4. 集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM 理論とリーダーシップ
- 第15回 5. 集団の凝集性・モラル 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラル
- 第16回 5. 集団の凝集性・モラル 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラル
- 第15回 集団・文化・パーソナルティ
- 第16回 組織論と官僚性
1. 組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第17回 2. 官僚制組織の基本原理 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原理解 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3. 官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移”／ホーソン実験／グールドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識
1. 社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第20回 2. ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3. 社会的性格
i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- 第22回 ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第23回 4. 社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成
- 第25回 1. 経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
2. 政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化
3. 法と社会…法と法社会学／法の機能／規範
4. 教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の一貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験（有り）、レポート（有り）

教科書

開講時に提示。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|--------------------------|---------|-----|
| 宗 教 人 類 学 | さ さ き こう かん 佐 々 木 宏 幹 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

宗教は人類文化の最古層に属すると考えられている。宗教人類学は人間の営みとしての宗教文化を文化人類学、社会人類学、民俗学の方法と理論に拠って研究する学問である。
人間にとって、人類にとって宗教とはなにかという問題を、人類学や民俗学の研究成果を十分に利用しながら追究し、人間が生きているということの意味の考察につなげていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

以下のような内容を企図している。1. 文化と人間、2. 社会と世界観、3. 宗教の原形形態、4. 人間と動物、5. 民族宗教、6. 世界宗教、7. アニミズム・多神教・一神教の関係、8. 仏教・キリスト教・イスラム教、9. 民族問題と宗教、10. 環境問題と宗教、11. 習合宗教、12. アジア宗教の特色、13. 日本宗教の特色、14. 新宗教とは、15. 「ほとけさま」と日本人。

講義には必要に応じて資料を配布し、またスライドやビデオを使用し、理解の助けにしたい。

履修上の留意点

ときどき出席をとり、評価の参考にする。
夏休み中に「故郷の宗教行事」（仮題）のようなレポートを書いてもらうことを考えている。

成績評価の方法

講義内容にそったリポート作製。400字詰原稿用紙5枚～8枚程度（参考文献名を明記すること）。

教科書

佐々木宏幹著『聖と呪力の人類学』（講談社）840円

参考書等

佐々木宏幹著『宗教人類学』（講談社）980円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|----------------------------|---------|-----|
| 経 済 原 論 | あさ だ どう いち ろう 浅 田 統 一 郎 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

本講義は、ミクロ経済学の基礎をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』の一層進んだ内容を理解するための橋渡しをすることを目的にしています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

講義の内容・
授業スケジュール

近代経済学の理論体系は、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。ミクロ経済学は、19世紀のクールノー、ジェボンズ、マーシャル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。ミクロ経済学(およびマクロ経済学)の基礎をマスターすることは、公務員試験や公認会計士試験の合格を目指す学生にとって必要不可欠ですが、そればかりでなく、財政学、金融論、国際経済学のような応用分野を学ぶために有用な予備知識を得るためにもミクロ経済学の学習は役立ちます。

本講義では、ミクロ経済学の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。(駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題をより専門的に扱っています。)

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 市場均衡の理論
4. 不完全競争の理論
5. 公共政策のミクロ分析
6. 国際経済学のミクロ分析

なお、教科書は、浅野、荒木・浅田『エコノミックス』改訂版(成蹊堂)を使用しますが、もっと詳しくミクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の修了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

成績評価の方法

成績は年2回(前期・後期)行う筆記試験によって評価します。再試験は、実施します。

教 科 書

浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎 著 『エコノミックス』改訂版(成蹊堂)

参 考 書 等

伊藤元重 著 『ミクロ経済学』(日本評論社)(初級向き)
武隈慎一 著 『ミクロ経済学』改訂版(新世社)(中級向き)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|--------------|------|----|
| 経済原論 | あべひろし 阿部弘 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

「経済理論」という科目は経済学の基本的内容をなすものである。この講義は経済学部で設置している「経済理論」のIAであり、主としてマルクスの『資本論』を主体として講義・演習をおこなう。一般に知られているように、『資本論』はその副題を「経済学批判」として、階級社会における体制的な経済学の批判を展開している。この講義では現在の「経済」が抱えている問題は何か、その基本的な枠組みについて、『資本論』が19世紀半ば（1867年）に批判をしたその内容と現在の問題とを比較しながら「経済学」はどうあるべきかを受講生の皆さんと共に考えていこうと思う。

講義の内容・授業スケジュール

- I 「富」とは何か
 - 1 「富」とは何か
 - (1) 「富」は人間にとって外部に存在する
 - (2) 「富」の人間からの乖離
 - (3) 「富」に支配された人間
 - 2 「経済学の方法」
 - (1) 「国富」
 - (2) 私的所有
 - (3) 価値
 - 3 人間社会と交換価値
 - (1) 商品
 - (2) 貨幣
 - (3) 商品カテゴリーと人間社会
- II 資本
 - 1 資本の生産
 - (1) 資本と商品
 - (2) 資本の本質
 - (3) 階級の生産
 - 2 資本の運動法則
 - (1) 資本の運動範式
 - (2) 資本の生産と再生産
 - (3) 階級社会の拡大再生産
 - 3 資本の蓄積と階級の生産
 - (1) 資本の蓄積
 - (2) 資本関係と人間労働
 - (3) 資本蓄積の本質
- III 資本主義生産様式と人間社会…まとめ

成績評価の方法

- 1 レポートによる評価
 - (1) 年間4回のレポート作成を通じて「成績評価」を行います。
 - (2) レポートは、第1回目：7月
第2回目：10月
第3回目：11～12月
第4回目：1月

このばあい、第1回目は講師が受講生全体に共通のテーマを提起します。そして2回目以降は受講生の皆さん各自が作成したレポートからテーマをそれぞれ設定します。

- 2 その他：「定期試験」、それに付随する「追試」、そして「再試」は行いません。

教科書・参考書等

講義の中で指定します。

その他

講師との連絡方法
受講生と講師が連絡できるように次に住所等を掲載しておきます。

阿部弘
〒179-0072 練馬区光が丘6-1-4-204
TEL.03-3976-7984
研究室：第2研究館5 FNo.2538
☎03-3418-9360

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------|---------|-----|
| 経 済 原 論 | あさの かつみ 浅野 克巳 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

現代経済学は「マクロ理論」と「ミクロ理論」からなる。「マクロ」とは「大きい」という意味をもち、「ミクロ」は「小さい」という意味をもつ。このコースでは経済全体の動きを分析する「マクロ理論」の基礎を勉強する。たとえば、景気の良し悪しは何によって決まるのか？物価の変化はどのような要因によるものか？現在、我が国の失業率は上昇傾向にあるといわれるが、その原因は何か？さらに政府の経済活動についてどのように考えるべきか。また輸出・輸入、経常収支といった外国との経済関係をどのように捉えたらよいか。マクロ理論はこれらの疑問に答えようとするもので、きわめて日常的で身近な分野であるといえる。しっかり勉強すれば、面白くてためになる「一粒で二度おいしい」基礎コースの1つだ。

なお、上にも述べたように「ミクロ理論」とはペアであるから、必ず両方の授業を履修することが現代経済学を体系的に理解するためには不可欠である。

講義の内容・授業スケジュール

年間のスケジュールは以下のとおりであるが、理解しにくい部分をできるだけクローズアップし時間をかけて説明するが、テキストなどで「読めばわかる」箇所は簡単に済ませ時間の節約を心がけたい。

1. マクロ経済の仕組みと考え方
2. 国民経済計算と国民所得の諸概念
3. 国内総生産とは何か、それはどのようにして決まるのか
4. 独立支出の変化と国内総生産の関係
5. 消費と投資は何によって決まるのだろうか
6. 利子率とは何か
7. IS-LM モデルと財政金融政策の考え方
8. インフレとデフレ
9. 輸出と輸入
10. 経済成長と景気循環の仕組み

履修上の留意点

現代経済学を勉強するうえで不可欠なことは、現実の経済問題にできるかぎり関心をもつことだ。これらはさまざまなメディアをとおしあふれるほど提供されている。特に『日本経済新聞』には毎日必ず目をとってもらいたい。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけ持参してもらいたい。また必要な記事・データはスクラップ・ブックなどに整理しておく、授業だけでなく将来の就職試験などにも大いに役立つだろう。

また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的なコースで用いる数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要があれば授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習にかぎる。

ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒沢大学情報センター」に常備されている。それらを利用しシミュレーションしてみることも、おもしろく経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ、授業には必ず出席レポートをしっかりと取り、予習復習を実行すれば「100点取るのも夢じゃない！」

成績評価の方法

定期試験（再試験も実施する）による。問題は2種類出す。1つは論述形式で、もう1つは客観式（グラフを書いたり、簡単な計算問題など）を数題出題する予定。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1995年

参考書等

青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1998年、これは問題集だけど、できるかぎり練習問題を解くことも、理解を確実にする第一歩。自分で復習を兼ねて解いてみることをすすめる。この方法は公務員試験等の国家試験の受験対策としても大変有効だ。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------------|------|----|
| 経済原論 | まついりゅうへい 松井柳平 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

世の中にはさまざまな経済的社会的問題が存在する（いままで経済的社会的な問題意識をもったことのない極楽な人には、新聞を毎日読む習慣を身につけることを勧める）。さまざまな経済的社会的問題に対して、どのように考え答えていったらよいのだろうか。

現実の経済はあまりに複雑すぎて、そのままでは物事の本質を見失いかねない。そこで複雑な現実の経済をある程度単純化し、実際の経済の模型（モデル）を構築し、それを対象に分析をおこなうことになる。もちろん、プラモデルのような物理的な模型を作るのではないが、現実を単純化、抽象化することによって、本質を取り出そうというのである。経済モデルは数学を用いて記述される場合が多いが、経済学には、十分整理して議論しないと、とんだ理由づけをしかねない場合や、論点が未整理のため自ら混乱を招く例は少なくなく、このようなとき、数学的思考が役に立つのである。実際、数学における思考訓練は、無限の可能性の中から必要な論理をえぐり出すことにある。いわゆる抽象力である。それは単純化による論理の明確化と言ってもよいし、あるいは見通しをつける能力と言ってもよい。理論にとって、数学的思考による自己点検は怠ることはできない。だが、本講義では微分等の数学は一切使わない。小学校レベルの四則演算と中学校レベルの1次方程式程度の理解のみを前提する。

こうして現実を単純化、抽象化した経済モデルを用いて得られた結果は、分析の前提となっているさまざまな仮定に大きく依存している。得られた結論は、あくまでそこでの仮定、つまり採用したモデルに依存しており、仮定が変われば、結論も自ずと変わりうる。そのため、経済学（少なくともミクロ経済学とマクロ経済学）においては、導かれた結論だけを暗記したりしてもまったく意味はない。議論の前提となるさまざまな仮定や論理的な推論プロセスといっしょになってはじめて、結論が意味をもつのである。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、ミクロ経済学の基礎理論を教場での実験を通じて体験的に学習する。

ミクロとは微視的ということであり、ミクロ経済学は諸主体の行動の動機づけにまでさかのぼって、経済全体を理解しようとする。社会に存在する資源は稀少であり、すべての人の欲望を無制限に満たすことはできない。当然、稀少な資源の利用を、だれに、どれだけ、許すべきか、といった資源配分の問題が発生する。資源配分のメカニズムとしてはさまざまあるが、私たちが生活している市場経済における価格メカニズムが挙げられる。価格メカニズムは、その資源に対してもっとも高い価格を支払える人に優先的にその資源の利用を許すメカニズムである。本講義ではこの価格メカニズムという資源配分の機構に焦点を当てることになる。

こうした価格メカニズムのしくみを、教場での市場取引のシミュレーションを通じて学んでいくことになる。

履修上の留意点

授業に出席する人には、授業前の予習が必須要件として求められる。授業に出席していれば偉いというものではない。授業後、熟考してもなお疑問点があれば積極的に質問してほしい。

成績評価の方法

期末試験や、授業中の実験への参加などで評価する。

教科書

開講時に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|-----------------|------|----|
| 経済原論 | はし橋 もと本 やす泰 あき明 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

経済学的ものの見方、考え方を修得することを目標とする。より具体的には、前期では、一国の経済規模や国民の所得の大きさ、物価、労働環境などの決まり方を理論的に把握し、後期では、消費者と生産者の経済的行動が市場を形成し、その結果、ものの価格の決定や経済の効率性がどのように作用されるのかを理解することを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

前期：経済循環 国民総生産 国民所得 消費・貯蓄 国民所得の決定要因の分析 乗数理論 物価 為替変動と国民所得
 後期：需要と供給 消費者の経済行動 無差別曲線 所得の制約 需要量の決定 生産者の経済行動 生産曲線 費用曲線 限界費用曲線 利潤最大化 供給量の決定 市場による価格決定 余剰概念 市場の効率性

履修上の留意点

さまざまな経済政策の背後にある理論的メカニズムを理解することが目標であるので、かなりの出席率を確保し、しかも授業中に脳細胞を働かせて思考を繰り返し、論理展開を十分理解することが大切である。しかしいったん考え方をマスターしてしまえば、かなりの応用が利く財産になり、試験のための丸暗記は不要になるであろう。

成績評価の方法

前期と後期の二回の筆記テストおよび授業中に課せられる小レポートによる。なお再試験は実施しない。

教科書

小野編著『現代経済学の基礎』（学文社）3,000円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------------|------|----|
| 民法 I | おおみや たかし 大宮 隆 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んでくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教科書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）1,854円

参考書等

講義の中で随時紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------|------|----|
| 政治学原論 | おお つか かつら 大 塚 桂 | 教職教科 | 4 |

※経 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第2研究館8階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

講義の目的

第一の目的は、将来教壇にたったときに役立つ基本的な知識の習得をめざすことです。

第二の目的は、社会科学の思考方法を会得することです。

第三の目的は、自己の意見を論理的にはっきりと述べられるようにすることです。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のすすめ方

政治学の基本問題を、一回一テーマ主義でとりあげます。ワン・ウェイの講義をするのではなく、学生諸君との対話・討論形式をとりいれて授業をすすめていきます（場合によっては、学生諸君の報告や模擬授業も）。質問には、はずかしがらずに積極的にこたえて授業を盛り上げてください。

授業では、政治学のみならず隣接科目にまで話がおよんでいきます。履修者はあらかじめ高校時代の「政治経済」の教科書や参考書などに目をおしておくといえましょう。

講義内容

講義でとりあげる問題は、以下のとおりです。

- | | |
|-----------------|----------|
| A 政治の思想 | C 日本の政治 |
| ～古代ギリシャ・ローマ政治思想 | ～明治国家の形成 |
| 中世政治思想 | 大正デモクラシー |
| 近代政治思想 | 軍部独裁 |
| 現代政治思想 | 戦後の政治 |
| B 政治の仕組み | D 国際政治 |
| ～議会 | ～国際連合 |
| 内閣 | N G O |
| 地方自治 | 国際関係 |
| 官僚制 | |
| 政党 | |
| 選挙 | |
| 世論 | |

履修上の留意点

将来教職を希望する人間が、教室に足を運ばないのはもってのほかです。単位の認定にあたっては、出席を特に重視します。正当な理由があって欠席する場合（実習・研修など）には、必ず届けを提出してください。

成績評価の方法

出席：50% 中間試験：20% 学年末試験：30%

以上の割合で評価します。

なお、追・再試験も実施します。

教科書

大塚桂編『政治学へのいざない』（成文堂）2,500円

参考書等

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------------------|------|-----|
| 日本宗教文化史 | いげ がみ よし まさ 池 上 良 正 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

日本の宗教文化を考えるうえで、巫覡、ミコなどとよばれてきた巫者信仰の系譜は重要な意味をもつ。本講義では、この巫者信仰に焦点を合わせ、宗教史と実態調査研究の両面から得られた成果をもとに、その多様な形態と文化史的な意義を明らかにしてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず、柳田國男にはじまる巫者研究の歴史を概観したうえで、主として東北地方や沖縄地方の巫者信仰の具体的事例を考察する。ここでは、東北地方のイタコ、カミサマ、沖縄地方のユタ、ムヌシリなど、様々な名称で呼ばれてきた「野の宗教者」の世界に光を当てる。前期は東北地方、後期は沖縄地方が中心となる。

成績評価の方法

年度末に筆記試験。

教科書

特に指定しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

その他

スライドを適宜使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|------|-----|
| 民衆宗教成立史 | つ しろ ひろ ふみ 津 城 寛 文 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

深層文化論と宗教学の接点にあって、民間信仰、民俗宗教、民衆宗教などの成立と基盤とを扱います。大伝統に対する小伝統、エリートに対する民衆、イデオロギーに対する非イデオロギー的な習慣習俗などに焦点を当てて、われわれの文化や社会や心の深層にある、民衆的な宗教性を浮き彫りにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

主要テーマは下記の4つであり、前期は深層文化論を軸に、後期は民衆宗教論を軸に、講義を進めます。

- 前期
- ① 深層文化論の整理
 - ② 深層文化と宗教研究
- 後期
- ③ 民俗主義的な深層文化
 - ④ 新宗教の発生と展開

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行います。

教科書

用いません。

参考書等

深層文化論に関しては、拙著『日本の深層文化序説——三つの深層と宗教』（玉川大学出版部）1995年を用います。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---------------|---------|-----|
| 宗 教 学 概 説 | あらい けん 洗 建 | 教 職 教 科 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

実証的研究としての宗教学の立場から、宗教を理解することがあらゆる人間の営み（諸文化、諸学問）を理解することといかに深くかかわっているかを明らかにする。
この教科は教職科目であるので、国家と宗教、憲法理念と宗教の問題を中心に考える。

講義の内容・授業スケジュール

宗教改革以降、信教の自由の確立に至るまでのキリスト教思想の変遷をたどって、その特質を理解し、日本における導入と変容、現代における諸問題を考える。

履修上の留意点

できるだけ出席し、事実を覚えることより、宗教学のものの見方を理解して貰いたい。したがって、原則として出席をとる。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教 科 書

特に指定しないが、水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）を持っていれば、参照すること。

参 考 書 等

随時、紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|---------|-----|
| 宗 教 学 概 説 | いけ がみ よし まさ 池 上 良 正 | 教 職 教 科 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「宗教」という言葉を聞くと、特定の教祖によって開かれ、経典や教団を備えた組織的宗教や、そこで説かれてきた高度な宗教思想などを思い浮かべる人が多いと思う。しかし宗教には、共同体の生活慣習や年中行事に組み込まれた習俗や、祈祷・供養・祭礼・禁忌・呪詛などとよばれる実践や行為としての側面もある。

本講義では、こうした広がりやを考慮したうえで、とくに実践的な行為としての宗教について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、儀礼、タブー、イニシエーション、アニミズムなどのトピックを取り上げ、実践的宗教の多様な側面に光を当てる。

後期は、「死をめぐる宗教的観念と実践」というテーマで、仏教やキリスト教をはじめとする諸宗教が、人間の死や死者を実際にどのように扱ってきたか、という問題を考えてみたい。

成績評価の方法

年度末に筆記試験。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|---------|-----|
| 宗 教 学 概 説 | つ 津 しろ 城 ひろ 寛 ふみ 文 | 教 職 教 科 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

世界宗教史と日本宗教史を軸にして、原始宗教・古代宗教から現代の宗教現象まで、宗教としての共通点と、それぞれに固有の特性が明らかになるような講義にしたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は世界宗教を軸に、後期は日本宗教史を軸に、講義を進めます。日本宗教史は概説ではなく、仏教関係の話題も重複のないように省き、興味深い話題に焦点をあてた各論にします。おおまかなスケジュールは次のとおりです。

前期

比較宗教学の前提、呪術と宗教、アニミズム・シャーマニズム、原始宗教・古代宗教、ヒンドゥー教と仏教、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教、世界の新宗教運動

後期

固有信仰、神と仏、宗教者の群像、近代化の中の宗教、宗教と国家、宗教と教育

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行ないます。

教 科 書

用いません。

参 考 書 等

その都度紹介します。

そ の 他

数回ビデオを用います。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|---------|-----|
| 哲 学 概 説 | 久 保 陽 一 | 教 職 教 科 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

ヘーゲルの主著『精神現象学』（1807年）の主要な箇所を解説しながら、哲学の諸問題を取り上げる。『精神現象学』は、個人的意識の形成の叙述であると同時に、人類の精神の歴史でもあり、また現代にも通ずる様々な思想内容の宝庫である。これを読解することを通して、「自己」や「世界」に関するものの考え方の基本を学んでほしい。

講義の内容・授業スケジュール

『精神現象学』の主要な箇所（例えば「感覚的確信」の弁証法、主人と奴隷の関係、「不幸な意識」、「快樂とさだめ」等約20箇所）を解説する。

履修上の留意点

よく出席し、ノートを取る。疑問点は遠慮なく質問すること。

成績評価の方法

出席やレポート等によって評価する。

教科書

いずれかの邦訳（ヘーゲル『精神現象学』）を手もとに置くのが望ましい。

参考書等

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』（有斐閣）
イボリット『ヘーゲル精神現象学の生成と構造』（岩波書店）
久保陽一『ヘーゲル論理学の基底』（創文社）

その他

時々、講義内容について簡単なレポートを書いてもらい、それについてコメントをつけて返すことにする。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|---------|-----|
| 哲 学 概 説 | 末 木 恭 彦 | 教 職 教 科 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

哲学とは何であろう。そして、それは人生に如何なる意味を持つのであろうか。—哲学を学ぶ以前にこのような問いがある。この問いにこそ、この講義を通じて探究を試みる。始めに述べた問いは、我々東アジアの人間にとっては極く自然である。何故なら、東アジアの学問の伝統の中には哲学なる学問は無かったからである。この地域では近代欧米諸国文化の強い圧力下に、新しい学問として哲学を成立させた。その時、唯翻訳するのではなく東アジアの伝統的学問を再構成して、哲学として成立させようと努力する一群の人々もいた。中国にあって、伝統をふまえて独自の哲学を試みた人々の仕事を紹介し、それを通じて冒頭の問いに我々なりの見解を持ちたい—そのような企図の下に、この講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、中国の近代哲学者として最も世界に名を知られた馮友蘭を取挙げる。始めに彼の哲学の背景を理解するために、伝記を紹介する。その後、彼独自の哲学新理学の主要著作の中から『新事論』『新世訓』の学説を紹介する。

成績評価の方法

次のものを材料にして成績をつける。

1. 試験あるいはレポート
2. 平常の受講態度（年数回抜き打ちの理解調査を行う）
3. 受講をこえる積極的な学習（任意のレポート、質問〈書面で提出して貰う〉などで判断する）

教科書

『馮友蘭自伝』、馮友蘭『新事論』『新世訓』（ともに和訳はないので、必要箇所を講師が訳し編集したものをプリントして配布する。中文版については授業中に解説する）

参考書等

馮友蘭『哲学回憶録』（吾妻重二訳、『みすず』275号～284号）／柿村峻・吾妻重二訳『中国哲学史』（富山房）／佐藤慎二編『近代中国の思索者たち』（大修館書店）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|------------------------------------|---------|-----|
| 倫 理 学 概 説 | かわ 谷 淳 <small>かわ たに あつし</small> | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

倫理学とは「人間の行為がかかわる限りでの善悪についての学」だと定義できよう。しかしながら、これはあくまで暫定的な定義にすぎず、その十全な意味は「人間」・「行為」・「よい」とは何かという点にかかっている。この問題を考えるにあたり、本講義は次のような二段構えの構成を採る。すなわち、一方では (a) 主に、古代ギリシア以来の西洋思想史における様々な倫理観を取り上げることでそうした倫理思想と現代との関係を考え、他方で (b) 現代倫理学の諸問題とそのアプローチの仕方を取り上げることで私たちに身近なことから「倫理的に考える」とはどういうことなのかを考えることにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では概ね次のような内容を取り扱う。
 (a) 西洋倫理思想史：徳倫理学（古代ギリシア）、義務論（カント）、功利主義（ベンサム、ミル）
 (b) 現代倫理学の諸問題：メタ倫理学、生命倫理、環境倫理など

成績評価の方法

中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

講義においてその都度紹介する。

【職業】

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-----------------------|------|-----|
| 産業概説 | まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一 | 教職教科 | 4 |

※経 B の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

授業は85（昭和60）年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・授業スケジュール

(総論) バブル経済と平成不況
(各論) 非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。

履修上の留意点

日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。再試験はしません。

教科書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』（日本経済新聞社）1,500円

参考書等

授業の際に提示します。

その他

授業での受講者は恐らく少数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|----------------------|------|-----|
| 職業指導 | やま だ ゆう じ 山 田 勇 治 | 教職教科 | 4 |

※経 B ・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容にするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、職業指導の基礎的概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点を考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明したいと考えています。

履修上の留意点

受講する学生は、積極的に問題意識をもって教育問題を考えるようにしてほしい。

成績評価の方法

授業中における課題などの提出や出席状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価します。

教科書

開講時に指示。

参考書等

有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』（福村出版）2,000円
寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』（中央法規出版）2,500円
仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編著『進路指導論』（福村出版）2,300円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-----------------------|------|-----|
| 商業実習 | まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一 | 教職教科 | 4 |

※経 B の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

貿易における商品取引の基礎的な実務を習得するに目標をおいて授業を進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 輸出実務の概要 | 10. 為替の予約 |
| 2. 取引関係の創設 | 11. 海上保険契約 |
| 3. 取引条件の取決め | 12. 輸出検査と包装 |
| 4. 売買条件の取決めと契約成立 | 13. 輸出通関 |
| 5. 輸出信用状の照合 | 14. 船積み |
| 6. 約定品の調達 | 15. 船積書類 |
| 7. 輸出保険 | 16. 輸出決済 |
| 8. 輸出承認と認証の取付け | 17. 貿易クレーム |
| 9. 運送契約の締結 | |

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。再試験はしません。

教科書

開講時に指示します。

参考書等

石田貞夫『貿易取引の実務』（教出版）
 渋谷源蔵『貿易実務』（同文館）
 藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房）

【商業】

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|----------------------|------|-----|
| 職業指導 | やま だ ゆう じ 山 田 勇 治 | 教職教科 | 4 |

※経 B ・二宮の12年度以降入学生も履修できます。

(P.326) 参照

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------|----------------------|-------------|-----|
| 学校経営と学校図書館 (前期) | やま だ せつ こ 山 田 節 子 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の理念、発達過程と課題・教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的な理解をめざす。また司書教諭の任務と担うべき役割を明確にし、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性にもふれる。さらに、学校図書館のメディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的な理解を図る。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の発展と課題
- 3 教育行政と学校図書館
- 4 学校図書館の経営
- 5 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修
- 6 学校図書館メディアの選択と管理、提供
- 7 学校図書館活動
- 8 図書館の相互協力とネットワーク

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参考書等

- 全国 SLA 図書館学編集委員会編『学校図書館学 1 学校図書館の原理と運営』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

講義・討論・ビデオ
この科目は、平成10年度までに「図書館学 I」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|----------------------|-------------|-----|
| 読書と豊かな人間性 (後期) | やま だ せつ こ 山 田 節 子 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代社会に生きる子どもの発達や、読みの多様化などの進展している実態に即した読書教育の理念を探る。さらに、子どもたちの読書生活の実情と読書資料の現状についての理解に基づき、子どもと本を結びつけ、読書の生活化を図る方法を探る。これらを通じて子どもたちの豊かな人間性の涵養に資するため、司書教諭の役割と自らの責務を中心に、活動の原理と方法、技能についても、具体的に体得してもらおう。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 読書の意義と目的
- 2 子ども読書実態と指導
- 3 読書資料の種類と活用
- 4 発達段階に応じた読書指導
- 5 子どもと本を結ぶための方法
- 6 読書指導推進活動と教員の責務
- 7 地域社会の関連施設等との連携

成績評価の方法

小論文とテストによる

参考書等

- 全国 SLA 編『学校図書館白書 2 学校図書館と子どもの読書の現状と課題』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

この科目の受講は下記の1、2を終了してからが望ましい。
1. 学校教育と学校図書館(前期)
2. 学習指導と学校図書館(前期)
この科目は、平成10年度までに「図書館学 I」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------------|-----------------------|-------------|-----|
| 学校図書館メディアの構成 (前 期) | みなもと しょう きゅう 源 昌 久 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

| | |
|--------------------|--|
| 講義のねらい | 本講義は、学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る。 |
| 講義の内容・ 授業スケジュール | 1) 学校図書館メディアの概念的フレーム・ワーク 2) 分類法(表)の解説・演習 3) 目録の解説・演習 4) 資料組織の機械化 5) 多様な学習環と学校図書館メディアの配置 |
| 履修上の留意点 | 予習・復習をしっかりと行ってほしい。 |
| 成績評価の方法 | 平常点および試験の成績を併せて評価する。 |
| 教 科 書 | 『日本十進分類法 改訂9版』(日本図書館協会)セット定価 6,000円 『日本目録規則 1987年版 改訂版』(日本図書館協会) 3,500円 |
| 参 考 書 等 | 講義中に指示する。 |
| そ の 他 | 必要に応じて、ビデオを活用する。 この科目は、平成10年度までに「図書館学Ⅱ」の単位を修得した者は、履修できません。 |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|-----------------------|-------------|-----|
| 情報メディアの活用 (後 期) | みなもと しょう きゅう 源 昌 久 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

| | |
|--------------------|--|
| 講義のねらい | 学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。 |
| 講義の内容・ 授業スケジュール | 1) 情報化社会と人間 2) 情報メディアの特性と選択 3) 視聴覚メディアの活用 4) 学校図書館におけるコンピュータの活用 5) 情報検索 |
| 履修上の留意点 | 予習・復習をしっかりと行ってほしい。 |
| 成績評価の方法 | 平常点および試験の成績を併せて評価する。 |
| 教 科 書 | 情報科学技術協会編『CD-ROM 版情報検索の演習』(日外アソシエーツ) 2,200円 |
| 参 考 書 等 | 講義中に指示する。 |
| そ の 他 | この科目は、平成10年度までに「図書館学Ⅱ」の単位を修得した者は、履修できません。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------|----------------------|-------------|-----|
| 学習指導と学校図書館 (前期) | やま だ せつ 子 山 田 節 子 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学習において学校図書館が果たすべき役割は大きい。学習図書館は、児童生徒が、「自分で調べて学ぶ」学習を中心に、教育活動のさまざまな場面で、メディアを積極的に利用するよう指導し、それを活用する能力の育成を図らなければならない。
この科目は、その原理と方法を学ぶと共に教師に対するサービス・支援のあり方に関し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 教育課程の展開と学校図書館
- 2 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- 3 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成
- 4 学習課程における学校図書館メディア活用の実際
- 5 学習指導における学校図書館の利用
- 6 学校図書館における情報サービス
- 7 教師への支援と働きかけ

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参 考 書 等

- 全国 SLA 編『これからの学校図書館と司書教諭の役割：改正学校図書館法マニュアル』
- 井澤純著『図書館学大系7 読書教育原論』（全国 SLA 刊行）

そ の 他

講義・討論・ビデオ・演習
この科目は、平成10年度までに「図書館学Ⅰ」の単位を修得した者は、履修できません。

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------------------------|--------|-----|
| 社会教育計画 | むら やま てる よし 村 山 輝 吉 | 社教主事2必 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

かつて社会教育職員の専門性として、4P論（プランナー、プログラマー、プロデューサー、プロモーター）がいわれた。いま各自治体では住民の生活課題や地域づくりの課題に対応したきめ細かな生涯学習振興策とその計画化がもとめられている。この講義では、自治体の生涯学習計画の策定を中心に、できるだけ具体例に即して、ひろく生涯学習の方法、事業計画などの理論について理解を深められるようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 生涯学習の方法と計画の今日的課題
2. 住民の課題と生涯学習計画
3. 生涯学習の方法と事業の計画・運営
4. 生涯学習と条件整備
5. 地域生涯学習計画の策定
6. 生涯学習計画と社会教育計画
7. 学習権の思想と社会教育計画の課題

履修上の留意点

できるだけ「生涯学習概論」を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

出席、レポート、試験等により総合的に判定する。

教科書

酒匂・村山他編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,800円

参考書等

そのつと紹介する。

その他

夏休み中に、各自、自分のまちの社会教育行政の実情について調査し、レポートにまとめることをもとめる。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------|-------------------------|---------|-----|
| 生涯学習概論Ⅰ (前期) | とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子 | 社教主事2必 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という観点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の観点からの教育の見直しが課題となっている。

授業では、OECDやILOなどの国際機関ならびにわが国における生涯学習政策の動向を概観し、その検討を通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・生涯教育・生涯学習の理念
- ・生涯教育・生涯学習の国際的動向
- ・わが国における生涯学習政策
 - ・国レベルの政策－「生涯学習振興整備法」の制定とその後の動き
 - ・地方自治体における生涯学習政策の展開
- ・生涯学習と学校計画
- ・生涯学習と社会教育

成績評価の方法

レポート等により成績評価を行なう。

教 科 書

倉内史郎、鈴木真理編著『生涯学習の基礎』（学文社）2,100円

参 考 書 等

適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生涯学習概論」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------------|----------------------|---------|-----|
| 生涯学習概論Ⅱ (後 期) | とよ ちよ こ 豊 田 千 代 子 | 社教主事2必 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日、わが国では、生涯学習の観点での教育の見直し、学校教育でも社会教育でも求められている。授業では、とくに社会教育に焦点を当て、改革の方向性を探ることを目的としたい。そのために、社会教育の歴史や社会教育行政の役割等とともに「おとなの学び」に注目しながら、社会教育についての理解をはかりたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・社会教育とは
 - ・社会教育の定義
 - ・社会教育の歴史
 - ・社会教育法
 - ・社会教育施設（公民館など）
 - ・社会教育行財政
- ・成人教育としての社会教育
 - ・「おとなが学ぶ」とは
 - ・「おとなの学び」の事例
 - ・おとなの学びに関わる職員の役割
- ・生涯学習と社会教育

成績評価の方法

レポート等により成績評価を行なう。

教 科 書

倉内史郎、鈴木真理編著『生涯学習の基礎』（学文社）2,100円

参 考 書 等

小林文人編『公民館の再発見ーその新しい実践』（国土社）

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生涯学習概論」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-------------------------|--------|-----|
| 社会教育実習 | とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子 | 社教主事3必 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

公民館、図書館などの社会教育施設や、教育委員会での実習をとおして、社会教育についての理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 事前指導 — 社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、グループで報告する。
 訪問指導 — 実習先訪問指導。
 事後指導 — 実習をとおして学んだこと、疑問に思ったことなどについて報告する。
 実習報告書を作成する。

成績評価の方法

- ①実習ノート ②授業への参加度（授業での実習報告、報告書作成への取り組みなど）

教科書

小林文人編『公民館の再発見 — その新しい実践』（国土社）

参考書等

社会教育推進全国協議会編『新版 社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

その他

適宜、公民館などの施設見学を行なう。
 実習報告書の作成に関しては、企画、編集、印刷、製本のすべてを自分たちで行なう。このことをとおして、共同で学ぶ方法を身につけたり、共同で学ぶことの楽しさに気づいてほしい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------------------------|--------|-----|
| 社会教育実習 | むら やま てる よし 村 山 輝 吉 | 社教主事3必 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学生が社会教育実習に主体的にとりくみ、社会教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- ・社会教育実習の意義と心がまえ — これまでの実習の経験に学ぶ事前指導
- ・実習期間 — 個別の訪問指導
- ・実習後 — 個別の体験の整理・検討と共通する課題の追求。
 [例] 社会教育職員の専門性とはなにか。

成績評価の方法

平常の受講態度（出席、口頭発表、レポート、討議の質等）や実習ノート等により総合的に判定する。

参考書等

そのつど紹介する。

その他

「社会教育実習」を受講する学生は、前年11月中におこなわれるガイダンスに必ず出席すること。

(2) 選択必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|--------------------------|------------|-----|
| 社会教育行政 | ひがし 東 とし 寿 たか 隆 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

憲法・教育基本法体制に沿った社会教育行政の本質について具体例を示しながら解明する。戦前・戦後の社会教育行政の歴史・社会教育法の成立の頃の実情、その後の社会教育行政の発展の状況・生涯学習行政の現情などを通して社会教育行政とは何かについて、社会教育主事などになった時に役立つような内容を明らかにしたい。
授業外に社会教育施設などに赴いてボランティア活動を積極的にやって欲しい。

教科書

島田修一編『生涯学習のあらたな地平』（国土社）2,718円＋税
社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育』（エイデル研究所）

参考書等

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-------------------------------|------------|-----|
| 社会教育施設 | むら 村 やま 輝 てる よし 吉 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

社会教育の方法や形態を考えるうえで、戦後のわが国では公民館をはじめとする図書館・博物館等社会教育施設的重要性があらためて認識された。本講ではその社会教育施設の歴史と現状について考察を深め、それが抱える諸問題について、望ましい展望を拓きたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・社会教育施設とは何か
 - ・社会教育施設にかかわる人々
 - ・公民館の歴史と現状
 - ・図書館の歴史と現状
 - ・博物館の歴史と現状
 - ・社会体育施設の歴史と現状
 - ・その他の社会教育施設・関連施設
 - ・社会教育施設をめぐる最近の動向と課題
- それぞれできるだけ具体例・実践例を挙げて理解をはかるようにしたい。

履修上の留意点

できればいくつかの施設見学を実施したいと考えているが、学生自身もすすんで適宜、施設の利用見学、施設で行われている学級・講座・サークル活動等に参加して施設体験を豊かにしてほしい。

成績評価の方法

出席・受講態度等の平常点、レポート等により総合的に判定する。

教科書

適宜指示または紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------------|------------|-----|
| 成人学習論 | ひがし 東 とし 寿 たか 隆 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

成人が学習することによって発達することを各地の社会教育の事例を通して明らかにする。始めに社会教育の本質について語り、公民館・図書館・博物館などの社会教育施設等で行う学習活動の事例について、さらに地域づくりについて、また国際問題などの実践について学習させたい。授業外に社会教育施設などでボランティア活動を積極的に行うことをすすめる。

教科書

福尾武彦編著『現代を生きる学び』（民衆社）2,800円＋税

参考書等

酒匂一雄・千野陽一・那須野隆一・村山輝吉・谷貝忍共編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,718円＋税

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|--------------------------|------------|-----|
| ジェンダーと教育Ⅰ (前期) | なか 中 さわ 澤 ち 恵 え | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の経験や生活をふまえて考察し、受講者同士の相互的な学習活動を行う中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方を具体的に検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 ジェンダーとは
- 2 人間の発達と学習／教育
- 3 ジェンダーの形成
- 4 教育と女性
- 5 家庭生活とジェンダー
- 6 学校教育におけるジェンダー

履修上の留意点

後期「ジェンダーと教育Ⅱ」とあわせて受講されたい。
ディスカッションや小レポートなど、受講者の積極的な参加を求める。

成績評価の方法

出席、授業中のディスカッションなどへの参加状況、およびレポートによる。

教科書・
参考書等

石川洋子編『人間発達学』（宣協社、2000年発行予定）
木村涼子『学校文化とジェンダー』（勁草書房、1999年）
ほか、適宜指示する。

その他

ビデオなどの視聴覚資料も利用する。
この科目は、平成11年度までに「女性と学習」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|----------------------|------------|-----|
| ジェンダーと教育Ⅱ (後 期) | なか ざわ ち え 中 澤 智 恵 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の経験や生活をふまえて考察し、受講者同士の相互的な学習活動を行う中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方策を具体的に検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 ジェンダーに関わる社会的動向
- 2 職業生活とジェンダー
- 3 マス・メディアとジェンダー
- 4 ジェンダーとセクシュアリティ
- 5 性教育とジェンダー
- 6 生涯学習におけるジェンダー

履修上の留意点

前期「ジェンダーと教育Ⅰ」をふまえた講義とするため、前後期あわせて受講されたい。ディスカッションや小レポートなど、受講者の積極的な参加を求める。

成績評価の方法

出席、授業中のディスカッションなどへの参加状況、およびレポートによる。

教科書・
参考書等

石川洋子編『人間発達学』（宣協社、2000年発行予定）
木村涼子『学校文化とジェンダー』（勁草書房、1999年）
ほか、適宜指示する。

そ の 他

ビデオなどの視聴覚資料も利用する。
この科目は、平成11年度までに「女性と学習」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------|-----------------------|------------|-----|
| 職業教育Ⅰ (前期) | しお かわ まさ と 塩 川 正 人 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本授業のねらいは「就職に役立つ授業」この一点にある。二十一世紀の大学志願者は「就職率の高い大学」を最優先で選ぶ時代となる。本授業はそうした学生達のニーズに真正面から応える授業とした。

講師の本業は経営コンサルタント。ゆえに日々ビジネスを共にしている企業の人事・採用責任者の立場から、カリキュラムを編成する。

本授業を選ぶ諸君は、先ず学生意識の甘えを捨てなければならない。「社会人」としての意識と行動なくして「就職」への準備は成り立たない。

学生諸君の未来を決める「人生最大の決断」が就職への準備である。しかもその門に入ることは極めて厳しい。君の未来を、この授業の中で見出す覚悟をもって、授業に参画してほしい。

講義の内容・授業スケジュール

- ①学生と企業人の違い。
- ②企業は学生に何を期待しているか。
- ③就職への準備。
- ④企業の選択の基準。
- ⑤面接試験の本質と取組み方。
- ⑥論文試験の本質と取組み方。
- ⑦いかにして自己を鍛えるか。

授業の半分は、学生との質疑応答の時間としたい。質疑応答の中で、企業という「生き物」の厳しさと素晴らしさを伝えたい。

履修上の留意点

- ①講師が企業で実践している資料の配布が多い。資料を保存するためのバインダーを準備すること。
- ②授業の度に発言や返答、意思発表、討論などがあることを想定していること。
- ③教員や公務員を志望する諸君にとっても「就職」の基本は同じ。役立つことと確信する。

成績評価の方法

平常授業とレポートによって評価

教科書

塩川正人著『MTS 経営革命』（日本能率協会マネジメントセンター）1,400円

その他

この科目は、平成11年度までに「企業内教育・職業訓練」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------|-----------------------|------------|-----|
| 職業教育Ⅱ (後期) | しお かわ まさ と 塩 川 正 人 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

前期と全く同じである。授業の目的は「就職試験に勝つ」。そのための自己革命を学生諸君は本授業で実践する。

授業内容は、前期の内容を更に詳しく掘り下げていく。前期以上に、面接や自己アピールのための演習を多くしたい。

成績評価の方法

前期同様に平常授業とレポートによって行う。

その他

この科目は、平成11年度までに「企業内教育・職業訓練」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------|----------------|------------|-----|
| 社会体育Ⅰ (前期) | ふる 古 田 じゅん 潤 子 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

深く静かにリラックス 湧きいでるフレッシュ・エネルギー
 深く確かな大地との交流 そこから生まれるリラクゼーション
 私たちのからだは良くなろうとしてサインを送り続けています。その本質に気づき、自然と調和する能力を持つ生来のからだへと回復させていかねばならないと思います。複雑な社会の中で気持ちよく共生して行ける社会人としての「心とからだ」を育てることに取り組んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

からだの感覚を手がかりに自然の原理に沿った動きで、余分な緊張を取り去り、その時々姿勢におけるからだの最下部に全体重を任せ切る。動きに最適な自然な呼吸などをもとに、ゆるやかに自分自身の心とからだを拓くことによって、自己能力を発掘し、可能性を追求します。

履修上の留意点

からだの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業（レポートも含む）

参考書等

野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）
 野口三千三著『野口体操からだに貞く』（柏樹社）
 野口三千三著『野口体操重さに貞く』（柏樹社）
 池田潤子執筆 雑誌『ひと』からだのレッスン（太郎次郎社）
 [自然なからだのあり方を考える【円筒エリア】の発見と意義]
 古田潤子『駒沢大学教育学研究論集第13号』1997年

その他

授業は実技を主に行います。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------|----------------|------------|-----|
| 社会体育Ⅱ (後期) | ふる 古 田 じゅん 潤 子 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

他者とひびき合う豊かな関係を拓いていきます。

講義の内容・授業スケジュール

環境の変化に応じて、的確に落ち着いて対処できる心とからだを、自らの力でとらえて自信を身に付けます。屋内、屋外のいろいろな場所での体験実習も考えています。
 また、海外でのワークショップにおける豊富な経験をもとに様々な遊び道具の製作や、それを使った楽しい遊びも加味します。同時に日本人と外国人の考え方、感じ方、環境の変化に対する即応の仕方の違いなどについても一緒に研究をしていきます。

| 科目名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------|----|
| 教育の思想 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P. 251～255) 参照

| 科目名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------|----|
| 教育と社会 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P. 256～258) 参照

| 科目名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|------------|----|
| 発達と学習の心理学 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P. 258～261) 参照

| 科目名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|------------|----|
| 教育とメディア | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P. 262～264) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|--|------------|-----|
| 視 聴 覚 教 育 | <small>い</small> 飯 <small>もり</small> 森 <small>あき</small> 彬 <small>ひこ</small> 彦 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.353) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|---|------------|-----|
| 教 育 社 会 学 | <small>くま</small> 熊 <small>がい</small> 谷 <small>かず</small> 一 <small>のり</small> 乗 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.294) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--|------------|-----|
| 教 育 史 | <small>やま</small> 山 <small>もと</small> 本 <small>とし</small> 敏 <small>こ</small> 子 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.295) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|---|------------|-----|
| 教 育 調 査 | <small>すず</small> 鈴 <small>き</small> 木 <small>のり</small> 規 <small>お</small> 夫 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.296) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|--|------------|-----|
| 青 少 年 文 化 | <small>か</small> 香 <small>がわ</small> 川 <small>よし</small> 良 <small>しげ</small> 成 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評を併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない場合以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）、富田博之著『日本演劇教育史』（国土社）、菅忠道著『日本の児童文学』Ⅰ総論

そ の 他

現在行われている演劇教育（“劇あそび”その他）の様相や実際の舞台をビデオで観たり、実際観劇するというも行いたいと思っています。

この科目は、平成11年度までに「児童文化」の単位を修得したものは、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------------------|------------------------|------------|----|
| 現代社会の諸問題と教育Ⅰ (前期) | くま がい かず のり 熊 谷 一 乗 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日の教育に「生きる力」を育成することが求められ、小・中・高等学校のカリキュラムに新たに「総合的学習の時間」が設けられるようになったことの意味を理解して頂くことをねらいとしながら「現代日本の社会的変化にともなう諸問題と教育改革」をテーマに授業をすすめる。教育社会学、教育政策学をベースにして今日の社会的変化に対してどのような教育の在り方が求められるかを明らかにするところに問題意識がある。

講義の内容・授業スケジュール

次の三つの領域に分けて行われる。

(1)1980年代の自由化論と「臨教審」答申(4～5月) = この領域で扱われる事項は、①経済の活性化をめぐる新自由主義の潮流と教育自由化論②新国家主義の登場と臨時教育審議会(「臨教審」)の設置③「臨教審」の四つの答申とその反響④1989年の学習指導要領改訂と教育上の諸問題である。

(2)冷戦構造・55年体制の崩壊と教育政策の新しい動向(5～6月) = この領域で扱われる事項は、①冷戦構造の崩壊による政治的社会的影響②55年体制の崩壊、連立政権の登場と教育をめぐる路線対立の緩和③教育政策のリベラ化④高度情報化のなかの生涯学習体制の整備と「個」の尊重、である。

(3)経済不況のなかの少年問題と「生きる力」の育成(6～7月) = この領域で扱われる事項は、①長期にわたる経済不況のなかでの少年問題②「生きる力」を強調する第15期「中教審」答申③新自由主義のインパクトと教育における規制緩和、学校選択の問題④学習指導要領改訂と総合的学習の時間の設置、である。

履修上の留意点

今日の教育の動向に強い関心をもっていること。

成績評価の方法

平素の出席状況と定期試験の成績による。

教科書・参考書等

教材についてはプリント配布、参考書は授業のさいに紹介、授業の方法は講義を中心にして討論をとり入れる。

その他

この科目は、平成11年度までに「現代社会の諸問題と教育」の単位を修得したものは、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------------------|------------------------|------------|----|
| 現代社会の諸問題と教育Ⅱ (後期) | くま がい かず のり 熊 谷 一 乗 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.297) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|-------------------------|------------|----|
| 青少年問題研究 | さぬ き ま さ こ 讚 岐 真 佐 子 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.298) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|-------------|------------|----|
| 青少年指導演習 | ひらの 平野 学 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況やトピックス等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていきたい。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりでいる。

《前期》

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達の観点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にデモンストレーションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

《後期》

4. スクールカウンセラーについて及び講師自身の援助例（不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング）の提示と討議。(3回)
5. HIV・エイズ問題やカルト問題とそのカウンセリング(3回)
6. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験（ボランティア活動他）の報告と討議。(2回)
7. 1年間をまとめる意味で、河合隼雄氏等の文献のいくつかを輪読（分担発表）すると共に自由討議を行なう。特にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(2回)
8. その他（全体の振り返り他）。(2回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。
出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行うので安易な受講は避けてほしい。)
尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート（年間授業を振り返る形でのもの）、夏休みレポート（体験報告または読書感想）、平常点（出席等）の三本柱で行なう予定。

教科書

河合隼雄『カウンセリングを語る（上・下）』（創元社）各1,300円

参考書等

河合隼雄『カウンセリングを考える（上・下）』（創元社）各1,300円
同 『大人になることのむずかしさ』（岩波書店）1,240円
同 『ユング心理学と仏教』（岩波書店）1,800円
佐治守夫他『カウンセリングを学ぶ』（東大出版会）2,800円
他にも授業の中で随時紹介していきたい。

その他

VTR やテープ等も多く使用して、具体的に学べるようにしたい。
授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心がけて参りたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|---|------------|----|
| 博物館学Ⅰ（概論） （前期） | <small>おお</small> 太 <small>た</small> 田 <small>き</small> 喜 <small>み</small> 美 <small>こ</small> 子 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.354) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------------------|---|------------|----|
| 博物館学Ⅱ（資料論） （前期） | <small>まし</small> 岸 <small>がみ</small> 上 <small>こう</small> 興 <small>いち</small> 一 <small>ろう</small> 郎 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.354) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|---|------------|----|
| 情報メディアの活用 （後期） | <small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.332) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|---|------------|----|
| 読書と豊かな人間性 （後期） | <small>やま</small> 山 <small>だ</small> 田 <small>せつ</small> 節 <small>こ</small> 子 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.331) 参照

IV 博 物 館 学 講 座

(1) 必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------------------------------------|---------|----|
| 視聴覚教育 | 飯森彬彦 <small>い い もり あき ひこ</small> | 学芸員2・3必 | 4 |

講義のねらい

視聴覚教育の背後にある基本的な考え方を理解する。
個々の視聴覚教材の基礎的な技法（教材の制作、利用の両面）を習得する。
変動する社会に即応し、メディアを活用する態度と能力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

視聴覚教育の歴史とその思想的背景
コミュニケーションの理論と視聴覚教育
視聴覚教材の制作と利用
情報化社会における視聴覚教育
生涯学習時代とメディア
以上のような内容を各4～6回程度講義する予定。

履修上の留意点

年に2回程度課題を出し、作品の提出を求める。作品製作に要する経費の負担をあらかじめ予定しておくこと。（OHPシート代、マーカー代、35ミリフィルム代、現像代など）

成績評価の方法

提出作品と試験の成績に出席状況を加味して評価する。

教科書

使用しない。

参考書等

浅野孝夫・堀江固功編著『新視聴覚教育』（日本放送教育協会）
秋山隆志郎・岩崎三郎編著『視聴覚教育』（樹村房）
野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開』（東信堂）
赤堀正宣・佐賀啓・中野照海編著『メディアと教育』（小林書房）

その他

ビデオや写真などを多用して講義する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|---|---------|----|
| 考古発掘実習 | 飯島武次・酒井清治 <small>い い じ ま た け つ ぐ さ か い き よ し</small> | 学芸員3・4必 | 2 |

講義のねらい

発掘技術の習得を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。

履修上の留意点

夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが例年である。従って履修者は、博物館実習との関係等をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後には計画を作ること。

授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席・遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。

成績評価の方法

成績評価は平常点。

教科書

『考古学調査ハンドブックス1（野外編）』（雄山閣）1984年 2,800円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------|-------------------------|---------|-----|
| 博物館学Ⅰ（概論） （前期） | おお た き み こ 太 田 喜 美 子 | 学芸員 2 必 | 2 |

講義のねらい

博物館学講座（学芸員課程）の必修科目である。博物館法施行規則によると、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ（岸上講師）、各2単位」も履修していただかないと次年度へ進めないで注意を要する。

この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ・Ⅲ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、岸上興一郎講師に講義していただいている。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒沢大学にあって、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するので、必ず出席すること。途中で（2回や3回目）出席して、手続きその他質問に来てても、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはしないので注意しておいてもらいたい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になっても、教回教室に出席してもらうことにしている。したがって、水曜日3限目の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目におつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に来てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事の選択科目にもなっているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

そ の 他

学芸員資格を取得しようとしていながら、途中で、棄権する（あるいはせざるえないという）場合、社会教育主事に切り換えることは比較的易しいので、これまた相談されたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|-----------------------------|---------|-----|
| 博物館学Ⅱ（資料論） （前期） | きし がみ こう いち ろう 岸 上 興 一 郎 | 学芸員 2 必 | 2 |

講義のねらい

博物館で扱う資料とは何であるのかを問う。

講義の内容・授業スケジュール

資料は多様な環境の中におかれている。それらの資料がいかなる過程をへて博物館に寄贈・寄託・借用・購入され、収蔵そして展示されていくのかを事例をもとに展開する。

履修上の留意点

資料のもつ基礎情報を学芸員として熟知し、いかに展示空間に動と静の知的世界を構築するかを考えること。

成績評価の方法

レポート提出。

教 科 書

（財）日本博物館協会編『博物館関係法令集』
必要に応じて関係資料を作成し配布する。

参 考 書 等

各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』
（財）日本博物館協会編 月刊『博物館研究』

そ の 他

講義。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------------|-----------------------------|---------|-----|
| 博物館学Ⅲ (経営論・情報論) (後 期) | きし がみ こう いち ろう 岸 上 興 一 郎 | 学芸員 2 必 | 2 |

講義のねらい

博物館は学芸職と事務職によって構成されている。その経営にあたっては、各個人の暗黙知、つまり各個人のもっている情報・知識の豊かさが結果を左右する。さらにはそれを言語化・明示化して組織内で共有し、有効活用することを形式知化という。ここを講義のポイントとする。この理論は博物館経営をより発展させる重要な鍵でもある。学芸員の経営関与を問う。

講義の内容・
授業スケジュール

各博物館は、その創設時の状況によって、公立・市立・財団など種々の組織形態をとってはいるが、形式知化は、すべての博物館に共通する経営理論である。ここでは、それによって積算された予算、その執行と展開などの事例にふれる。さらには近年論議されている博物館経営とボランティア活動の関係にふれる。

履修上の留意点

予算の仕組みを理解すること。

成績評価の方法

レポート提出。

教 科 書

(財)日本博物館協会編『博物館関係法令集』
必要に応じて関係資料を作成し配布する。

参 考 書 等

各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』
(財)日本博物館協会編 月刊『博物館研究』

そ の 他

講義。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------------|----------------------|---------|-----|
| 博物館実習Ⅰ (館務) | 飯島 武次・酒井 清治 太田喜美子 | 学芸員3・4必 | 2 |

履修上の留意点

この授業は4月第1週から、明年の最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来20数年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。

この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。

この洗礼に対応してくださるお陰だと思いが、本学卒業生の学芸員就職率は、都内大学で、断然高く、また、学芸員としても、非常に高く評価されている。

毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生といっしょに行くため、他流試合的な趣きももっているため、日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけない。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいいは言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしゃるの、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行く館が80%を占めるが、別の時期に行く館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。

この科目は、本学の博物館講座の締括りになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」・「博物館実習Ⅲ(見学)」に先だって、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ(館務)」を3年生次に履修して、「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」あるいは「博物館実習Ⅲ(見学)」を4年生次に履修してはいけない、ということである。履修にあたっての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------------|---|---------|-----|
| 博物館実習Ⅱ (収集) | 酒井 清治・太田喜美子 國見 徹・久保田昌希 瀧音 能之・佐藤 元英 小林 和幸・廣瀬 良弘 | 学芸員3・4必 | 2 |

教職・資格講座

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならぬ面と、個性を殺さなければならぬ面がある。「博物館実習Ⅱ(収集)」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けている、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ(収集)」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきつまいようである。この実習は、必ず合宿して実施しているため、共同生活を知ろうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を目指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思ってしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなかもしれない。そうした場合には、どんどん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ(館務)」・「Ⅱ(収集)」・「Ⅲ(見学)」の3つが必修であるが、「Ⅱ(収集)」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ(収集)」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------------|--------------------|---------|----|
| 博物館実習Ⅲ (見学) | 酒井清治・太田喜美子 松本信道 | 学芸員2・3必 | 2 |

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行うこの実習と、3年次で行う、「Ⅰ(館務)」と「Ⅱ(収集)」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学をするのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することにしている。

履修の方法は、なんといっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あぶれてしまう人がでないように留意するつもりである。そのために、相談しなければならないことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA～Dの4組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになることと、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

本学の学芸員課程が厳しい、とよく言われるが、学芸員という、貴重な文化財を扱う仕事の養成課程なのであるから、厳し過ぎるなどとは思わないようにしてほしい。それだからこそ本学出身の学芸員が高い評価を受けているのであるから。

| 科目名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------|----|
| 教育の思想 | 学芸員2必 | 2 |

(P 251～255) 参照

| 科目名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------|----|
| 教育と社会 | 学芸員2必 | 2 |

(P 256～258) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------------|-------|---------|----|
| 生涯学習概論Ⅰ (前期) | 豊田千代子 | 学芸員2・3必 | 2 |

(P 338) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------------|-------|---------|----|
| 生涯学習概論Ⅱ (後期) | 豊田千代子 | 学芸員2・3必 | 2 |

(P 339) 参照

(2) 選択必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------|----------------------|-----------|-----|
| 中国 仏教文化史 | なが い まさ し 永 井 政 之 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。当然、「仏教」という宗教も「文化」の枠組みの中に入る。このように「仏教」をとらえるとき、それが中国の歴史の中で、どのような変化展開をしたか。それが本講義のテーマとなる。

今年度は、インドで生まれた仏教が中国に定着するさまざまな紆余曲折の中で、特に興味を引く「葬送儀礼・追善」を取りあげて、仏教教団において葬送が儀礼として成立する過程を考えてみたい。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要な参考書は授業において指示する。またコピーを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------|------------------------|-----------|-----|
| 日本 仏教文化史 | はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

「浄土思想と日本文化」という課題のもとに講義を行いたい。日本文化史の上に及ぼした浄土思想の影響は極めて大きい。その浄土思想を仏教思想の中にどう位置づけるべきかを絶えず考慮しながら講義を進めたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず、インドの世親の『浄土論』を中心にインド仏教における浄土思想の展開を押え、それが中国においてどのように定着したかを、曇鸞、慧遠、吉蔵、善導などを中心に考察し、それらが日本の浄土思想にどのように現われ発展したかを、智光、永観、覚鑿、源信、法然、親鸞などを中心に検討していく。

履修上の留意点

講義において指示する文献を自分できちんと読むことが要求されるであろう。

成績評価の方法

学年末の定期試験による。

教科書

末木文美士『日本仏教史』（新潮文庫）

参考書等

家永三郎『日本文化史』第二版（岩波新書）
石田瑞磨『日本人と地獄』（春秋社）
袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』（大蔵出版）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|--------------------------|-----------|-----|
| 禅 美 術 | え び ね と し お 海 老 根 聰 郎 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義の内容・
授業スケジュール

日本の中世の絵画世界を、禅宗画僧による歴史として述べていく。鎌倉・南北朝・室町時代を対象とする。それらの画風の源泉は中国にあるから、合わせて、中国禅宗の中で描かれた絵画についても述べる。
授業は毎回スライドを映写する。

成績評価の方法

年度末に授業で述べたところから出題した筆記試験を行ない評価する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|----------------------------|-----------|-----|
| 仏 教 美 術 | まつ だ せい いち ろう 松 田 誠 一 郎 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本彫塑史Ⅰ・飛鳥時代：日本彫塑史に関する諸問題について、近年の研究動向を視野に入れながら詳しく解説する。今年、飛鳥時代（仏教伝来以後、平城遷都まで）を取り上げる。

講義の内容・
授業スケジュール

【前期】

第1回 飛鳥前期彫塑の概観
第2～3回 飛鳥大仏
第4～6回 法隆寺金堂の釈迦三尊像
第7回 止利派の金銅仏
第8～9回 法隆寺夢殿の救世観音像
第10～11回 法隆寺百済観音像
第12回 法隆寺四天王像
第13～15回 進度調整のための予備日

【後期】

第1回 飛鳥後期彫塑の概観
第2回 野中寺の弥勒菩薩像
第3回 法輪寺のクス材製木彫像
第4回 法隆寺再建と童顔童形像
第5～7回 山田寺仏頭と薬師寺本尊
第8～9回 塑像と乾漆像
第10回 塙仏と押出仏
第11～12回 広隆寺と中宮寺の半跏像
第13～15回 進度調整のための予備日

履修上の留意点

- ①単位取得のためには、授業日数の60%以上の出席を必要とする。
- ②休日に東京国立博物館の法隆寺宝物館を見学したり、夏休みに奈良・京都の古寺を訪れてみるなど、飛鳥仏に接する機会を積極的につくるよう努力すること。

成績評価の方法

後期末にレポートを課して評価する。

参 考 書 等

水野敬三郎・関口欣也・大西修也編『法隆寺から薬師寺へ』（『日本美術全集』第2巻 飛鳥・奈良の建築・彫刻）1990年（講談社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|-----------|-----|
| 仏 教 民 俗 学 | 須 藤 寛 人 す どう ひろ と | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

葬儀や、先祖崇拜、位牌・仏壇といったものを通して、多くの日本人は仏教と接していると思われれます。このような日常的な仏教との接点を手がかりとして、大宗教としての仏教が民間に浸透していった経緯を、本講義では考察したいと思います。また仏教的な営みの背景にある民俗の意味と歴史とを考察することによって、仏教と新しい接し方のきっかけになればと考えています。

講義の内容・
授業スケジュール

a. 先祖崇拜 今日の日仏教における寺院の主たる活動が、葬儀と追善供養からなっている。追善供養は、祖先祭祀という民俗的背景のもとに成り立っていることから、先祖崇拜の考察は重要なテーマであると考えられる。

b. 葬送儀礼 葬式は、多くの日本人にとって最も「仏教的」なことを感じさせる出来事である。しかし、そこで何が行われているかは、多くの場合は、一般の人に知らされていないし、また意味も解らないで葬儀を行っている僧侶も多いと思われる。本講義では、民俗的事例をあげながら、葬式の歴史と構成とを明らかにし、そこにどのような意味があるのかを考える。

c. 日本の民俗 日本でみられる多くの民俗的事例を紹介・解説する。日本のシャーマニズムや、各地の祭、都市伝説・噂・怪談などにも触れる予定である。また授業内容に応じてタイムリーな話題もとりあげたい。

以上の三点を本講義の基軸とし、主要な概念や理論について解説をしていきたいと思っています。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないでください。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中には着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポートと学期末の定期試験を中心に、出欠状況とあわせて総合的に評価します。

教 科 書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------------|-----------|-----|
| 日本民俗学 | 谷口貢 <small>たにぐち みつぎ</small> | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化した、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教科書

使用しない。

参考書等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）
新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』（日本実業出版社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---------|-----------|-----|
| 美 術 史 概 説 | 矢 野 陽 子 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

この授業では、西洋美術史を材料にして、作品記述、作品の意味解釈や様式分析など美術史の技法を学び、美術史学の研究対象や方法論について考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

前期は美術史学の歴史をたどることで、美術史のさまざまな傾向を紹介する。後期は西洋美術の流れに沿って、毎回具体的な事例を取り上げて、個々の問題——美術と政治、芸術家の再発見や再評価、複数の芸術家による共作の問題、美術における寓意表現とその解釈など——を検討する。

履修上の留意点

履修希望者は各自、西洋美術史の概説書（高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社など）を読んで授業に臨むようにしてほしい。

成績評価の方法

前期のレポートと後期の定期試験、出席等を合わせて評価する予定。

参考書等

参考図書：マルシア・ポイントン著 木下哲夫訳『はじめての美術史』（スカイドア）1,900円

そ の 他

授業ではスライドを使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|-----------|-----|
| 現 代 美 術 | 矢 野 陽 子 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

現代美術、すなわち20世紀の美術においてはかつてないほど大胆で革新的な活動が展開されてきた。この授業では、現代美術の多様な動向について、主要な芸術家と作品を紹介しながら、それらのもつ意味や周囲に与えた影響などを考察していく。美術は同時代の社会と共に存在するものであり、したがって美術は戦争、機械文明の著しい発展、マスメディアの発達、大量消費型の生活といった現代社会と深く関わっている。現代美術を知ることは、今日の社会を考えるのに大きな示唆を考えてくれるのである。

講義の内容・授業スケジュール

授業は、20世紀美術のバックグラウンドである19世紀後半の美術から始めていく。前期は20世紀初頭の二大運動であるフォーヴィスムとキュビスムを中心に、後期はシュルレアリスムやポップアートなどを取り上げる。

履修上の留意点

美術館や展覧会に行ったり、画集、テレビなどを通して、現代美術に積極的に触れてほしい。

成績評価の方法

前期のレポートと後期の定期試験、出席等を総合して評価する予定。

参考書等

美術出版社編『現代美術入門』（美術出版社）2,000円

そ の 他

授業ではスライドを使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|-------------------|-----------|----|
| 地形学 | し清水 ちようせい 清 水 長 正 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事象（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。
 1. 地形学の成り立ち、2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点も多少加味する。

教科書

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円

参考書等

小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------------|---------|----|
| 第四紀学 | すずき たけひこ 鈴 木 毅 彦 | 学芸員3・4選 | 4 |

講義のねらい

第四紀は最近200万年間のことをさす。この地質時代は人類、動植物、気候、地形など多くの事象が現在みられる姿を成立させた時代でもある。このような最近の地質時代を理解することは人類の動向も含めた地球の将来を予測することにもつながる。

本講義のねらいはこのような問題意識のもとに、第四紀の概要を理解することである。とくに全地球的な規模での歴史と日本列島特有な第四紀の諸現象についての理解を深めることに目的をおく。

講義の内容・授業スケジュール

講義前半では第四紀の基礎的な概念を全般的に解説してゆく。主なテーマは第四紀の定義、氷河作用、地形・地質層序、火山灰編年、人類、動植物、年代測定などである。後半では日本列島の第四紀の主要な課題である、火山灰編年と第四紀地殻変動に焦点をあて、火山の地形と噴火、人類、海成段丘、活断層、山地形成史などのテーマをとりあげる。

履修上の留意点

受講の際に高校の社会科で使用される地図帳を持参されたい。

成績評価の方法

おもには前期末と後期末の筆記試験

教科書

特に指定しないが、参考書として、日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）2,233円をあげる。それ以外の参考書は講義中に紹介する。

その他

講義では、ビデオ、OHP、スライドを使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------------------|----------------------|-----------|-----|
| 考 古 学 概 説 I 〔 日 本 〕 | さか い きよ じ 酒 井 清 治 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本考古学の現状は、細分化された研究が増加している。しかし、細分化された研究を理解する上にも、自ら卒論テーマとして研究する上にも、考古学の基礎なくしては成り立たない。

講義の内容・
授業スケジュール

日本考古学の研究史、最新の発掘調査事例を紹介しながら、日本考古学の概説をしたい。

履修上の留意点

遅刻をしないこと。

成績評価の方法

定期試験で採点。

参 考 書 等

鈴木公雄『考古学入門』（東大出版会）
安蒜政雄『考古学キーワード』（有斐閣）
江上波夫『考古学ゼミナール』（山川出版社）

そ の 他

OHP等を使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------------|--------------------------|-----------|-----|
| 考 古 学 概 説 II 〔 外 国 〕 | い い じ ま たけ つぐ 飯 島 武 次 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらう。

講義の内容・
授業スケジュール

時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。

履修上の留意点

欠席・遅刻をしないこと。

成績評価の方法

成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。

参 考 書 等

飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年
飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年
飯島武次『中国周文化考古学研究』（同成社）1998年

そ の 他

スライドやビデオを多用する予定である。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------|------------------------|-----------|-----|
| 日 本 文 化 史 II | ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを明らかにする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに⑧～⑬の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

とくに指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-------------|---------------|-----|
| 考 古 学 特 講 I | たか 高 浜 秀 | 学 芸 員 2・3・4 選 | 4 |

講義のねらい

ハンガリーから中国の北にかけて広がるユーラシア北方草原（ステップ）地帯では、古来牧畜を主な生業とする人々が暮らしていた。ここでは農耕に依存する定住民の文化とは異なった文化が発達したが、紀元前1千年紀の初め頃（前10世紀～7世紀頃）に開始された騎馬による遊牧は、この地域の文化を大きく変えた。生活形態や物質文化のきわめて類似した文化がここに数多く形成されたのである。これは西アジアや中国などの定住民に大きな影響を与えるとともに、東西交渉の道としても機能することになった。これらの文化はまとめて初期遊牧民文化、あるいは代表的な民族の名を取って、スキタイ系文化とも呼ばれている。講義では、これらの文化を概観する。

履修上の留意点

この地域の考古学の最新の成果を伝える日本語の参考書はきわめて少ない。講義に出席することが必要である。

成績評価の方法

成績はレポートにより評価する予定。講義に関連した題目を出題する。

教科書・参考書等

教科書はないが、一般的な参考書として、藤川繁彦編『中央ユーラシアの考古学』（世界の考古学⑥ 同成社）1999年6月を挙げることができる。詳しくは、適宜指示する。

その他

講義を中心とし、プリント、スライドおよびビデオを時に応じて使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|------------------------|---------------|-----|
| 考 古 学 特 講 Ⅲ | や の か ず ゆ き 矢 野 和 之 | 学 芸 員 2・3・4 選 | 4 |

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学・歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。

このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
 - ・日本建築史（古代）概要
 - ・遺構とその上部構造隊の復元
 - ・保存計画概論
 - ・保存科学、保存工学概論
 - ・まちづくりと文化財
 - ・計画策定の実務
 - ・国内の事例
 - ・海外の事例・文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

適宜指示。

そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------------------------|-----------|-----|
| 西域美術史 | まつ だいら み わ こ 松 平 美 和 子 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

中国が漢代以来「西域」と呼んでいた地域はパミール高原の東側の東トルキスタンであるが、後には西トルキスタン、そしてアフガニスタンやイラン以西の諸国も西域と呼ばれるようになる。講義では東トルキスタンからイランまでを広義の西域と考え、いわゆるシルクロードとして大いに繁栄したこの地域の考古美術品の中に東西文化混淆の様子を探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ① イラン装飾文様とその東伝
イラン美術に見られる「葡萄唐草文」、「花喰鳥文」、「王冠飾り」、「有翼人物像」などの装飾モチーフの変化について。
- ② クシャーナ朝美術とその意義
東西文化の接点であるクシャーナ朝の遺跡と遺品について。
- ③ タク라마カン砂漠周辺のオアシス都市の美術
狭義の西域美術であるクチャ、トゥルフアン、ホータン、敦煌などの美術について。

成績評価の方法

学年末と夏期休暇後の二回のレポートで評価する。

教科書

講義時にプリントを配布する。

参考書等

講義時に適宜紹介する。

その他

具体的な美術作品を対象とする学問なので、毎時間スライドを多く用いる。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------------|-----------|-----|
| 宗教人類学 | さ さ き こう かん 佐 々 木 宏 幹 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

宗教は人類文化の最古層に属すると考えられている。宗教人類学は人間の営みとしての宗教文化を文化人類学、社会人類学、民俗学の方法と理論に拠って研究する学問である。人間にとって、人類にとって宗教とはなにかという問題を、人類学や民俗学の研究成果を十分に利用しながら追究し、人間が生きているということの意味の考察につなげていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような内容を企図している。1. 文化と人間、2. 社会と世界観、3. 宗教の原形形態、4. 人間と動物、5. 民族宗教、6. 世界宗教、7. アニミズム・多神教・一神教の関係、8. 仏教・キリスト教・イスラム教、9. 民族問題と宗教、10. 環境問題と宗教、11. 習合宗教、12. アジア宗教の特色、13. 日本宗教の特色、14. 新宗教とは、15. 「ほとけさま」と日本人。
講義には必要に応じて資料を配布し、またスライドやビデオを使用し、理解の助けにしたい。

履修上の留意点

ときどき出席をとり、評価の参考にする。
夏休み中に「故郷の宗教行事」（仮題）のようなりポートを書いてもらうことを考えている。

成績評価の方法

講義内容にそったりレポート作製。400字詰原稿用紙5枚～8枚程度（参考文献名を明記すること）。

教科書

佐々木宏幹著『聖と呪力の人類学』（講談社）840円

参考書等

佐々木宏幹著『宗教人類学』（講談社）980円

V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

(1) 必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-------|--------|-----|
| 社会福祉原論 | 伊藤 秀一 | 社福主事2必 | 4 |

講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、感化救済事業などと呼ばれていたものが、時代とともに拡大し、組織的に発展して、今日では、社会を組み立てていくための不可欠の仕組み、すなわち「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日の時代なりの貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉がどのように変化してきた跡をたどり、なぜ、今日社会福祉が現代社会の生活環境基盤として確立されねばならないのかについてのあらましを述べることに重点をおく。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、他の1年次配当の科目との関連を考慮しつつ、社会福祉についての基礎知識を整理するとともに、社会福祉の今日的な動向と課題についての理解を深めることを主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の意義
 - 1) 社会福祉の意味
 - 2) 社会福祉と関連する諸概念
 - 3) 社会福祉の対象と主体
 - 4) 社会福祉の補充性
- 2 社会福祉の歴史的発展
 - 1) 欧米における社会福祉の発展
 - 2) わが国における社会福祉の発展
- 3 社会福祉の組織と運営
 - 1) 社会福祉法制
 - 2) 社会福祉法制の体系
 - 3) 社会福祉事業の経営主体
 - 4) 福祉の措置
 - 5) 社会福祉の経費
- 4 社会福祉の分野
 - 1) 公的扶助（生活保護）
 - 2) 児童福祉
 - 3) 老人福祉
 - 4) 障害者福祉
- 5 社会福祉の方法
 - 1) ケースワーク
 - 2) グループワーク
 - 3) コミュニティワーク
- 6 社会福祉における人の問題
 - 1) 人の問題の重要性
 - 2) 社会福祉従事者の動向
 - 3) 職種の問題
 - 4) 社会福祉職員の専門職論
 - 5) ボランティアの問題
- 7 社会保障と社会福祉
 - 1) 社会政策と社会事業
 - 2) 社会保障と社会福祉

成績評価の方法

評価は、前期末と年度末の2回の試験の総合評価とする。

教科書

仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

講義の内容を上記のテキストのみでは十分にカバーすることができないので、講義の進行にあわせて必要な参考文献を紹介する。なお、本講の内容は極めて広い範囲にわたるので、この参考文献にもとづいて各自学習を深めることを求めたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|---------------------|---------|-----|
| 社 会 福 祉 原 論 | ふな 船 水 かず ひろ 浩 行 ゆき | 社福主事2必 | 4 |

講義のねらい

「社会福祉」という言葉は、現代社会ではとてもポピュラーな言葉となっている。新聞、テレビ等においても、しばしば目にし、また耳にする。選挙があれば、国政・地方、首長・議員いずれのレベルでも多くの候補者がその充実を公約に掲げる。

しかしながら、改めて「現代社会における社会福祉とは何なのであろうか」とか、「社会福祉の援助や活動とはどのようなものなのであろうか」とか、「社会福祉の基盤となっている考え方はどのようなものなのであろうか」といったことを問われた時、多くの人々はなかなか上手く答えることができないのが現実と思われる。

一方、わが国の社会福祉は、現在、「社会保障構造改革」「社会福祉基礎構造改革」「介護保険の創設」等のキーワードに代表されるように、大きな転換期を迎えている。

本講の主題は、上記にあげたような社会福祉を学んでいくにあたってのベースとなる点を学習し、わが国における社会福祉のあり方を考察していくことにある。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の理念とその意義
- 2 社会福祉の対象と援助の形態、方法
- 3 社会福祉サービスの体系
- 4 社会福祉の法体系、実施体制、財政
- 5 社会福祉の動向

成績評価の方法

各学期末の試験、課題レポート、出席状況、等の総合評価により実施します。詳細は、授業時に提示します。

教 科 書

新・社会福祉双書編集委員会編『新・社会福祉双書1 社会福祉概論Ⅰ』（全国社会福祉協議会）

参 考 書 等

随時、紹介します。

(2) 選択科目

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|------------------------|------------|-----|
| 法 学 (福 祉) | こ ばやし ひろ ひと 小 林 弘 人 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

社会福祉法制として理解されている各種の法令の意義・内容を理解することを目標とする。具体的には、社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明をする。

講義の内容・ 授業スケジュール

[目標]

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法および行政法の基礎を理解させる。

[内容]

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 物権
 - 3) 契約
 - 4) 不法行為
 - 5) 親族
 - 6) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 行政手続き
 - 5) 地方行政組織

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------------|------------|-----|
| 社会福祉発達史 | ほやし 林 ちよ 代 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

成績評価の方法

後期にレポートを提出してもらい、それによって行なう。

教科書・参考書等

今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------|-----------------------|------------|-----|
| リハビリテーション論 | ほら だ しん いち 原 田 信 一 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

総合リハビリテーションの中で、学問的に著しく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれる。その理由として考えられるのが、この分野は、内蔵する問題が広汎、多岐に亘っているばかりか、いずれも難解な社会福祉問題を抱えていることが、著しい遅滞をもたらす原因となっているといわれている。そこで、とくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、障害をめぐる社会問題と諸環境問題、隣接科学と実践問題として、グローバルな視角から社会リハビリテーションの国際的展望などを主眼において講述する。

講義の内容・
授業スケジュール

本講は、つぎのような骨子にもとづきすすめる。

- | | |
|---------------------------|-----|
| 1. 社会リハビリテーションの基本問題 | 前 期 |
| 2. 障害をめぐる社会問題と諸環境問題 | |
| 3. 社会リハビリテーションの実践とその方法 | 後 期 |
| 4. 社会リハビリテーションを支える隣接科学と実践 | |
| 5. 社会リハビリテーションの従事者教育 | |
| 6. 社会リハビリテーションの国際的展望 | |

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

レポート乃至は、筆記試験を実施する。なお、評価は、出席点も加味する。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

講義中、随時指示する。

そ の 他

講義形式が中心。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------------|------------|-----|
| 社 会 保 障 論 | ふな 船 みず 水 ひろ 浩 ゆき 行 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

現代社会における私たちの生活は、多くの場合、働いて収入を得ることによって成り立っている。これにより、食べるもの、着るもの、住むところなどを手に入れる。しかし、働く力を失った人、働く機会に恵まれない人など、所得を得ることができない人々はどうするのであろうか。また、人々の生活そのものを荒廃させかねない、病気やケガになったらどうするのであろうか。社会保障は、このような所得の欠乏、疾病への対応として、所得と医療の保障を主たる目的に形成されてきた。そして、現代社会においては、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となっている。

本講義では、この社会保障が、どのような考え方に基づいて形成されてきたものであるのかを踏まえた上で、①現代社会における社会保障の役割と意義はどのような点にあるか、②「社会保障構造改革」という言葉に代表されるように、転換期を迎えているわが国の社会保障制度の課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 現代社会と社会保障
- 2 社会保障制度の体系
- 3 年金保険
- 4 医療保険
- 5 介護保険
- 6 労働保険
- 7 民間保険
- 8 社会保障の運営管理
- 9 「社会保障構造改革」と今後の社会保障制度

成績評価の方法

学期末毎の試験、レポート課題、出席状況等を勘案し、総合評価します。

教 科 書

福祉士養成講座編集委員会編集『改訂社会福祉士養成講座 5 社会保障論』（中央法規）

参 考 書 等

総理府社会保障制度審議会事務局編『社会保障統計年報』（法研）
厚生省大臣官房政策課監修『社会保障入門』（中央法規）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|---|------------|----|
| 社会福祉計画論 | かわ 川 廷 宗 之 <small>か たい もと ゆき</small> | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面も強調されるように変化してきたことよって起きている近年の社会福祉サービスの領域の拡大は、そのサービス提供を組織的計画に行わなければならない段階に到達しつつある。このような需要の増大に対応した行政計画の考え方は、建設領域や産業振興領域において戦後の長い蓄積がある。が、福祉領域においては、計画化の歴史は短い。その理由は、福祉には建設や産業振興とは違う要素が多く、計画的展開に馴染みにくかったことや、問題対応的な福祉サービスから抜けきれなかったためである。とすれば、福祉計画を考える時、これらの産業計画や建設計画と、福祉計画の性格がどのようにことなるのかが考察されなければならない。

さらに、計画は実際の市民生活に多大な影響を与える実践である。その意味では、計画をどう作るのか、その手法も大きな問題となる。

講義の内容・授業スケジュール

上記のような問題意識にもとづいて、福祉を中心のその計画（国家計画、地域計画、地域福祉計画、施設経営計画、市民生活の計画、等々）について学ぶが、その前提としては、福祉運営管理等についてもふれておく必要がある。ソール・アドミニストレーションの理論についての学習や日本における施設の運営管理上の課題などについても触れる予定である。

理論的内容を前期、実践的な計画技術についての考察や演習を後期に履修する。講義内容やスケジュールの詳細については、開講第1～2回の授業で説明する。なお、受講者数にもよるが、実際の計画立案技術の演習等も行なう予定であるので、それらの演習には、質問や意見の提案など積極的な関わりを期待している。

履修上の留意点

この講義では、開講第1～2回で全体のスケジュール等を説明するので、必ず第1回から出席していただきたい。途中からの受講では事実上単位習得は難しいと理解してほしい。

社会計画はすぐれて実践的に学ばないと理解しがたい点も多い。そのため、授業ごとに資料を探したり読んで来る簡単な課題がだされることも多い。従って、欠席すると授業で何をしているのか理解できなくなる可能性が高いので、なるべく欠席しないように、又、実習等でやむを得ず欠席する場合は、受講する友人に内容を聞いておいてください。

なお、文学部社会学科福祉コースの学生以外の諸君が選択する場合は、この科目が社会福祉原論や社会福祉援助技術総論などで学ぶ福祉に関する基礎的な知識を前提として開講されている点を理解して、関係領域についての文献を読むなどの自己学習を並行して行っていただきたい。特に、社会福祉援助技術総論にでてくるソーシャルワークの基本的な考え方やコミュニティ・オーガニゼーション理論などについては、必ず習得しておいていただきたい。

成績評価の方法

日常的な課題の提出状況、授業への質問や、意見を積極的に出しているかどうか、などに見る授業への参加度、期末に行なわれるレポートの提出、出席状況（最低出席日数の確保）等を配慮して、評価する。

教科書

第1回日の授業時に指定する。

参考書等

- ① 高田真治『社会福祉計画論』（誠信書房）1979年
- ② R. パールマン A. グリン著 岡村重夫 監訳『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』（全国社会福祉協議会）1980年
- ③ 全社協編『地域福祉計画——理論と方法——』（全国社会福祉協議会）1984年

その他

計画の立案演習を行う過程で、若干の資料代やコピー代が必要になると予想される。出来るだけ負担を軽くするようにするが、一部の学習経費の自己負担は止むを得ないので、若干の教材費については予定して選択してもらいたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------|--------------------|------------|-----|
| 国 際 社 会 福 祉 論 | やまもと まみ 山 本 真 実 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

国際社会における福祉、社会福祉における国際化、「国際社会福祉」を捉える視点に定義はない。日本以外の国の生活を通して、社会福祉とは何かを考えること、また国際社会において発生する軋轢や衝突、問題等に対応し解決していくものとして社会福祉をどのように考えるかを考察していくことを目的とする。また、社会福祉を実践サービスとして捉えるよりも、それを支える理念や目的などの概念・考え方を中心にしながら学習していく。「福祉」の意味を諸外国の実態や関係を通して学習していく。

講義の内容・
授業スケジュール

二つの柱を通して国際社会福祉の理解を深めていく。まず、一つは福祉先進国と言われる北欧の社会福祉制度・サービス、ベトナムやフィリピン等の途上国の社会福祉制度、生活等各国の実情を通して、日本の社会福祉の現状や考え方について振り返り、見直すこと。二つ目は、国際社会において発生する貧困、戦争、児童労働、異文化への理解等テーマごとにどのような取り組みがあるかを学習し、生活を支える社会福祉制度の在り方について考察する。

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

出席状況、レポート、試験の総合評価により評価する。
適宜意見・感想を記入するカードを配布。積極的な討議、意見発表を高く評価する。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

適宜授業中に紹介。

そ の 他

ビデオ使用
意見交換

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------------------|------------|-----|
| 保健福祉論 | なが お じょう 長 尾 譲 治 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

保健福祉学とは、保健学・福祉学、及び関連諸科学を統合し、これまでのように為政者の都合によるサービス提供に代わって、利用者の立場に立ったサービスのあり方を考える新しい社会福祉の分野である。本講義では、保健福祉学の視座に基づいて、従来の社会福祉諸サービスを再構成し、これからの生活関連諸サービスの動向と課題について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 保健福祉とは
保健福祉の歴史／保健福祉学の視座
- 2 日本のヘルスケア制度の体系
健康保険／国民健康保険／老人保健／福祉医療／クライアントの人権とこれからのヘルスケア
- 3 ライフサイクルと保健福祉
児童／成人／老人／ターミナル・ケア／女性と保健福祉
- 4 傷病別に見た保健福祉
身体障害／知的障害／精神障害／難病・結核／ハンセン病／AIDS
- 5 リハビリテーションと保健福祉
リハビリテーションの理念と実際／福祉機器・用具サービス
- 6 保健福祉の国際的動向
先進諸国／開発途上国／日本
- 7 保健福祉の課題
保健福祉計画／規制と情報公開／バイオエシックスとインフォームド・コンセント

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

参考書等

追って紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|------------|-----|
| 公的扶助論 | い どう しゅう いち 伊 藤 秀 一 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。
講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。併せてイギリスの福祉権運動（Welfare rights work）の動向等にも触れる。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

成績評価の方法

出席状況、小テスト、学年末定期試験を総合して評価する。

教科書

なお、テキスト等については開講時に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|------------|-----|
| 障 害 者 福 祉 論 | はら だ しん いち 原 田 信 一 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

障害者福祉は、障害者のもつ障害を可能な限り軽減し、一般の人々と同様の生活条件と生活のやすらぎを享受できるようにすることにある。旧来から持ち続けてきた陋習から脱皮し、憲法に明文化されている条文にも合致した、新しい価値観、障害者観を創造し、これを国民の意識の中に定着させることを目指すことにおいて、障害者福祉は、社会福祉の体系の中で、特質あるものとして位置づけることができる。

こうした中で、現代社会においては、ようやく障害者の理解を深めながら、地域を基盤にした援助活動の推進を通して、障害者と「共に生きる」(normalization)という共感関係を育てる方向へと動きつつある。そこで、本講では、障害者の多様で高度化を要するニーズの実態を披瀝し、それらを受容でき得る援助活動のあり方、更に、課題などについても論及する。

講義の内容・
授業スケジュール

障害者福祉の講述は、つぎのような四つの体系化にもとづいて巨視的、微視的な視角から接近し、概説する予定である。

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 障害者福祉のとらえ方 | } 前 期 |
| 2. 障害者福祉の対象 | |
| 3. 障害者福祉の主体 | } 後 期 |
| 4. 障害者福祉サービスと課題 | |

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

レポート乃至は筆記試験を実施する。なお、評価は出席点も加味する。

教 科 書

星野他編『障害者福祉論入門』(改訂版)(有斐閣双書)1,900円

参 考 書 等

講義中、随時指示する。

そ の 他

講義形式が中心である。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------------|------------|-----|
| 老 人 福 祉 論 | とう じょう みつ まさ 東 條 光 雅 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

老人虐待の多発、家族介護の深刻化、社会保険料の負担増、老齢年金の減額、介護保険の導入決定等、老年期や高齢者に関する事柄が、近年富にマスメディアを賑わしている。こうした事柄が騒がれる背景は、世界一の「人生80年」という長寿化の進行と急激な少子化による日本社会の高齢化である。

わが国の高齢化の度合いはいよいよ欧米社会のそれに匹敵するまでとなり、近未来の21世紀には人類未曾有の高齢社会を迎えようとしている。その21世紀に高齢者となるのは、現在“青・壮年期”にある人々である。これから一層高度化してゆく高齢社会、深刻化してゆく高齢者問題にどのように準備し対応してゆくかは、日本社会にとって大変重要な問題である。

本講義では、社会的対応策としての老人福祉の制度・政策についてのみでなく、対象者理解の観点から高齢者や老年期の特性をも含み、幅広く講じてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期⇒・人口高齢化の意味

- ・高齢者問題の背景
社会変動、家族変動
- ・高齢者の生活問題
- ・老化と老年期の身体疾患、身体障害、精神障害
- ・高齢者の保健福祉ニーズ
ニーズ把握の方法、保健福祉ニーズの種類

後期⇒・老人保健福祉法制と関連施策

- 近年の制度及び政策の動向、老人保健法、老人福祉法、介護保険法、関連施策
- ・老人保健福祉の供給システムと財源
供給システムとは、供給システムの仕組み（含む、シルバーサービス）、財源、マンパワー
- ・在宅サービスの制度と処遇
在宅サービスの制度的枠組み、在宅サービスの歴史・理念・目標、在宅サービスの種類、在宅サービスにおける援助事例
- ・施設サービスの制度と処遇
入所（入院）施設の種類と概要、社会福祉分野の入所施設、保健・医療分野の入所（入院）施設、施設における処遇、施設サービスにおける援助事例
- ・地域及び住環境の整備と福祉機器

履修上の留意点

この授業は講義形式で進めてゆくが、毎回受講生を指名して質問に回答してもらったり、意見発表をしてもらう。内職や居眠りは出来ないで、そのつもりで履修すること。

成績評価の方法

出席点、夏季休暇中のレポート、年度末の定期試験の3つを総合して評価する。しかし、評価は原則的には年度末試験の得点によって行う。出席率が70%を切る（諸実習による公欠は出席扱いとする）場合は、試験そのものの受験を認めない。また、夏季休暇中のレポート点は、定期試験での得点がボーダーラインに位置する学生においてのみ考慮するものである。

教科書

冷水豊編『老人福祉論』（メヂカルフレンド社）1,900円
冷水豊編『老人福祉－政策・処遇の視点と方法－（第三版）』（海声社）2,000円

参考書等

適宜紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|------------|-----|
| 児 童 福 祉 論 | この 許 斐 めう 有 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

本講義では、「児童福祉」を《社会的子育てシステム》と捉え、現行の児童福祉の法制度を検討しながら、子どもを養育する社会の責任および公的責任、子育てに対する公的・社会的支援・援助のあり方を考察する（子ども家庭福祉論）。また、児童福祉法の成立・展開課程や子どもの権利条約等の検討を通して、子どもの権利の基本的な考え方および児童福祉法の基本理念を学び、《子どもの権利擁護システム》としての児童福祉法制度について理解を深める。なお、これらの参考として、カナダの子ども家庭サービスについても言及したい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 子どもの現状と子どもの人権
- 2) 子ども家庭政策の展開と最近の動向
- 3) 子どもの権利の考え方
- 4) 児童福祉法の理念
- 5) 子ども家庭福祉に関する法制度
- 6) 子ども家庭福祉サービスの現状と課題
- 7) 児童虐待の実態と相談援助の実際
- 8) カナダの子ども家庭サービス

履修上の留意点

受講学生には、児童福祉を知識として学ぶだけでなく、子どもが権利の主体であるという新たな理念を正しく理解し、子どもと家庭に対する支援・援助のあり方を自分なりに考えることを期待している。

成績評価の方法

主として学年末の試験によるが、レポート等の成績を加味することもある。

教科書

許斐有『子どもの権利と児童福祉法』（信山社）
『社会福祉小六法』（出版社は問わない）

参考書等

永井憲一・寺脇隆夫編（許斐共著）『解説・子どもの権利条約』（日本評価論社）
ささやななえ（椎名篤子原作）『凍りついた瞳－子ども虐待ドキュメンタリー』（集英社）ほか

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------|------------|-----|
| 女 性 福 祉 論 | はやし 林 千 代 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

歴史を省みるに、女性は社会構造の所産である性差別を根底に、社会的・経済的・精神的なしわよせを受けてきた。女性問題としての発生がそれである。女性が当面する生活の困難や矛盾に対して、社会福祉がかかわる部分はきわめて大きい。

女性を社会福祉の対象者（利用者）としてとり組んできたのは、婦人保護事業（売春防止法）である。それを基底に据えて、社会福祉の分野における女性問題の把握、その発生と解決について考え、女性のそして当然男性の人権の確立をめざす内容とした。

成績評価の方法

成績評価は、後期にレポートを提出してもらいそれによって行なう。

教科書

教科書は特に無いが、資料等は必要に応じて配布する。ビデオなども使用する予定である。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------|------------|-----|
| 医 療 福 祉 論 | はるみしずこ 春見静子 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

保健・医療の領域における医療福祉職の実践について理解する。
医療ソーシャルワークがどのような学問を基礎とし、どこで、いかなる援助技術を用いてなされるかを学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は理論を中心とした講義、後期は実践現場での事例を通して援助技術を学ぶ。
前期

社会福祉とソーシャルワーク
医療ソーシャルワークの歴史 英国、アメリカ、日本
専門職としての医療ソーシャルワーカー 倫理綱領と業務基準
医療について：健康と病気の概念 キュアとケア
医療機関について
疾病分類と医学知識 リエゾン精神医学 心身症
援助手段としての社会資源
援助関係 面接の技術 援助過程

後期

外来段階のソーシャルワーク
入院段階のソーシャルワーク
精神保健の領域
医療ソーシャルワークの実際 機関別と対象別の実践

履修上の留意点

医療福祉に興味ある人とくに将来、その領域で働きたいと考えている人を歓迎します。

成績評価の方法

出席点と期末試験で評価します。

教 科 書

山川哲也著『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）2,500円

そ の 他

医療機関の見学と、現場の医療ソーシャルワーカーの特別講義を行う。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|------------|-----|
| 地域福祉論 | わた なべ かず くに 渡 辺 一 城 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

我が国の社会福祉はいま正に大きな制度的転換期にあるが、この制度改革の基本的考え方となっているのが「地域福祉」である。これは、児童福祉、障害者福祉、老人福祉といった対象別分野論ではなく、人間が生活する圏域つまり地域ないしはコミュニティに焦点を当て、様々な福祉課題の解決に取り組んでいくための視点や方法を内包した実践領域ということができる。

この講義では、こうした認識の下で、これから社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の視点や方法及び課題について学ぶことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は主として次の事項を扱う。

- ・現代社会におけるコミュニティと地域福祉
- ・社会福祉制度改革の動向と地域福祉
- ・地域福祉計画の意義と内容
- ・市町村行政や社会福祉協議会などの地域福祉推進組織とその連携
- ・在宅福祉サービスのあり方と供給体制
- ・地域福祉の資源（人材、財源など）の活用と開発
- ・ボランティア活動、NPO 活動とその支援システム など

成績評価の方法

出席、試験、レポートなどにより評価を行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『三訂 社会福祉士養成講座 地域福祉論』（中央法規）2,500円

参考書等

授業時に必要に応じて提示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|--------------------|------------|-----|
| 社会学（福祉） | はし つめ さとし 橋 爪 敏 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講義は、社会福祉士ならびに精神保健福祉士・社会福祉主事を目指す学生に「社会学」についての基本的な知識の提供を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

[目標]

- 1 現代社会の特質について理解させる。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解させる。
- 3 現代社会における社会問題について理解させる。

[内容]

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------|------------------------------|------------|-----|
| 心 理 学 (福 祉) | たか 高 はし 橋 よし 良 ひろ 博 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

- 1 心理学の基本概念をふまえ、人間理解のための基本的知識の理解と習得。
- 2 乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・高齢期など人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴についての理解。
- 3 援助を要する人々とかかわって行くための心理的援助技術の概要の理解と習得をはかり、援助者としての資質を高めるための自己理解をもとめる。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の予定としては、以下の項目についてふれて行く予定である。

- 1 人間の心理学的理解 ①心理学の定義と、領域および研究法 ②欲求・動機づけ ③感情・情動 ④感覚・知覚・認知 ⑤学習・記憶・思考 ⑥知能・創造性 ⑦人格 ⑧適応と不適応
- 2 人間の成長・発達の心理 ①発達段階と生涯発達 ②発達課題と高齢期 ③発達の障害と発達援助
- 3 人間理解のための心理学理論と技法 ①基礎理論；心理学的援助技術の基本的人間観 ②心理測定と診断
- 4 心理的援助技法の概要 ①心理療法（総論） 心理療法の歴史と種類 ②心理療法（各論） 精神分析・カウンセリング・家族療法・行動療法・認知療法・森田療法・自律訓練法など

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）などを総合して評価を行う。

教 科 書

福祉士養成講座編集委員会編『三訂 社会福祉士養成講座 11 心理学』（中央法規）2,500円（税別）

法律学科フレックスB
第 2 部 法 律 学 科

1. 専門教育科目

法律学科フレックスB・第2部法律学科

授業時間表の区分「A」の科目を履修する場合は、
フレックスAの頁を参照してください。(→P.9)

1. 専門教育科目

法律学科フレックスB・第2部法律学科

※印の科目については、法律学科フレックスA・第1部法律学科の頁を参照してください。

| | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---|--------|---------|---------|--------|-------|--|--------|-----|
| 法 | 学 | 概 | 論 | 〈北野かほる〉 | 393 | | | | | |
| 憲 | | | 法 | 〈斉藤寿〉 | 394 | | | | | |
| 民 | 法 | 総 | 則 | 〈河野弘矩〉 | 395 | | | | | |
| 刑 | 法 | 総 | 論 | 〈山口邦夫〉 | 396 | | | | | |
| 会 | | 社 | 法 | 〈荒木正孝〉 | 397 | | | | | |
| 国 | | 際 | 法 | 〈王志安〉 | 398 | | | | | |
| 行 | 政 | 法 | 総 | 論 | 〈金子昇平〉 | 399 | | | | |
| 裁 | | 判 | 法 | 〈雨宮眞也〉 | 400 | | | | | |
| ※比 | 較 | 憲 | 法 | 〈斉藤寿〉 | (35) | | | | | |
| ※親 | | 族 | 法 | 〈竹中智香〉 | 402 | | | | | |
| ※法 | 社 | 会 | 学 | 〈岡寄修〉 | (37) | | | | | |
| 日 | 本 | 法 | 制 | 史 | 〈茂野隆晴〉 | 403 | | | | |
| 西 | 洋 | 法 | 制 | 史 | 〈休講〉 | | | | | |
| 刑 | 事 | 政 | 策 | 〈斎藤静敬〉 | 404 | | | | | |
| 法 | 思 | 想 | 史 | 〈高橋洋城〉 | 405 | | | | | |
| 政 | 治 | 学 | 原 | 論 | 〈大塚桂〉 | 406 | | | | |
| ※マス・コミュニケーション | | | 論 | 〈相田敏彦〉 | (43) | | | | | |
| ※政 | 治 | | 史 | 〈楠精一郎〉 | (44) | | | | | |
| 経 | 済 | 原 | 論 | 〈藤原碩宣〉 | 407 | | | | | |
| 行 | 政 | 学 | | 〈休講〉 | | | | | | |
| ※法 | 律 | 時 | 事 | 英 | 語 | 〈牧野和夫〉 | (46) | | | |
| 現 | 代 | 法 | の | ト | レ | ン | ド | 〈高橋洋城・岡田外司博・山田泰彦・林幸司 竹中智香・青野博之・藤本茂〉 | 408 | |
| 基 | 礎 | 憲 | 法 | 演 | 習 | 〈中野辰久〉 | 410 | | | |
| 基 | 礎 | 民 | 法 | 演 | 習 | 〈早坂亨〉 | 411 | | | |
| 基 | 礎 | 刑 | 法 | 演 | 習 | 〈木村美隆〉 | 412 | | | |
| 物 | | 権 | 法 | 〈鶴井俊吉〉 | 413 | | | | | |
| 債 | 権 | 総 | 論 | 〈青野博之〉 | 414 | | | | | |
| 債 | 権 | 各 | 論 | 〈林幸司〉 | 415 | | | | | |
| 刑 | 法 | 各 | 論 | 〈松村格〉 | 416 | | | | | |
| 有 | 価 | 証 | 券 | 法 | 〈島原宏明〉 | 417 | | | | |
| 登 | | 記 | 法 | 〈田沼浩〉 | 417 | | | | | |
| ※英 | | 米 | 法 | 〈北野かほる〉 | (53) | | | | | |
| ※独 | | | 法 | 〈山口邦夫〉 | (55) | | | | | |
| ※仏 | | | 法 | 〈上井長久〉 | (54) | | | | | |
| ※法 | | 哲 | 学 | 〈高橋洋城〉 | (59) | | | | | |
| 行 | 政 | 法 | 各 | 論 | 〈塩入みほも〉 | 418 | | | | |
| 税 | | 法 | 〈岸田貞夫〉 | 419 | | | | | | |
| 地 | 方 | 自 | 治 | 法 | 〈富井幸雄〉 | 419 | | | | |
| 国 | 際 | 紛 | 争 | 解 | 決 | 法 | 〈王志安〉 | 420 | | |
| 担 | 保 | 物 | 権 | 法 | 〈鶴井俊吉〉 | 421 | | | | |
| 相 | | 続 | 法 | 〈竹中智香〉 | 422 | | | | | |
| 商 | 法 | 総 | 則 | ・ | 商 | 行 | 為 | 法 | 〈関口雅夫〉 | 422 |

| | | |
|----------------------|-------------|------|
| 保 險 ・ 海 商 法 | 〈山 田 泰 彦〉 | 423 |
| 民 事 訴 訟 法 | 〈杉 浦 智 紹〉 | 424 |
| 民 事 執 行 ・ 保 全 法 | 〈榎 善 夫〉 | 426 |
| 倒 産 処 理 法 | 〈馬 越 道 夫〉 | 427 |
| 刑 事 訴 訟 法 | 〈橋 本 裕 藏〉 | 428 |
| 勞 働 働 働 法 | 〈藤 本 茂〉 | 429 |
| 社 会 保 障 法 | 〈 休 講 〉 | |
| 金 融 法 | 〈川 田 悦 男〉 | 430 |
| 経 済 法 | 〈岡 田 外 司 博〉 | 431 |
| 国 際 私 法 | 〈笠 原 俊 宏〉 | 432 |
| 環 境 法 | 〈松 村 弓 彦〉 | 433 |
| 知 的 財 産 権 法 | 〈盛 岡 一 夫〉 | 433 |
| 財 政 学 | 〈速 水 昇〉 | 434 |
| 国 際 関 係 論 | 〈前期：南山 淳〉 | 435 |
| | 〈後期：首藤素子〉 | |
| 経 済 政 策 | 〈西 山 司〉 | 436 |
| ※証 券 取 引 法 | 〈春 田 博〉 | (63) |
| ※国 際 取 引 法 | 〈横 山 真 規 雄〉 | (67) |
| ※航 空 ・ 宇 宙 法 | 〈関 口 雅 夫〉 | (61) |
| ※消 費 者 法 | 〈青 野 博 之〉 | (62) |
| ※社 会 政 策 | 〈浜 村 彰〉 | (69) |
| ※外 交 史 | 〈前期：石井 修〉 | (71) |
| | 〈後期：首藤素子〉 | |
| ※政 治 思 想 史 | 〈小 林 正 敏〉 | (71) |
| ※外 書 講 読 (英 書) | 〈青 野 博 之〉 | (72) |
| ※外 書 講 読 (英 書) | 〈金 子 昇 平〉 | (72) |
| ※外 書 講 読 (独 書) | 〈松 村 格〉 | (73) |
| ※外 書 講 読 (仏 書) | 〈中 野 裕 二〉 | (73) |
| ※外 書 講 読 (中 国 書) | 〈江 林 英 基〉 | (74) |
| ※外 書 講 読 (ス ペ イ ン 書) | 〈佐 藤 玖 美 子〉 | (74) |
| 応 用 憲 法 演 習 | 〈 休 講 〉 | |
| 応 用 民 法 演 習 | 〈 休 講 〉 | |
| 応 用 刑 法 演 習 | 〈 休 講 〉 | |
| 演 習 I ・ II | 〈青 野 博 之〉 | 437 |
| 演 習 I ・ II | 〈大 宮 隆〉 | 437 |
| 演 習 I ・ II | 〈金 子 昇 平〉 | 438 |
| 演 習 I ・ II | 〈佐 藤 多 美 夫〉 | 438 |
| 演 習 II | 〈杉 浦 智 紹〉 | 439 |
| 演 習 I ・ II | 〈西 修〉 | 440 |
| 演 習 I ・ II | 〈林 幸 司〉 | 441 |
| 演 習 I ・ II | 〈山 田 泰 彦〉 | 442 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|--------------|------|----|
| 法学概論 | きたの 北野かほる | 法B1必 | 4 |

講義のねらい

これから法学を学んで行くための基本的観点と感覚を養うため、「法」と社会と人間との関わりについての一般的考察、「法」の社会的機能の要点、を概観し、「法学」の全般的機能を考察した上で、「法学」を学ぶことの意味を改めて考える。また、今後の学習の指針として、現代日本の法学の諸分野とその大まかな特徴を解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 社会と法
 - 第1章 一般的考察
 - 第1節 人間と法
 - 第2節 規範と権力
 - 第3節 正義
 - 第2章 集団生活と規範
 - 第1節 社会集団
 - 第2節 規範
 - 第3節 法的思考
- 第2部 近代日本の法
 - 第1章 近代日本の系譜
 - 第1節 日本の法的近代化
 - 第1章 近代日本の法
 - 第1節 近代日本法の特徴
 - 第2節 日本近代法の分類
 - 第3節 現代日本法の動向

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく制限する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教科書

特に指定しない。

参考書等

年度当初に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-------------------|--------------|-----|
| 憲 法 | さいとう ひさし 齊 藤 寿 | 12以降入学生/法B1必 | 4 |
| | | 11以前入学生/法B1選 | |

講義のねらい

「憲法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、憲法原理の究明を、興味深く行います。特にこの講義は、理論とともに生きた事例と判例を重視しながら行います。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回 憲法概念－権力と国家と憲法－について
- 第2回 近代憲法と現代憲法の基本原理について
- 第3回 明治憲法の成立と特質について
- 第4回 日本国憲法の成立と制定法理について
- 第5回 日本国憲法の動向について
- 第6回 日本国憲法の体系と基本原理について
- 第7回 天皇の地位と権能について
- 第8回 国民の基本的人権について
- 第9回 平等権規定の態様と原理について
- 第10回 精神的自由権規定の態様と原理について
- 第11回 経済的自由権規定の態様と原理について
- 第12回 人身的自由権規定の態様と原理について
- 第13回 人身保護権規定の態様と原理について
- 第14回 救済権規定の態様と原理について
- 第15回 参政権規定の態様と原理について
- 第16回 社会権規定の態様と原理について
- 第17回 新しい人権について
- 第18回 国民の義務について
- 第19回 平和主義と日本国憲法について
- 第20回 統治機構と権力分立制について
- 第21回 国会の地位と構成と権能について
- 第22回 内閣の組織と権能と責任について
- 第23回 裁判所の地位と構成と権能について
- 第24回 憲法訴訟原理と違憲審査制について
- 第25回 財政の原則と予算と決算について
- 第26回 住民自治と団体自治の原理について
- 第27回 憲法保障の意義と方法について
- 第28回 国法の諸形式について
- 第29回 試 験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「憲法」を楽しく研究してみませんか。

— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------------|-------------------------------------|----|
| 民法総則 | こうののひろのり 河野弘矩 | 12以降入学生/法B1・2・3・4選必 11以前入学生/法B1選 | 4 |

講義のねらい

民法とは、実質的意義においては、私法関係を規律する原則的・一般的な法を指し形式的意義においては民法典を指している。民法典は、財産法領域を物権と債権に分け、それに家族法領域の親族と相続に関する規定を加え、それらの通則として最初に「総則」規定を置くといった五編から構成されている（「総則」規定は、財産法領域の総則であり、家族法領域にはそのまま適用されない）。民法典の編纂にあたり最初に抽象的命題を置き、次に具体的な法命題へと下降するといった手法を採用したため、最初の編である民法総則は、抽象的で、理解しにくい規定が多く、民法典の中では比較的難解な編であると言われている。本講義では、可能な限り具体的事例を通して、抽象的理論の理解をより容易にし、受講者の知的好奇心・学問的興味を深めていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

民法総則は、その全体が「権利」を中心に、先ず「権利の主体」、「権利の客体」、続いて「権利の変動」といった順序による体系的な構成を採用している。本講義もその体系にしたがい進行する。一年間の前半で「権利の客体」までを終了し、「権利の変動」については夏休み以降に行う予定である。講義の中で、民法の条文は当然のこと、それ以外の特別法の条文をも参照する機会が多いため、必ず六法を持参して受講されたい。

- 一 序論（民法の意義、基本原則、信義則と権利濫用）
- 二 権利の主体
 - 1 自然人（権利能力、意思能力、行為能力、無能力者の相手方の保護、住所、不在者）
 - 2 法人
- 三 権利の客体（物の概念、不動産と動産、主物と従物、元物と果実）
- 四 民法総則前半についての質疑応答
- 五 権利の変動
 - 1 法律行為（法律行為の意義、種類、法律行為の解釈）
 - 2 意思表示
 - (1) 意思と表示の不一致
 - (2) 瑕疵ある意思表示
 - (3) 意思表示の効力発生時期
 - 3 法律行為の代理（代理の概念、代理権、代理行為、復代理、無権代理）
 - 4 法律行為の効力（無効、取消）
 - 5 法律行為の効力の制限（条件、期限）
- 六 時効（序論、取得時効、消滅時効）
- 七 民法総則全体についての質疑応答
毎回の講義終了後の教場か研究室においても質問を受ける。

履修上の留意点

毎週必ず出席をすること。継続しての受講が、理解の早道です。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。

教科書

河野弘矩『民法総則講義』（八千代出版）

参考書等

基本コンメンタール『民法総則』（日本評論社）

その他

六法全書は、ポケットサイズの六法全書で良いです。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|---------------------|-----|
| 刑 法 総 論 | やまぐちくに お 夫 山 口 邦 夫 | 12以降入学生/法B1・2・3・4選必 | 4 |
| | | 11以前入学生/法B1選 | |

講義のねらい

一年次の専門科目として、高校時代の学習あるいは予備校時代の勉強方法から、一日も早くぬけ出し、大学における真の学問を学ぶ姿勢になってもらうことを主眼に講義をする。大学生の自覚をもって、講義や読書を通じて、みづから積極的に研究する態度を身につけるように諸君も努力してほしい。

講義の内容・
授業スケジュール

一年間を次の4期に分けて講義をする。Ⅰ期(4・5月)、Ⅱ期(6・7月)、Ⅲ期(9・10月)、Ⅳ期(11・12月)、1月の1回は、質問日とする。

Ⅰ期。学問とは何か。特に学問の限界について考える。それから、法律学とは何か。法律学の体系における刑法学の位置づけへと進む。

Ⅱ期。刑法における刑罰と犯罪概念を中心に、法治国家の原則として罪刑を法定しておくことの意味を検討する。

Ⅲ期。ドイツの構成要件論を手がかりに、犯罪論の構築の仕方について、数種のパターンを考えて講義をする。その際、違法と責任との区別を峻別する立場から解説をする。

Ⅳ期。犯罪の既遂・未遂について、昔の学派の対立を考慮しながら、未遂処罰の根拠、さらに過失犯に実行行為があるか否かを考えながら、故意犯と過失犯との区別について検討する。最後に二人以上の犯罪者が加わる共犯の問題について論究し、刑法学の概説を終る。

履修上の留意点

年間を通じて、原則として出席はとらない。ただし、受講者が50名以下の場合は、毎時間出席をとる。また、上記の各期ごとのまとめとして、小テストを時間内に行う予定である。

質問時間は、研究室2719号に掲示してある。毎週2～3時間は、毎年確保しているのので、この時間内は、自由に質問が可能である。

成績評価の方法

上記の小テストが実行できれば、その結果を、年一回の期末試験の成績と一緒に評価し、単位を認定する。

教 科 書

教科書は、原則として使用せずに講義をすすめ、参考書はその度に紹介するので、積極的に読書してほしい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|-------------------|-----|
| 会 社 法 | あら き まさ たか 荒 木 正 孝 | 12以降入学生/法B2・3・4選必 | 4 |
| | | 11以前入学生/法B2選 | |

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、多くの人々に商品やサービス、そして労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を探り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原則を理解してもらうつもりである。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。ところで、商法は、民法を一般法とする特別法であるから、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層分かりやすい。もっともここでは、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履修していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末のペーパーテストの点数で評価します。

教 科 書

荒木正孝著『現代企業法（第3版）』（成文堂）

参 考 書 等

鴻・落合・江頭・岩原編『会社判例百選』第6版（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第2版』（成文堂）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|---------------------|-------------------|-----|
| 国 際 法 | おう 王 し 志 あん 安 | 12以降入学生/法B2・3・4選必 | 4 |
| | | 11以前入学生/法B2選 | |

講義のねらい

国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家及び国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。

後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論及び外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論及び実行、国際地域、国際海域及び宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式及び効力に関する法規制、外交関係及び領事関係における特権及び免除などを取り上げる。

履修上の留意点

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意思をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法

成績は年末の定期試験で決定する。ただし、講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。

教 科 書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）2,700円 1997年

参 考 書 等

市販されている国際条約集

そ の 他

授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、板書する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------|-------------------|----|
| 行政法総論 | かねこしょうへい 金子昇平 | 12以降入学生/法B2・3・4選必 | 4 |
| | | 11以前入学生/法B2選 | |

講義のねらい

現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が続出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、情報公開法、介護保険法、環境アセスメント法等を挙げることが出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。

そこで講義においては、行政法総論での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に提示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 行政と法の関係
 - ①法律による行政の原理 ②行政法の意義と範囲 ③行政法の法形式 ④行政上の法律関係
- 2) 行政主体と私人
 - ①行政主体と行政客体 ②国の行政組織 ③地方公共団体の行政組織 ④行政機関・公務員
 - ⑤行政情報と法
- 3) 行政手続法
 - ①行政立法 ②自治法 ③行政計画 ④行政行為 ⑤行政契約 ⑥行政指導 ⑦行政調査
 - ⑧行政強制 ⑨行政罰
- 4) 行政手続の法
- 5) 行政救済法
 - ①国家賠償法 ②行政上の苦情処理 ③オンブズマン ④行政上の不服申立 ⑤行政訴訟

履修上の留意点

行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を必ず持参すること。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。

教科書

成田頼明他『現代行政法』(有斐閣)

その他

塩野宏他編『行政判例百選』(第三版 有斐閣)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|---------------|-------------------|-----|
| 裁 判 法 | あま 雨 宮 眞 也 | 12以降入学生/法B2・3・4選必 | 4 |
| | | 11以前入学生/法B2・3・4選 | |

講義のねらい

主として、わが国の裁判制度について、その組織と運用の実情を理解させることをもって、この講義の目的とします。

裁判とは、社会関係における利害の衝突、紛争を解決し調整する規律を定めるための、法的な権威を有する第三者の判定です。

社会関係の複雑化と国民の権利意識の高まりとに従いがい、現代社会において裁判の果たすべき役割は、年々その比重を増してきています。

裁判制度の現にある姿を明らかにするとともに、そのあるべき姿を求めるため、特に、裁判の本質、裁判の構造、裁判の論理、裁判と法律の解釈、裁判と事実認定、裁判の機能、判例の成立と意義等の諸論点について、重点を置いて講義します。

裁判における裁判官の思考プロセスにも触れ、法的思考の何たるかをも明らかにしたいと考えています。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義は、後掲の教科書に従って次のように進めて行きます。

第1章 法と裁判の役割

1 民事法の実現と民事手続

- ① 紛争
- ② 法規範
- ③ 訴訟

2 刑事法の実現と刑事手続

- ① 刑事手続の目的
- ② 適切な手続の保証
- ③ 刑事裁判

3 司法権と違憲審査権

- ① 司法権と裁判所
- ② 違憲審査権と司法権の独立

第2章 裁判所制度

- 1 最高裁判所
- 2 高等裁判所
- 3 地方裁判所
- 4 家庭裁判所
- 5 簡易裁判所

第3章 法律家の役割

- 1 裁判官
- 2 検察官
- 3 弁護士
- 4 準法律家
- 5 法曹養成

第4章 裁判の仕組み

1 民事裁判

- ① 民事訴訟の基本構造
- ② 訴えの提起
- ③ 審理の展開
- ④ 証拠調べ
- ⑤ 判決
- ⑥ 上訴(不服申立て)

2 家事裁判

3 行政裁判

- ① 行政訴訟の類型
- ② 行政訴訟の特色

4 刑事裁判

- ① 刑事手続きの流れ
- ② 捜査手続

- ③ 公訴の提起と検察官の役割
- ④ 公判手続の基本原則とその運用
- ⑤ 刑事裁判の課題
- 5 憲法裁判
 - ① 違憲審査制と憲法裁判
 - ② 違憲審査権の運用状況

第5章 裁判をめぐる現代的課題

- 1 市民の裁判を受ける権利
- 2 市民の司法参加
- 3 国際化と裁判

履修上の留意点

教科書を予め読んで、疑問点を把握しておいて下さい。

成績評価の方法

期末試験における論文式テストにより評価します。

教科書

市川正人外著『現代の裁判』（有斐閣アルマ）

参考書等

兼子一・竹下守夫『裁判法』（有斐閣法律学全集）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|----------------|-----|
| 親 族 法 | たけ なか ち か 竹 中 智 香 | 法B1・2選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法A1・2選 | |

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も重視する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』（有斐閣双書）1,648円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円
六法

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|-------------------------------|-----|
| 日 本 法 制 史 | しげの たかの はる 茂 野 隆 晴 | 法 B 1・2 選 12以降入学生/法 A1・2 選 | 4 |

講義のねらい

どんな学問にも史学がある。法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史である。日本法制史は、「日本国民の法律生活の歴史的考察」である。それ故、法制史は過去の制定法規を羅列し、その解釈にのみ留まるものではなく、その法の発生した社会的背景をさぐらなくてはならないのである。

講義では、そうした観点に立ち、国初から近代までの5期に分ち、主な法制を中心に取り上げ、各期の法の特性をできるだけ平易に講述していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 日本法制史とその時代区分
- 2 国生みの神話ほか
- 3 『魏志』倭人伝ほか
- 4 冠位十二階と憲法十七条
- 5 律令の刑罰体系と司法制度
- 6 律令「戸令」
- 7 三世一身法と墾田永年私財法
- 8 御成敗式目
- 9 甲州法度之次第（信玄家法）
- 10 武家諸法度
- 11 五人組帳
- 12 公事方御定書
- 13 田畑永代売買禁止令と分地制限令
- 14 慶安の御触書
- 15 奉公年季の規制
- 16 商家の財産相続
- 17 荻生徂徠の『政談』
- 18 大名貸と御用金
- 19 相对済し令・本公事と金公事・棄捐令
- 20 出奔・欠落・勘当・旧離のことなど
- 21 去状（三下り半）
- 22 大津事件
- 23 登極令ほか
- 24 明治民法総則・親族・相続

履修上の留意点

めいめいには少しだけの私語かも知れないが大きな教室では騒音と化す。そうしたなかでは細やかな授業は不可能です。特に留意してもらいたい点である。

成績評価の方法

学年末試験に、平常点として出席点を加味して行なう。

教 科 書

大久保治男・茂野隆晴〔編著〕『日本法制史史料60選』（芦書房）本体2,000円

参 考 書 等

大久保治男・茂野隆晴〔共著〕『日本法制史』（高文堂出版社）2,980円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------------------|----------------|-----|
| 刑 事 政 策 | さい とう よし へいき 斎 藤 静 敬 | 法B1・2選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法A1・2選 | |

講義のねらい

人間は、なぜ罪を犯すのであろうか。どうすれば、この社会の中から犯罪を防止することができるのであろうか？たしかに、犯罪のない社会を実現させることは非常に困難なことである。しかしながら、実現不可能であるとして、何の努力もせずには、何の解決策にもならない。少しでも犯罪のない社会の実現にむけて努力すべきである。刑事政策を学ぶということは、まさにこの犯罪のない社会の実現にむけて貢献することにある。

講義の内容・
授業スケジュール

刑事政策は犯罪を防遏するための合理的、合目的な手段、方法を探求するものである。そこで、
1. 犯罪現象の類型的考察（例えば、少年犯罪、女性犯罪、性犯罪、暴力団犯罪、公務員犯罪、公害犯罪、精神障害者の犯罪、薬物乱用犯罪、交通犯罪、外国人犯罪。）2. 犯罪者の処遇（例えば、受刑者の法的地位、刑務作業、拘禁の形態、仮釈放。）3. 犯罪者に対する制裁（例えば、死刑、自由刑、財産刑、保安処分）4. 犯罪の司法的処理（例えば、起訴猶予、執行猶予。）……………などについて概説する。

履修上の留意点

1. 講義には、毎回かさかさ出席して欲しい。
2. 毎日、新聞の犯罪記事に目を通しておく。

成績評価の方法

筆記試験

教 科 書

斎藤静敬『刑事政策の諸問題』（創成社）2,800円＋税

そ の 他

講義方式

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|------------------------------|-----|
| 法 思 想 史 | たか はし ひろ き 高 橋 洋 城 | 法 B 1・2 選 12以降入学生/法 A1・2選 | 4 |

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは大まかなアウトラインしか述べることができないが、重点をおくトピックおよび思想家として、以下を予定している。

(前期) ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想（プラトン、アリストテレス）、キリスト教思想（アウグスティヌス）、中世自然法論（トマス・アクィナス）

(後期) 前近代から近代への世界像の転換、近代法の基礎理論とも言える自然権論や社会契約思想（ホッブズ、ロック、ルソー）、これを批判的に受け継ぐドイツ啓蒙期の法思想（カント）、ドイツ観念論の法思想（ヘーゲル）

基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、断片的な紹介ではなく、影響関係や重要な概念枠組の変遷などを重視し、明らかにできればと思う。また狭い意味での法学理論史の枠にとらわれず、各々の法思想を、その時代の人間観やコスモロジーの中に法理解を位置づけて検討し、そうした作業を通じて最終的には、近代という時代が獲得したものと忘却してしまったものについて考えてみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19、20世紀以降の法思想ないし法学理論の諸潮流については、法哲学講義の一環として取り扱うつもりである。

成績評価の方法

定期的記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とする。その他に任意提出課題として、講義で紹介した思想家の著作を読んでレポートを提出してもらえば、一定範囲内で評価に加える。

教科書

ここでは、三島淑臣『法思想史』[新版]（青林書院）4,854円を挙げておくが、講義の補完、通常の学習には自分にあった概説書を選んでもらってかまわない。詳細については講義のはじめに紹介する。

その他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|------------------------------|-----|
| 政 治 学 原 論 | おお つか かつら 大 塚 桂 | 法 B 1・2 選 12以降入学生/法 A1・2選 | 4 |

講義のねらい

○自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

○講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、実際の政治の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を習得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目の研究上必要な基本的な知識を提供することです。

講義の内容・授業スケジュール

○講義のすすめかた

現代政治学のおおよそのアウト・ラインを理解してもらうために、一回・テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

○講義内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、および方法

B 政治の原理的究明

① 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

② 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

③ イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（レティズンシップ）

C 国家の実体論的究明

① 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

② 機能論的究明

～政党、圧力団体

成績評価の方法

本年度もまた、受講者との相談のうえ A・B 両方式のうちのいずれかに決定します。

A方式（レポートによる単位認定）

複数回（前期・後期）のレポートを提出してもらい成績を評価します。課題報告（レポート）の作成をとおして、文献の読解力と書く能力を涵養します。

B方式（試験による単位認定）

中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。

※A方式の場合には、追・再試験は実施しません。B方式は、実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参考書等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-------------------------|-----------------|-----|
| 経済原論 | ふじ 藤 原 ひろ のり 宣 | 法 B 1・2 選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法 A1・2選 | |

講義のねらい

経済学の基本的要件の理解
日本経済の直面する課題
理論と現実の乖離とその説明
といった点を主眼として行います。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、経済学の性格、他分野との関係、成立要件といった基礎と、マクロ経済学国民経済循環、産業連関分析、国民所得概念および国民所得決定論など。
後期では、ミクロ経済学および応用経済学——個別経済主体の行動分析、寡占経済理論、バブルの発生とその崩壊、財政・金融問題など。

履修上の留意点

授業に出席し、ノートをよくとる事が大切です。

成績評価の方法

ペーパーテスト。但し、自発的なレポートやテーマを決めたスクラップ作りなどを試験前に提出すれば、評価に加えます。

教科書

藤原碩宣編著『経済と経済学』（実教出版）
その他は適宜授業中に紹介します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|--|-----------|-----|
| 現代法のトレンド | 高橋 洋城・岡田外司博 山田 泰彦・林 幸司 竹中 智香・青野 博之 藤本 茂 | 法 B 1・2 選 | 4 |
| | | 法 A 1・2 選 | |

講義のねらい

現代社会は大きな変貌を遂げつつあると言われますが、法の領域においてもそれは例外ではありません。本講義では、専門科目の講義では十分に触れることのできない現代的問題について、担当者がそれぞれの専門領域から取り上げ、様々な角度から検討していこうとするものです。なお本年度は、主として私法領域における問題を扱います。

通常形態の講義と異なる点多々あると思われるので、第1回目の講義で履修上の一般的な注意事項の説明と、各講義担当者による講義内容の概要説明を行ないますので、必ず出席し、聞きのがさないようにしてください。

講義の内容・授業スケジュール

以下の順序に従って講義を進めます。各講義は、それぞれ3～4回を予定しています。

1 現代法の展望 高橋洋城

現代法というとき、そこには近代市民法の原理との対比が含まれているが、本講義でもまず近代法原理について概観した上で、現代的法領域に現われている新しい原理や従来の原理の修正などについて俯瞰的に、また歴史的に位置づけ、以降の講義への導入の役割を努めたい。特に近代法がイメージしている人間像への批判、問いなおしについて焦点をあててみたい。

1 日本の産業社会と独禁法 岡田外司博

独禁法の最近の改正動向について、以下の三点を中心に、解説を行なう。

- (1)日米構造協定を契機とする平成3年～4年の課徴金、刑事罰の改正。
- (2)平成9～10年の持株会社禁止の緩和等の企業結合規定の改正。
- (3)現在検討中の民事的救済制度の改善にかかる改正案の背景、内容、評価。

3 日本の会社と会社法 山田泰彦

会社は、経済活動の元手となる資本を結集し、さらには人的力をも結集させる経済活動の主要な組織である。この講義では、会社をめぐる最近のトピックスの中から、会社法に関連する問題を取り上げ、会社法上の重要問題の糸口を提示したい。蛇の目ミシン工業代表訴訟事件、ソニーの導入した執行役員制度と取締役会改革、第一勧銀等株主総会における総会屋への利益供与事件など、最近の新聞報道でも大きく扱われた事件を通して、現代会社法の問題を明らかにしたい。

4 現代社会と契約法 林 幸司

「個人は契約を締結するかしないかの自由を有し、締結する際にはその契約内容を自由に形成することができる」というのが、「契約自由の原則」の中身であり、これが民法の基本原則と一般に理解されている。しかし本当にそうであろうか。日常生活において、我々は、実質上否応なく契約を締結せざるをえない場面、相手方の提示した契約内容をそのまま受け入れざるをえない場面に出くわすことがあまりに多い。さらに、知らない間に契約を締結してしまっているというようなことすらある。本講では現代社会において「契約の自由」が実質上機能しなくなってきたことによって生じるトラブルが、どのように処理されており、今後どう解決していくべきか、という問題を扱う。

5 現代社会と家族法 竹中智香

現代の家族や婚姻などをめぐる問題の中から、法律学の初心者でも興味を持つような今日的话题を取り上げて解説・検討しようと考えている。具体的な内容としては、以下を予定している。

- (1)有責配偶者の離婚請求について。
- (2)不貞行為の相手方への慰謝料請求について。
- (3)青年後見について。

6 現代社会と消費者法 青野博之

消費者法のトレンドについて講義を行なう。具体的なテーマとしては、英会話教室などのトラブルに対応して1999年に改正された訪問販売法、欠陥住宅のトラブルに対応して1999年に成立した住宅品質確保促進法、1999年になって初めてその法律に基づき責任を肯定した判決が登場した製造物責任法を予定している。

7 日本の産業社会と労働法 藤本 茂

労働関係をめぐる分野は今、大きな変貌を遂げようとしている。たとえば、「日本型雇用慣行」といわれる長期安定雇用、年功制賃金体系は、派遣労働、高度専門職の短期契約者や成果主義賃金（年俸制）の導入によって変容しつつある。わが国産業社会は、さまざまな労働形態の労働者や新たな雇用制度を抱え込みながら新たな方向を模索しているところである。こうしたトレンドに対応する労働法制の改正に焦点をあてて講義を行なう。具体的な内容は以下のとおり。

- (1)労基法改正。ここでは短期労働契約に関する法規制の過去と現在。
- (2)労働者派遣法改正。労働力市場に流動性を持たせる労働形態に関わるもの。
- (3)男女雇用平等法改正。職場における男女平等の問題を考える。

成績評価の方法

各担当教員（7名）が、それぞれの講義時間の中で、小テストやレポートなどによって評価を行ない、それらの総合点で全体的な評価・単位認定を行ないます。詳細については、担当者ごとに異なりますので注意してください。

教科書・参考書等

講義全体を通じた教科書は特に指定しませんが、参考図書等については、各回の担当者の指示に従ってください。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------|-----------|-----|
| 基 礎 憲 法 演 習 | なかのたつひさ 中野辰久 | 法 B 1・2 選 | 4 |
| | | 法 A 1・2 選 | |

講義のねらい

本演習の特徴は、弁護士が担当する点にあります。その特徴を踏まえ、本演習は以下の諸点を目的に行いたいと思います。

- ① 受講生に身近と思われる具体的事例を素材として取り上げ、憲法等の法律が実社会でどのような役割を担っているかを明らかにするとともに、憲法の基本原理を重点的に検討する。
- ② ①を通して、司法試験等の国家試験に必要と考えられる憲法の基本原理・基礎的知識の習得を目指し、リーガルマインドの養成をはかる。

講義の内容・
授業スケジュール

主に基本的人権に関する事例を取り上げ、それに関連する形で統治機構論・憲法訴訟論を加味していく予定です。検討テーマの一例をあげると下記のとおりです。

- ① 死刑の合憲性
 - ② 氏名権
 - ③ 外国人の人権－選挙権、指紋押捺の問題
 - ④ 平和主義・戦争の放棄－自衛隊の合憲性
 - ⑤ プライバシー権－タレントの権利
 - ⑥ 法の下の平等－尊属殺重罰規定違憲判決、議員定数不均衡問題
 - ⑦ 表現の自由－報道の自由
 - ⑧ 職業選択の自由－プロ野球のドラフト制度
 - ⑨ 生存権
 - ⑩ 教育を受ける権利－校則の問題
 - ⑪ 信仰の自由・政教分離－靖国神社の問題
- 等

履修上の留意点

演習（ゼミ）形式ですから、できるかぎり出席することが望ましいと考えます。また、司法試験等の国家試験を念頭に置くと、復習は必ずしてほしいと思います。

成績評価の方法

演習（ゼミ）形式ですから、出席とレポートで評価する予定です。

教 科 書

芦部信喜著『憲法新版補正版』（岩波書店）
芦部信喜・高橋和之編『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第三版〕』（有斐閣）

参 考 書 等

演習の都度、レジメを配付する予定です。

そ の 他

司法試験等の国家試験への対処、弁護士の仕事等などについても適宜お話していきたいと思えます。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|---|-----------|----|
| 基礎民法演習 | はや <small>はや</small> さか <small>さか</small> 亨 <small>とる</small> | 法 B 1・2 選 | 4 |
| | | 法 A 1・2 選 | |

講義のねらい

本講義は、受講生が初学者であることを前提に、事例をもとに、実務的観点から民法の基礎、考え方を学ぶ。また、実務法曹になる前提として司法試験等を意識し、これらが何を要求しているかについて考える。

講義の内容・授業スケジュール

民法では、現実には起こりうる私人間の紛争を規律するという側面を有するため、法的安定性ととも、具体的事案について結論の具体的妥当性が要求される。従って、事例は、実際の判例を取り上げるが、その他、実務法曹になる前提としての司法試験の問題等も取り上げ、実務法曹としてどのような基本的知識が必要とされるかについても講義、検討する。

履修上の留意点

本講義では、判例、司法試験の過去の問題を素材とするが、本科目の受講生は、民法の初学者を前提としていることから、これらの検討にあたっては、その点を充分配慮し、基本的事項から検討するので、予習よりも復習に重点をおいて受講して欲しい。
また、講義にあたっては、積極的に発言して欲しい。

成績評価の方法

知識の習得度には重点を置かない。むしろ民法の考え方をどれだけ理解しているかという点から評価する。

教科書

特段指定はしない。

参考書等

講義において適宜指示する。

その他

本講義はゼミ形式とする。
実務法曹として必要な知識の取得を目的とすることから、司法試験についても当然念頭においた講義となる。司法試験合格の為には、相当程度の勉強が必要だが、ただがむしゃらに勉強さえすれば良いというものではない。司法試験はあくまで法律実務家になる為の試験であるから、実務法曹として何が望まれているのかを理解し、その方向性に向かって勉強することが必要とされる。従って、判例、司法試験の問題の検討を通じて、実務法曹として、どのような能力が求められているのか、また司法試験では何が要求されているのか、そのためにはどのような勉強をしていけば良いのか、論文の考え方、特に勉強の方向性についての講義・討論を行う。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|------|--------|----|
| 基礎刑法演習 | 木村美隆 | 法B1・2選 | 4 |
| | | 法A1・2選 | |

講義のねらい

刑法の基礎知識、思考方法の修得を目的とすることは当然であるが、司法試験をはじめとする各種国家試験の合格を日ざす学生諸君の存在を意識して、その対策への導入路となることをも心がけたい。

講義の内容・授業スケジュール

刑法は、犯罪の一般的成立要件を中心に分析、検討する刑法総論と、殺人罪、窃盗罪など個別の犯罪の成立要件を分析、検討する刑法各論に分けて講ぜられるのが一般である。この演習では、前記から後期中までをかけ、刑法総論のテーマを取り上げ、その余の時間で刑法各論の重要論点にふれる予定としている。

刑法は、古くから学説上の争いが顕著で、ときに学界を二分するような議論もなされてきたが、この演習では特定の学説上の立場に把われることなく、常に多様な考え方、視点のあることにふれていきたい。

また、司法試験等各種国家試験の対策も念頭に置き、そのために必要な学修方法にも言及する予定である。

さらに、弁護士としての実務経験も適宜織り込み、法律が現実適用される世界への興味を引き出せたら幸いと考えている。

履修上の留意点

テレビ、新聞等で多くの犯罪が取り上げられることもあって、刑法は親しみやすい科目であるかもしれない。しかし、ひとたび教科書を開いてみれば、極めて論理性の高い体系のあることに気づかされ、学修の容易でないことを知るはずである。中途半端な学修態度で臨んでもらいたくない。

成績評価の方法

出席と、試験の結果により評価する。

教科書・参考書等

特定の教科書は使用しないが、学修上何らかの体系書に拠ることが望ましい。参考となる文献は開講時に指示する。

その他

講義形式が中心となるが、学生の発表能力を養うため、試験とは別に答案を書き添削を加える、いわゆる答案練習の機会を持ってみたいと考えている。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------------------|---------|----|
| 物 権 法 | つる 鶴 井 俊 吉 しゅん きち | 法 B 2 選 | 4 |

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうち総則、占有権、所有権、地上権、永小作権、地役権を対象とする。所有権を中核とする物権法は、今日の社会構造の法的土台をなしており、憲法上の私有財産制度の骨組を定めたものである。その意味で、物権法は民法の中で最も基礎的な重要な部分であるといえる。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の主な内容は、不動産売買をめぐるトラブルがどのように解決されているのかなど、物権変動を中心に、不動産利用権、物権的支配の秩序維持についての制度を解説する。

講義では、物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例を入れ、図式してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

物権法は、解釈学上においても体系的理解が困難な分野であるといわれている。それは立法の沿革に基づいている。現行民法がドイツ民法を継受してできあがっているにもかかわらず、物権法の主要な部分については、フランス民法の影響を強く受けているからである。それゆえに講義に出席しないとなかなか興味を持たないし、理解しづらい分野であるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

教 科 書

遠藤・川井他編『民法(2) 物権』(有斐閣双書)を予定している。

参 考 書 等

講義の最初に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------|---------|-----|
| 債 権 総 論 | あおのひろゆきの 青野博之 | 法 B 2 選 | 4 |

講義のねらい

債権総論とは、民法典のうち第3編「債権」の第1章「総則」をいう。
 売買契約によって売主は買主に代金を支払えという債権を取得し、賃貸借契約によって賃貸人は賃借人に賃料を支払えという債権を取得するが、両方とも金銭債権であるということでは共通する。売主が買主に代金を支払えというのも、賃貸人が賃借人に賃料を支払えというのも金銭を払えということでは同じである。また、買主が売主に品物を引き渡せという債権も、債権という点では、金銭債権と共通する。つまり、債権者が債務者に何かをせよと（またはしてはいけないと）請求するという点では共通する。
 このように、債権の共通点を中心にして、債権の性質、その効力などを考察するのが、債権総論である。

講義の内容・授業スケジュール

序 論
 債権の目的（債権の内容）
 特定物債権・種類債権
 金銭債権
 債権の効力
 債務不履行（契約責任の要件）
 損害賠償（契約責任の効果）
 責任財産の保全
 債権者代位権
 債権者取消権
 多数当事者の債権関係
 連帯債務
 保証債務
 債権譲渡
 債権の消滅
 弁 済
 相 殺

履修上の留意点

質問は大歓迎である。出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただくことになると思われる。

成績評価の方法

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。

なお、受講生がそれほど多くなければ、質問および回答の平常点だけで成績を評価する。しかし、平常点で成績を評価することができないほど受講生が多ければ、年度末の試験も行う予定。

なお、試験を行う場合には、いっさいの持込みを不可とする。

教 科 書

宇佐見大司ほか著『プリメール民法3・債権総論』（法律文化社、2000年4月発売予定）2,800円の予定

教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|---------------------------|--------------|----|
| 債権各論 | はやし 林 こう 幸 じ 司 | 法B2選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法A2選 | |

講義のねらい

- 1：民法、特に債権各論について、受講生に「基礎的な理解」が身につくよう目指すこと
- 2：この分野の諸テーマにつき、「具体的な事例問題を通して理解を深める方法」を修得してもらい、それによって受講生の「民法に対する興味」を触発すること

講義の内容・授業スケジュール

債権各論は、債権の「発生原因」を扱う分野であり、①契約、②事務管理、③不当利得、④不法行為がその主要な原因である。これらは全て、諸君が日常生活で無意識のうちに触れているものばかりであり、具体的な問題がほとんどである。これらについて研究し理解を深めることは、民法の「具体的なイメージを把握するための突破口」となるはずである。

〈講義の方法〉

- 1：板書中心の講義であること
私独自の観点からポイントを整理するため板書中心の講義を行い、途中で適宜、教科書・参考書の該当箇所を指示・解説するという方法を採用。その際、かなり多くの図や表を必要とするが、それも主に板書によってカバーする。
- 2：意義・要件・効果の整理に重点をおくこと
私も学生の頃は、ただ闇雲に教科書や判例解説集に書いてあることをダラダラと覚えようとしたものである。しかし、それは、山の中を、地図も磁石盤もなく、ただ地面を見て石ころを数えている姿に似ていると感じ、むなしい気持ちに苛まれる結果となった。本講義で整理の中心に位置付ける「意義・要件・効果」は、講義中、諸君が立っている位置を知るための『座標軸』だと思ってほしい。そのことの意味はとてもここでは書き切れない。詳しくは、講義で聴いていただきたい。
- 3：具体的な「事例問題」(または判例)を素材とすること
事例問題集をプリントして配布し、あるいは、指定した参考書の中から判例を指示し、意義・要件・効果と結び付けて解説する。具体的な事例を想定しての理解以外に、真に納得のいく理解はないと信ずるからである。
- 4：受講生からの質問を講義に反映するよう努力すること
毎回講義前に用紙を全員に配布し、質問・意見・感想・要望などを書いてもらい、その中で、「これは！」と思うものを次回の講義に反映することを心掛けるつもりである(質問への解答が中心となる)。

成績評価の方法

後期試験による評価が中心となるが、講義後に回収する質問や意見などにも受講生の理解度や積極的な姿勢が現れていることが多い。これらに対しても若干のプラス評価を行うつもりである。

履修上の留意点

- 1：私語の厳禁
あまりにも当然過ぎて、ここで触れることすら情けないのだが、大学生にもなって、講義中の私語が許されると思っている者がいるようである。強く注意して、やっと静かになるといのが現状であるが、不思議にも、本人に全く反省の色がなかったり、何か悪いことをしたのか(又は「なぜ俺だけが」と言わんばかりに睨み返してくるということもある。このテの者にはその場で「登録抹消」を通告するという強い態度で臨むので覚悟してもらいたい。
- 2：他の履修科目について
できれば債権総論も受講してほしい。この分野は、各原因によって発生した様々な債権に「共通する事項や性質」などを扱う領域で、債権各論を理解する上でも重要な分野だからである。もちろん、発生原因を扱う債権各論から先に手をつけようという人がいても一向に構わないし、理論上何の問題もないが、いずれは債権総論も修得してほしいものである。

教科書

内田 貴著『民法Ⅱ 債権各論』(東京大学出版会) 3,600円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------|---------|-----|
| 刑 法 各 論 | まつ 松 村 格 | 法 B 2 選 | 4 |

講義のねらい

刑法各論は、刑法各則規定の解釈が中心になるが、すべての条文の解釈を検討することは時間的に不可能であるので、特定の条文にしぼって講義していくことにする。そこで、現代型犯罪と称される犯罪規定の解釈とか、時代の変遷に伴って条文の解釈の再検討を余儀なくされているような問題にしぼって講義していきたいと思う。学生諸君は、それらの犯罪がなぜ問題になっているかということをよく考えてもらいたいと同時に、その際に、刑法総論で学習した「人権保障」と「法益保護」という刑法の使命を常に念頭におきながら解釈をしてもらいたい。行為無価値論か結果無価値論かという違法性の実質の問題も常に係わってくるので、自分の立場をしっかりと築いてもらいたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 刑法における生命の保護
動物の生命／人の受精卵（初期胚）・胚子の生命／胎児の生命／人の生命
人の生命の始期と終期／安楽死と尊厳死／自殺関与罪の問題点
2. 暴行罪と傷害罪
暴行と傷害の概念／暴行と傷害の意義／同時傷害の特例／胎児性傷害の問題点
ひき逃げと傷害致死罪・遺棄致死罪・殺人罪
3. 住居侵入罪と放火罪
住居侵入罪の保護法益／住居侵入罪の問題点
放火罪の既遂時期／建造物一体性の問題
4. 名誉・信用を侵す罪
信用毀損罪／信書開封罪／名誉毀損罪と侮辱罪／名誉毀損罪と事実の証明
5. 性と犯罪
わいせつ性の概念／強制わいせつ罪／わいせつ物頒布罪
夫婦間レイプ／女子による強姦罪／強盗強姦罪
6. 財産罪の諸問題(1)
財産罪の態様／財産罪の保護法益／財物の概念
無銭飲食・宿泊／キセル乗車／クレジットカード詐欺
不法原因給付と詐欺罪／権利行使と詐欺罪
7. 財産罪の諸問題(2)
強盗罪の諸問題／横領罪と背任罪
コンピュータ犯罪と財産罪
8. 各種偽造の罪
通貨偽造罪／文書偽造罪／有価証券偽造罪
9. 電子コピーの文書性・電磁的記録の文書性
文書偽造罪と電磁的記録不正作出罪／テレホンカードの度数不正変更
10. 公務員関連犯罪
賄賂罪の問題点／職権濫用罪／公務執行妨害罪と業務妨害罪
11. 刑事裁判に支障を来す罪
犯人蔵匿罪／証拠湮滅の罪／偽証罪
12. その他

履修上の留意点

刑法各論に関心のある学生諸君だけの参加を希望するが、教科書以外のことや特別資料に基づいて講義するので、毎回出席してノートをとることが必要である。

成績評価の方法

定期試験のほか逐次小テストをするので、それらと出席状況を総合的に評価して決める。

教科書

松村格『日本刑法各論教科書』（八千代出版）

参考書等

別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅱ各論（第4版）』（有斐閣）
『刑法基本講座（全6巻）』のうち5巻6巻（法学書院）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|---------|-----|
| 有 価 証 券 法 | しま ばら ひろ あき 島 原 宏 明 | 法 B 2 選 | 4 |

講義のねらい

現代の経済社会における企業間の取引では、手形や小切手等の有価証券が数多く使用されている。中でも手形と小切手は典型的な有価証券であって、その流通に関する法規制の多くは商法上の他の有価証券にも及んでいる。したがってその体系の理解は有価証券全般を理解する上で不可欠なものである。また、手形や小切手は金銭債権と結び付いた証券であるため、これに関する法体系は債権法の一部として把握され、民法の債権総論と密接な関係にある。

講義の内容・授業スケジュール

手形法は第一編為替手形と第二編約束手形の二編から成り立っており、為替手形についての規定の多くを約束手形に準用するという構成になっている。ただし、わが国においては為替手形がほとんど用いられていないという現実があり、また為替手形に比べて約束手形の方が仕組みが単純であるため、条文の順序とは一致しないが講義では約束手形を中心に説明を行い、適宜為替手形、及び為替手形と基本的な仕組みを同じくする小切手についての説明を付け加えていくという形をとる。

なお、企業活動に関わったことのない学生諸君には手形や小切手の世界は現実感が乏しく興味が起こりにくいいため、なるべく具体的な判例を示して解説をしていくつもりである。

成績評価の方法

成績評価は期末試験による。

教科書

宮島 司『やさしい手形法・小切手法』（法学書院）2,000円

参考書等

開講時に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-------------------|---------|-----|
| 登 記 法 | た ぬま ひろし 田 沼 浩 | 法 B 2 選 | 4 |
| | | 法 A 2 選 | |

講義のねらい

「不動産登記法」及び「商業登記法」の講義を行う。初めて不動産登記法・商業登記法を学ぶ者にも、以前勉強したことのある者にも、民法・商法の手続法としての不動産登記法・商業登記法が現在の取引社会においてどのような役割を担っているのか、不動産登記・商業登記制度の意義を通じて、両法より深い理解を図ることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

不動産登記においては、不動産に関する取引全体の流れにおける不動産登記の役割を理解することを目指す。商業登記法においては、会社法と関連させることによって会社の起業に役立つ程度の知識を最低限修得できるように努めたい。

履修上の留意点

民法典第二編物権（物権法）、商法典第二編会社（会社法）の受講者が履修することが望ましい。この講義を受講することが望ましい者は、将来、不動産・金融関係の会社に就職を希望する者、起業して自営業を目指す者、そして司法書士試験を受験したいと考えている者である。そこを留意して受講していただきたい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

遠藤浩・青山正明編『別冊法学セミナー 基本法コンメンタール [第四版補訂版] 不動産登記法』（日本評論社）3,500円（初学者は直ちに購入しなくても良い）
法務省民事局第四課編 商業登記法入門（きんざい）3,619円
六法全書は、毎回持参すること。

参考書等

岩澤勇ほか編『不動産登記の基礎知識 改訂新版』（自由国民社）2,000円（初学者向け）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|-----------|-----|
| 行 政 法 各 論 | しお いら 塩 入 み ほ も | 法 B 3・4 選 | 4 |

講義のねらい

行政救済法（争訟法）に関する各論を講義する。総論とは異なり、単に制度の仕組みに関する一般的説明に留まるものではなく、現実社会において「国家・国民」の法関係に生ずる様々な具体的問題を取り上げ、行政救済制度の実効的機能を理論及び実践の両面から解説していく。したがって、この行政法各論においては、通説だけでなく、有力説や少数説の論理についても幅広く言及していくつもりである。また判例についても、従来の確定的先例に捕らわれず、下級審判例を含めた最新の動向を取り上げる。

講義の内容・
授業スケジュール

大まかな内容としては、一に、行政不服審査制度について、二に、行政訴訟制度について、三に、国家賠償制度について、順次講義を行なっていく。具体的には、まず各々の行政救済制度上の諸概念や一般的な仕組み、またそれぞれの法制度の関係を解説し、次いで主要論点ごとの詳細な議論と諸問題を、主として判例及び学説を多く取り上げることによって、整理していく。論点としては、従来の定番的問題だけでなく、行政争訟法の現代的課題として判例及び学説理論の発展的形が執拗に要請されている、環境訴訟や消費者訴訟などの第三者保護問題や、今後益々重要性を増してくる情報公開請求訴訟について、とくに重点を置いて講義していく予定である。

履修上の留意点

原則的には、行政法総論を前年度において履修し、行政法の基礎知識を既に修得している者であることが望ましい。但し、講義はまず最初に、総論の復習として行政救済制度の仕組みに関する一般的説明から入る予定であるので、努力次第では総論と同時進行で学修することも不可能ではない。

成績評価の方法

成績評価は、基本的には学期末試験の結果を基準とするが、不定期に確認する出欠の状況もまた一判断材料とする。

教 科 書

基本的に使用しない。

参 考 書 等

最初の講義の際に紹介する。

そ の 他

授業は通常の講義形式で行なう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|---------|--------------------------|----|
| 税 法 | 岸 田 貞 夫 | 法B3・4選 12以降入学生/法A3・4選 | 4 |

講義のねらい

税法の体系を法的な見地から検討し、所得税法等の規定の解釈を中心として、税法の意義、役割、問題点等を研究する。

講義の内容・授業スケジュール

税法の意義、機能、体系、租税法律関係の特色、租税の確定手続き、所得税法における納税義務者、課税所得の意義、所得の種類、収入及び必要経費の範囲等について、順次講義する。

履修上の留意点

予習の上、問題意識をもって授業に参加されたい。

成績評価の方法

前期及び後期の試験の結果により評価する。

教科書

岸田貞夫著「所得課税法の基礎知識」(税務経理協会) 2,800円

参考書等

金子宏著『租税法』(弘文堂)

その他

授業は講義方式で行う。なお、レジュメを配付する予定である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|---------|--------------------------|----|
| 地方自治法 | 富 井 幸 雄 | 法B3・4選 12以降入学生/法A3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをきみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎週レジュメを配布し、それに添って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験(40%)と学年末試験(60%)で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教科書

南博方他『行政法(3)(第3版)』(有斐閣双書) 1,800円

参考書等

原田高彦『地方自治の法としくみ』(学陽書房)、『地方自治判例百選(第2版)』(別冊ジュリスト)。なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』(良書普及会)は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方分権』(岩波書店)、同他『概説日本の地方自治』(東京大学出版会)は必読。

その他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法(『地方自治小六法』(学陽書房)があるがポケット六法でよい。)は必携。その都度チェックすること。平成12年度には地方自治法の大幅な改正があるので、必ず平成12年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両方分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------|---------------------|-----------|-----|
| 国 際 紛 争 解 決 法 | おう 王 し 志 あん 安 | 法 B 3・4 選 | 4 |

講義のねらい

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界及び適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能及び事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決及び世界貿易機構（WTO）の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査及び調停といった制度の展開及び適用、国連における紛争処理の制度的展開及び現状、そして WTO の紛争処理制度の発展、手続き及び制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判及び国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立及びその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。要点を板書するので、聴講ノートをしっかりとして取ってもらいたい。

成績評価の方法

年末の筆記試験によって評価する。

教 科 書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）2,700円 1997年

参 考 書 等

市販されている国際条約集及び国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

そ の 他

授業は主として講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることがある。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------------|--------|----|
| 担保物権法 | つる 鶴 井 しゅん 俊 吉 | 法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうちで、留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等が対象となる。担保物権制度は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性がますます増大している。今日、財産法領域で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、著しく変動している。

講義の内容・授業スケジュール

私たちが土地を買い、建物を建てる、あるいは自動車を買うという場合に、多くは金融機関から融資を受けることになるが、金融機関では何らかの担保を要求してくる。この場合に、抵当権や質権といった担保物権を金融機関に設定する。このように小は個人の資金調達のため、あるいは大は、企業の活動資金獲得のために担保は重要な役割を担っている。担保物権法のもつ経済的意義は極めて重要である。

しかし、学生にとって担保物権法は、民法の中で最も難解なところと感じられ、また比較的なじめない領域だと思われる。それは、多数の関係当事者が複雑に絡み合い、また解釈上でも技術的性格が強いことに原因がある。

そこで講義では、担保物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例をとりあげ、図解してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

学期の初めに、担保物権法の主要な部分についての概略の説明を予定している。それによって担保制度の全体像が把握できるであろう。それゆえに、最初から講義に出席しないとなかなか興味を持てなく、理解できなくなるので、毎時限の出席と予習を強く希望する

教科書

遠藤・川井他編『民法(3) 担保物権』(有斐閣双書)を予定している。

参考書等

講義の最初に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|---------|-----|
| 相 続 法 | たけ なか ち か 竹 中 智 香 | 法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も重視する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続(第4版)』(有斐閣双書) 1,648円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版)』(有斐閣) 2,200円
六法

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------|-----------------------|---------|-----|
| 商 法 総 則 ・ 商 行 為 法 | せき ぐち まさ お 関 口 雅 夫 | 法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

専門科目としての商法学は、商法全体についての概念的な知識、商法に対する基本的な考え方、および個々の法律問題への取りくみ方など、商法についての最も基礎的であると考えられる問題の理論的そして体系的な解明を目的とする学問である。この講義は、商法学の内、商法総論、商法総則および商行為法を中心に行う。

講義の内容・授業スケジュール

商法総論においては、商法の意義、商法の特色、商法の体系、商法の適用の四つのテーマを論考する。次に、商法総則においては、営業の主体、営業行為、営業の人的組織、営業の物的組織、営業の譲渡、商業登記の六つのテーマを論ずる。そして商行為法においては、商行為の概念、商行為法の総則、商事売買、交互計算、匿名組合、仲立営業、運送取扱営業、運送営業、寄託の十の主要な問題を考察する。一年間で25回の講義を予定する。

履修上の留意点

ここに選ばれた20のテーマは、商法の特定分野に関するものではあるけれども、これから商法を体系的に学んで行こうとする諸君にとって、欠かすことの出来ないと思われる問題を取りあつかっている。もっとも、この講義は、全ての学生のニーズを満すものではない。この講義が特に必要であると考えられる学生は、将来自営業を志したいと考えている学生、会社員になりたいと考えている学生、および司法試験を受験したいと考えている学生である。この意味で、学生諸君は、自分で自分の将来計画を明確にし、受講すべきか否かを決定することが肝要である。

成績評価の方法

平常点と期末試験を重視する。

教 科 書

関口雅夫編著『現代商法 I [総則・商行為]』(八千代出版) 2,800円を使用する。六法全書は、毎回持参すること。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-----------------------|--------|----|
| 保険・海商法 | やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦 | 法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

私たちの生活は、いろいろな危険に満ちている。私たちは、それにあまり気が付かずに生活していたりするが、時には、不幸な事故に巻き込まれたり、あるいは逆に事故を引き起こしたりもする。こうした不幸への危険性は、この社会に生き、活動しているすべての人々（すなわち法主体、当然、会社も人である）に程度の差こそあれ、無縁ではない。危険が現実のものとなったとき、そこに通常、損害が発生する。この損害は、どのように処理すれば良いのだろうか。事故を引き起こした者がいるのであれば、この者が損害を負担すべきである。しかし、この者に資力がなかったならば、被害者の受けた損害は回復されずに酷いことになる。さらに、加害者も存在していないような場合には、どうすれば良いのだろうか。こうしたことへの不安は、人が生き活動して行く上での不安であり、今に始まったことではない。人類は、古くから、このための種々の方策を考えてきたが、複雑・高度化した現代社会は、かつてないほどの、不安と危険のジャングルとなっているのである。保険は、そのための方策の中で、最も高度に洗練された仕組みである。私の講義では保険という仕組みが法的にどのように制度化されているかを見る。

ところで、保険は、他面において賭博に似ている（どちらも偶然の出来事により、多額の金銭を取得できるではないか）。そして、海の危険に満ち満ちた海上企業活動は、かつては、冒険企業の典型であった。保険が考案され発展したのは、中世地中海世界が育んだ海上企業活動においてであったということは、保険と海商との賭博的な共通の色彩の賜といえるのかもしれない（やがて保険制度は、海から陸にも上がり、今日見られるような隆盛を迎える）。当時の海上企業は、現在の海上企業とはかなり異なっていたし（法的制度としての株式会社に先駆していたのであるが、株式会社の登場は後年のことである）、その企業活動も海賊が立派な企業活動として認知されていたことから明らかなように、現在と大部隔っている面があった。しかし、近代的国家が形成される前から活発に行なわれていたイタリアの海港都市等に端を発する海事慣習は、その後一定の地域的広がりを得ながら、ヨーロッパのその他の港にもそれぞれの海事慣習の形成を促し、それらがようやく確立する国家の法典に、取捨選択されつつ、結実し、その過程において、民商事法の源流の一つを形成したのである。

さて、そこで海商法である。海商法は、船舶を手段とする海上企業活動に関する法である。当然のことながら、船舶の活動する舞台ともいべき海は、世界へとつながっている。経済活動が、狭い一国の地域的空間にのみ終止するのであれば格別、現在のように、世界的規模での市場が形成され、経済活動も世界的広がりを持つにいたると、原料やその加工品である商品の流通は、血管を流れる血液のように確保されなければならない。船舶による海上運送は、いわば、血液の中の血晶板のようなもの——または、血液そのものである。船舶を利用して遂行される海上運送は、その国々の経済体制を支えるものであり、世界経済に重要な貢献を果すものである。私の講義では、この海上企業活動を、商法の視点から捉え、そこに働く基本的な法原則を見ることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、保険法を中心にする。①保険制度と保険法、②保険契約の当事者・関係者、③保険契約の成立と終了、④保険契約の内容と効果、⑤損害保険契約の意義・内容、⑥損害保険に特有の効果、⑦保険担保、⑧火災保険と地震保険、⑨責任保険と自動車保険、を中心項目とする。

後期は、海商法を取り上げる。①海商法の意義と発展、②海上企業の物的組織、③海上企業の主体、④海上企業の責任と制限、⑤海上物品運送契約の意義と種類、⑥海上物品運送契約の履行（海上物品運送人の義務と権利）、⑦海上物品運送人の責任、⑧船荷証券の意義および種類、⑨船荷証券の効力、⑩海上売買、を中心とする。

保険法および海商法も1項目につき1時間ないし2時間を予定する。

履修上の留意点

講義には六法を持参して下さい。

成績評価の方法

出席は、毎時限、取ります。これは期末試験での成績評価の際に考慮します。

教科書

山野嘉郎・山田泰彦編著『現代保険・海商法30講』（中央経済社）3,800円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------|---------|-----|
| 民 事 訴 訟 法 | すぎ 杉 浦 智 とも つぐ 紹 | 法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

民事訴訟は、その対象が日常生活をめぐる法的紛争（民事紛争）である事から、その法的紛争を解決する方法としての民事訴訟法学の理論的考察には、取り分け実体法との関連性を重要視し、訴訟法理に実体法理を包摂するとの基本的構想を採る必要性があると考えている。また、講義では判決手続を中心に、憲法との関連性をも重視しつつ、適正且つ迅速な裁判をするには、裁判所と当事者との協働作業が不可欠であることを充分認識した上で、民事訴訟法の基礎理論からはじめて、訴訟構造論、訴訟主体論、訴訟客体論、訴訟過程論、裁判論等について論及する。具体的には、訴提起の段階、口頭弁論・証拠調べの段階、訴訟終了の段階に対応した、民事訴訟法上の主要な論点について、「問題の所在」を示し、学説・判例の動向を整理・紹介し、どういう角度から問題にアプローチし、また結論を導くべきかに重点をおいて、考察・検討するという方法をとる。特に訴訟過程において、訴訟主体が主体的役割を果たしたか、また果たせたかが、裁判の効力に影響することを、大きな課題として、講義を進める予定である。

講義の内容・授業スケジュール

- I 民事訴訟の基礎理論
 - ① 民事訴訟と民事紛争
 - ② 民事訴訟の基本原則 — (1)処分権主義、(2)弁論主義 (3)必要的口頭弁論の原則 (4)民事訴訟の憲法的保障
 - ③ 訴訟の構造理論
 - ④ 現代型訴訟と問題の所在
- II 民事訴訟の主体論
 - ① 裁判所 (1)構成と管轄 (2)裁判所の除斥・忌避
 - ② 当事者 (1)当事者概念 (2)当事者をめぐる諸問題 (3)当事者能力 (4)訴訟能力 (5)当事者の確定 (6)当事者適格 (7)訴訟における代理・代表
- III 訴訟客体論
 - ① 訴と請求
 - ② 訴訟における審判対象 (1)審判対象の特定 (2)訴訟要件の調査と審理順序 (3)訴訟物の構成 (4)訴訟物論争問題 (5)訴提起の効果
- IV 訴訟過程論
 - ① 口頭弁論およびその準備 (1)口頭弁論の準備と争点整理 (2)裁判資料の収集 (3)口頭弁論の経過 (4)当事者の訴訟行為
 - a) 意義と種類 b) 訴訟契約＝訴訟上の合意 c) 訴訟行為と私法規定
 - d) 訴訟行為の瑕疵と治癒 e) 形成権の訴訟上の行使
 - ② 証 拠
 - (1) 事実認定と証拠 a) 証拠の必要性 b) 要証事実・不要証事実 c) 証拠の意義
 - (2) 証拠調べの実施 a) 証拠調べ通則 b) 各種の証拠調べ c) 自由心証主義
 - ③ 訴訟における主張と証明
 - (1)主張責任と証明責任 (2)弁論主義による証明責任の機能の拡大 (3)証明責任の分配基準
 - (4)証明困難軽減の諸方法 (5)証明責任における当事者対等性の原則
- V 訴訟の終了
 - ① 訴の取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解
 - ② 判決 (1)裁判の種類及び判決の種類 a) 中間判決 b) 終局判決 c) 訴訟判決と本案判決 d) 判決の成立
 - ③ 判決の効力と瑕疵
 - ④ 既判力 (1)意義 (2)既判力理論 (3)既判力を有する裁判 (4)既判力の作用 (5)既判力の範囲
 - a) 時的範囲 b) 客観的範囲 c) 主観的範囲 d) 争点効および反射効
 - ⑤ 執行力・形成力・附随的效果
- VI 訴訟における訴訟参加
 - ①補助参加 ②独立当事者参加 ③共同訴訟参加・共同訴訟的補助参加
- VII 訴訟における複数請求審理
 - ① 複数請求訴訟 (1)訴の客観的併合 (2)訴の変更 (3)中間確認の訴 (4)反訴
 - ② 訴の主観的併合＝共同訴訟 (1)通常共同訴訟 (2)必要的共同訴訟 a) 固有必要的共同訴訟 b) 類似必要的共同訴訟 (3)共同所有関係と必要共同訴訟
- VIII 訴訟における不服申立て制度
 - ①裁判と不服申立て ②控訴 ③上告 ④抗告 ⑤再審

IX 略式訴訟手続——少訴訟法手続を中心に——

履修上の留意点

手続法は実体法の理解とは異なり、体系的に連続しているので、講義には必ず出席し、また講義が楽しくなるかは、予め問題意識をもっているか、または関心があるかにかかっているため、講義対象は前週に指示しておくので、参考書等に目を通して受講されることが望ましい。また法律の勉強は理解することにあるので、それには先づ以て条文を読むことが大切である。従って、六法全書に親しむ習慣を是非つけてほしい。

成績評価の方法

民事訴訟法の試験は、(1)期末の定期試験でペーパーテストを行い、これを成績評価の重点項目とするが、(2)前期段階で小テストを行う。どの程度の理解が出来ているかを確認するため、講義をした主要な事項について、設問形式で結論と理由づけを三行以内で書かせる方式を採り、テスト終了後、設問に対する解答及び理由づけを開示し、答案は、採点の上各人に返還する。(3)学生との信頼関係下、年間使用できる受講カードを配布し、毎時間の授業項目を記載させ、単位を必要とする者には、これを自己管理させ、期末に提出させる。以上の三点を総合判断して成績の評価を行う。

教科書

特に指定はしない。

参考書等

1. 伊藤真『民事訴訟法』(有斐閣)
 2. 中野／松浦／鈴木編『新民事訴訟法講義』(有斐閣)
 3. 新堂幸司著『新民事訴訟法』(弘文堂)
 4. 三ヶ月章著『民事訴訟法』(弘文堂)
 5. 松本博之・上野泰男著『民事訴訟法』(弘文堂)
 6. 上田徹一郎著『民事訴訟法』(法学書院)
 7. 『民事訴訟法の争点(新版)』ジュリスト(有斐閣)
 8. 『民事訴訟法判例百選Ⅰ、Ⅱ』ジュリスト(有斐閣)
- その他、講義の進行に応じて適宜、詳しい文献の紹介は行う。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|---------|----------------|----|
| 民事執行・保全法 | とが 梅 | 法B3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法A3・4選 | |

講義のねらい

社会において重要な役割を果たしている民事執行法と民事保全法について講義します。
民事執行法は、権利の事実上の実現手続きです。民事保全法は、将来の権利実現を保全する手続きです。民事執行法、民事保全法の解釈と両法律の基本原則、重要判例についての理解を目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、以下のような順序と内容で行います。なお、より詳しい年間の予定表は、第1回目の講義のときに配布します。

- ① 私法上の権利の実現方法
- ② 強制執行法の改正と民事執行法の成立
- ③ 仮差押え・仮処分法の改正と民事保全法の成立
- ④ 民事保全法
- ⑤ 民事執行法総則
- ⑥ 強制執行法総論
- ⑦ 強制執行法各論
- ⑧ 担保権の実行としての競売

履修上の留意点

民事訴訟法を履修済みか、並行して履修する人の履修を希望しています。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の筆記試験のみによって評価します。

教科書

内田武吉編著『民事執行・保全法要説（第2版）』（成文堂）1999年

参考書等

竹下守夫・伊藤眞編『民事執行法判例百選』（有斐閣）1994年
中野貞一郎『民事執行法（新訂三版）』（青林書院）1998年
なお、参考書については、授業の際に、必要に応じてその都度紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|----------------|----|
| 倒産処理法 | 馬越道夫 | 法B3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法A3・4選 | |

講義のねらい

倒産処理法とは破産法・和議法・商法上の会社整理・清算に関する規定、会社更生法など倒産に関する諸法規の総称である。倒産処理法という名称の法典が六法全書に存在するわけではない。

なお、倒産とは債務者が経済的に破綻し債務の弁済が極めて困難になった状況をさす。倒産処理法には目的の異なる二種の法規が存在する。一つは債務者の財産を清算し、債権者への平等弁済を図る制度である（例・破産法）。他の一つは債務者の財産を全面的に清算することなく、取引関係を整理し企業の再建を図る制度である（例・会社更生法）。上記二種の法規について判例を挙げ具体的に講述したい。

また、今日国際的取引の拡大や多国籍企業の高発に伴い、一企業の破産もその影響は国内に止まらず破産的処理も国際的規模が要求される。かかる渉外破産の問題点についても平易に講述したい。

講義の内容・授業スケジュール

4月・5月 倒産処理法の概説

6月・7月・9月 破産法

10月・11月・12月・1月 会社更生法

※授業時間ごとに、その時間の講義の要旨を記載したプリント（レジュメ）を渡します。

履修上の留意点

受講者は民法・民事訴訟法の基礎知識を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験の結果及び出席状況を参考にします。

教科書

桜井孝一編 馬越道夫著『演習ノート破産法』（法学書院出版）1,800円

参考書等

石川明『破産法』（日本評論社発行）2,800円

馬越道夫編著『論点国際民事訴訟法』（不磨書房出版）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------------|---------|-----|
| 刑 事 訴 訟 法 | はし 橋 もと 本 ゆう 裕 ぞう 蔵 | 法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

刑事手続の基本について理解することが目的である。
 犯罪の予防、摘発と、国家機関の権限の適正な行使によって個人の自由や市民社会の安全は維持されている。外国法にも目を向けながら、前期は捜査について、個人の自由を保障しつつかに効果的な法執行を実現するかを考え、後期は公判の諸原則を学びながら、最も厳しい制裁である刑罰を科すための手続的な公正さ・手続的正義について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 任意捜査と強制捜査
2. 逮捕
3. 搜索・押収
4. 検証・鑑定
5. 明文の定めのない捜査方法とその規律
6. 身柄拘束下の取調べ
7. 被疑者の弁護権
8. 職務質問、所持品検査
9. 訴追裁量
10. 公判構造
11. 起訴の方式と訴因
12. 証拠開示
13. 排除法則
14. 自白の証拠能力
15. 伝聞法則
16. 無罪推定
17. 裁判とその効果
18. 上訴

履修上の留意点

社会に生起する事件や法律問題に常に関心をもってほしい。六法は必携である。(但し、判例付きのものは不可。)

成績評価の方法

出席率(毎時限出席確認をする)、及び授業報告レポート(ノートの要約)の提出率並びに年度末の筆記試験の結果を総合評価する。

教 科 書

渥美東洋著『刑事訴訟法』(新版)(有斐閣)

参 考 書 等

渥美東洋著『刑事訴訟法基本判例解説』第3版(三嶺書房)
 渥美東洋著『レッスン刑事訴訟法』上・中・下(中央大学出版部)
 渥美東洋著『複雑社会で法をどう活かすか』(立花書房)
 渥美東洋著『罪と罰を考える』(有斐閣)
 渥美東洋著『刑事訴訟法における自由と正義』(有斐閣)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-------------------|-----------|-----|
| 労 働 法 | ふじもと しげる 藤 本 茂 | 法 B 3・4 選 | 4 |

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌を遂げようとしています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではありません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正（裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大）、解雇制限などの分野がありました。男女雇用機会均等法、労働者派遣法、職業安定法などの改正もなされました。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働条件決定に果たす組合の役割は、一見地味ではありますが、無視できません。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中であっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回日の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公——労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定——労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等——同——労働同——賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件の決定——労働契約、就業規則、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備——不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口——採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動——配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口——解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、平常点を加味することはありますが、学年末試験がメインです。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回日の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|--------------------------|-----|
| 金 融 法 | かわ 田 えつ お 川 田 悦 男 | 法B3・4選 12以降入学生/法A3・4選 | 4 |

講義のねらい

わが国の金融界は、金融のグローバル化、自由化という大きな流れのなかで、不良債権問題などバブル後遺症からの早期脱却と、金融ビッグバンのもと21世紀への生き残りをかけた業務戦略の再構築を図るという、相反する重要な経営課題に直面している。

これを利用者の側からみると、現代社会は企業も個人も金融機関と極めて密接な関わりあいをもっており、経済社会はもちろん個人の生活に至るまで銀行取引なしには成り立たないといっても過言ではない。

本講義は、このような認識のもとで、われわれ一般市民として、また将来の企業人・金融人として必要な銀行取引に関する法律知識と諸問題について、できるだけ実社会の生きものとして学ぶことを狙いとしており、実学の楽しさも学びとっていただければと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

金融法はまだ新しい科目分野であるが、その対象領域はかなり広く関係する法律も多い。本講義では、これらを主に具体的な取引法の観点から学ぶこととし、制定法の規定が現実にはどのように修正されて実際取引に適用されているのか、また、金融環境の変化がどのような新しい法律問題を生じさせているのかなど生きた学問として学修する。

講義内容は次を予定している。詳しくは初回講義の際に資料配布する。

- I 金融法の特徴、わが国の金融制度、金融機関の業務内容
- II 預金取引、為替取引、電子マネー・EFT取引
- III 手形取引、手形交換と取引停止処分制度
- IV 貸出取引、消費者取引、担保、倒産、相続、差押

成績評価の方法

学年末試験を基本に評価する。

教 科 書

最初の講義のときに話します。

そ の 他

講義形式による。毎回のプリントを配布（サブテキスト配布）、一部ビデオ利用。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-------------------------|-----------------|-----|
| 経 済 法 | お だ と し ひろ 岡 田 外 司 博 | 法 B 3・4 選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法 A3・4選 | |

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少くともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

丹宗暁信・厚谷襄児編『新現代経済法入門』（法律文化社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------------|---------|-----|
| 国 際 私 法 | かき はら とし ひろ 笠 原 俊 宏 | 法B3・4選 | 4 |

講義のねらい

渉外的要素を有する私法問題の解決を目的とするのが国際私法である。それは、狭義において、準拠法の選定を主たる役割とする。その意味において、国際私法は、民法や商法のように私法問題の判断基準となる法律とは、規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範などと呼ばれることがある。講義においては、国際私法のこのような特質を明らかにしつつ、実質法における理念の変化が国際私法にとっても無縁でないことを実証的に論じたいと考えている。時として難解な科目であるといわれることがあるが、最近の身近な問題を具体例として取り上げるなどして、できる限りわかりやすいものとなるよう工夫したい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の内容およびスケジュールについては、ほぼ次のように予定している。

1. 国際私法総論（4月、5月）
2. 国際家族法（6月、7月、9月、10月）
3. 国際財産法（11月、12月）
4. 国際民事訴訟法（1月）

履修上の留意点

基礎となる他の科目、就中、家族法について、基礎知識を有することが好ましく、民法についても併せて学修することを期待する。

成績評価の方法

学年末の筆記試験によって行なう予定である。

教 科 書

笠原俊宏著『国際家族法（増補版）』（高文堂出版社）を使用する。

参 考 書 等

いずれかの六法を常に携帯することを望む。

そ の 他

授業は普段講義によって進行するが、時折、事例を設定して、皆で一緒に考えることも予定している。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|----------|----------------|----|
| 環境法 | まつ 村 弓 彦 | 法B3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法A3・4選 | |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 環境問題を事実と法律論の両面から理解する。私法からのアプローチを中心とするが、現在我が国が当面している環境法上の重要課題については、公法・国際法分野の問題を含めて勉強する。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 教科書と判例（必要に応じて配布する）を中心とし、概ね以下の項目にわたる。 (1) 環境法の背景・歴史・理念等 (2) 環境保全法制 (3) 環境責任 (4) 費用負担 (5) 特殊問題—我が国が当面する諸問題 |
| 履修上の留意点 | 事実を踏まえた法理論の理解を深めること。 |
| 成績評価の方法 | 論文式試験（年1回）および授業中の報告の評価による。 |
| 教科書 | 拙著『環境法』（成文堂） |
| 参考書等 | 森島昭夫ほか編『公害・環境判例百選（別冊ジュリスト126号）』（有斐閣）2,300円 |
| その他 | 授業の方法：テーマに応じて講義形式とゼミ形式を併用する。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|------------|----------------|----|
| 知的財産権法 | もり 盛 岡 一 夫 | 法B3・4選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法A3・4選 | |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 知的財産権法には、狭義の工業所有権法（特許法・実用新案法・意匠法・商標法）および著作権法等が含まれる。知的財産権法は、知的所有権法または無体財産権法といわれることもある。知的財産権法全般についての基礎理論を理解できるように、わかりやすく講義したいと考えている。学説・判例の対立している点については、これに関する学説・判例を紹介し、問題点の所在をあきらかにしたい。 特許法においては、発明の定義、特許を受けるための要件、従業者が発明をした場合の法律関係、特許権の侵害に対する救済方法、実施契約等について、実用新案法においては、特許法との相違について、商標法については、商標登録要件および類似商標について詳しく解説する。著作権法および不正競争防止法についても講義する。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 前期：特許法・実用新案法 後期：意匠法・商標法・著作権法・不正競争防止法 |
| 成績評価の方法 | 前期・後期に行なう平常試験および学年末試験によって評価する。 |
| 教科書 | 盛岡一夫『工業所有権法概説－知的財産権法の基礎知識－〔第3版〕』（法学書院） |
| 参考書等 | 特許庁編『工業所有権法逐条解説』（発明協会）、中山信弘『工業所有権法上』（弘文堂） 鴻・紋谷・中山編『特許判例百選』（有斐閣）、斉藤・半田『著作権判例百選』（有斐閣） |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|-------------------|-----|
| 財 政 学 | はや 速 水 のぼる 昇 | 法 B 3・4 選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法 A 3・4 選 | |

講義のねらい

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵をうけている。たとえば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、的確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に払った額の数割程度ですむ。

また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。さらに金融不安、国債の累積残高、高齢化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多くある。

その反面、わが国財政は、平成10年度末で国債の発行残高が約300兆円、地方公共団体の債務残高が約160兆円、これに約28兆円の旧国鉄の債務や「隠れ借金」といわれる林野事業等の特別会計の借金などを加えると、財政赤字は実に約550兆円になる。この数字はわが国のGDPにほぼ匹敵する。EU（ヨーロッパ連合）の基準だと健全な国家の財政赤字はGDPの60%とされているから、わが国の財政はいかに不健全な状態であるかが理解できる。最近の景気低迷、これからの高齢化社会に向けて、納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から財政の問題を考えていくことが大切であるという認識に立って授業を行う。

教 科 書

西村紀三郎監修・速水昇編著『財政学』（学文社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|--------------------|-------------------|-----|
| 経 済 政 策 | にし やま つかさ 西 山 司 | 法 B 3・4 選 | 4 |
| | | 12以降入学生/法 A 3・4 選 | |

講義のねらい

従来、経済学の学問体系は、理論、政策、歴史、財政・金融、経営・会計の諸分野から構成されており、特に第二次世界大戦後の現代資本主義経済においては、経済政策を応用経済学の一環として重視する傾向が深まってきているといわれています。

このような動向に対応して、本年度の経済政策の講義は、経済政策の方法論や政策理論の究明および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定です。

特に経済政策の実践性と関連した「価値判断」論争をめぐるの諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の論理的位置を論究し、その果たすべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努めます。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールとしては、大きく前期と後期とに大別して、前期には主として、経済政策の方法論や政策理論について論究し、後期には、資本主義発展と関連した経済政策の史的展開過程と、その特質について論述する予定です。

履修上の留意点

講義の重要箇所や問題点など主要な内容については、出来るかぎり板書して詳説する予定です。受講される諸君は出席してノートされるように希望します。

成績評価の方法

学年末試験が中心になるのは当然ですが、出席も重視します。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

清水・松原編『経済政策論を学ぶ』〔新版〕(有斐閣)
なお講義に関連する文献は、その都度紹介するようにします。

| 科目名 | | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|----|------------------|---------|----|
| 演習 | I | あおのひろゆきの 青野博之 | 法 B 3 選 | 4 |
| 演習 | II | | 法 B 4 選 | |

講義のねらい

民法上の問題を自分で見つけ出し、相手も納得できるような解決を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

民法上のさまざまな問題の中から、ゼミ生が報告したいテーマを自分で探し出してくる。このテーマがゼミの内容になる。たとえば、授業を聞いていたときに疑問に思ったこと、新聞を読んでいて他の人がどのように思うか聞いてみたくなったことなどであるが、民法上の問題であれば、なんでもよい。

履修上の留意点

ゼミ生が報告したいテーマを自分で探し出し、報告し、全員で質疑応答してほしい。ゼミ生が主役である。主役たちの活発な討論を期待する。ゼミ生の意欲と関心でゼミが進んでいく。そんなゼミになることを希望する。出席して、しっかり発言する、これが大切である。

毎回、担当者が作成し、少なくとも1週間前に配布されたレジュメ(要旨)にそって討論する。1回でテーマが終わってもよいし、2回以上続いてもよい。

ゼミ参加希望者は、現在のゼミ生(つまり、先輩)に、ゼミの内容・雰囲気を十分に聞くことを忘れないように。

| 科目名 | | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|----|-----------------|---------|----|
| 演習 | I | おおみやたかしの 大宮隆 | 法 B 3 選 | 4 |
| 演習 | II | | 法 B 4 選 | |

講義のねらい

受講者が、各自のテーマについて深い知識を修得するとともに、集团的学習を通して学問の方法や文献、資料の検索、発表の仕方を身につける。

講義の内容・
授業スケジュール

家族法の分野から各自がテーマを選択し、順次研究内容や結果を報告してもらい、それに基づいて質問と討論をおこなう。関連する施設の見学やビデオの活用を考えています。

| 科目名 | | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|----|--------------------|---------|----|
| 演習 | I | かね 金子 しょう 昇平 | 法 B 3 選 | 4 |
| 演習 | II | | 法 B 4 選 | |

講義のねらい

本演習においては、行政法上の諸制度、行政法規の仕組及び複雑多様な法現象を広範囲にとりあげ、現代の行政法理論について理解を深めていきたい。

とりあえず、諸君の関心のあるテーマについての判例研究および学術論文の書評を行い、参加者全員とともに議論をつくしたいと思っている。例えば、環境の問題、教育の問題、公務員の問題、地方自治の問題、租税の問題、医療の問題などを挙げておく。

| 科目名 | | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|----|-------------------|---------|----|
| 演習 | I | さ 佐 とう 藤多美夫 | 法 B 3 選 | 4 |
| 演習 | II | | 法 B 4 選 | |

講義のねらい

〔刑法演習〕

- *このゼミでは、刑法上の重要問題を検討し、刑法理論を各自が体系的に理解し、法的な思考を身につけることをねらいとする。具体的には、刑法総論・各論における基本的かつ重要なテーマにつき、判例を素材とした事例研究を通して、それぞれの意義と問題点を学説上の争点を交えつつ考察していく。
- *授業は、個別での、受講者による研究発表をもとに、ゼミ員の自由な質疑・討論を行う形で展開する。具体的には、報告者は報告の一週間前までに、あらかじめ用意された事例に対してレポートを作成し、他のゼミ員はこれを批判的に検討する。
- *受講生は周知な準備が要求されるので、主体的・意欲的な受講者の参加を望みたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------|---------|----|
| 演習 II | すぎ 杉 浦 智 とも づ 紹 | 法 B 4 選 | 4 |

講義のねらい

民事の判決手続に関する主要問題を中心に支配的見解の依って立つ基盤の検討を通して、基本的原理の徹底的理解をはかる事、及び具体的問題をいかに訴訟法学的見地から評価し、解決すべきかを主眼として演習を行う。

民事訴訟やADRを含めて総合的な民事紛争の処理制度を考察対象とし、特に裁判制度の社会的・経済的意義や機能の解明にも努めるようにしたい。

ところで、ゼミナール志望の学生の大半が法律実務家志望の学生であるところから、法解釈学的能力を高めることに力点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

本学では民事訴訟法の講義が、3年次生からの履修科目であるため、基礎理論を除く高度の専門的課題について、直ちに報告をさせることには無理があり、また個別的に参考書を読ませても、体系的把握と重点の把握が難しい事もあるので、4月から7月までの前期期間のゼミでは、手続の全体像について充分理解させた上で、up-to-dateな重要な問題について、intensiveに講義をし、質問を受ける形で、これを行い、1日に主要問題を2～3問題、消化する方式で演習を進める。

指定参考書として、伊藤真著『民事訴訟法』（有斐閣）を必読させた上で、ゼミに参加させる。

具体的には、民事訴訟の主要問題の中、司法試験に出題された過去問を分析した上で、近い時期に出題されると予想される問題及び最高裁判所の中で、重要だと思われる事例、並びに最近5年以内に学会でテーマになった事項について、主として訴提起の段階、口頭弁論・証拠調べの段階、訴訟終了の段階の三段階に分けて整理し、解決基準を明確にした上で説明をし、夏休み直前に問題設定をし、所与の問題の中から任意に選んだ課題について、協力を受けながら三人一組で班構成をして、問題に挑戦する形で、夏休み明け直前に二泊三日のゼミ合宿を行い、その研究成果を発表させ、全員で討議し、結論を導き出すという方式のゼミを行う。合宿での残余の課題及び問題については、二学期以後の平常時間で、これを継続して行う。

ゼミ生は、3名で1班×4＝12名構成を原則とし、各班の内部役割は、総合的な立場で報告責任者としての報告者1名と学説について調査し、検討をする役割を分担する者、判例を整理し、その動向と分析結果を分担する者の三人で、一つの課題を確り合議し、その結果に基づいて、レジュメを作成の上、全員に配付し、報告を終え、それについて検討するという方式をとる。

この方式での演習は、平常時には、1カ月4問題を処理するので、かなりの主要問題について、一年間で基礎的理論については十分な理解力を持てるように指導する。

また、三年で修得した理解（法的物の考え方及び法的処理の仕方）を前提に具体的、個別的な問題を、予め提出し、報告担当者に、それぞれの研究成果を発表させ、それに基づいて討議を行い、論評を加えるという方式をとる。本人の選択したテーマを、一年間にわたって、深く研究し、最終的には、一つの論文にまとまるよう積極的示唆を行う。

履修上の留意点

法律を理解するには、まづ、条文を確り読んで理解すること。

ゼミは学生時代で最も厳しいと同時に楽しいものでなければ勉強した事が身につかない。

多くの友人も出来、将来の展望が拓けてくる。また自分の言いたい事が積極的に人前で意思表示できるようになる。

また、自分でまとめたものが、客観性があるか、自分の発言と、その結論を導いた理由づけが確り出来ているか等をポイントに、指導者 Adviser がいるので、誤りに臆せず、積極的主張を試みることである。

合宿やゼミの親睦会には是非出席されるように、また諸君の希望する職域で働くOB達の出席も多いので、その機会を逃さないようにされたい。

成績評価の方法

ゼミでの報告、討論によって判断をし、ペーパーテストによる評価はしない。

参考書等

1. 中野／松浦／鈴木編『新民事訴訟法講義』（有斐閣）
1. 『民事訴訟法の争点』（有斐閣）
1. 『民事訴訟法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）
1. その他は演習中に、適時紹介する。

| 科目名 | | | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|----|---------|----------|---------|----|
| 演習 | I | にし 西 | おさむ 修 | 法 B 3 選 | 4 |
| 演習 | II | | | 法 B 4 選 | |

講義のねらい

私は、演習をつぎのように位置づけたいと考えます。すなわち、マスプロ教育に陥りがちな一方通行を補うべく、双方向性を大切に、履修生と教師、履修生同士のディスカッションを多用して、みずからを磨きあげる場であると。そしてそれは、たんに勉強ばかりでなく、合宿などを通じて、心のふれあいのなかから、あらたな自分を見つけ出す場でもあると。こんな場にするために、私はつぎのような方針でのぞみたいと思っています。

- (1) ゼミのモットーは「出会い、学び合い、そして人間愛」です。
- (2) とくに小人数の場合、日々のふれあいが大切なので、毎回、出席すること。
- (3) ディスカッションには、積極的に参加し、かならず発言すること。

講義の内容・授業スケジュール

前期と後期に分け、前期は1、2冊の本を精読し、それについてディスカッションをします。共通に読む本として、拙著『日本国憲法を考える』（文春新書）1999年、『日本国憲法はこうして作られた』（中公文庫）2000年などを予定しています。またディスカッションの内容としては、①日本国憲法の成立過程とその法的問題点、②憲法第9条をめぐる諸問題、③世界の憲法トレンド、④人権の現代的意味などを考えています。その他、年2回の合宿を行ないますが、従来例では、レジャーとしてテニス、スキーをとりいれています。本演習のキャッチ・フレーズは「出会い、学び合い、そして人間愛」。明るく、アット・ホームな感じが特色のゼミであるといわれています。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|---------------------------|---------|----|
| 演習Ⅰ | はやし 林 こう 幸 じ 司 | 法 B 3 選 | 4 |
| 演習Ⅱ | | 法 B 4 選 | |

講義のねらい

- 1：民法の中でも、特にゼミ生が興味をもてるテーマを選択し、じっくり時間をかけて理解を深めてもらうこと
- 2：「具体的な事例問題や判例を素材に『討論』すること」の重要性を修得してもらうこと
- 3：討論において、ゼミ生自身納得のいく結論（見解）が出せるよう努力してもらうとともに、それを根拠づける「法的理論構成」の重要性を理解してもらうこと

講義の内容・授業スケジュール

民法全領域（家族法も含む）の中から、ゼミ生の希望により、いわゆる「争点」となっているテーマを選択するが、できるだけ体系的な視点から「つながり」のあるテーマ設定を行っていきたいと考えている。

〈方法〉

- 1：具体的な「事例問題」及び「判例」を素材とすること
私が個人的に作成した事例問題、及び適当と思われる具体的な判決例を提示し、それを素材として討論を行う。
- 2：様々な討論の方式を試みること
討論といっても、その方式・方法は様々である。①各分担につき報告者を決め、レジュメを作成してもらって、その進行の過程で討論を進めるという通常の方法もあれば、②模擬裁判の方式をとり、裁判官・原告・被告の立場に分かれて弁論をシミュレートしてもらい、その後、それぞれの立場を越えて討論を戦わせるといった方法もある。本演習では、受講生諸君が興味を掻き立てられる討論の方式を試みて行きたいと考えている。
- 3：各テーマにつき全員が担当者となること
どのような討論方式を採ったとしても、あるテーマでは報告者だが、別のテーマでは「お客さん」という者が出てくると、どうしても「活気ある討論」の実現は難しくなる。全員が同じ資格で討論に参加できるようにするという意味で、各テーマでゼミ生全員が担当者となってもらおうよう配慮するつもりである。
- 4：常にゼミ生全員の発言が義務づけられること
当然のことであるが、毎回、ゼミ生全員からの発言が望まれる。「沈黙は『禁』」である。

履修上の留意点

思いつき討論できる人間関係をつくるということは、実は大変に難しいことである。ゼミ生の関係がギスギスしていて皆バラバラというのでは、討論はケンカの種になるか、又はそれを恐れるあまりに沈黙が永続する、ということになりかねない。それぞれ異なる意見・対立する見解かもしれないが、互いに協力して討論を成功させるという姿勢で臨んでほしいし、そのための親睦交流も配慮するつもりである。

成績評価の方法

①いつも積極的に討論に参加しているか、②自分自身の見解を提示できたか、③その際、法的な理論構成はなされているか、などが評価対象となる。結論や理論構成が私と違っているかどうかなどは全く問題とならない。評価の対象外である。自分自身で納得できる見解を発見してほしいし、それによって、自分に『自信』をもってもらいたいからである。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------|-----------------------|---------|-----|
| 演 習 I | やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦 | 法 B 3 選 | 4 |
| 演 習 II | | 法 B 4 選 | |

講義のねらい

株式会社法の基本的な内容理解を中心に、現代の経済社会において必要不可欠の組織となっている株式会社を法的側面から、研究する。前期に会社法総論を見て、株式会社の特質を確実に理解した後、株式会社の運営をめぐる問題を検討する。後期は、これに、さらに株式をめぐる問題を加える。

講義の内容・
授業スケジュール

ゼミであるから、上述の基本的な予定に沿って、小テーマを選び、これを各ゼミ生に順次レポーターになってもらい、その報告をたたき台として、全員で討論する。小テーマは、株式会社法の各種制度・原則から、これらに関連する判例研究を取りまぜつつ、私の方で予め提示し、ゼミ生に割り振ることとする。

成績評価の方法

成績評価は、レポーターとしてのレジюме作成内容、報告内容、発言等を総合して行なう。出席は、必ずとる。理由のない欠席、遅刻に対しては、厳しく対応する。

教 科 書

教材として、『会社法判例百選（第6版）』（有斐閣）1,800円を指定する。その他、必ず、会社法についての概説書は購入しておくこと。

そ の 他

ゼミは、ゼミ生自身が主体的に参加してつくり上げるものである。自から、積極的に発言する、明るい学生を希望する。

2. 他学部履修科目

2. 他学部履修科目

| | | | |
|-------|-----|------------|-----|
| 商学 | 総論 | 〈大吹勝男〉 | 447 |
| 国際 | 経済 | 論〈休講〉 | |
| 社会 | 政策 | 策〈休講〉 | |
| 価格 | 理論 | 論〈荒木勝啓〉 | 449 |
| 国民 | 所得 | 論〈吉野紀〉 | 450 |
| 銀行 | 小企業 | 論〈休講〉 | |
| 人口 | 論 | 論〈休講〉 | |
| 中国 | 経済 | 論〈休講〉 | |
| アメリカ | 経済 | 論〈休講〉 | |
| ヨーロッパ | 経済 | 論〈清水卓〉 | 452 |
| 貿易 | 論 | 論〈休講〉 | |
| 会計 | 監査 | 論〈飯岡透〉 | 453 |
| 管理 | 会計 | 論〈中原章吉〉 | 455 |
| 法 | 思想 | 史〈高橋洋城〉 | 456 |
| 日本 | 法制 | 史〈茂野隆晴〉 | 457 |
| 西洋 | 法制 | 史〈休講〉 | |
| 経済 | 法 | 法〈岡田外司博〉 | 458 |
| 国際 | 関係 | 論〈前期：南山淳〉 | 459 |
| | | 〈後期：首藤素子〉 | |
| 地方 | 自治 | 法〈富井幸雄〉 | 460 |
| 倒産 | 処 | 理法〈馬越道夫〉 | 461 |
| アメリカ | 経営 | 学〈宮城徹〉 | 462 |
| 経営 | 財務 | 論〈高田光明〉 | 463 |
| 経営 | 組織 | 論〈長瀬勝彦〉 | 464 |
| 経営 | 技術 | 論〈休講〉 | |
| 公益 | 企業 | 論〈園田哲男〉 | 466 |
| 管理 | 会計 | 論〈前期：猿山義広〉 | 467 |
| | | 〈後期：菅本栄造〉 | |
| 会計 | 監査 | 論〈中平榮一〉 | 468 |
| 日本 | 経済 | 論〈羽鳥茂〉 | 469 |
| 中国 | 禅宗 | 史〈須山長治〉 | 470 |
| 日本 | 禅宗 | 史〈角田泰隆〉 | 470 |
| インド | 仏教 | 史〈池田道浩〉 | 471 |
| 日本 | 仏教 | 史〈袴谷憲昭〉 | 471 |
| 書 | 道 | 道〈野村宙弘〉 | 472 |
| 仏教 | と | 文化〈奥野光賢〉 | 472 |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|----------|-----|
| 商 学 総 論 | おお ぶき かつ お 大 吹 勝 男 | 法B・二営・短仏 | 4 |

講義のねらい

近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります、そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにする大学もあります。また、大学は社会的要請に答えねばならないという主張のもとに、その実、社会ではなく、会社・企業のために大学が存在することを主張し、かつ君たちに会社人間になることを勧めるマスコミや評論家等がいます。そして一方で、学問に背をむけ、それらに迎合する大学人がいます。しかし、大学は入学した君たちのためにあり企業のためにあるものではありません。そして、大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いいかえれば、大学でしか学べないこと、物事の見方、考え方を学ぶことです。さらにもうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。実用的なことは、その場限りのものであり、また入社してから容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に学問をしておくべきであったということです。諸君も、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に思考する能力を身につけて下さい。そして、社会に出て現実に困難な問題に出会った時に、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講義するものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいとおもいます。したがって、授業では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。そのためには一年間を通して授業に出席することが必要です。また本講義は、君たちが履修するであろうマーケティングや商業政策・流通政策のための基礎理論を提供するものであります。また、商学専修の学生は、あわせて経済原論Ⅰを履修すれば、本講義の理解の助けとなるでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

授業内容は下記の項目の通りですが、本年度は、これらの項目について講義しながら、現代企業の経営戦略において重要性を増している物流問題を考えるうえで、その基礎となる理論について特に力を入れたいと思います。

- (1) 商品論（価値論）
- (2) 生産過程論（労働過程論）
- (3) 流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）
- (4) 資本の回転と流通資本
- (5) 商業資本の本質論
- (6) 商業資本の自立化論
- (7) 商業利潤論
- (8) 純粋流通費用論
- (9) 商業労働論
- (10) ホワイトカラー労働論（サラリーマン論）
- (11) 商業資本の回転と価格
- (12) 大規模商業資本論
- (13) 独占的商業資本論
- (14) 卸売排除論
- (15) 流通系列化論

成績評価の方法

評価は期末試験によるが、授業の予習をかねてレポートを課すこともありうる。また各授業項目が終る毎に、小テストを実施し、君たちの理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とします。期末試験は論述形式ですが、テキストの参照を認めます。しかし、この措置は、私自身、学生時代に非常に疑問に思っていたことでありますが、君たちに、受験生のような暗記の勉強を早く卒業してもらい、十分な準備をして試験に臨んでもらいたいということでもあります。いうならば、問題のわからないレポート試験とでもいえばよいかもしれません。したがって、容易に単位が取得できるという意味ではありませんから誤解のないように。

再試験は実施する。

教科書

- 1 大吹勝男著『新版流通費用とサービス理論』（梓出版社）
- 2 『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）第20巻第2号
- 3 『経済学論集』第20巻第4号
- 4 『経済学論集』第22巻第1号
- 5 『経済学論集』第22巻第4号

6 『経済学論集』第26巻第1号

7 『経済学論集』第27巻第1号

以上、2から7までの『経済学論集』には、大吹勝男の執筆する商業資本、商業利潤および商業労働に関する論文が掲載されていますから、図書館にてコピーして利用して下さい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|----------|-----|
| 価 格 理 論 | あら き よし ひろ 荒 木 勝 啓 | 法B・二営・短仏 | 4 |

講義のねらい

価格理論の目的は、経済の中でミクロ主体が互いに競争と最適化を行うことにより、市場および経済一般がどのような方向に向かうかを研究することである。もし競争が理想的に行われ、情報や資源移動の完全性が保証されるならば、市場はパレート最適と呼ばれるある種の理想状態に達し、価格は自然に社会的厚生を最大化する水準に定められる。しかし例えば市場参加者が2という少数者で行われるならば、たとえ同様の競争自体が行われても、結果はクールノー・ナッシュ均衡とよばれるような、完全競争とは異なった市場均衡に到達するであろう。またその競争のありようによっては同じ2という参加者の競争から、シュタッケルベルク均衡と呼ばれるさらに異なった均衡状態が作り出されることになる。その点はもはやパレート最適からはほど遠い点である。

このように、価格理論は、一般に「物価水準」と呼ばれているような現実のデータとしての価格というよりも、経済の市場の枠組みやミクロ主体の行動様式に関する様々な想定から導き出される as if パフォーマンスとしての価格決定を調べる科目である。従ってその分析のためにはどこまでも「最適化」手法がつかまとう。しかも経済学の場合最適化はほとんどの場合「制約付き最適化」である。

制約のないところに経済は成立しない。近代経済学を生み出した限界革命の旗手であるカール・メンガーは次のように述べる。「村にわき出る泉があり、その水をだれでもが飲めるならば、その水をめぐる経済現象は生じないであろう。しかし、旅人が増えて村人が水を自由に飲めなくなったときから泉の水に経済現象が生じ始める。」

以上のように価格理論では内容の理解がほぼ制約付き最適化手法の理解如何にかかっているといてもよい。従って講義のかなりの部分があるための準備と練習に当てられると思っていただきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 価格理論で学ぶこと
- (2) 多変数関数と曲面
- (3) 微分、変微分、全微分
- (4) 対数関数の微分と成長理論
- (5) 生産関数、コブ・ダグラス生産関数
- (6) ベクトルの直交と勾配ベクトル
- (7) 制約付き最適化問題のグラフィカルな理解
- (8) ラグランジュ乗数法
- (9) 加重限界効用均等の法則
- (10) 練習問題
- (11) 代替効果と所得効果の計算
- (12) 需要曲線と需要の価格弾力性
- (13) パレート最適、ボックスダイアグラム
- (14) MR 曲線
- (15) 独占均衡
- (16) 消費者余剰と生産者余剰、独占均衡の死重的損失
- (17) 費用曲線と供給曲線
- (18) 生産関数から短期費用関数の導出
- (19) 生産関数から長期費用関数の導出
- (20) クールノー・ナッシュ均衡
- (21) クールノー・ナッシュ均衡解の練習問題
- (22) 等利潤曲線
- (23) シュタッケルベルク均衡解
- (24) シュタッケルベルク均衡解の練習問題
- (25) ゼロサムゲームの解法

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可。

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成溪堂）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------------|----------|----|
| 国民所得論 | よしの吉野 におさむ紀 | 法B・二営・短仏 | 4 |

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここでは、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言える。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その一つ一つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」……………5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」……………4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」……………8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」……………4回
前講までの内容が理解できれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」……………5回
ここまでに出てきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教科書

R.J.ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』第6版(多賀出版)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|----------|-----|
| 中 国 経 済 論 | こ すぎ しゅう じ 小 杉 修 二 | 法B・二営・短仏 | 4 |

平成12年度休講

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|---|----------|-----|
| ヨーロッパ経済論 | し 清 ^{みず} 水 卓 ^{たかし} | 法B・二営・短仏 | 4 |

講義のねらい

ヨーロッパ経済論は、資本主義世界経済を創り出し、その主導者として、数百年の間、世界の近代化を進めてきたヨーロッパ経済の現状分析を通して、今後の日本と世界経済の展望について考察することを課題とします。

冷戦崩壊後10年、世界は、市場原理による経済運営と自由貿易体制の時代に入っています。効率至上のアングロサクソンの新自由主義経済システムが、経済格差、環境破壊などの諸問題の解決にとり有効であるか否かを、ヨーロッパ諸国の現状をふまえて検討します。

欧州連合（EU）の11か国は、昨年1月単一通貨ユーロを発足させました。通貨統合はアメリカドルから自立した強く安定した欧州通貨を創出し、欧州経済統合の完成を目指しています。一般市民がユーロ紙幣や硬貨を使用するようになるのは2002年ですが、このユーロが安定通貨になるか否かは、世界経済のあり方に大きく影響します。

1997年には、イギリス、フランス、1998年にはドイツで社会民主主義政党が政権につき、EU 15カ国のうち13カ国が左派中道政権となりました。こうした政権が、グローバル化に対応して、第二次世界大戦後作り上げた福祉国家の成果をどのように継承ないし刷新して行くのかが注目されます。とりわけ、民営化やリストラによる高失業率をどのように解決していくのか手腕が問われています。通貨統合と併行して進められる東欧、中欧諸国へのEU拡大、それに伴うEU機構の再編など、統合過程の動きも目が離せません。

講義の内容・授業スケジュール

【前期予定】

- 第二次世界大戦と戦後ヨーロッパ
- 西欧経済の高成長
- 欧州統合への歩み－EEC への道
- 経済統合の展開－関税同盟
- 経済統合－共通農業政策
- 経済成長の限界－スタグフレーション
- 経済危機下の EC－通貨危機
- 経済危機への対応(1)－サッチャリズム
- 経済危機への対応(2)－ミッテランの実験
- 1992年市場統合－非関税障壁の克服
- 経済通貨同盟－単一通貨ユーロ
- 前期試験

【後期予定】（EUの最新動向をフォローするためテーマを変更することがあります）

- ヨーロッパの多様性－地理・民族・文化
- EUの農業－多様性
- EUの産業の変貌－
- EUの機構と財政－超国家か国家連合か
- EUと地域政策－地域格差の克服
- EUの拡大－東欧、中欧諸国の加盟に伴う諸問題
- EUの対外関係－日本との比較
- 欧州の平和問題－冷戦と民族問題
- 後期試験

履修上の留意点

ヨーロッパ経済論は、一つの体系的理論を敷衍する科目ではありません。ヨーロッパの多様性について認識を深め、経済社会の現実にも目を向け、経済や社会的諸問題の解決には様々な視点が可能であるのだということを確認してもらいたいと思います。

成績評価の方法

試験点数を基本とし、出席回数にも配慮します。なお、再試験は行わないので注意してください。

教科書

教科書はありません。ただし、日経文庫『EUの知識』は有益でしょう。

参考書等

授業中に紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|---------|--------|----|
| 会計監査論 | い飯 おか 透 | 法 B・短仏 | 4 |

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査についての理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

〔前期〕

4月 会計監査の目的と種類

- (1) 会計監査の目的
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性とその構造

5月 わが国監査制度の展開

- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開

監査人の要件と責任

- (1) 監査人の要件
- (2) 監査人の選任と責任
- (3) 監査人の職務権限と責任

6月 監査要点と監査手続の選択適用

- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 通常実施すべき監査手続とその内容

7月 監査証拠の種類と内容

- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後期〕

9月 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素
- (2) 内部統制の評価
- (3) 監査リスクと重要性

10月 監査計画と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

11月 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
- 経営者確認書の意義と記載内容
- (1) 経営者確認書の意義と目的
 - (2) 経営者確認書の記載内容

12月 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短文式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、夏季休業中のレポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。再試験を実施する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』（中央経済社）3,500円

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）3,800円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------------|--------|-----|
| 管理会計論 | なか ばら しょう きち 中原章吉 | 法 B・短仏 | 4 |

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができるといえます。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の生徒は会計学の入門書を読んでおく講義が理解しやすいと思います。例えば、中原章吉著『企業会計の基礎』（創成社）3,500円、平成11年

教科書

中原章吉編『管理会計論』（税務経理協会）平成12年

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|----------|-----|
| 法 思 想 史 | たか はし ひろ き 高 橋 洋 城 | 経B・二営・短仏 | 4 |

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは大まかなアウトラインしか述べることができないが、重点をおくトピックおよび思想家として、以下を予定している。

- (前期) ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想（プラトン、アリストテレス）、キリスト教思想（アウグスティヌス）、中世自然法論（トマス・アクィナス）
- (後期) 前近代から近代への世界像の転換、近代法の基礎理論とも言える自然権論や社会契約思想（ホッブズ、ロック、ルソー）、これを批判的に受け継ぐドイツ啓蒙期の法思想（カント）、ドイツ観念論の法思想（ヘーゲル）

基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、断片的な紹介ではなく、影響関係や重要な概念枠組の変遷などを重視し、明らかにできればと思う。また狭い意味での法学理論史の枠にとらわれず、各々の法思想を、その時代の間観やコスモロジーの中に法理解を位置づけて検討し、そうした作業を通じて最終的には、近代という時代が獲得したものと忘却してしまったものについて考えてみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19、20世紀以降の法思想ないし法学理論の諸潮流については、法哲学講義の一環として取り扱うつもりである。

成績評価の方法

定期の記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とする。その他に任意提出課題として、講義で紹介した思想家の著作を読んでレポートを提出してもらえば、一定範囲内で評価に加える。

教科書

ここでは、三島淑臣『法思想史』[新版]（青林書院）4,854円を挙げておくが、講義の補完、通常の学習には自分にあった概説書を選んでもらってかまわない。詳細については講義のはじめに紹介する。

その他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------|----------|----|
| 日本法制史 | しげのたかはる 茂野隆晴 | 経B・二営・短仏 | 4 |

講義のねらい

どんな学問にも史学がある。法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史である。日本法制史は、「日本国民の法律生活の歴史的考察」である。それ故、法制史は過去の制定法規を羅列し、その解釈にのみ留まるものではなく、その法の発生した社会的背景をさぐらなくてはならないのである。

講義では、そうした観点に立ち、国初から近代までの5期に分ち、主な法制を中心に取り上げ、各期の法の特性をできるだけ平易に講述していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 日本法制史とその時代区分
- 2 国生みの神話ほか
- 3 『魏志』倭人伝ほか
- 4 冠位十二階と憲法十七条
- 5 律令の刑罰体系と司法制度
- 6 律令の「戸令」
- 7 三世一身法と墾田永年私財法
- 8 御成敗式目
- 9 甲州法度之次第（信玄家法）
- 10 武家諸法度
- 11 五人組帳
- 12 公事方御定書
- 13 田畑永代売買禁止令と分地制限令
- 14 慶安の御触書
- 15 奉公年季の規制
- 16 商家の財産相続
- 17 荻先祖徠の『政談』
- 18 大名貸と御用金
- 19 相对済し令・本公事と金公事・棄捐令
- 20 出奔・欠落・勘当・旧離のことなど
- 21 去状（三下り半）
- 22 大津事件
- 23 登極令ほか
- 24 明治民法総則・親族・相続

履修上の留意点

めいめいには少しだけの私語かも知れないが大きな教室では騒音と化す。そうしたなかでは細やかな授業は不可能です。特に留意してもらいたい点である。

成績評価の方法

学年末試験に、平常点として出席点を加味して行なう。

教科書

大久保治男・茂野隆晴〔編著〕『日本法制史史料60選』（芦書房）本体2,000円

参考書等

大久保治男・茂野隆晴〔共著〕『日本法制史』（高文堂出版社）2,980円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|--|-----------|-----|
| 経 済 法 | <small>おか</small> 岡 <small>だ</small> 田 <small>とし</small> 外 <small>ひろ</small> 司 博 | 二 営 ・ 短 仏 | 4 |

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少くともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

丹宗暁信・厚谷襄児編『新現代経済法入門』（法律文化社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|----------|-----|
| 地 方 自 治 法 | とみ い ゆき お 富 井 幸 雄 | 経B・二営・短仏 | 4 |

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをかみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎回レジメを配布し、それに沿って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験（40%）と学年末試験（60%）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教 科 書

南博方他『行政法(3) (第3版)』(有斐閣双書) 1,800円

参 考 書 等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』(学陽書房)、『地方自治判例百選 (第2版)』(別冊ジュリスト)。なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』(良書普及会)は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方分権』(岩波書店)、同他『概説日本の地方自治』(東京大学出版会)は必読。

そ の 他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法(『地方自治小六法』(学陽書房)があるがポケット六法でよい。)は必携。その都度チェックすること。平成12年度には地方自治法の大規模な改正があるので、必ず平成12年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|----------|----|
| 倒産処理法 | 馬越道夫 | 経B・二営・短仏 | 4 |

講義のねらい

倒産処理法とは破産法・和議法・商法上の会社整理・清算に関する規定、会社更生法など倒産に関する諸法規の総称である。倒産処理法という名称の法典が六法全書に存在するわけではない。

なお、倒産とは債務者が経済的に破綻し債務の弁済が極めて困難になった状況をさす。倒産処理法には目的の異なる二種の法規が存在する。一つは債務者の財産を清算し、債権者への平等弁済を図る制度である（例・破産法）。他の一つは債務者の財産を全面的に清算することなく、取引関係を整理し企業の再建を図る制度である（例・会社更生法）。上記二種の法規について判例を挙げ具体的に講述したい。

また、今日国際的取引の拡大や多国籍企業が多発に伴い、一企業の破産もその影響は国内に止まらず破産的処理も国際的規模が要求される。かかる涉外破産の問題点についても平易に講述したい。

講義の内容・授業スケジュール

4月・5月 倒産処理法の概説

6月・7月・9月 破産法

10月・11月・12月・1月 会社更生法

※授業時間ごとに、その時間の講義の要旨を記載したプリント（レジュメ）を渡します。

履修上の留意点

受講者は民法・民事訴訟法の基礎知識を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験の結果及び出席状況を参考にします。

教科書

桜井孝一編 馬越道夫著『演習ノート破産法』（法学書院出版）1,800円

参考書等

石川明『破産法』（日本評論社発行）2,800円

馬越道夫編著『論点国際民事訴訟法』（不磨書房出版）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------|----------|-----|
| アメリカ経営学 | みやぎ 徹 | 経B・法B・短仏 | 4 |

講義のねらい

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必須科目である「経営学概説」や「経営学」などの授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の8つの要目について検討する。

講義の内容・授業スケジュール

マイクと板書。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数（ただし、期末試験日を入れて）から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数（合計29回）で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

2000年度『アメリカ経営学』授業計画

- I 1年間の授業の概要(1)
- II 経営学の対象と方法(2)
- III 意思決定と権力（パワー）(8)
- IV 戦略（特に提携、グループ、ファミリー）(4)
- V コンティンジェンシー理論(4)
- VI 取引コスト理論(6)
- VII プロパティ・ライツ理論(2)
- VIII プリンシパル-エージェント理論(2)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

教科書

指定しない。

参考書等

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）1983、1997
 - 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』（早大、第20号）1985
 - 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』（千倉書房）1987
 - 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』（第2版）（成文堂）1989、1998
 - 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社）1993
- ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介してゆく。
- 6 宮城徹（単独訳書）『情報時代の企業管理の教科書——組織の経済理論の応用——』（税務経理協会）2000（A.Picot u. a., Die grenzenlose Unternehmung, Gabler, 1998）
 - 7 宮城徹（共訳書）『新制度派経済学による組織入門』（白桃書房）1999（A. Picot u. a., Organisation. Eine ökonomische Perspektive, Schäffer-Poeschel, 1997）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------------|-------|----|
| 経営財務論 | たか だ みつ あき 高 田 光 明 | 法B・短仏 | 4 |

講義のねらい

〔財務の意味〕

経営財務は、企業という組織体の財務を研究する学問分野である。企業は、社会が必要とする財貨やサービスを生産し販売するという活動を営む報酬として、利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、機械、建物、原材料などの財貨が必要となるし、労働力も不可欠である。企業は、その活動を営むに際し、これらの財貨を取得しなければならないし、働き手も雇用しなければならないわけであり、そのために元手となる資本を必要とする。

この元手としての資本を集めることを、資本の調達という。そして、現金の状態では通常は調達する資本で、企業は、上記の財貨や労働力などを取得し、これらの生産要素により、新たな財貨やサービスを生産して販売するという営業活動を遂行し、その結果として資本が自己増殖することを目指す。このことが資本の運用であり、企業の営業活動を通じた資本の自己増殖分が利益である。企業の財務とは、現在では、企業による以上のような資本の調達と運用をいっている。

〔資本調達の位置〕

企業が資本を調達するのは、調達資本をできるだけ効率的に運用して自己増殖させ、利益を生み出すためである。その意味では、資本の運用あつての調達であるといつてよい。しかしながら、企業は、用途に合った種類の資本を、必要とする額だけ必要なときに調達できなければ、資本の運用を意図したように行い難くなる。資本運用の効率性は、企業が、資本の運用に合わせた調達をいかに行えるかに制約される。資本の運用がうまくいくかどうかの出発点は、資本をどのように調達するかにあるといえる。

資本の調達問題は、経営財務において、依然として重要な位置を占めていることに変わりがない。資本の運用あつての調達であるからといって、そのことは、資本の調達面の意義が小さくなることをけっして意味してはいないのである。この授業では、以上のような問題意識のもとで、資本の調達を中心に、必要に応じて資本の運用面と関連させながら講義するつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

基礎知識を体系的に理解し、この学問の基本的考え方を身に付けられるようにするために、まず基礎的・総論的事項について次の順番で講義していく。

1. 経営財務の領域
2. 資本と資産
3. 資本の分類
4. 資本の運用形態
5. 流動・固定分類法の重要性
6. 資金

履修上の留意点

経営財務論を理解する上で必要となる最小限の会計的知識も授業では説明する。しかし、簿記学と会計学を前もって履修してあることが望ましい。

教科書

中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

参考書等

染谷恭次郎著『資金計画の手引き』（日経文庫）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---------------------------|----------|-----|
| 経 営 組 織 論 | なが 長 瀬 かつ 勝 ひこ 彦 | 経B・法B・短仏 | 4 |

講義のねらい

この講義で論じるのは、第1に企業組織がどのように構成されているのか、第2にそれが環境の中でどのように運動しているのか、第3に個人や小集団が組織とどのように関わっているのかである。

組織というものは形があるわけでもなければ色が付いているわけでもない。目に見えない存在である。それなのに私たちは、会社がどうだとか学校がどうしたとか当然のように会話を交わしているし、法律上も「法人」として人間並みの位置づけがされている部分もある。天然資源から自動車やコンピュータをつくったり、巨大ビルや橋を建築したりすることは個人では何百年かかってもできないが、組織はやってのける。企業組織の活動によって生活が豊かで便利になることは否定しようがない。しかし一方で企業組織は、自然環境を破壊して私たちの生活を脅かすという側面も併せ持っている。

また、人間は組織の中で高く評価されると嬉しく思うし、「会社人間」といわれるように組織と一体化する人もいる。一方で組織の側も構成員に対していろいろ便益を与えてくれるが、景気が悪くなると手のひらを返したようにみんなで嫌がらせをすることもある。ショックで病気になるったり自殺したりする人もいほどである。こんなに社会にも個人の心にも大きなプレッスを示す経営組織について、じっくり考えてみようではないか。

授業の展開としては、抽象的な理論や学説の紹介は程々に留め、現代の組織が直面している問題をなるべく多く取り上げて議論していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

取り上げる予定の主項目は以下の通りである。ただし授業の回数と項目番号は一致しない。

1. コーポレート・ガバナンス（企業は誰のものか）
2. 企業組織の階層（企業組織を横に切ってみる）
3. 企業組織の部門化（企業組織を縦に切ってみる）
4. 新規事業開発と組織内組織（企業組織の卵）
5. ラインとスタッフ（組織の中の2種類の仕事）
6. 国際化と組織（多国籍企業の組織はどんなものか）
7. 企業と外部環境（コンティンジェンシー理論の貢献と限界）
8. 組織文化と組織開発（企業によって社員のものの考え方が違う）
9. 組織と戦略（組織は戦略に従う？）
10. 企業の寿命と組織エコロジー（会社の寿命は30年？）
11. 組織のリストラクチャリング（企業の建て直し）
12. 新しい人事・処遇制度（出世と給料）
13. 情報化と組織（コンピュータが入って組織はどう変わったか）
14. 企業間関係（ネットワーク論）
15. 個人と組織（人はなぜ組織のために働くのか）
16. 組織的意思決定（経営学とは意思決定の学問である）
17. イノベーション（企業とはイノベーションをする存在である）
18. 組織均衡論と新しい組織論（サイモンはどこまで正しいか？）
19. 意思決定演習（ゲームで組織的意思決定の疑似体験）

通常の講義のほかに、適宜ビデオ教材を使ったりゲーム形式をおこなったりする（臨時的な教壇変更）に注意。講義時間内にレポートの作成と提出を求めることもある。また講義中に受講生の発言を求めることがあるが、高いレベルは求めていないので、素朴な意見を積極的に開陳して欲しい。

履修上の留意点

私は受講者のために「楽しく、分かりやすく、ためになる」講義をするように、いろいろと工夫をしているつもりである（それが100%成功しているとは言わないが）。それだけに、講義の妨げになる行為（私語や携帯電話など）に対しては厳罰をもって臨む。それが一度であっても成績が「不可」になることもあるので覚悟しておくこと。私語をするくらいなら講義に出席しない方が、単位取得に関してははるかに安全である（もちろん毎回まじめに参加することが最も好ましい）。また講義時間内にレポート作成を課するときは、理由の如何を問わず遅刻者の入室は認めないので注意すること。

成績評価の方法

定期試験の点数が主体となる。それにレポート点が加算される。

教科書

なし。

参考書等

長瀬勝彦著『意思決定のストラテジー』（中央経済社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|-----------|-----|
| 公 益 企 業 論 | その だ てつ も 園 田 哲 男 | 法 B ・ 短 仏 | 4 |

講義のねらい

公益企業論の主要内容は、企業規制に関連する諸問題であり、とくに一般的企業規制と区別される意味における公益企業規制である。つまり、公益企業は、料金およびサービスに関し、規制をうけている問題であり、また、公益企業概念が本来、制度的色彩の濃いものである。本講では、今日、企業の社会的責任の問題が論じられ、国民福祉という観点から、企業のあり方が問われ、政策事項として企業規制が問題とされている中で、公益企業の規制とは何か、また、公益企業の特質とは一体どのようなものかについて理解を深めることにある。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のすすめ方としては、前期は、公益企業概念の発達と、その問題点および公益企業概念の再検討（規制と競争）を行う。後期は、公益企業における持株会社の形成および評価について考察し、その上で公益企業の特質について理解させる。

履修上の留意点

学問は、単に知識だけを増殖するのではなく、適切な判断と意思決定を行なうための基礎となるものと考えている。本当に学ぶ意思のある学生だけが履修してくれることを望む。

成績評価の方法

成績評価においては、単元ごとに小テストやレポートを課し、総合評価とするが、大学卒業レベルの知識と問題解決能力を養う努力をしない者は厳しく評価を行うつもりである。

教科書・
参考書等

授業中に指示する。また参考文献などを挙げ、できるだけ広範な考察を行うつもりである。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--|-----------|-----|
| 管 理 会 計 論 | 前期：猿 <small>さる</small> 山 <small>やま</small> 義 <small>よし</small> 広 <small>ひろ</small> 後期：菅 <small>すが</small> 本 <small>もと</small> 榮 <small>えい</small> 造 <small>ぞう</small> | 法 B ・ 短 仏 | 4 |

講義のねらい

この講義では、すでに「簿記学」の単位を修得していることを前提として、企業における管理会計の基本思考を学びます。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 管理会計の体系
- II 管理会計における原価概念と利益概念
 - 1. 原価態様
 - 2. 全部原価計算と直接原価計算
 - 3. 分権管理のための原価概念と利益概念
- III 利益計画
 - 1. 利益計画の手続
 - 2. 損益分岐点分析と CVP 分析
 - 3. 短期利益計画のための価格分析
 - 4. 短期利益計画のための営業費分析
- IV 生産現場における原価管理活動の取組み
 - 1. 原価企画・原価改善・原価維持の概念
 - 2. TDK株のケース
- V 組織構造の変革と管理会計
 - 1. マネジメントコントロール・システムとは何か
 - 2. 組織形態と責任会計の関係
 - 3. 事業部制会計について
 - 4. マイクロ・プロフィットセンター制
 - 5. 京セラのアメーバ経営、NEC 埼玉のラインカンパニー制のケース
 - 6. オムロン綾部工場、KOA株の WSM のケース
- VI まとめ

履修上の留意点

「管理会計論」は計算科目なので電卓を持参すること。

成績評価の方法

レポートを重視します。

教 科 書

適宜プリントを配布します。

参 考 書 等

より体系的に勉強したいという人のためには、櫻井通晴著『管理会計』（同文館）。
計算問題については、日商簿記検定の「工業簿記」「原価計算」のテキスト。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|-----------|-----|
| 会 計 監 査 論 | なか ひら えい いち 中 平 榮 一 | 法 B ・ 短 仏 | 4 |

講義のねらい

独立監査人による財務諸表監査の基礎知識について解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

会計監査論では、つぎの題目の順で体系的に講義をすすめる。

- (1) 会計監査論の対象と方法
- (2) 会計監査の意義
- (3) 監査の種類
- (4) 監査の基準
- (5) 監査の主体
- (6) 監査証拠と監査技術
- (7) 監査計画と監査手続
- (8) 監査調書
- (9) 監査報告
- (10) 内部監査及び監査役監査
- (11) 国際監査

上記を通じて財務諸表監査の基礎知識を十分に講述したい。

履修上の留意点

継続して受講することが要請される。

成績評価の方法

定期試験のほか、小ペーパー・テストも評価の対象にする。

教 科 書

開講時にくわしく紹介する。

参 考 書 等

開講時にくわしく紹介する。

そ の 他

授業の方法 講義。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------|-----------|-----|
| 日 本 経 済 論 | は どり しのぶ 羽 鳥 茂 | 法 B ・ 短 仏 | 4 |

講義のねらい

多様な経済システム（日本の経済システムもその1つ）がどのようにして生まれ、また、それらはどのように進化していくのでしょうか。このことを考えてみたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

情報・組織・契約のミクロ経済学と、それらの理論的基礎を提供するゲーム理論、およびゲーム理論のフロンティアの1つである進化ゲーム理論の新しい展開をふまえて、「講義のねらい」にチャレンジします。

履修上の留意点

受講生としての一般常識を持っていることはいうまでもないですが、下記の参考文献を必要に応じて参照し、授業内容の理解を確かなものにするよう努力してください。

成績評価の方法

後期授業終了後、筆記試験で評価します。

教 科 書

青木昌彦、奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』（東京大学出版会）1996年 3,200円

参 考 書 等

読みやすいと思われる順になっています。

[A] 鶴光太郎『日本の市場経済システム』（講談社現代新書）1994年

[B] ジョン・マクミラン、伊藤、林田訳『経営戦略のゲーム理論』（有斐閣）1995年

[C] 中山幹夫『はじめてのゲーム理論』（有斐閣）1997年

数学はつぎの2冊が適当だと思います。

[D] 高橋渉『現代解析学入門』（近代科学社）1990年

[E] 永谷裕昭『経済数学』（有斐閣）1998年

そ の 他

数学が必要なときにはできるだけ解説しますが、諸君達の努力は不可欠です。意欲ある皆さんの出席を期待しています。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------------------|-------|----|
| 中国禅宗史 | 須山長治 <small>す やま ちやう じ</small> | 経B・二営 | 4 |

講義のねらい

『景德伝灯録』には1,700人余りの禅僧たちが登場する。その一人一人が語り出す世界は、今日の我々が見てもまことに感動的である。なぜ感動的なのか。それは彼らが“己の現存”を言葉によって、いかに表現しようとしたかを目の当たりにするからである。禅宗は自らを不立文字と標榜するが、実際は言語を断ち切らず、言語によって言語の届かない世界をあらわにしようとした精神運動なのである。この事実を、禅の語録を通して考察していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

昨年度に続き、本年度も『碧巖録』を解説しながら、達磨以降の禅僧たちの言行を調べていく。これにより、中国禅では時代とともにどのような問題意識が展開していったのか、その軌跡をたどりながら、全体的に“中国禅”とは何かを考えていきたい。

履修上の留意点

出席を重視する。

成績評価の方法

試験は基本的な内容を問う。
具体的には、論述。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

『碧巖録』（岩波文庫）、『雪竇頌古』（禅の語録シリーズ）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|---------------------------------|-------|----|
| 日本禅宗史 | 角田泰隆 <small>つの だ たい りやう</small> | 経B・二営 | 4 |

講義のねらい

禅宗という宗派はないが、坐禅および禅定を主たる実践とする教えの流れを汲む宗派を禅宗と呼び、一般的には曹洞宗・臨済宗・黄檗宗の総称として禅宗と呼んでいる。本科目は、日本の禅宗の歴史について概説する。

講義の内容・授業スケジュール

日本の禅宗の歴史についての研究をするものであるが、その基礎知識として、まず、禅とは何かについて、インドや中国における禅の仏教史における位置と思想について、概説したい。そのうち教科書（第三部禅宗の歴史-日本篇）によりながら、日本の禅宗の歴史を講義してゆく。

成績評価の方法

定期試験の筆記試験の成績によって評価する。ただし、原則として所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席しなかった者は、筆記試験の成績の如何に関わらず単位は認定されない。

教科書

駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）2,370円

参考書等

授業において紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|---------|-----|
| イ ン ド 仏 教 史 | いげ だ みち ひろ 池 田 道 浩 | 経 B・二 営 | 4 |

講義のねらい

インドにおいて既に釈尊の教説に対する異なった解釈が多数存在していた。各学派はこれこそが正しい教えであることを主張し、論争を繰り返していたのである。この講義はインド仏教の思想的展開の理解を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

インド仏教のおおまかな思想史について考察する。特に中観派と瑜伽行派との論争については、実際にいくつかの文献を講読していきたい。

成績評価の方法

受講者多数の場合、学年末の試験によって厳しく評価する。

参 考 書 等

高崎直道『仏教入門』（東京大学出版会）、平川彰『インド仏教史』上下巻（春秋社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|---------|-----|
| 日 本 仏 教 史 | ほかま や のり あき 袴 谷 憲 昭 | 経 B・二 営 | 4 |

講義のねらい

この授業は、日本において、インド伝来で中央アジアや中国や朝鮮を經由して将来された外来思想としての仏教が、いかに展開し定着したかを、通史的に辿っていく一方で、仏教と一括されるものの中に生じた全く異質な相対立する二つの流れの相違を明確に押えていこうとするものである。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は、以上の目的を実現するために、通史的な講義と諸文献の講読を並行して進めていくことになるが、できれば、後者により大きなウエイトを置きたいと思っている。

履修上の留意点

参加人数の大小に大きく左右される面があるので、確定的なことは言えないが、できれば、演習形式の講読の割合を多くしたいと考えている。参加者はその点を念頭に意欲をもって授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

上述の状況いかんによる。

教 科 書

講義は、末木文美士『日本仏教史－思想史としてのアプローチ－』（新潮文庫）560円をテキストとし、講読は、適宜指示する文献のコピーによる。

参 考 書 等

袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』（大蔵出版）1998年 4,800円＋税

そ の 他

授業方法は、上述したごとくであるが、講読文献のコピーは再発行しないので、できるだけ継続して参加してもらいたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----|------------------------|---------|-----|
| 書 道 | の 野 村 おき ひろ 野 村 宙 弘 | 経 B・二 営 | 4 |

講義のねらい

王羲之の蘭亭序をはじめ、各種古典の臨書による、実技の指導を行う。

履修上の留意点

書道実技の為、墨、硯、筆、文鎮、下敷、半紙等の文房四宝の用意が必要。
(正しい用筆法、正しい墨のすり方等、初歩的な基礎勉強の指導と、かんたんな書道史の説明を行う)

教 科 書

王羲之『蘭亭序』(清雅堂) 360円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|---------|-----|
| 仏 教 と 文 化 | おく の みつ よし 奥 野 光 賢 | 経 B・二 営 | 4 |

講義のねらい

本授業は仏教を教理の上からのみとらえるのではなく、文化史的側面から考察することによって仏教が実際に果たした役割を考えることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は仏教が中国に受容・定着するにあたっていかなる変容をとげたのかを、主として「孝」思想に的を絞り考えてみたい。前期は概説を中心とした講義形式で授業を進め、後期には『仏説孟蘭盆経』や『父母恩重経』といった経典を読みながら前記の問題を考えていきたいと思っている。

履修上の留意点

授業はプリントを配布して進める。欠席によるプリントの再配布は原則として行わないのであらかじめ注意されたい。プリントを準備する関係上、受講希望者は開講初日にならず出席すること。

成績評価の方法

出席状況も考慮しながら、学年末の試験によって厳正に評価する。安易な気持ちでの受講は避けられたい。

教 科 書

特に指定せず、プリントを配布して授業を進める。

参 考 書 等

適宜、授業において紹介する。

3. 教職課程・資格講座科目

(1) 教 職 課 程

※上記の教職課程および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。
(履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。)

| 課 程 ・ 講 座 名 | 資 格 取 得 学 部 |
|-------------|--------------------------|
| 教 職 課 程 | 全 学 部 |
| 学校図書館司書教諭講座 | 全学部(平成12年度以降入学生が2年次から履修) |
| 社会教育主事講座 | 全学部(平成12年度以降入学生が2年次から履修) |

(1) 教職課程科目

〈教職に関する科目〉(必修)

| | | |
|---------------------------|---|-----|
| 教 職 入 門 | 〈大浜幾久子・伊藤 茂樹・遠藤 司・北村 三子 坂本 信昭・豊田千代子・村山 輝吉〉 | 477 |
| 教 職 入 門 | 〈遠 藤 司〉 | 477 |
| 教 育 の 思 想 | 〈伊 藤 茂 樹〉 | 478 |
| 教 育 と 社 会 | 〈伊 藤 茂 樹〉 | 478 |
| 発 達 と 学 習 の 心 理 学 | 〈川 田 三 夫〉 | 479 |
| カ リ キ ュ ラ ム と 学 習 | 〈 休 講 〉 | |
| 教 育 と メ デ ィ ア | 〈石 橋 達 也〉 | 480 |
| 道 徳 教 育 の 研 究 | 〈山 田 忠 行〉 | 481 |
| 特 別 活 動 | 〈山 田 忠 行〉 | 482 |
| 生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む) | 〈遠 藤 司〉 | 483 |
| 教 育 実 習 I ・ II | 〈伊 藤 茂 樹〉 | 483 |
| 社 会 科 教 育 法 II | 〈谷 敷 正 光〉 | 484 |
| 公 民 科 教 育 法 I | 〈谷 敷 正 光〉 | 485 |
| 商 業 科 教 育 法 | 〈谷 敷 正 光〉 | 486 |
| 職 業 科 教 育 法 | 〈前 田 幸 一〉 | 487 |

〈教科に関する科目〉

— 社 会 —

| | | |
|---------------|-----------|-----|
| 日 本 史 概 説 | 〈北 條 文 彦〉 | 487 |
| 世 界 史 概 説 | 〈松 本 弘〉 | 488 |
| 地 誌 学 概 説 | 〈川 元 豊 和〉 | 489 |
| 地 誌 学 概 説 | 〈渡 邊 盾 夫〉 | 490 |
| 人 文 地 理 学 概 説 | 〈渡 邊 盾 夫〉 | 490 |
| 宗 教 学 概 説 | 〈山 岡 隆 晃〉 | 491 |
| 宗 教 学 概 説 | 〈須 藤 寛 人〉 | 491 |
| 哲 学 概 説 | 〈河 谷 淳〉 | 492 |
| 政 治 学 原 論 | 〈大 塚 桂〉 | 493 |

— 職 業 —

| | | |
|---------|-----------|-----|
| 産 業 概 説 | 〈前 田 幸 一〉 | 494 |
| 商 業 実 習 | 〈山 田 勇 治〉 | 494 |

— 商 業 —

| | | |
|---------|-----------|-----|
| 職 業 指 導 | 〈山 田 勇 治〉 | 495 |
|---------|-----------|-----|

《教職に関する科目（必修）》

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------|--|----------------------------|-----|
| 教 職 入 門 (後 期) | 大浜幾久子・伊藤茂樹・遠藤司・北村三子 坂本信昭・豊田千代子・村山輝吉 | 12以降入学生/教職1必 (経B・法B・二営) | 2 |

講義のねらい

高度消費社会の出現や、情報化社会の進展の中で、今日の日本の教育界は多くの困難な問題を抱えています。将来教師になろうとする人には、そうした問題に自ら取り組んでいく覚悟とそれを越えてゆける力量が必要となるでしょう。その力量の中には、知識ばかりでなく、関心の広さ、感受性、想像力、柔軟な発想、そして体力など、きわめて多様なものが含まれます。この講義では、教職課程の専任教員七名に加え、外部からも講師をお迎えして、さまざまな角度から教育を語っていきますが、教師になるための勉強の第一歩として、教師という職業には関心を持つべき多くのことがあるということを、まずは実感してください。

講義の内容・授業スケジュール

今日の教育に関する諸問題をオムニバス形式で講じていきます（毎回テーマと講師が代わっていきます）。また11月9日、16日は、普通の講義ではなく、教職課程の履修に関するガイダンスが予定されています。詳しいスケジュールは、初回の講義で配布される予定です。

成績評価の方法

レポートによる評価。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------|--------------------|----------------------------|-----|
| 教 職 入 門 (後 期) | えん どう つかさ 遠 藤 司 | 12以降入学生/教職1必 (経B・法B・二営) | 2 |

※経A・商・法A・政治・経営・短国・短英の12年度以降入学生も履修できます。

講義の内容・授業スケジュール

教職課程を履修する学生のための入門講座である。

履修上の留意点

この科目は、木曜6限の「教職入門」を、やむを得ない理由によって履修できない学生のために設定されたものである。原則として、木曜6限の「教職入門」を履修することが望ましい。この科目の詳細については、科目担当者に尋ねること。

なお、この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|----------|----------------------|----|
| 教育の思想 (前期) | 伊藤 藤 茂 樹 | 教職 2 必 (経B・法B・二営) | 2 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的帰納について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。

講義の内容・
授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
 ・近代社会と教育
 ・学校という場

履修上の留意点

自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|----------|----------------------|----|
| 教育と社会 (後期) | 伊藤 藤 茂 樹 | 教職 2 必 (経B・法B・二営) | 2 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・
授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
 ・現代の教育問題
 ・教育改革の現在

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がける。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------|------------------------|-----------------------|-----|
| 発達と学習の心理学 (前期) | かわ だ みつ お 夫 川 田 三 夫 | 教 職 2 必 (経B・法B・二営) | 2 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- (1) 子供の成長・発達の概要を理解する。
- (2) 教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。

講義の内容・
授業スケジュール

①発達について、乳児期、②幼児期前期、③幼児期後期、④児童期前期、⑤児童期後期、⑥青年期前期、⑦青年期中期、⑧青年期後期、⑨人格の発達、⑩社会性の発達、⑪問題行動、⑫学習・教育心理学、⑬教育学・教育原理、⑭学校・教員をめぐる問題点、⑮試験

履修上の留意点

教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。

成績評価の方法

学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点(100点満点)で所定の基準に従い評価される。

教 科 書

教科書は特に指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

そ の 他

授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。
この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------|----------------------------------|--------------------|-----|
| 教育とメディア (後期) | 石橋達也 <small>いしはし たつ や</small> | 教職2必 (経B・法B・二営) | 2 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この授業では、情報化社会が著しく進展していく今日の状況での教育の在り方について学んでいきます。はじめに、教育／学習あるいは授業の捉え方や教育におけるメディアの利用の仕方について、教育心理学や教育方法学の観点から眺めます。それに続いて、インターネットなどを含めたコンピュータ活用教育について焦点を当て、その実践のために必要な技法や教師としての姿勢などについて学ぶとともに、コンピュータ利用上の問題点や注意点についても検討していきます。

講義の内容・授業スケジュール

授業のスケジュールとしては、およそ以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。

1. 教育の情報化と教育方法、2. 授業と学習過程の理解、3. 学習者特性の理解、4. 授業モデルと授業設計、5. 教育メディアとメディアリテラシー、6. 教育へのコンピュータの導入、7. コンピュータと情報活用能力、8. インターネットの活用と協同学習、9. インターネット社会への参加態度など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚して、まじめに出席することと積極的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は、期末試験の得点を中心にして、授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教科書

教科書は、次のものを使用する予定です。今栄国晴編著『新版 教育の情報化と認知科学——教育の方法と技術の革新——』（福村出版）1988 本体2,400円＋税

参考書等

参考文献や関連する資料などは、必要に応じてそのつと授業の中で紹介あるいは配布していく予定です。

その他

授業の中で、コンピュータを使用する実習の時間があります。初歩的なレベルから始めていきますので、初心者でも興味があれば安心して出席できます。

教室のパソコン（Mac）の台数にあわせて、受講者数を制限する場合があります。前期の1回目の授業に出席して、担当者の指導に従ってください。また、学部（昼間）の後期に履修を希望する者も、前期の1回目の授業に出席することを原則とします。

この科目は、平成11年度までに、「教育心理学（教育方法論を含む）」あるいは「青年心理学（教育方法論を含む）」の単位を修得した者は、履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|---------------------|------------------------------------|-----|
| 道 徳 教 育 (前 期) | やま だ だ け 山 田 忠 行 | 教 職 2 ・ 3 必 (経 B ・ 法 B ・ 二 営) | 2 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「道徳教育」の充実、我が国の大きな課題であり、学校教育全体において充実した取り組みを行わなければならない。そのために、小・中学校においては教育課程に「道徳」が位置付けられ、高校においては、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行わなければならない。この「道徳教育」の教育的意義や目標及び内容、方法等についての研究を、理論と実践の両面から研究を行う。道徳教育を進めるに当たっては、豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が求められる。教師としての実践的な指導力を身につけるために、道徳教育の内容や活動内容の取り扱い方及び指導計画の作成、指導方法などについての具体的な研究を行い、教師としての指導力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

①道徳教育の経緯 ②道徳教育の基本的な在り方 ③道徳教育の目標及び内容 ④主として自分自身に関する事 ⑤主として他の人とのかかわりに関すること ⑥主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること ⑦主として集団や社会とのかかわりに関すること ⑧道徳の時間の指導計画とその作成 ⑨道徳の時間の指導方法 ⑩人間関係の充実と学級経営 ⑪家庭、地域社会との連携による道徳教育 ⑫生徒理解に基づく道徳教育の評価

履修上の留意点

文献に基づく道徳や道徳教育に関する理論的な研究とともに、道徳教育の具体的な指導計画の作成や指導内容、指導方法等について理解を深め、教師としての実践力、指導力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

リポート、試験、出席状況等を総合的に判断し、評価する。

教 科 書

文部省著作『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説―道徳編―』（大蔵省印刷局）260円

参 考 書 等

七條正典・押谷慶昭編著『中学校新教育課程の解説・道徳』（第一法規）1,300円、他

そ の 他

講義及び年間指導計画、指導案の立案等

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|-----------------------|------------------------|-----|
| 特 別 活 動 (後 期) | やま だ ただ ゆき 山 田 忠 行 | 教職 2・3 必 (経B・法B・二営) | 2 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「特別活動」は教育課程に位置付けられ、その内容は学習指導要領に示されており、望ましい集団活動を通して、好ましい人間関係を形成するために必要な能力や態度、所属する集団の充実向上に努める態度、社会の一員としての自覚と責任ある態度、人間としての生き方を探求し自己を生かす能力などを養うものである。この「特別活動」の教育的意義や目標及び内容、方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。特に、理論的な研究面では、特別活動の指導理念や方法原理について、生徒指導との関連を図った研究を行う。また、実践的な面では、特別活動の活動内容の取り扱い方及び指導計画の作成、指導方法などについての具体的な研究を行い、教師としての指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

①特別活動の基本的な性格 ②特別活動の目標と特質 ③特別活動と各教科等との関連 ④学級活動の特質と活動内容 ⑤生徒会活動の特質と活動内容 ⑥学校行事の特質と活動内容 ⑦特別活動の指導計画の作成 ⑧生徒指導とガイダンス ⑨特別活動とボランティア活動 ⑩特別活動と学校・学年・学級経営 ⑪特別活動の指導を担当する教師 ⑫特別活動の評価

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特別活動の具体的な実践にかかわる指導計画の作成や指導内容、指導方法等についての研究を深め、教師としての識見を高め、実践力、指導力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し、評価する。

教 科 書

文部省著作『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－特別活動編－』（ぎょうせい）70円

参 考 書 等

森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著『中学校新教育課程の解説・特別活動』（第一法規）1,300円、他

そ の 他

講義及び年間指導計画、指導案の立案等

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------------------|--------------------|----------------------|-----|
| 生徒指導論(進路指導を含む) (前期) | えん とう つかさ 遠 藤 司 | 教職2・3必 (経B・法B・二営) | 2 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは、現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとしている人間として、生徒(他者)の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生徒指導観、あるいは進路指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 生徒指導、進路指導の理論、歴史とその目的の変遷
2. 「問題行動とは何か」という問いに関わる諸問題
3. 不登校、いじめ等の実際の事例を通しての実践的考察
4. 教師-生徒関係の中での生徒指導、進路指導
5. 個の尊重と組織・集団活動との相克の中での生徒指導、進路指導

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験を予定している。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

その他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|------------------------|-----|
| 教育実習Ⅰ | い とう しげ き 伊 藤 茂 樹 | 教職4必(経B・法B・二営) | 3 |
| 教育実習Ⅱ | | 12以降入学生/教職4必(経B・法B・二営) | 5 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・
授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献購読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成12年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------------|--------------------|--------------------|----|
| 社会科教育法Ⅱ (後期) | やしまただみつ 谷 敷 正 光 | 教職3必 (経B・法B・二営) | 4 |

講義のねらい

本講は中学校社会科で教育実習を行う学生や社会科教師を目指す学生に、「教育とは」「社会科教育とは何か」といった社会科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで社会科教師としての資質・力量形成を行います。

講義の内容・授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立
3. 中学校社会科学習指導要領の変遷
4. 中学校の教育課程と社会科
5. 中学校社会科の学習指導計画
6. 中学校社会科学習指導案の意義と作成
7. ビデオによる社会科教師の授業研究
8. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
9. 平成10年12月告示の中学校学習指導要領と社会科
10. 教育評価
11. 社会科教育実習の意義
12. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導します。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなど総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。

教科書

大森・谷敷共著『社会科教育研究』(梓出版)

参考書等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ①大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ②槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
- ③谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
- ④谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
- ⑤浜上薫『発問づくりの技術』(明治図書)
- ⑥中学校社会科(地理的分野、歴史的分野、公民的分野)の教科書
- ⑦文部省『中学校学習指導要領』、文部省『中学校指導書』(大阪書籍)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------|--------------------------|-----------------------|-----|
| 公 民 科 教 育 法 I | や 谷 し 敷 た だ み つ 敷 正 光 | 教 職 3 必 (経B・法B・二営) | 2 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで公民科教師としての資質・力量形成を行います。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立
3. 高等学校社会科（公民科）学習指導要領の変遷
4. 高等学校の教育課程と公民科
5. 高等学校公民科の学習指導計画
6. 高等学校公民科学習指導案の意義と作成
7. 4年生による模範授業
8. 模範授業を通じての高等学校公民科の授業実践研究
9. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
10. 平成11年3月告示の高等学校学習指導要領と公民科
11. 教育評価
12. 公民科教師論
13. 公民科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなど総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。

教 科 書

大森・谷敷共著『社会科教育研究』（梓出版）

参 考 書 等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ①大田堯『教育とは何か』（岩波新書）
- ②槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
- ③谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』（黎明書房）
- ④谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』『明治図書』
- ⑤福山憲一『資料提示の技術』（明治図書）
- ⑥高等学校社会科（現代社会、政治経済、倫理）の教科書
- ⑦文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（実教出版）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|--------------------|-----|
| 商 業 科 教 育 法 | や 谷 敷 正 光 しき ただ みつ | 教 職 3 必 (経B・二営) | 4 |

※経A・商・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「専門教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「専門学科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従つて、この講義のねらいは、「専門教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 日本経済の発展と専門教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 専門教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 商業科学習指導案の作成
9. ビデオによる商業科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての商業科授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 商業科教育実習の意義
15. 商業科教師論
16. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践、出席、小テストなど総合的に評価する。
- ② 定期試験、追再試は実施せず。

教 科 書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参 考 書 等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ① 大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ② 産経新聞社『学校ってなんだろう』(新潮社)
- ③ 毎日新聞社『教育改革 現場の試み』(毎日新聞社)
- ④ 岩下 修『指導案づくりの技術』(明治図書)
- ⑤ 新牧賢三郎『やる気を引き出す技術』(明治図書)
- ⑥ 高等学校商業科の教科書(「流通経済」など)
- ⑦ 文部省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(大日本図書)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-----------------------|--------------|----|
| 職業科教育法 | まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一 | 教職3必 (経B) | 4 |

※経A・商の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

- ① 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
 - ② 『中学校学習指導要領』の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討していく。
 - ③ 職業教育について考えていく。
- ①、②は前期授業、③は後期授業で行う予定です。

履修上の留意点

自分や周りの人の家庭や職業について改めて考えてきてほしい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。再試験はしません。

教科書

『中学校学習指導要領』（文部省平成元年3月）。他については授業の際に指示します。

参考書等

中学校で使用していた『技術・家庭』の教科書など。

その他

授業を受ける人は少人数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

《教科に関する科目》

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------------------------|-----------------------|----|
| 日本史概説 | ほう じょう ふみ ひこ 北 條 文 彦 | 教職2・3教科 (経B・法B・二営) | 4 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

将来、中等・高等学校教員を志す者にとって必要な基礎的教養ともいべき日本史の、上古より現代に至る各時代の政治・経済・宗教・文化等について概説する。

成績評価の方法

筆記試験を前期と後期、夫々1回あて、授業時間内に実施し、評価する。

教科書

宝月圭吾・児玉幸多編『新稿日本史概論』（吉川弘文館）1,597円

参考書等

児玉幸多編『標準日本史年表』（B5判）（吉川弘文館）600円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------|-------------------------|-----|
| 世 界 史 概 説 | まつもと ひろし 松 本 弘 | 教職 2・3 教科 (経B・法B・二営) | 4 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、中東及びイスラームの歴史である。それは、中学・高校の世界史の授業において最低限必要と思われる中東・イスラームについての知識を提供し、かつその知識に対する正確な理解を求めるものである。1973年石油ショック以降、日本における中東研究は飛躍的に拡大し、誤解や偏見は減少しつつあるとは言え、未だ中東やイスラームは我々にとって最も遠い存在のひとつであろう。世界史の教科書に占める中東・イスラームの記述は、この20年間で量的には数倍に増加したが、一般に教員の理解がこの傾向に追隨しているとは言い難い。それゆえ本講義は学生諸氏に、おそらく世界史の教員が最も不得手としている中東やイスラームに関わる基礎的・一般的な知識と理解を提供することを目的とする。中東に関わる一般的な関心は、マスコミによる様々な事件の報道にあると判断されるので、本講義は報道の対象となる事件・事象の解説に始まり、その理解としての歴史的背景から、中東やイスラームの歴史を講義する方式をとる。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、まず現代中東における国家・宗教・民族の分布から、アイデンティティ複合や中東一神教世界（ユダヤ教・キリスト教・イスラーム）と呼ばれるその社会状況の特質を解説する。次いで、現在最も高い関心を集める中東和平及びイスラーム復興主義（いわゆるイスラム原理主義）を歴史的に考察し、その背景としてイスラームの成立や中世・近代における政治史（預言者ムハンマド、正統カリフ、ウマイヤ朝、アッバース朝、オスマン帝国、アラブ民族主義等）や思想史（イスラーム神学・法学、イスラーム神秘主義）、「中東の近代」に関わる内容と特質などをとりあげ、その各々について思想と社会・時代状況との関連に注目して講義を行う。

成績評価の方法

評価は、前期末及び年度末の2回の試験により行う。

教 科 書

教科書・参考書は特に指定せず、適宜参考文献目録及びプリントを配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|-----------------------|-----|
| 地 誌 学 概 説 | かわ もと とよ かず 川 元 豊 和 | 教職2・3教科 (経B・法B・二営) | 4 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

主にアジアを対象として、「地域の変貌」について講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

前半では、まず、地誌学の基本的な考え方について説明し、次に、さまざまな人文地理的事象から世界のなかにおけるアジアの特殊性や他地域とアジアの共通性などについて考えてゆきたい。後半では、南アジアのインド及びバングラデシュ、東南アジアのマレーシアを事例として、社会経済構造の変化や村落と都市の変貌などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

矢野暢編『講座現代の地域研究1 地域研究の手法』(弘文堂) 1993 4,800円
 藤岡謙二郎ほか『世界地誌第二改定増補版』(大明堂) 1989 2,060円
 B. L. C. ジョンソン著、山中一郎ほか訳『南アジアの国土と経済第2巻バングラデシュ』(二宮書店) 1986 3,605円
 臼田雅之ほか編『もっと知りたいバングラデシュ』(弘文堂) 1993 2,800円
 水島司編『アジア読本マレーシア』(河出書房新社) 1993 2,000円

そ の 他

講義中心の授業であるが、年に2～3回はスライドの使用を予定している。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------|-----------------------|----|
| 地誌学概説 | わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫 | 教職2・3教科 (経B・法B・二営) | 4 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この講義では、学生諸君が教職につく時の基本事項、または就職試験の時の一般教養（人文科学系）問題が解けることを目標として、進めます。

次に地理学の一つの見方である地誌を、「ある場所」を具体的にとり上げ、その場所にはさまざまな自然環境（気候、地形など）や社会環境（サービス業、農業など）があり、この中にさまざまな人間活動が営まれている。これらを総合的に分析をし、その現象を明らかにしていく方法を考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは、前期にある場所の自然環境を理解するために気候、地形そして地形図の基礎的なことを学習する。後期には、各国を地誌的な見方で説明する。

履修上の留意点

基本的には、学生諸君が日本や世界各国の様子を「何んでそこにその様な現象があるのか」という疑問で接してほしい。地誌学または地理は暗記の科目ではない。

また講義を聞く時には、高校時代に使った地図帳を必ず持参して下さい。その方が理解が早くなります。

成績評価の方法

年度末に定期試験があり、これに出席の様子を加えています。答えは自分が他の人に説明をし、理解してもらえる様に書いて下さい。その方が勉強になります。

教科書

教科書等については、特に指定しません。講義の進行に合わせて、プリントを配布します。このプリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|--------------------|-----------------------|----|
| 人文地理学概説 | わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫 | 教職2・3教科 (経B・法B・二営) | 4 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

ある場所の自然環境の上には、さまざまな人間活動が行われています。この人間活動を産業の点から講義を進めます。

講義の内容・授業スケジュール

前期に人文地理学の研究方法を説明し、後期には、具体的な人間活動（産業）についてプリントを配布しながら説明します。

履修上の留意点

高校時代に使用した地図帳を持参して下さい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験と出席とを総合して評価します。

教科書

教科書については、特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布します。プリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|------------------------|-----------------------|----|
| 宗 教 学 概 説 | やま おか たか あき 山 岡 隆 晃 | 教職2・3教科 (経B・法B・二営) | 4 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

世界には様々な宗教が存在し、時代と社会を異にする多くの人々によって支えられているが、いったい、人間にとって宗教はいかなる意味や役割を持つのであろうか。宗教の構造やその構成要素はいかなるものであろうか。

この講義では宗教について提示された心理学的、社会学的、人類学的な諸学説を紹介しながら、「宗教の原初形態」「科学・呪術・宗教」「宗教の諸類型」「宗教の構成要素」「宗教の機能」など、宗教学の基本的テーマについて概観することとする。

なお、本講座が教職科目の中に設置されていることに留意し、宗教と教育の関係についても、様々な角度から問題にすることにしたい。今日、教育の荒廃がさげばれ、心の教育の必要性が強く求められているが、この時、宗教と教育に関する問題を避けて通ることはできないであろう。なぜなら、宗教こそは心の教育そのものを目ざしてきたのであるからである。

授業は原則として講義形式をとるが、学生諸君にも随時問題提起をしてもらい、それをもとにディスカッションを交えるなど、できる限りともに考える授業にしたい。

成績評価の方法

成績評価は、出席状況、レポート等にもとづき、総合的に評価する。

教科書

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）940円

参考書等

授業の中で必要に応じて指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|----------------------|-----------------------|----|
| 宗 教 学 概 説 | す とう ひろ と 須 藤 寛 人 | 教職2・3教科 (経B・法B・二営) | 4 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

宗教学的視座を養うことが本講義の目的です。多くの日本人にとって、宗教は、必ずしも明確な形を持ったものではありません。しかし、人間や文化を理解することの、すべてではないにしても、その一部は宗教を理解することによって可能となるものであると考えられます。日本人の宗教とは何かを理解することは、日本人とは何かという問題に深く関わっていますし、ひいては自分とは何かを考えるための足がかりになると思われます。また、日頃、目にする出来事でも、そこに何かしらの宗教的意味が見いだされることがあります。視座を少し変えるだけで、それが可能になる場合もあります。本講義がそのための助けになればと思っています。

講義の内容・授業スケジュール

- 宗教とは何か？ 宗教学とは何か？ 宗教と呪術。聖と俗。
 - 儀礼。呪術。シャーマニズム。噂・怪談・都市伝説。
 - 日本人の他界観。諸宗教の歴史。日本の宗教。現代の宗教状況。
- 以上の三点を本講義の基軸とし、主要な概念や理論について解説をしていきたいと思ひます。また具体的な事例やタイムリーな話題を交えて講義をおこなってきたいと思ひます。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないで下さい。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中は着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポートと学期末の定期試験を中心に、出欠状況と合わせて総合的に評価します。

教科書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|-------------------------|-----|
| 哲 学 概 説 | かわ 河 なに 谷 あつし 淳 | 教職 2・3 教科 (経B・法B・二営) | 4 |

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私たちはしばしば、本当は知らないにもかかわらず何かを知っていると思ひ込むという状態(無知の無知)に陥る。古代ギリシア以来の「愛知」(フィロソフィア)としての哲学の営みとはそうした状態に抗する営みである。それはまた「世界についての見方を学び直す」営みだとも言えよう。哲学の諸問題を考えるにあたり、本講義は次のような二段構えの構成を採る。すなわち、一方では(a)哲学の営みのひとつの範型としてソクラテス以来のギリシア哲学を取り上げ、他方で(b)哲学の諸分野における諸問題を取り上げることで「哲学的に考える」とはどのようなことなのかを考えることにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では概ね次のような内容を取り扱う。

- (a) 古代ギリシア哲学 (ソクラテス、プラトン、アリストテレス)：自己知、イデア論、四原因論
- (b) 哲学の諸問題：認識論、形而上学 (存在論、因果論)、言語哲学

成績評価の方法

中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

講義においてその都度紹介する

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|--------------------|-----|
| 政 治 学 原 論 | おお つか かつら 大 塚 桂 | 教職2・3教科 (経B・二営) | 4 |

※経A・商・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- 自己紹介
私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。
私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377（直）です。
- 講義の目的
政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、実際の政治の理論的説明と説明ができるように基礎的原理的知識を習得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目の研究上に必要な基本的な知識を提供することです。

講義の内容・授業スケジュール

- 講義のすすめかた
現代政治学のおおよそのアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。
- 講義内容
おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。
A 政治学の課題と対象、および方法
B 政治の原理的究明
 - ① 政治的なるもの
～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従
 - ② 共同体的なるもの
～国家、社会、主権、法
 - ③ イデオロギー的なるもの
～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（レティズンシップ）
 C 国家の実体論的究明
 - ① 制度論的究明
～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制
 - ② 機能論的究明
～政党、圧力団体

成績評価の方法

- 本年度もまた、受講者との相談のうえA・B両方式のうちのいずれかに決定します。
- A方式（レポートによる単位認定）
複数回（前期・後期）のレポートを提出してもらい成績を評価します。課題報告（レポート）の作成とおして、文献の読解力と書く能力を涵養します。
- B方式（試験による単位認定）
中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。
- ※A方式の場合には、追・再試験は実施しません。B方式は、実施します。

教 科 書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円
大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参 考 書 等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|--------------------|-----|
| 産 業 概 説 | まへ だ ゆき かず 前 田 幸 一 | 教職2・3教科 (経 B) | 4 |

※経A・商の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

授業は'85(昭和60)年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・
授業スケジュール

(総論) バブル経済と平成不況
(各論) 非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。

履修上の留意点

できるならば、日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。再試験はしません。

教 科 書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』(日本経済新聞社)1,500円

参 考 書 等

授業の際に提示します。

そ の 他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|----------------------|--------------------|-----|
| 商 業 実 習 | やま だ ゆう し 山 田 勇 治 | 教職2・3教科 (経 B) | 4 |

※経A・商の12年度以降入学生も履修できます。

講義の内容・
授業スケジュール

商業教育の内容は大きく商業活動に関する理論的な内容と実践的な内容とに分けることができる。商業教育においては、この両面の有機的な総合をはかる必要がある。商業実習では、とくに後者に重点をおいて講義を行なうものである。とくに高校の商業科の教員希望者に対しては、商業科の教員採用試験に合格できるように、受験準備教育に重点をおいて指導を行なうものである。

教 科 書

『99高校商業の頻出問題』(時事通信社)1,400円+税

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------------|--------------------|-----|
| 職 業 指 導 | やま だ ゆう じ 治 山 田 勇 治 | 教職2・3教科 (経B・二営) | 4 |

※経A・商・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容にするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。

講義の内容・ 授業スケジュール

前期は、職業指導の基礎的概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点を考えていくような授業をするつもりです。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明したいと考えています。

履修上の留意点

受講する学生は、積極的に問題意識をもって教育問題を考えるようにしてほしい。

成績評価の方法

授業中における課題などの提出や出席状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価します。

教 科 書

開講時に指示。

参 考 書 等

有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』（福村出版）2,000円
 寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』（中央法規出版）2,500円
 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編著『進路指導論』（福村出版）2,300円

発行者：駒澤大学